学内広報
No.1302

2004.12.2
東京大学広報委員会

2003年（第53回）学生生活実態調査の結果

大講堂（本郷キャンパス）

ま　え　が　き

昨年度に実施された第53回学生生活実態調査の結果を、学内広報の場を借りてご報告します。

この調査は毎年行われ、すでに53回を経ています。本学の学部学生、ときには大学院生の生活と意識とを映す鏡として、世にも広く知られてきました。この数年は、大学の法人化を軸として授業や研究環境の改善をより積極的に行っていくための政策的立案に有益な寄与をすることをも意図して実施されています。授業や研究環境・アメニティは改善されたか、学習や研究に支障のある要因は何か、学生生活の満足度は増大したか、といった学生諸君の認識や意見を大学側に伝えるとともに、大学側からも、直すべきものは直し、伸ばすべきところは伸ばす、そのための基礎データとして多面的に参照されることを願っています。

もちろんこのことは、一年限りの調査では十分に達成できません。本報告の中でも、過去と対比させながら比較をいくつか行っていますので、そこに浮かび上がる大学の変化にも注目して読んでいただけることを望みます。

この調査の企画、実施、分析は、学生生活調査室の室員である各学部・大学院研究科からの委員と調査室の事務員の方々のご尽力があってはじめて実現しました。質問項目には、例年行う継続項目と各回ごとに目的を持って行う項目とがあり、さらに「特殊分析」として今回調査の重点項目に関し「東大生から見た『わが国の教育』について」と題して、経済学部の粕谷誠委員に執筆を担当していただきました。

なお、報告書の形式について今回はいくつか工夫をしました。調査の中心的対象事項を報告の前面に出し焦点を明確にしたこと、学部別等の情報を必要なところには盛り込んだこと、この２点です。さらに、今回の調査では法人化後の変化を測定するためのベンチマークとなるデータの取得に強調点を置きました。数年後同じ指標で調査を行ったときに大学がいかに改革の努力と実績とを積んだかを振り返ってみることができるようにと願っています。

東京大学学生生活委員会学生生活調査室室長　　池田　謙一

目　次

調査の概要……2
調査の結果……2
第１部　学生生活の評価と将来の選択
1　入学・進学・学業……5
2　学生生活におけるコンピュータ利用……11
3　学習観・教育観……12
4　就職……14
5　学生生活の満足度……16
6　大学への要望……19
7　特殊分析……20
第２部　学生生活の背景
1　家庭の状況……22
2　生活費の状況……25
3　通学・住居……28
4　奨学金……30
5　アルバイト……31
資料１（集計表）……32
具体的記述（抜粋）……87
資料２（調査票）……111
学生生活委員会学生生活調査室

調査の概要

1．調査票の作成

2003年（平成15年）５月から10月にかけて、学生生活委員会学生生活調査室で調査内容の企画立案を行った。

2．調査の期間

2003年（平成15年）11月下旬～12月下旬。

3．調査の対象及び抽出率

学部男子・女子学生。学部・科類別無作為抽出法で、在籍者数の1／4を抽出。

4．調査の方法

郵送調査で行い、対象者自身が記入する（自記式）方法。

5．調査の内容

Ⅰ．基本的事項、Ⅱ．家庭の状況、Ⅲ．生活費の状況、Ⅳ．通学・住居、Ⅴ．奨学金、Ⅵ．アルバイト、Ⅶ．入学・進学・学業、Ⅷ．学生生活におけるコンピュータ利用、Ⅸ．学習観・教育観、Ⅹ．就職、Ⅺ．学生生活の満足度、Ⅻ．大学への要望、XIII．具体的記述

調査の結果

今回は、2002年（第52回）と同様に、学部男子・女子学生を対象として学生生活実態調査を行った。
集計結果の分析に当たっては、学部学科間・年度間・男女間などの相違に注目し、特異な数値傾向の把握に努めた。

グラフと表について

1．今回、本文に掲載した経年変化のグラフと表については、1971年調査にまでさかのぼって取り上げた項目がいくつかあり、「表１」に1971年以降の調査の実施状況を表示した。
2．本文中に掲げたグラフについては、それぞれの年の比較を見やすくするため「無回答」及び「その他の分類」の項目について若干の数値を省略したものがある。そのため、合計が100％に満たないものもある。また、個々の数値を四捨五入しているため、合計が100％に満たないものと100％を超えるものがある。
3．各表の2003年の集計結果は、**太枠**で示してある。
4．1984年調査で抜本的改正を行った家計支持者の職業分類については、2002年調査に引き続き三重クロス集計（「職業」×「従事先の規模」×「雇用形態」）の一元化表を作成した。「表３」23ページを参照されたい。

表１　学生生活実態調査実施状況一覧表

回　　数	調査年月	対象学生	抽出率	対象者数	回収率	調査方法
				人	%	
第21回	1971年12月	学部男子	１／４・１／１５	797	67.3	郵送自記式
第22回	1972年11月	学部男子・女子	男子　１／１５ 女子　１／５	648 107	68.2 78.5	〃
第23回	1973年12月	学部男子・女子	男子　１／１５ 女子　１／　２	794 340	76.2 75.0	〃
第24回	1974年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,004	67.8	〃
第25回	1975年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,041	75.3	〃
第26回	1976年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,063	75.5	〃
第27回	1977年11月	学部女子	全数	811	75.8	〃
第28回	1978年12月	大学院学生	男子　１／４ 女子　全数	862 315	66.1 66.3	〃
第29回	1979年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,069	78.6	〃
第30回	1980年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,064	73.8	〃
第31回	1981年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,031	74.2	〃
第32回	1982年11月	学部女子	全数	910	77.6	〃
第33回	1983年11月	学部男子	１／５～１／１５	1,008	75.0	〃
第34回	1984年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,380	76.1	〃
第35回	1985年11月	大学院学生	男子１／２～１／４ 女子　１／２ ＯＭ・ＯＤ　１／２	968 165 249	69.8 67.9 51.4	〃
第36回	1986年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,385	72.6	〃
第37回	1987年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,432	73.9	〃
第38回	1988年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,459	70.9	〃
第39回	1989年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,480	78.5	〃
第40回	1990年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,504	63.1	〃
第41回	1991年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,530	62.2	〃
第42回	1992年11月	大学院学生	男子１／２～１／６ 女子　１／２	1,496	59.8	〃
第43回	1993年11月	学部男子・女子	男・女　１／１０	1,593	64.8	〃
第44回	1994年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	2,005	60.6	〃
第45回	1995年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	2,011	64.0	〃
第46回	1996年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	2,004	60.9	〃
第47回	1997年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,990	60.2	〃
第48回	1998年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,964	60.3	〃
第49回	1999年11月	大学院学生	男・女　１／４ ＯＭ・ＯＤ　１／４	2,099	49.5	〃
第50回	2000年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,917	54.4	〃
第51回	2001年11月	学部男子・女子	男・女　１／８	1,900	49.6	〃
第52回	2002年11月	学部男子・女子	男・女　１／４	3,749	37.2	〃
第53回	2003年11月	学部男子・女子	男・女　１／４	3,700	40.6	〃

（注１）　「休学者」「外国人留学生」は、対象学生から除かれている。1992年調査は「外国人留学生」を含む。

（注２）　1971年調査で、抽出率に２つの数字が掲げられているのは、前者は医学部であり、後者は医学部を除く他の学部である。また、1974年以降の調査で抽出率に幅がある場合は、学部（大学院）の規模により、その数字の範囲内で抽出率をそれぞれ定めている。

表２　2003年（第53回）学生生活実態調査回収状況一覧

男女別 / 学部	男子				女子				全体			
	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率	在籍者数	対象者数	回収数	回収率
	人	人	人	%	人	人	人	%	人	人	人	%
教養学部(前期)	5,685	1,423	562	39.5	1,256	316	180	57.0	6,941	1739	742	42.7
文科小計	2,275	569	227	39.9	790	198	109	55.1	3,065	767	336	43.8
文科一類	1,000	250	104	41.6	259	65	36	55.4	1,259	315	140	44.4
文科二類	643	161	65	40.4	127	32	22	68.8	770	193	87	45.1
文科三類	632	158	58	36.7	404	101	51	50.5	1,036	259	109	42.1
理科小計	3,410	854	335	39.2	466	118	71	60.2	3,876	972	406	41.8
理科一類	2,346	587	232	39.5	150	38	22	57.9	2,496	625	254	40.6
理科二類	899	225	90	40.0	293	74	45	60.8	1,192	299	135	45.2
理科三類	165	42	13	31.0	23	6	4	66.7	188	48	17	35.4
法学部	1,299	325	117	36.0	301	76	39	51.3	1,600	401	156	38.9
経済学部	712	178	63	35.4	100	26	11	42.3	812	204	74	36.3
文学部	597	149	60	40.3	260	65	38	58.5	857	214	98	45.8
教育学部	149	37	19	51.4	76	19	10	52.6	225	56	29	51.8
理学部	562	141	55	39.0	62	16	9	56.3	624	157	64	40.8
工学部	1,812	454	154	33.9	129	33	14	42.4	1,941	487	168	34.5
農学部	493	124	39	31.5	169	43	19	44.2	662	167	58	34.7
薬学部	118	30	14	46.7	51	13	5	38.5	169	43	19	44.2
医学部	395	97	32	33.0	106	29	17	58.6	501	126	49	38.9
教養学部(後期)	306	77	27	35.1	115	29	17	58.6	421	106	44	41.5
合計	12,128	3,035	1,142	37.6	2,625	665	359	54.0	14,753	3,700	1,501	40.6
2002年(第52回)調査	12,357	3,094	1,082	35.0	2,608	655	312	47.6	14,965	3,749	1,394	37.2

注）　「在籍者数」は2003年（平成15年）8月1日現在の学生数（休学者、留学者、外国人留学生を除く）である。

第１部　学生生活の評価と将来の選択

１．入学・進学・学業

１－１．入学について

本学に「どうしても入りたかった」は48.6％
入学の動機は「私大に比べて授業料が安いから」49.6％、「社会的評価が高いから」48.7％
入学時に進学希望学部を決めていたのは62.7％

「東大入学をどの程度希望していたか」の問では、「どうしても入りたかった」という回答は、男子が50.1％で女子の44.0％を6.1ポイント上回り、「だめなら他大学でもよいと思った」という回答は、女子が42.9％で男子の33.5％を9.4ポイント上回った。また,「どうしても入りたかった」という回答は、男子では文科系の方が理科系より多いのに対し、女子では理科系の方が文科系より多い。（資料１－１－１表）

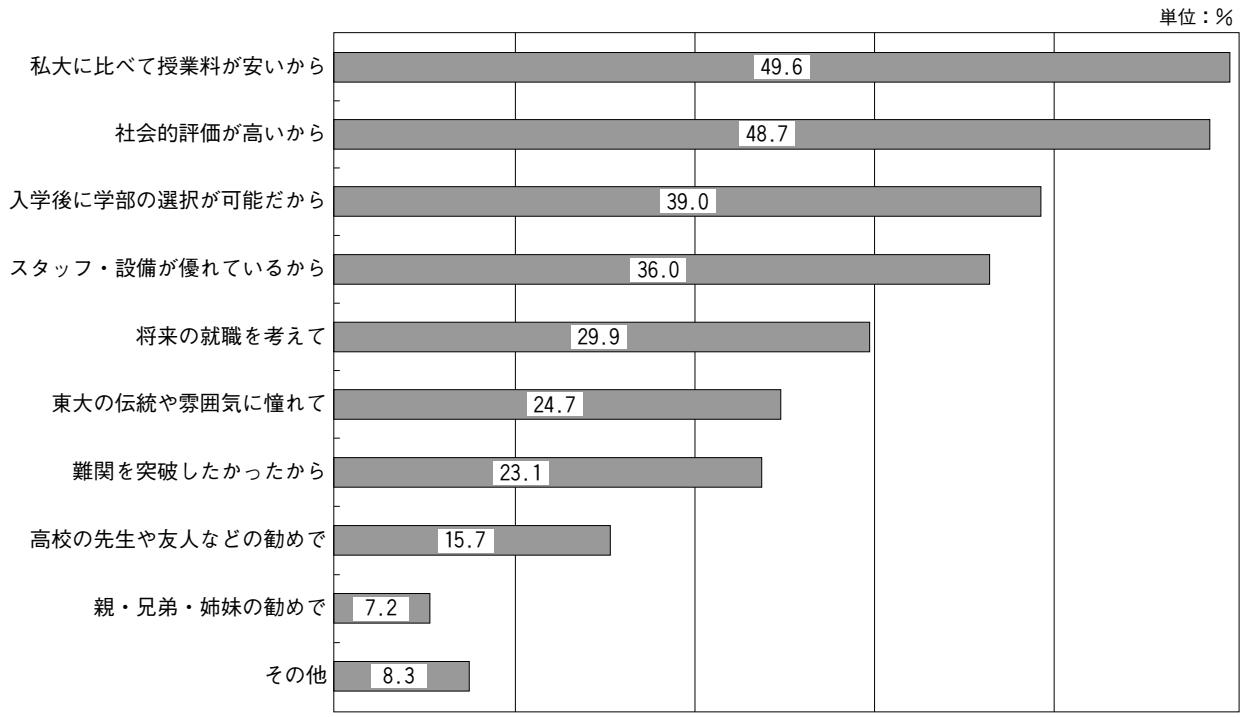
「東大入学の動機」については、前回調査では主たる動機を重視度順に三つまで回答させたが、今回は、主たる動機を無順位に三つまで選択させた。その影響かどうかは不明であるが、93年調査以降初めて、「私大に比べて授業料が安いから」が49.6％で最多となった。これに「社会的評価が高いから」48.7％が僅差で続いている。これからかなり下がって、「入学後に学部の選択が可能だから」39.0％、「スタッフ・設備が優れているから」36.0％、「将来の就職を考えて」29.9％となっている。ただし、「将来の就職を考えて」は、常識的に解釈すれば、「将来の就職を考えて社会的評価の高い大学を選んだ」のであろうから、「社会的評価が高いから」はもっと高い割合となろう。

「私大に比べて授業料が安いから」と「社会的評価が高いから」は全体では拮抗している。しかし、男子文科系では、「社会的評価が高いから」が59.9％で「私大に比べて授業料が安いから」44.7％を15.2ポイントも上回っている。男子理科系では逆に「私大に比べて授業料が安いから」が53.8％で「社会的評価が高いから」44.5％を9.3ポイント上回っている。また女子でも、「私大に比べて授業料が安いから」が48.7％で「社会的評価が高いから」40.7％を8ポイント上回っている。女子理科系ではさらに甚だしく、「私大に比べて授業料が安いから」が54.9％で「社会的評価が高いから」30.3％を14.6ポイントも上回っている。しかし、女子文科系では逆に、「社会的評価が高いから」が47.5％で「私大に比べて授業料が安いから」44.7％を少し上回っている。

その他に目立つ点を挙げれば、「将来の就職を考えて」という回答は男子29.0％より女子32.9％の方が多いこと、「スタッフ・設備が優れているから」という回答は男子理科系40.9％が男子文科系29.5％より11.4ポイント多いこと、「入学後に学部の選択が可能だから」という回答は理科系では男女とも50％を超えているのに対し文科系では24.2％と32.3％の低い割合であること、等々である（図１、資料１－１－２表）。

「入学時に進学する学部・学科等を決めていたか」の問いに対しては、「学科等まで決めていた」30.1％、「学部のみを決めていた」32.6％、「学部学科等は決めていなかった」36.9％となっている。学部あるいは学科まで「決めていた」学生は、文科系では68.3％で、理科系の57.6％より10.7ポイント多い（資料１－１－３表）。

図1　東大入学の動機（３つまで選択）



１－２．進学について

「希望通り・ほぼ希望通り」進学決定（内定）したのは93.3％
在籍学部・学科等に「満足・まあ満足」している学生は71.4％
進学振分け制度「現行のままでよい」は36.1％

「学部・学科等の選択に際してどのような点を重視したか」の問いに対しては、七つの選択肢の中から二つを選ばせた。「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答が79.4％で、次に続く「将来なりたい職業に就くのに必須であること」30.1％、「社会のためになる分野であること」21.6％等の回答を大きく引き離しているのが注目される（資料１－１－４表）。

また、「最先端の学問が学べること」という回答は、男子理科系では22.2％であるのに対し、男子文科系では4.4％と極めて低い割合であり、女子でも同様の傾向がある。文科一類ではさらに低割合で1.4％しかない。後期課程文科でも軒並み低割合で、経済学部の9.5％の他はほぼ5％以下である。前期課程文科でも同様の傾向がある。これに対し理科系では、前期課程でも後期課程でも、農学部の8.6％以外は概ね20％以上の水準にある。

この結果と関連するであろうが、「自分が惹きつけられた学問分野であること」という回答も、文科一・二類やその上の法学部・経済学部では60％台・50％台の比較的低い割合であるのに対し、文科三類や理科一・二類とその上の文学部・理学部・工学部・農学部では90％前後の高い割合であり、教育学部・教養学部（文系・理系）と薬学部でも、82％以上の水準にある。ただ、理科三類とその上の医学部では、60％台の比較的低割合である。

「その学部・学科等の教官に魅力を感じること」という回答は、全体では9.9％の低割合であるが、前期課程では文科三類の21.1％が際立って高く、他は概ね10％以下の水準である。後期課程でも、文科三類の上の文学部・教育学部・教養学部文系が20％以上の水準にある。理系では、教養学部理系の31.6％が目立つが、他は10％以下の水準であって、理科三類・医学部・薬学部では0％であるのが目立つ。

「社会のためになる分野であること」という回答は、全体では21.6％で、学部間・男女間の相違は目立たないが、法学部・経済学部・教育学部・薬学部・医学部で30数％の比較的高い割合であるのに対して理学部で6.3％と際立って低割合なのが目立つ。

「就職のために有利であること」という回答は、全体では13.4％であるが、文科一・二類と法学部・経済学部で20％前後の水準であることが目立つ。これに対して、文学部・教育学部・教養学部・理学部・農学部・医学部では、5％前

後の低割合である。

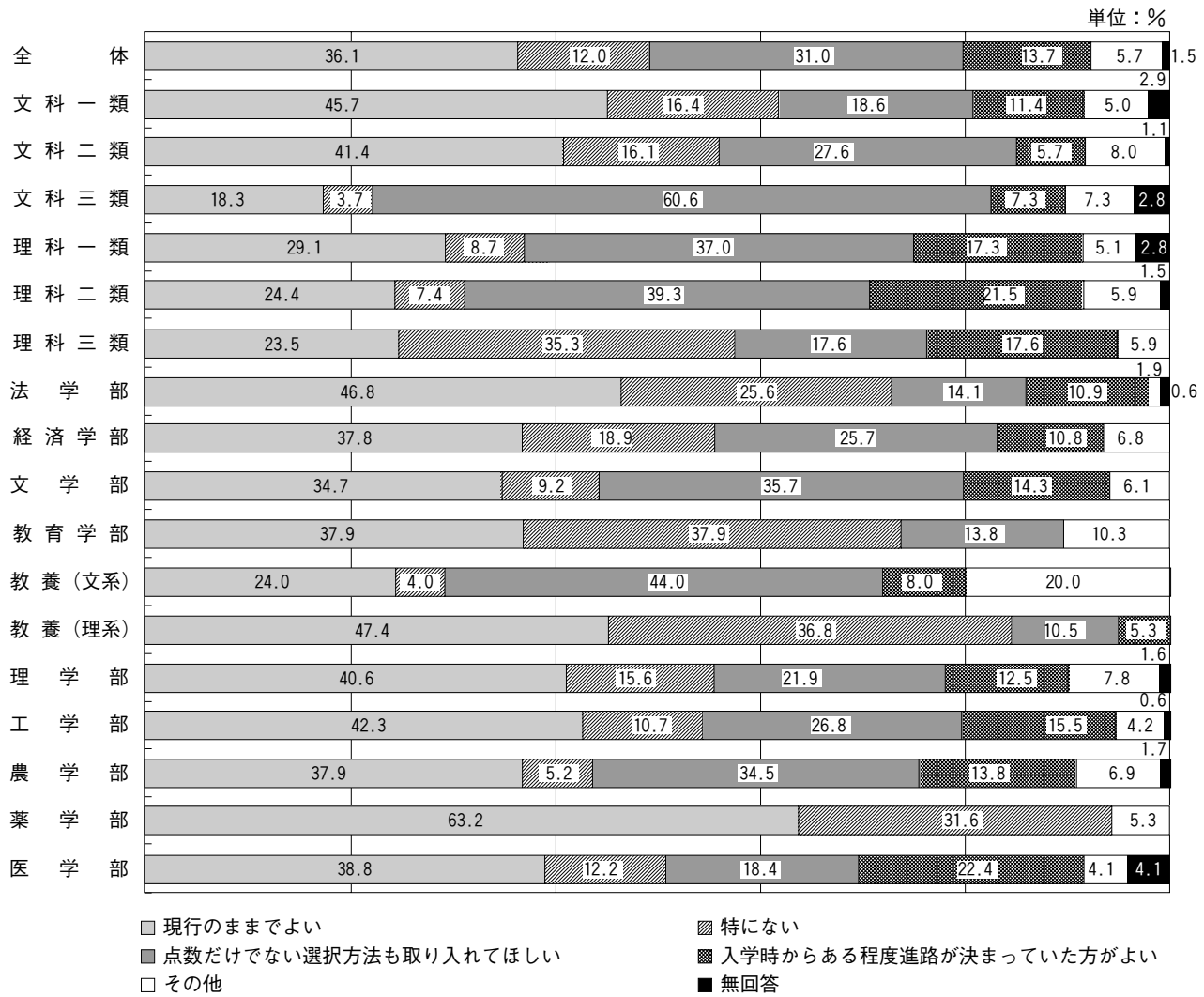
「将来なりたい職業に就くのに必須であること」という回答は、全体では30.1％であるが、文科一類・理科三類とその上の法学部・医学部で60％・50％の高い割合であるのが目立つ。

「進学の決定（内定）について」の問いでは、「希望通り決定した」「ほぼ希望通り決定した」「希望通りでなかった」の三つの選択肢から一つを選ばせたが、「希望通り決定した」79.4％と「ほぼ希望通り決定した」13.9％を合わせると、総じて希望通り進学したと回答した学生が93.3％に達した。「希望通りでなかった」という回答は、全体では4.9％であるが、理科二類の22.7％と教育学部の10.3％が高い割合で目立つ（資料１－１－５表）。

「現在在籍している学部・学科等に満足しているか」の問に対しては、「満足している」が35.4％、「まあ満足している」が36.0％で、これらを合わせると71.4％となり、総じて満足している学生が、94年調査以降70％前後の水準を保っている。男女間・文理系間の相違は目立たない（資料１－１－６表）。

「進学振分け制度についてどのように考えているか」の問に対しては、「現行のままでよい」が36.1％で、「特にない」12.0％を合わせても48.1％で、半数に近い学生が何らかの変更を希望している。特に前期課程では、文科三類・理科一類・二類が、後期課程では、文学部・教育学部・教養学部（文系）が何らかの変更を希望する割合が高い（図２、資料１－１－７表）。

図2　進学振分け制度についての要望



1－3．カリキュラムについて

カリキュラムに「満足・まあ満足している」は47.6％
カリキュラムの消化が「できる・まあまあできる」は77.8％

「現在のカリキュラムに満足しているか」の問いに対しては、「総じて満足」47.6％が「総じて不満」31.4％を上回っている。90年調査では「不満」が20ポイント程上回ったが、94年調査以降は逆転し、次第に「満足」が多くなった。前回調査ではその差が14.2ポイント、今回の調査ではその差は少し広がり16.2ポイントになった。「まあ満足」が教育学部で55.2％と高い割合なこと、「総じて不満」が医学部で42.9％の高い割合であること、「不満」が教養学部理系で21.1％（学部学科中で一位）なのに対し理学部で6.3％なのが目立つ（図３－１、資料１－１－８表）。

「カリキュラムは消化できるか」の問いに対しては、「総じてできる」と回答した学生は77.8％になり、前回調査より4.7ポイント上がり、84年調査以降でもっとも高い割合となっている。他方、カリキュラムの消化に困難を感じる学生は21.0％で、前回調査より2.9ポイント下がり、84年調査以降でもっとも低い割合となっている。「多少困難」という回答が教養学部（文系）で28.0％の高い割合なのが目立つ（図３－２、資料１－１－９表）。

「カリキュラムの消化が総じて困難な理由」については、前回調査では主たる理由を第三位まで選択させたのに対し、今回は主たる理由を無順位に三つまで選択させたが、前回と同様に「授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある」47.0％が第一位で、これに「授業に対する自分の意欲や努力が足りない」45.1％、「授業の準備と復習の時間が十分とれない」41.6％、「教育上の指導助言が十分でない」31.7％が続く。「授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある」が理学部で75％の高い割合なのが目立つ（資料１－１－10表）。

図3－1　現在のカリキュラムに満足していますか

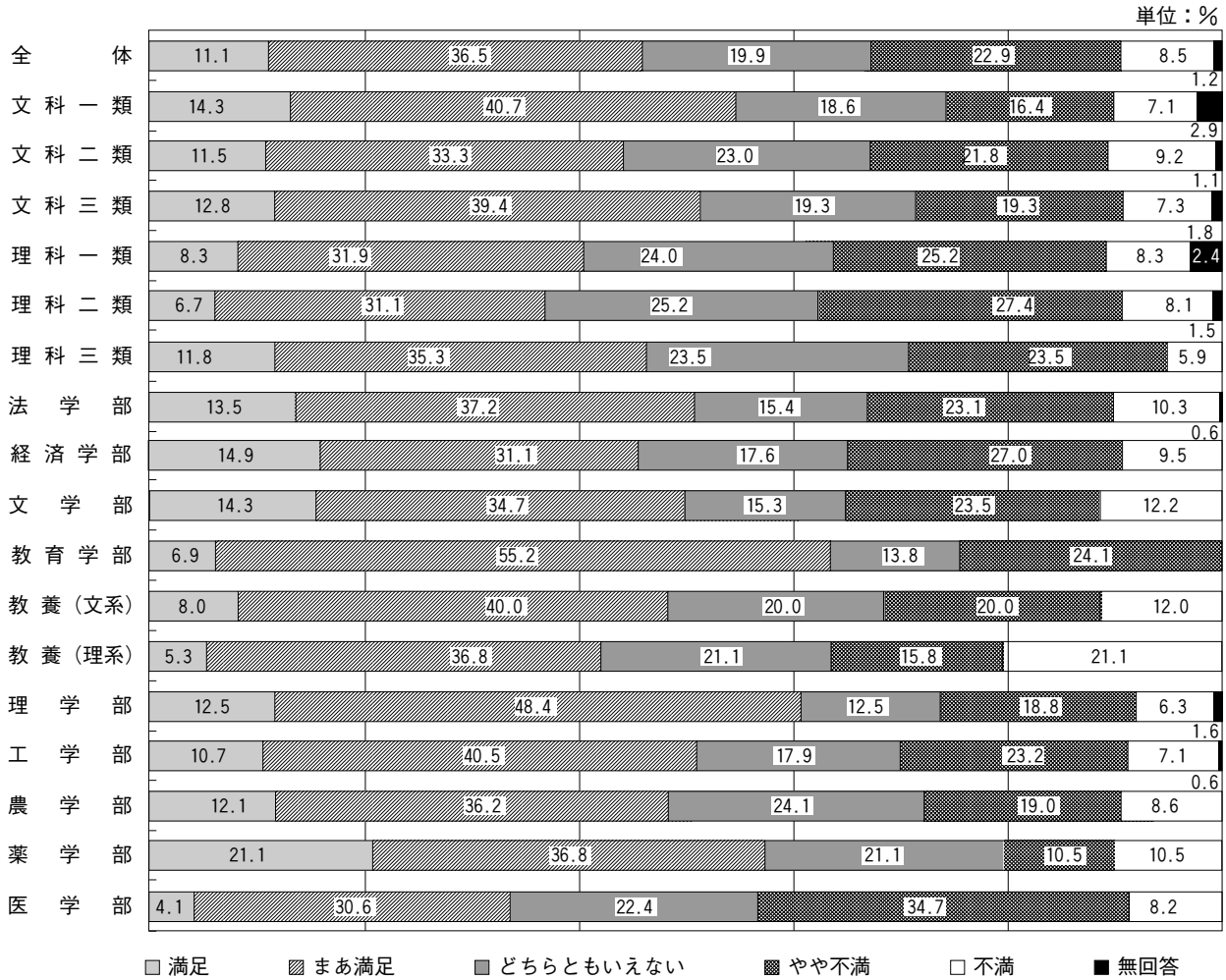
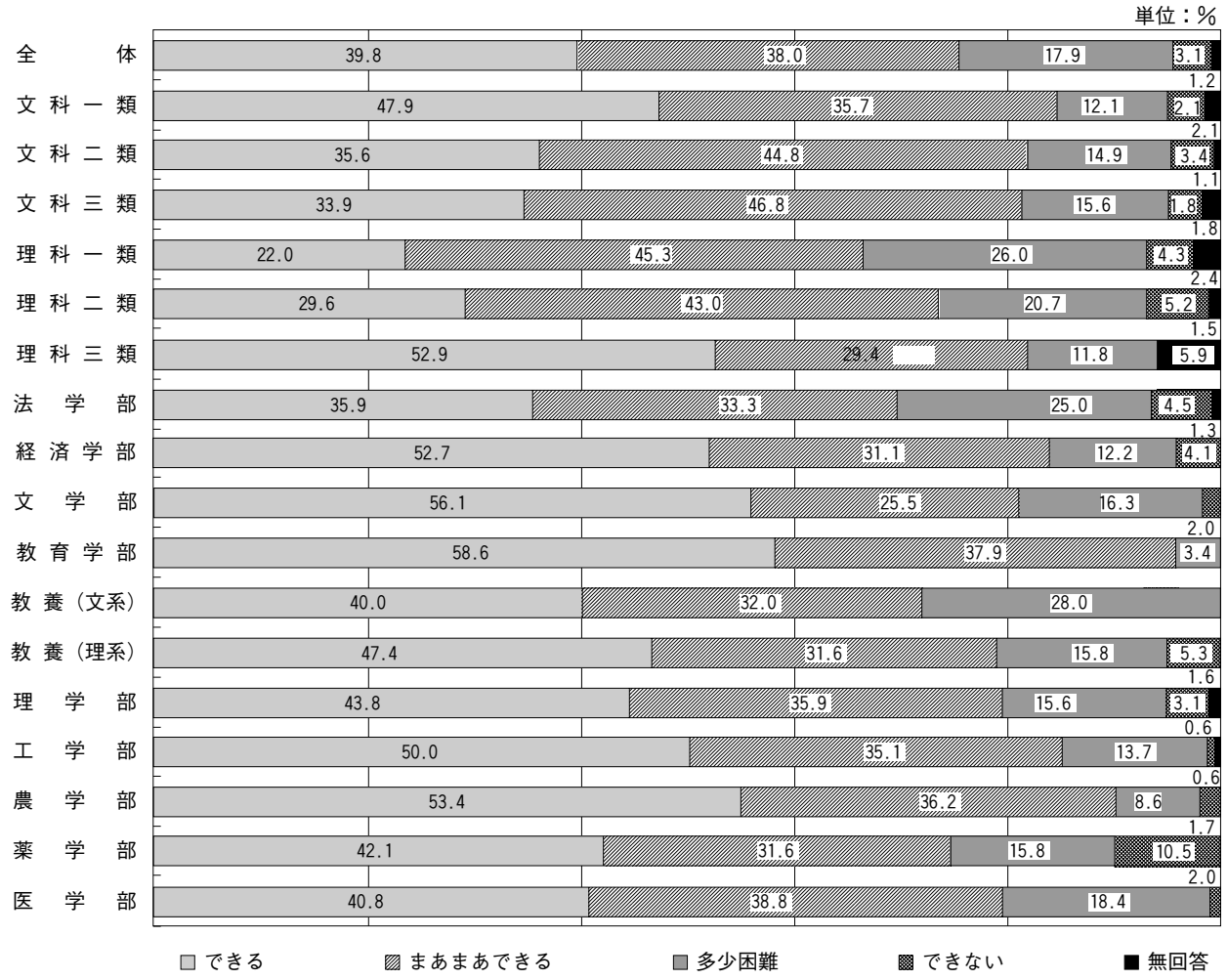


図3ー2　現在のカリキュラムは消化できますか



1ー4．学部卒業後の進路等について

文科系は就職希望者が４割、理科系では進学希望者が６割を超える
進学希望者では、文科系は博士課程までが３割、理科系は修士課程までが６割を超える
主な進学の理由第１位は、「高度の専門知識・技術を身につけるため」

「学部卒業後、どのような進路を予定しているか」については「進学する」46.0％、「就職する」27.8％、「まだわからない」23.7％で、前回調査より「進学する」が4.8ポイント、「まだわからない」が1.0ポイント増加し、「就職する」が3.7ポイント減少している。文科系と理科系の比較では、「進学する」は理科系66.7％に対し文科系23.5％、「就職する」は文科系44.0％に対し理科系12.9％と、割合が逆転している（図４、資料１－１－11表）。

「学部卒業後の進学予定者の進学予定」については、「大学院修士課程」までが63.4％、「大学院博士課程」までが33.3％となっている。文科系、理科系ともに同様な傾向にある（資料１－１－12表）。

「大学院へ進学する理由」については、二つまでを選択させたが、「高度の専門知識・技術を身につけるため」が75.9％で最も多く、「将来研究者になるため」44.2％、「良い就職先を得るため」20.8％、「まだ社会に出たくないから」13.8％と続き、前回調査と同順位となっている。「大学で教職につくため」が文科系男子に多く、「まだ社会に出たくないから」が後期課程女子に多いのが目立つ（図５、資料１－１－13表）。

図4　学部卒業後の進路

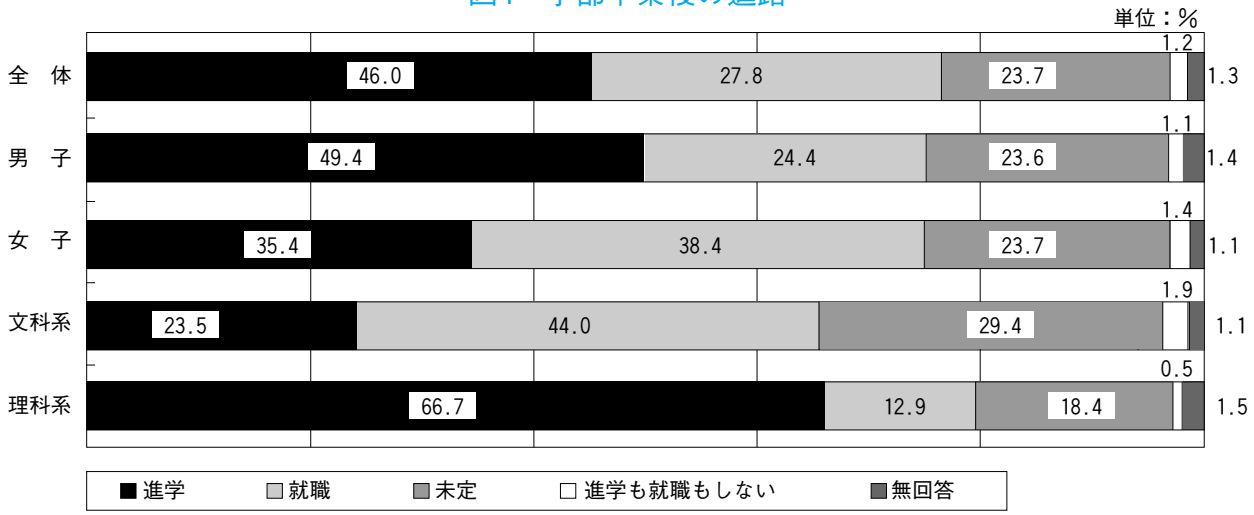
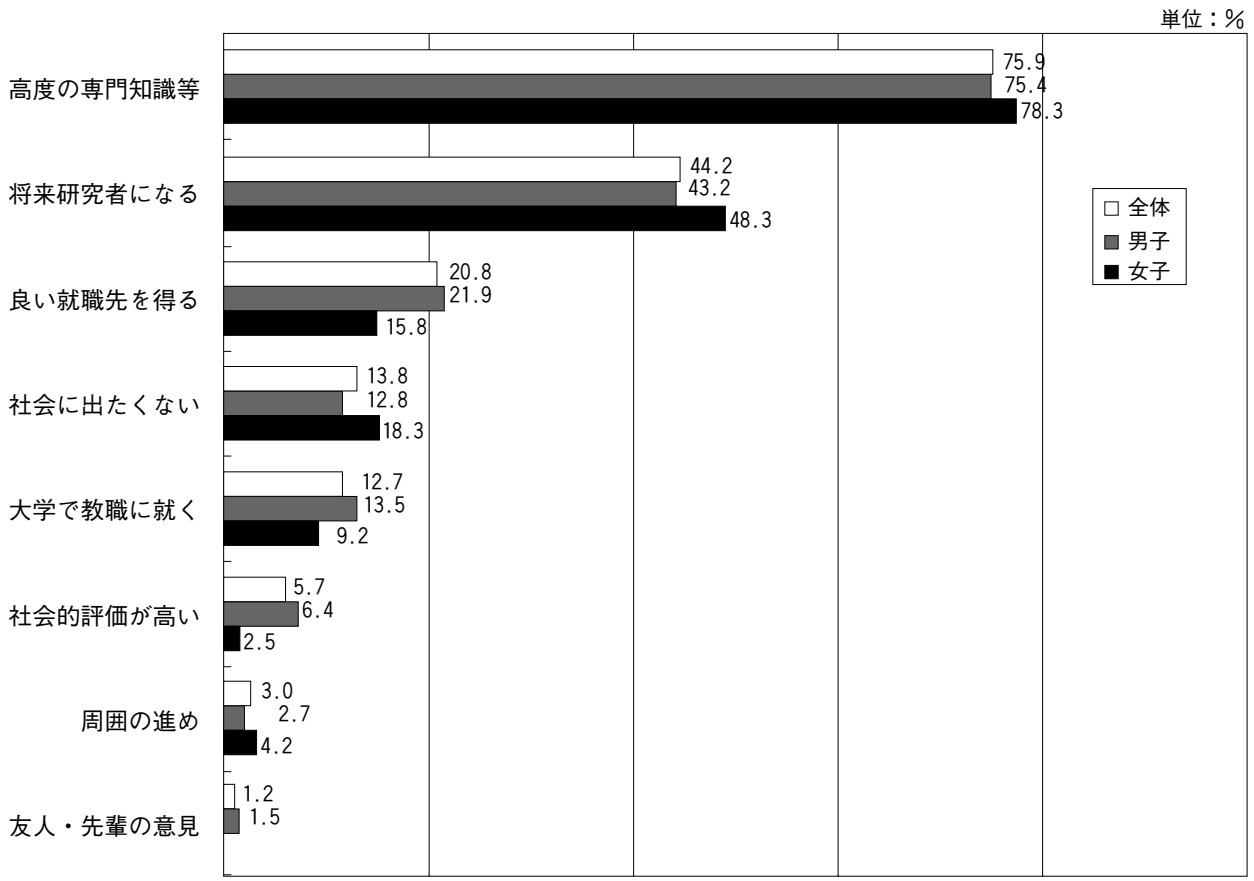


図5　大学院進学理由の上位（２つまで選択）



2．学生生活におけるコンピュータ利用について

98.4%の学生がインターネットを利用
利用目的は「趣味娯楽」94.9%、「勉学に関する情報を得る」85.8%、「電子メール」82.7%
97.9%の学生が携帯電話を使用
授業中、携帯電話の電源は「マナーモードにしている・切っている」が95.4%
インターネットと携帯電話とを「必須・ある程度必須」と考えた学生がそれぞれ78.6%と82.4%

コンピュータの使用状況に関する調査はこれまで数回行っているが、今回はコンピュータを利用したインターネット、電子メールと携帯電話の利用状況及びこれらの利用における意識調査を初めて実施するものである。

インターネットを利用している学生が98.4%を占める一方で、利用していない学生もわずかではあるが1.6%いる。(資料１－２－１表)。

個人的にコンピュータを所有している学生は87.7%で８割を超えている。所有している学生を男女別に比較すると、男子が88.8%に対し女子は84.4%で、男子の方が4.4ポイント上回っている。また、文理別では、特に後期課程での理科系学生の所有率が高い（資料１－２－２表)。

パソコンによるインターネットを利用する頻度は、「毎日」が45.1%、「１日に２、３度以上」が19.8%で、総じて毎日インターネットを利用する学生が64.9%で６割を超えている（資料１－２－３表)。

その利用場所は、「自宅」86.1%が最も多く、次いで「大学（図書館などの共通施設)」69.5%が続いている（資料１－２－４表)。

利用目的は、「趣味娯楽」94.9%が最も多く、続いて「勉学に関する情報を得る」85.8%、「電子メール」82.7%となっている（資料１－２－５表)。

パソコンによる電子メールの利用は、「利用している」が91.2%となっている。課程別に見ると、前期課程86.5%に対し後期課程95.8%で、後期課程の方が9.3ポイント上回っている（資料１－２－６表)。

電子メールの確認の頻度は、「毎日」38.6%が最も多く、次いで「週に２、３度以上」28.7%、「１日に２、３度以上」14.3%が続いている。総じて毎日電子メールを利用する学生は52.9%であるが、インターネットを毎日利用する割合より12ポイント下回っている（資料１－２－７表)。

電子メールのアドレスの使用は「個人的にプロバイダに加入しているもの」が80.5%、「大学から支給されているもの」が64.0%となっており、複数のアドレスを使用する学生が多くいることが伺える（資料１－２－８表)。

次に、携帯電話を使用する学生は97.9%、使用していない学生が2.1%となっており、インターネットの利用と同様に多数の学生が携帯電話を使用している。上述のコンピュータの利用状況を見ても、現在の学生が、自宅、大学、その他の外出場所、どこにいてもインターネット・携帯電話を利用している実態が伺える（資料１－２－９表)。

携帯電話のメール機能の利用は「利用している」が98.6%、「利用していない」が1.4%で、携帯電話を使用する学生の多数がメール機能を利用している（資料１－２－10表)。

「あなた自身が授業中は携帯電話の電源はどうしているか」の問いに対し、「マナーモードにしている」が90.3%、「切っている」が5.1%となっており、９割以上が授業中の携帯電話の電源に配慮しているが、「入れたままにしている」が4.6%いる結果となった（資料１－２－11表)。

携帯電話以外に自宅に電話のない学生は25.3%となっている。特に自宅外の学生は男子45.4%、女子44.9%の割合となっている（資料１－２－12表)。

次に、「授業の課題、教材、レポートの提出等の情報がインターネットを通じ教官のホームページからのみ得られるようになるとしたらどうしますか」の問いに、総じて「歓迎する」が30.8%となっている一方で、「インターネットを利用できない人に対する配慮が必要」38.7%、「歓迎できない」11.4%で合わせて50.1%となり、総じて「歓迎する」を上回る結果となった（資料１－２－13表)。

インターネット及び携帯電話を総じて必須であると答えた学生がそれぞれ78.6%と82.4%を占めて、総じて必須でないと答えた学生21.4%、17.6%を大きく上回っている。しかし、利用者の約1/5は必須なものとは考えておらず、現在、急速に広まったインターネット・携帯電話に対し、ある程度の警戒感を持っている様子が伺える。(資料１－２－14、15表)。

3．学習観・教育観

大学に入って、「試験に出ないことでも勉強する」ようになったが、中学・高校時代と比べて、「疑問に思ったことは、納得がいくまで考える」ことが減った
「自ら学ぶ力」をつけるのに最も役立ったのは、「家庭」、「大学」、「高等学校」の順
大学時代に「自分で考える力」を向上させるのに有効だと思うのは、
　「小人数の授業などに出て、教員や学生との議論の場をもつ」 51.8％
　「専門分野の書物をたくさん読む」 44.9％
　「専門以外の分野の書物をたくさん読む」 44.6％
　「授業以外の場で普段から友人と議論しあう」 37.0％が上位

今回調査で初めて設けた項目である。近年の教育改革の中で、「自ら学び、自ら考える力」を育てることが掲げられているが、本学学生が「自ら学び、自ら考える力」についてどう考えているのか、聞いたものである。
学生に「自ら学び、自ら考える力」に関連する４つの項目がどの程度あてはまるのかを、中学・高校時代と現在に分けて、「大いにある」（５）から「ほとんどない」（１）の５段階のなかから選択してもらった。

中学・高校時代については、「大いにある」と「かなりある」を合わせた回答が、「疑問に思ったことは納得がいくまで考える」66.0％、「人に言われなくても自分から勉強する」64.6％、「人に教えてもらうよりも自分で考えたくなる」56.8％の順で、過半数を超えている。現在については、全４項目で50％を超えているが、中学・高校時代と現在を比較すると、「人に言われなくても自分から勉強する」が64.6％から63.6％で1ポイント、「疑問に思ったことは納得がいくまで考える」が66.0％から58.8％で7.2ポイント、「人に教えてもらうよりも自分で考えたくなる」が56.8％から55.7％で1.1ポイント下回っている。ただし、「試験に出ないことでも勉強することがある」は39.8％から55.5％（15.7ポイント）で大きな増加を示している。（図６、資料１－３－１表）。

「自ら学ぶ力」をつけるのに最も役立った場所について、２つまで選択してもらったところ、「家庭」が37.3％で最も高く、次いで「大学」35.9％、「高等学校」34.9％、「学習塾・予備校」27.7％が上位になっている。男女別に比較すると、男子では「大学」が第１位で、「高等学校」がそれに次いでいるのに対して、女子では「家庭」が第１位で、「大学」がそれに次いでいる。また、文理別にみると、文科系の第１位が「大学」で、「家庭」が第２位なのに対し、理科系の第１位が「家庭」で、第２位が「高等学校」であった（図７、資料１－３－２表）。

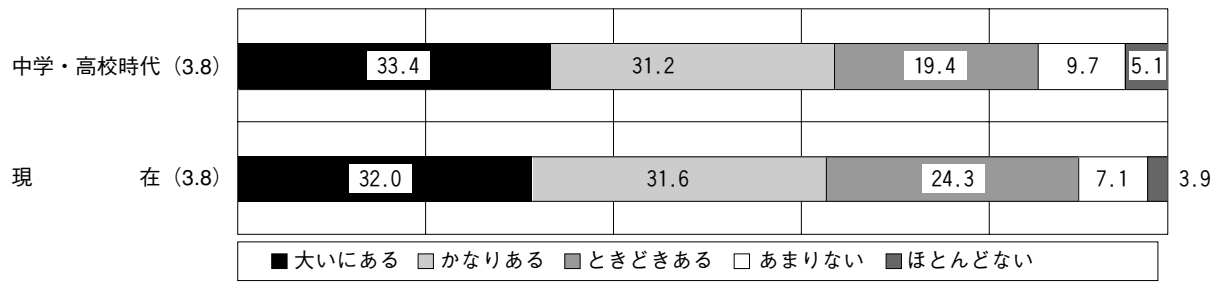
義務教育課程で学力を引き上げるのに、特に有効だと思われる対策は（３つまで選択）、「小人数クラス編成にする」52.0％が最も高く過半数の学生が選んでいる。次いで、「習熟度別クラス編成にする」50.0％、「教員の研修を強化し、評価も行う」41.8％、「授業を評価する仕組みを作り、教員の処遇にも反映させる」36.8％が続いている（資料１－３－３表）。

大学時代に「自分で考える力」を向上させるのに特に有効だと思う手段・方法は（３つまで選択）、「小人数の授業などに出て、教員や学生との議論の場をもつ」が51.8％で最も高く、特に女子は61.8％で６割を超えている。続いて、「専門分野の書物をたくさん読む」44.9％、「専門以外の分野の書物をたくさん読む」44.6％、「授業以外の場で普段から友人と議論しあう」37.0％、「レポート、論文、発表などに力を入れる」35.0％が上位となっている。総じて議論することと、書物をたくさん読むことが上位を占めている（資料１－３－４表）。

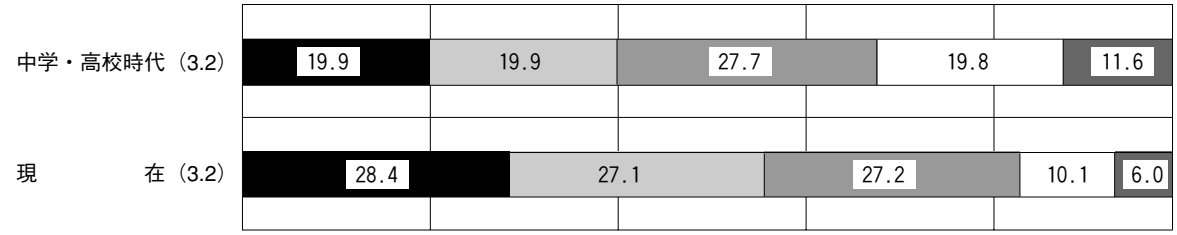
なお、学習観・教育観については、さらに「特殊分析」で検討しているので参照されたい。

図６　中学・高校時代と現在の勉学態度に関する自己認識

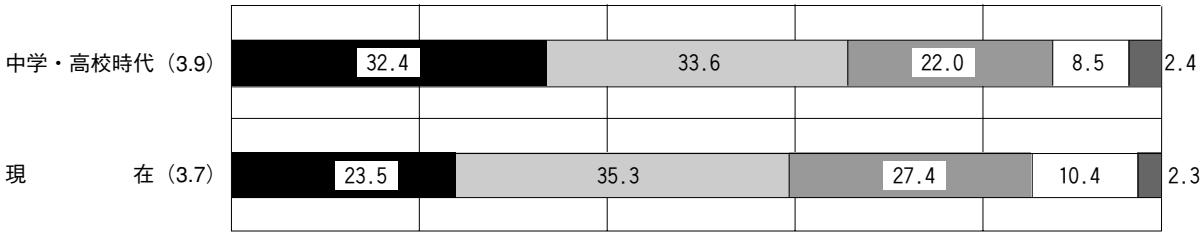
１．人に言われなくても、自分から勉強する



2．試験に出ないことでも、勉強することがある



3．疑問に思ったことは、納得がいくまで考える



4．人に教えてもらうよりも自分で考えたくなる

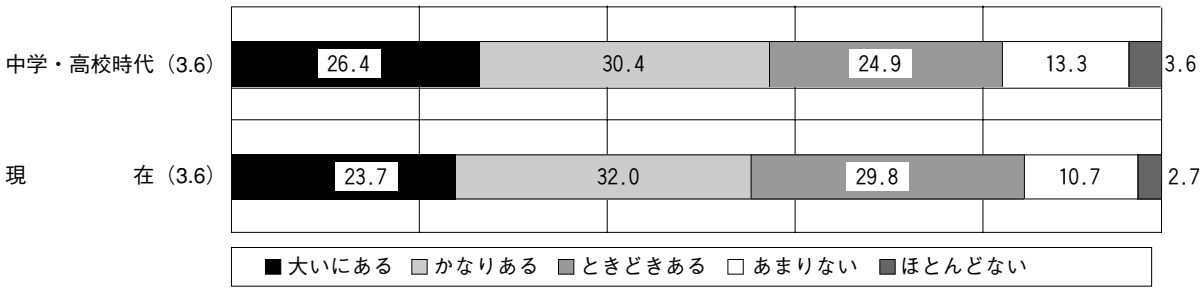
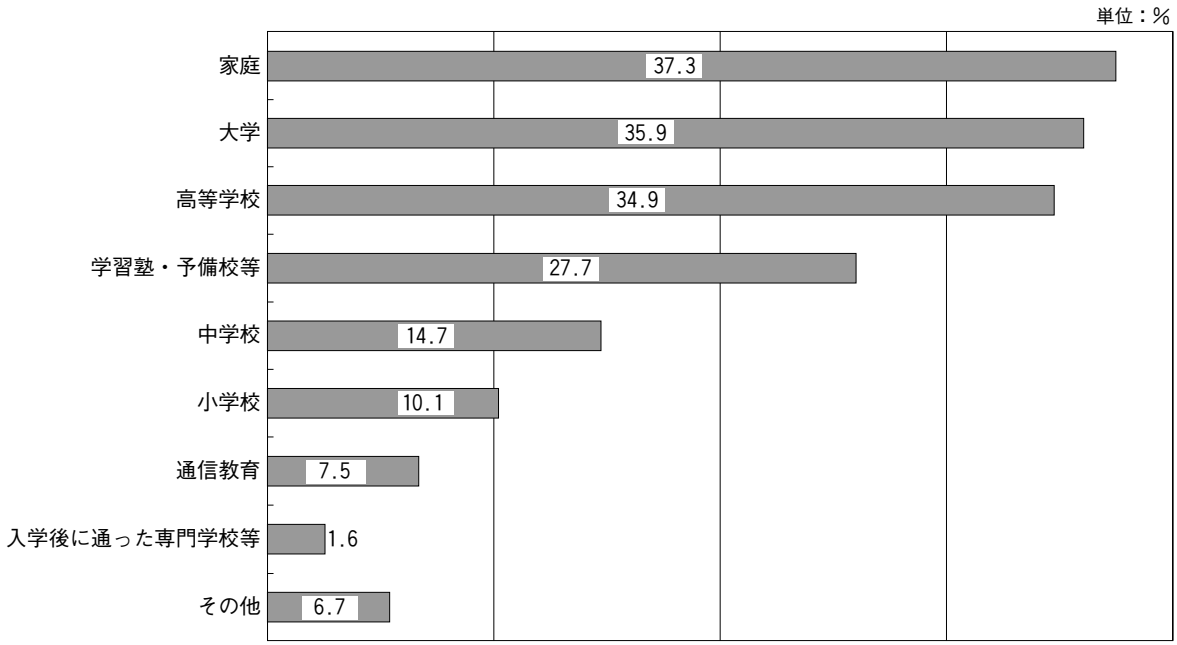


図7　「自ら学ぶ力」をつけるのに最も役立った場所（２つまで選択）



4．就職

希望職種は「大学・官公庁の教育・研究職」46.4%
希望職種に就きたい理由は「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」65.6%
仕事や職場を選ぶ際に重視することは「やりがいがある」70.6%

就職希望職種、希望職種に就きたい理由及び仕事や職場を選ぶ際に重視することは、前回調査（2002年（第52回））は主たるものを重視した順に、第１位から第３位まで調査したが、今回調査では順位をつけずに、主たるものを３つまで選択可として調査した。したがって比較するには注意が必要であるが､前回調査の第１位に限って比較すると、どのような職業に就きたいかの問は、前回調査と同様「大学・官公庁の教育・研究職」が46.4%で最も多く、これに「企業等の研究職」38.4%が続いている。また、「教育・研究職」を除くと、「専門職（医師、弁護士、公認会計士等）」が37.1%、「行政職（公務員）」が32.9%で続いている。特に理科系は「企業等の研究職」を望む学生が男子65.7%、女子57.0%、「大学・官公庁の教育・研究職」を望む男子が61.8%、女子55.6%と文科系よりかなり多いが、文科系は男子が「専門職」54.1%を、女子が「行政職（公務員）」48.8%、「専門職」48.4%と理科系よりかなり多い。理科系では第１位、第２位とも「企業等の研究職」、「大学・官公庁の教育・研究職」と研究職志向が高い。文科系では「専門職」「行政職（公務員）」への志向が高く、「大学・官公庁の教育・研究職」は第３位となっている。（図８－１～２、資料１－４－１表）。

その職業に就きたい理由も前回調査の第１位と同様「自分の特技・能力や専門知識が活かせる」が65.6%で最も多く、「人を助けたり社会に奉仕する」42.5%、「独創性や創造性を発揮できる」32.4%、「安定した生活が保証されている」31.8%がそれに続いている。職種の希望で文系・理系の差が大きかったのに比べ、ここでは両者の差が小さいことが特徴である（資料１－４－２表）。

仕事や職場を選ぶ際に重視するものも前回調査の第１位と同様「やりがいがある」が70.6%で７割を超え、「能力が発揮できる」41.8%、「給料がよい」39.0%、「技術や知識を身につけられる」24.7%と続いている（資料１－４－３表）。

就職活動としては、「インターネット等で、情報を収集する」45.1%、「企業等のセミナーや説明会に参加する」22.5%、「職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する」19.9%、「就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する」11.5%と続き、前回調査と同順となっている。これを学部別にみると、文系学部で一般的に活発な活動が行われており、とくに職業資格を取るための勉強が法学部で54%、企業等のセミナーや説明会への参加が経済学部で70%と顕著であった（資料１－４－４表）。

就職する場所としては、前回調査と同様に「東京圏（東京近郊）を希望する」が53.8%と過半数を超えたが、前回を1.3ポイント下回った。男女別では、男子の51.2%に対して女子が62.1%で６割を超えている（資料１－４－５表）

図8-1　就職希望職種（３つまで選択）

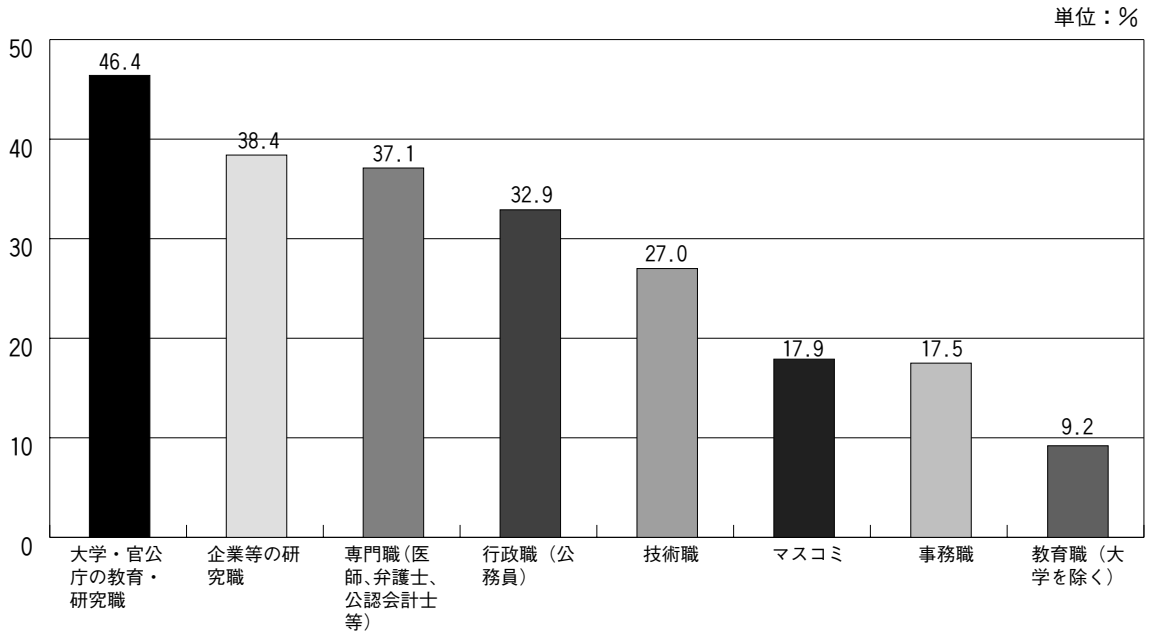
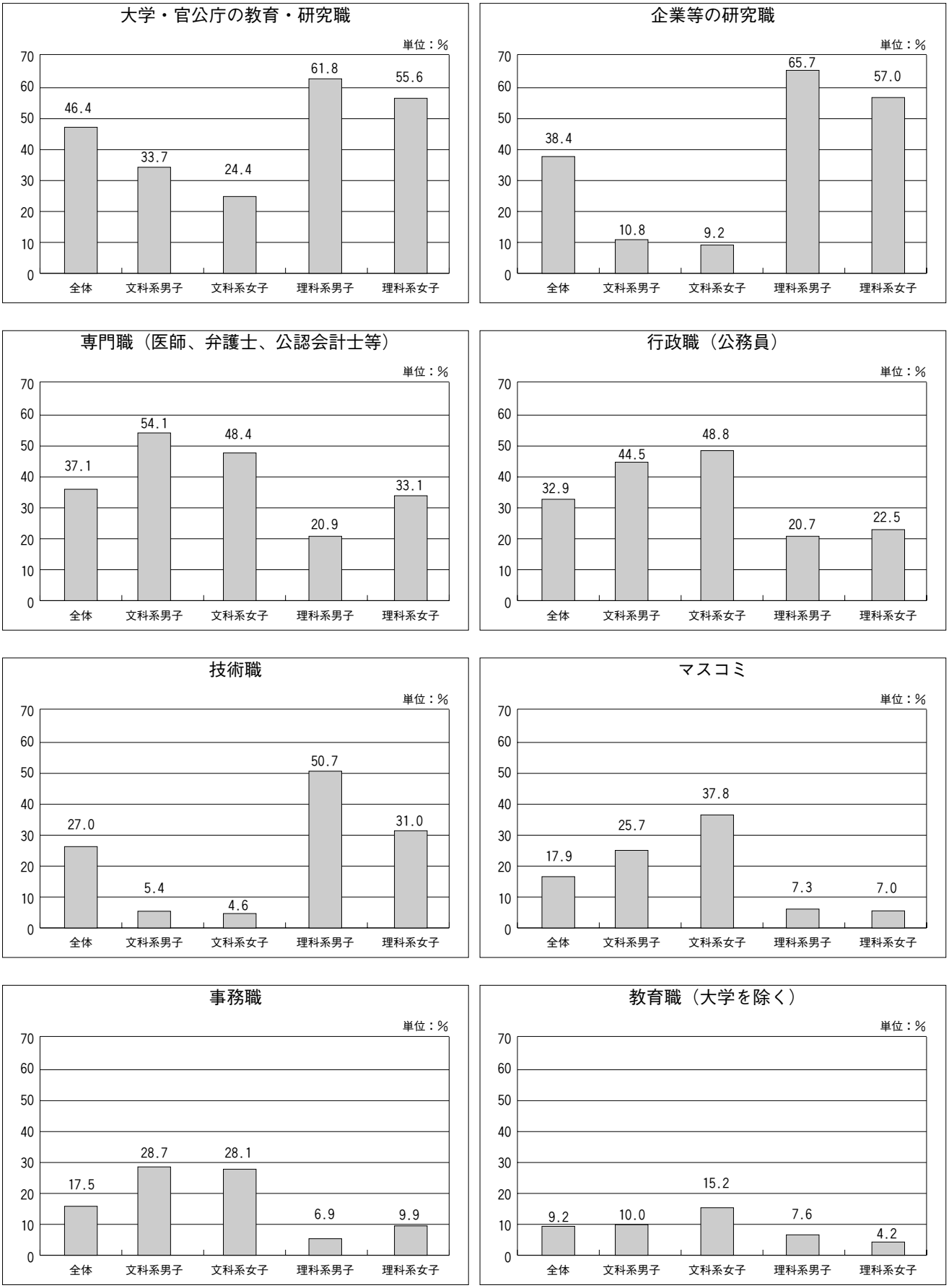


図8-2　就職希望職種（職種別内訳）



5．学生生活の満足度

大学に来るのは１週間に「４回」以上が87.5％
大学生活の目的として、理系は「高度な専門知識・技術を身につける」85.9％、文系は「豊かな教養を身につける」82.8％
学生生活の満足感は「友人」が１位、全体では79.2％が満足であるが、授業内容、施設等に問題は多い
76.2％の学生が東大に愛着をもつ
施設・設備の充実、整備が早急に必要な諸施設は「寛げるスペース」「学内食堂」が上位を占める

今回の学生生活の満足度の設問は、前回（2001年）調査の設問の内容を見直すとともに、国立大学法人化前の本学に対する学生生活のベンチマークとなるように、授業評価の結果を生かす方法、本学への愛着、大学諸施設に対する設問などを加えた。

１週間のうち大学に来る回数は、「５回」が48.6％で最も多く、「６回」20.1％、「４回」12.8％、「３回」6.5％、「７回」6.0％、「２回」2.4％、「１回」2.1％、「ほとんど来ない」0.9％で、前回調査と同順となっている。また、「４回」以上を合わせると87.5％になり、前回調査とほぼ同水準であった（資料１－５－１表）。

日頃大学に行くときどのように感じますかとの問いに、「行きたい・楽しみ」が15.5％、「どちらかといえば行きたい・楽しみ」が56.5％で合わせると72.0％になる（資料１－５－２表）。

自分の大学生活の目的は、前回調査は主たるものを重視した順に第１位から第３位まで調査したが、今回調査では「あてはまる」（５）から「あてはまらない」（１）の５段階で、該当するものの番号を選択してもらった。
したがって、比較には注意が必要であるが、今回調査の「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせたものと、前回調査の第１位に限って比較をすると、前回４位だった「学生生活を楽しむ」79.8％が今回は最も高く、次いで「豊かな教養を身につける」79.3％（前回３位）、「高度な専門知識・技術を身につける」78.3％（前回２位）、「専門的学問・研究をする」77.7％（前回４位）、「友人を多く持つ」72.0％（前回７位）となっている。ただし、文理別にみると、理科系の第１位は「高度な専門知識・技術を身につける」が85.9％、文科系の第１位は「豊かな教養を身につける」が82.8％であった（資料１－５－３表、参考までに2001年調査の結果を別表として付記した）。

学生生活の満足度については、「満足している」「まあ満足している」と回答した学生の方が、「不満である」「やや不満である」と回答した学生よりも全８項目で上回っている。また、1986年（第36回）調査以降、初めて全項目の満足率が50％を超えている。項目別には、「授業の内容」は総じて「満足している」が、52.9％で前回調査より7.3ポイント増えている。その一方、「授業の内容」は前回同様に最も不満な内容となっており、「総じて不満である」が25.1％で、約４人に１人は講義内容について改善を望んでいる。また、「友人」「クラブ・サークル活動」「余暇・レジャー」の総じて「満足している」は、74.1％、52.6％、50.3％で前回よりもそれぞれ5ポイント、3.7ポイント、3.3ポイント増えており、文化的活動を楽しんでいる学生が増えていると考えられる。授業内容に関する満足度は1980年代後半から徐々に上昇しているが、それでも満足のランクは低い。大学側としてこれらの点に大いに留意する必要がある（図９、資料１－５－４表）。授業の内容と環境・設備面に関し、学部科類別の結果を示したものが、資料１－５－４表である。授業内容に関しては、前期課程に比べて後期課程に満足度が高く、とくに文学部、教育学部、理学部のポイントが高かった。また、環境や設備面で前期課程より後期課程の満足度が高めで、とくに理系の３学部（薬学部、理学部、医学部）の評価は高かった。

授業評価の結果を生かすために必要なこと全てを選択してもらったところ、「評価結果をインターネットで公開する」48.2％が最も高く、次いで「評価結果を印刷物で公表する」43.4％、「評価を教官の処遇に反映させる」39.2％の順であった。評価結果を公表する必要があると考える学生が多い（資料１－５－５表）。

東大に対して愛着を感じているかの問いでは、愛着があると答えた学生は「大学に対して」34.6％、「クラブやサークルに対して」23.9％、「自分が所属する学部や学科等に対して」17.7％の順で、合わせて76.2％の学生が何らかの形で東大に愛着があると答えている（資料１－５－６表）。

全体として大学生活に満足しているかどうかの問に対し、「満足している」28.6％、「まあ満足している」50.6％合わせると前回調査より1.1ポイント増えて、79.2％の学生が満足していると答えている（資料１－５－７表）。

一般的な施設等の中でもっと整備が必要だと思う事項を「よく整備・美化されている」から「整備・美化が不足している」の４段階で、該当する番号を選択してもらった。「よく整備・美化されている」「ある程度整備・美化されている」を合わせると、「大学キャンパス内の樹木等の整備」が89.5％で最も高く、学生の９割弱が回答している。次いで、「大学キャンパス内の清掃」が71.1％、「大学の建物内の清掃」が58.0％の順になっている。一方、「あまり整備・美化されていない」「整備・美化が不足している」を合わせると、「トイレの数」61.9％、「トイレの清掃」61.2％、「大学構内の

不要となった廃棄物」が50.1％の順で、過半数を超える学生から回答された（図10、資料１－５－８表）。

本学の課外活動施設、福利厚生施設等の満足度を全１１項目について聞いたところ、「満足している」「まあ満足している」が「やや不満である」「不満である」を上回っているのが、「学生会館、課外活動共用施設、キャンパスプラザ（駒場）」を除く１０項目が上回っている（資料１－５－９表）。

諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものに対しては、「寛げるスペース」44.6％が最も高く、次いで「学内食堂」43.2％、「学生会館（駒場）」34.1％、「学部内の学生控室等」25.7％の順であり、憩いの場を求める学生が多い様である（図11、資料１－５－10表）。

図9　学生生活の諸側面における満足度

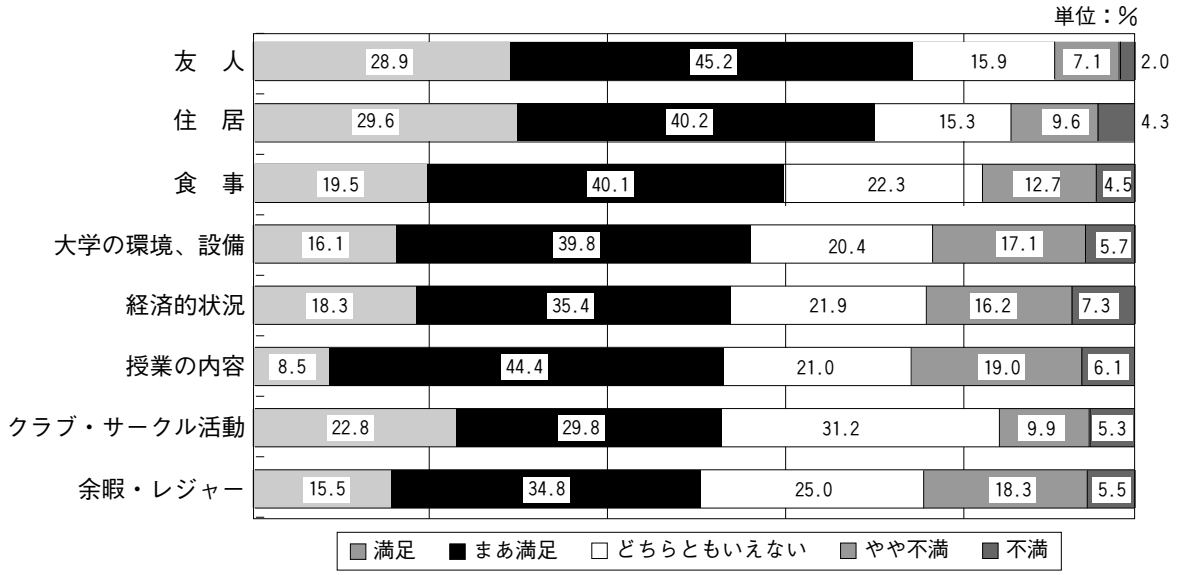


図10　一般的な施設で整備が必要だと思う事項

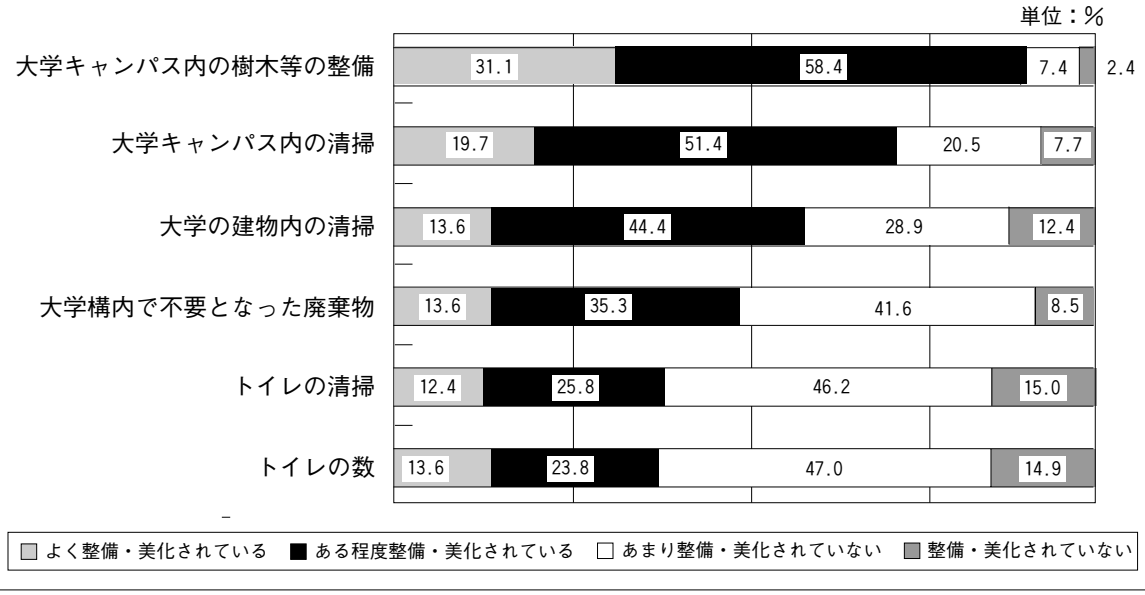
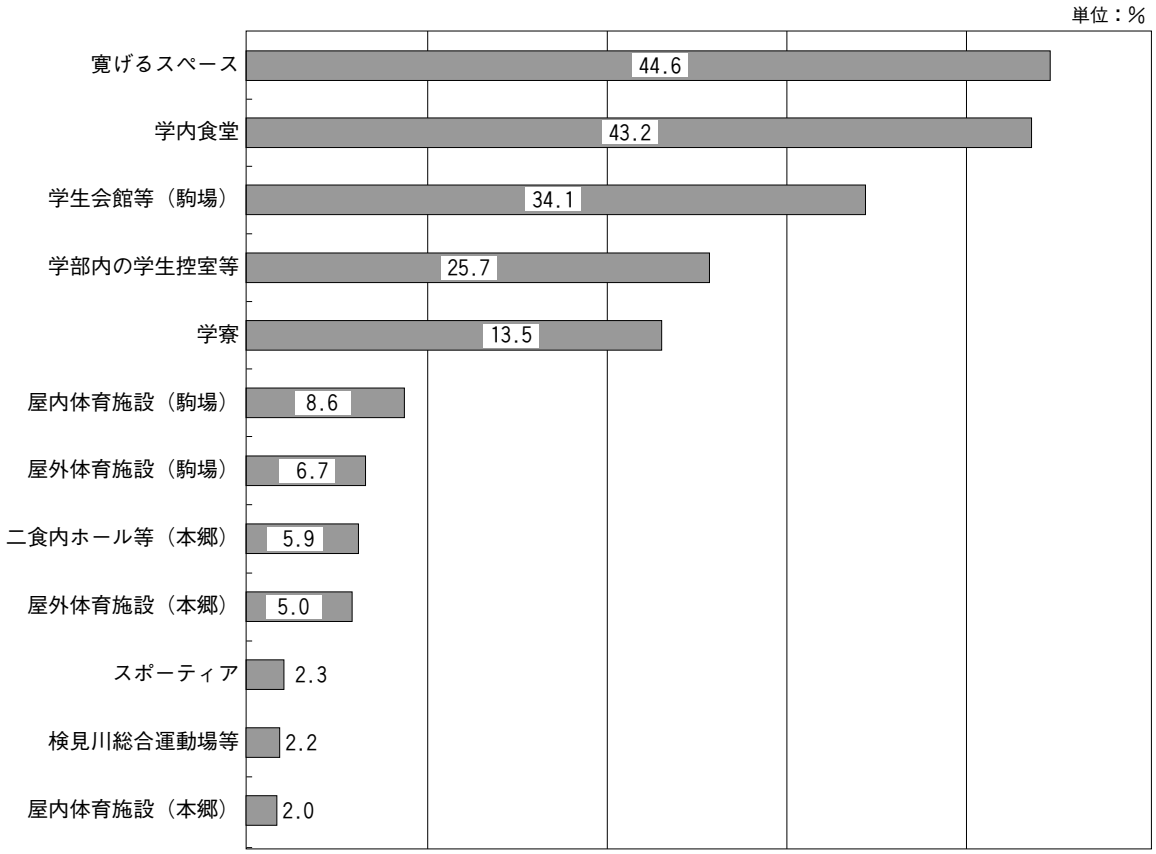


図11　施設・設備の充実、整備が早急に必要な諸施設（３つまで選択）



6．大学への要望

「授業の方法の工夫・改善」が第１位、「カリキュラムの改革」が第２位、
「小人数教育の充実」「進学振分け制度の改善」「図書館の充実」が続く

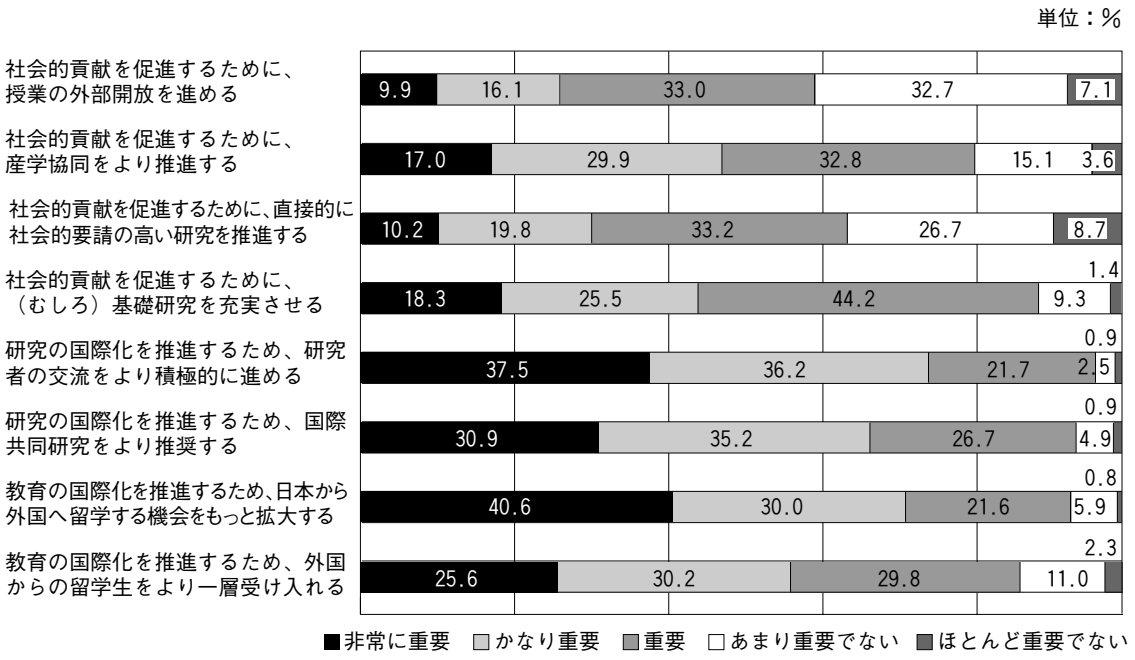
大学の社会的貢献を促進または国際化を推進するための関連する事項は、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を総じてみると、社会的貢献を促進するための事項は、「基礎研究を充実させる」88％、「産学協同をより推進する」79.7％が上位となっている。一方、「授業の外部開放を進める」は「あまり重要でない」「ほとんど重要でない」を合わせると、39.8％になっている。また、研究の国際化を推進するための事項では、「非常に重要」「かなり重要」「重要」を合わせると、全４項目が８割を超えた。特に、「研究者の交流をより積極的に進める」95.4％、「国際共同研究をより推奨する」92.8％、「外国へ留学する機会をもっと拡大する」92.2％は９割を超える結果となっている。（図12、資料１－６－１表）

大学への要望や期待することは、前回調査（2002年（第52回））は主たるものを重視した順に、第１位から第３位まで調査したが、今回調査では順位をつけずに、主たるものを３つまで選択可として調査した。その結果、前回調査の第１位に限って比較すると、「授業の方法の工夫・改善」が41.1％で前回調査同様最も多く、次いで「カリキュラムの改革」30.8％、「小人数教育の実施」25.2％、「進学振分け制度の改善」23.6％が前回調査と同順となっている。続いて、「図書館の充実」21.2％、「就職対策の充実」21.1％、「教育スタッフの充実」20.3％が上位で20％以上を示している。なお、今回調査では課外活動諸施設及び福利厚生施設の充実に関する選択肢は、「学生生活の満足度」の調査項目と重複するため削除した。また、前回調査では「教室の充実」「実験室や実習室の充実」は「教室・実験室の充実」として選択肢を１項目としていたが、今回調査は２項目に分割した。

学部・科類別の第１位の要望項目は、文科一類・文科二類・理科一類・理科三類・経済学部・教育学部・教養学部（理系）・理学部・工学部・農学部が「授業の方法の工夫・改善」を、文科三類・理科二類が「進学振分け制度の改善」を、法学部が「小人数教育の実施」を、文学部・教育学部（上記と同率）・教養（文系）が「就職対策の充実」を、薬学部が「奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額」を、医学部は「カリキュラムの改革」をそれぞれ第１位に挙げている。

上位の選択肢を前回調査の全体（重視する順第１位から第３位）の回答を合算したものと比較すると、「授業の方法の工夫・改善」が0.8ポイント減であるが、他の項目を引き離して前回調査同様第１位であった。次いで、「カリキュラムの改革」が0.6ポイント増、「小人数教育の実施」が4.3ポイント増、「進学振分け制度の改善」が4.5ポイント増、「図書館の充実」は2.0ポイント増となっており、要望や期待の割合が増えている。（資料１－６－２表）。

図12　大学の社会的貢献を促進、国際化を推進するための関連事項の重要度



7．特 殊 分 析（東大生から見た「我が国の教育」）

7－1．調査のねらい

今年度の特殊分析は、学生が真に個性ある人間として成長していく上で必要とされると考えられる「自ら学び、自ら考える力」について取り上げた。本学の教育システムが学生にどのように評価されているのかについての調査も含まれている。また今年度調査の具体的記述事項として、「日本の教育の現状と、これから向かうべき方向について、あなたの考えをお書きください」という質問をおこない、主な回答を取り上げた。本分析と合わせて、その結果を参照していただきたい。

7－2．東大生の「自ら学び、自ら考える力」についての自己評価

「自ら学び、自ら考える力」といっても漠然としてとらえどころがないので、「人に言われなくても、自分から勉強する」「試験に出ないことでも、勉強することがある」「疑問に思ったことは、納得がいくまで考える」「人に教えてもらうよりも自分で考えたくなる」という４つの質問に対し、「大いにある」から「ほとんどない」までの５点尺度で、中学・高校時代と現在とについてそれぞれ回答してもらった（資料１－３－１～４表）。いずれの質問も、中学・高校時代、現在ともに「大いにある」「かなりある」「ときどきある」をあわせると７割以上に達しており、本学の学生が主体的に勉学に取り組む姿勢は、中等教育の時代から培われていることがうかがえる。中学・高校時代と現在とを比較して変化が大きいのは、「試験に出ないことでも、勉強することがある」という質問に対し、「大いにある」「かなりある」とする学生が、９ポイント増加していることである。この変化は男女を問わずおきているが、前期課程より後期課程で、理系より文系で顕著である。一方「疑問に思ったことは、納得がいくまで考える」ことが「大いにある」学生は、10ポイント減少している（「かなりある」は２ポイント、「ときどきある」は５ポイント増加）。この変化は、男女別、前期・後期課程別、文科・理科別のいずれにも共通しているが、現在理系の学生の方が現在文系の学生より中学・高校時代には、納得がいくまで考える人が多かったのに対し、現在では差がなくなっている。大学受験が終わると、試験に縛られずに勉強に取り組めるようになるが、理系受験生がもっていた一つの数学の問題を徹底的に考え抜くという姿勢がやや薄れているのかもしれない。

「自ら学ぶ力」をつけるのに最も役だったと思うところを２ヶ所まで回答してもらったところ、「家庭」「大学」「高等学校」とする学生がそれぞれ30％を超えており、学習塾・予備校が28％でそれに次いでいた。これに対して、小学校・中学校とする回答は、10％台にすぎなかった（資料１－３－２表）。男女別では、女子で家庭の比率が高い反面、高校が少なかった。前期・後期課程別では、前期課程では学習塾・予備校の比率の方が大学より高いのに対し、後期課程では、大学の比率がもっとも高くなっている。また文科・理科別では、文科系では大学の比率が、理科系では高校の比率が高いという特徴がある。大学生活が長くなるにつれて、大学の評価が上昇するとともに、女子が理系では少ないことを考慮すると、理系・男性は、高校の評価が高いという傾向があると判断される。数学的才能が比較的早期に開花することを反映しているのかもしれない。

7－3．学力・「自分で考える力」を引き上げる方法

「自ら学ぶ力」が義務教育でついたとする学生が少なかったが、義務教育において、基礎学力も含めた「学力」を引き上げるのに有効だと思われる施策について、３つまで回答してもらった（資料１－３－３表）。「少人数クラス編成」「習熟度別クラス編成」とするものが、50％を超えている。画一的な一斉授業への強い批判があるように見られる。次いで高いのが、「教員の研修を強化し、評価も行う」（42％）と「授業を評価する仕組みを作り、教員の処遇にも反映させる」（37％）であり、教員の指導力の強化を求める意見である。さらに「放課後や休日に参加できる補習や発展的授業をもうける」（33％）「放課後に個別に教えてくれる学習相談員を配置する」（26％）が続いており、課外学習の活用を求めている。これに対し、注目を集めがちな学校選択制、民間人の登用、あるいは必修の知識量を減らして考える余裕を作るといった施策には否定的であった。社会経験が未だ乏しい大学生であるので、自分の学校での体験・見聞の範囲で判断する傾向もあるといえよう。

大学において「自分で考える力」を向上させるのに有効だと思う手段について、３つまで回答してもらった（資料１－３－４表）。「少人数の授業などに出て、教員や学生との議論の場をもつ」が52％と最も多く、「専門分野の書物をたくさん読む」（45％）「専門以外の分野の書物をたくさん読む」（45％）がこれに次ぎ、「授業以外の場で普段から友人と議論しあう」（37％）「レポート、論文、発表などに力を入れる」（35％）が続いている。教員・学生同士の討論を行い、専門・専門外を問わず本を読んで自分の考えを形成し、レポート・プレゼンテーションなどで自分の考えをまとめ上げて発信していき、さらに批判を仰ぐ、というある意味でオーソドックスな方法が、「自分で考える力」を磨く上で有効であると考えているようである。ここでも少人数教育への根強い要求があることが確認されるとともに、自分の殻に閉じこもる傾向があると誤解されがちな現代の学生が、他の学生・教員とのコミュニケーションを強く求めているこ

とも窺える結果となっている。

７－４．自由回答から垣間見えるもの

「日本の教育の現状と、これから向かうべき方向について、あなたの考えをお書きください」という質問に対して、自由に記述して回答してもらった。最も印象的であったのは、「ゆとり教育」を批判する見解が、特に求めたわけでもないのに、３分の１ほどあったことである。これは必修の知識量を減らして、じっくり考える時間をとる、という施策がほとんど支持されていなかったことから予想されるところではあるが、約四半世紀前に大学受験を経験した世代からすると、「大学入試は諸悪の根元」「入りにくく出やすい大学から入りやすく出にくい大学へ」という当時かなり有力であったと思われる見解がほとんど見られず、「ものを考えるには、知識を詰め込むことも必要である」という回答が次々とでてくることには、隔世の感を覚えた。ただ「ゆとり教育」批判にはもう一つの主張が存在している。それは学校での教育内容が削減される一方で、受験で要求されるレベルは必ずしも低下しておらず、受験戦争で勝ち抜くためには学習塾・予備校が必要とされる度合いがますます高くなり、結果として保護者の経済力・塾などが集積する都市出身かそうではない地方出身かといった本人にはどうにも出来ない要因で、本人の教育水準が決定されてしまうことを危惧する見解である。こうした教育の「機会均等」を確保すべきであるとする見解も多く見られた。

自由回答から得られるもう一つの見解は、小学校・中学校・高等学校・大学・職業選択が有機的に関連していないという見解である。すなわち中学は高校受験、高校は大学受験のことばかりが目前の問題として強調され、今学んでいることが将来いかに役に立つのか、ほとんど理解されず、勉学意欲をそいでいるという意見である。また自分が将来、どういう職業に就き、そのために、現在の勉強がどう役に立つのかがみえてこないとも訴えている。また特に理科系では、高校までの教育と大学の教育に断絶があることにとまどう学生もみられた。

このほか本学教員も含む教員の質の向上を求める意見、習熟度別クラス編成や少人数教育（クラス編成）を求める意見、教育における家庭の役割を重視する意見が多かったことは、これまでの回答結果から予想されるところである。本学の学生は、家庭に比較的恵まれ、勉学の習慣もあり、大学に入ってもその姿勢は衰えていないが、本学も含め教育の質（個々の教員の力量・少人数教育など）を求めているといえよう。とりわけ、教員が一方的に話を進め、自説を伝授する形態の講義には強い不満が示されていた。本学としても、今後早急に双方向の対話型の講義や少人数ゼミをより積極的に導入していく必要性があるのではないだろうか。これら学習意欲の高い本学学生の切実な要望に対しては、国立大学法人の重要課題としてその実現に真剣に取り組むべきであろう。

第２部　学生生活の背景

１．家庭の状況

家庭の所在地は55.4％が関東、東京都の比率の減少が定着傾向。特に女子の比率が減少
主たる家計支持者は「父」が88.9％、職業は「管理的職業」が42.8％
年収額は950万円未満が50.8％。半数を超える

家庭の所在地は、「東京都」22.7％、東京都以外の「関東」が32.7％、合計すると55.4％で、前回調査（2002年（第52回））と比較して1.2ポイントの減少となっている。男女別では、「東京都」と「関東」で男子の53.2％に対し、女子は62.4％で前回調査と同様男子を上回っている。

2000年以後減少した「東京都」の比率が安定した。男女別に見ると、男子は20.8％、女子は28.7％であった（図13－１～２、資料1－8－1表）。

主たる家計支持者は「父」が88.9％を占め、「母」は6.5％となっている（資料1－8－3表）。

その職業は例年どおり「管理的職業」が最も多く42.8％、次いで「専門的、技術的職業」17.6％、「教育的職業」12.8％と続き、前回調査と同順となっている（表3、資料1－8－4表）。

家計支持者の年収の分布状況は、「750万円未満」が34.3％、「750万円以上1,050万円未満」が38.4％、「1,050万円以上」が27.3％となっている。前回調査との比較では、「750万円未満」は28.3％から6.0ポイント、「750万円以上1,050万円未満」は37.8％から0.6ポイント増加し、「1,050万円以上」が34.0％から6.7ポイント減少している（図14、資料１－8－５表）。

家計支持者の年収額のうち「950万円未満」は50.8％であり、1990年の調査以来13年ぶりに半数を超えた。男女別に見ると、男子における「950万円未満」の比率が55.5％であるのに対して、女子における比率は35.9％であり、男女差が顕著である（図15）。

図13－1　家庭の所在地の推移（男子学生）

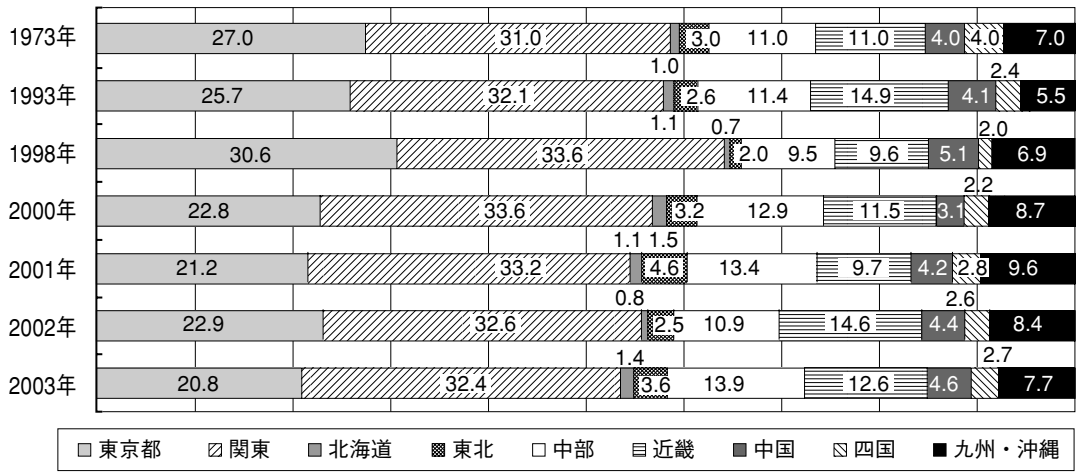


図13－2　家庭の所在地の推移（女子学生）

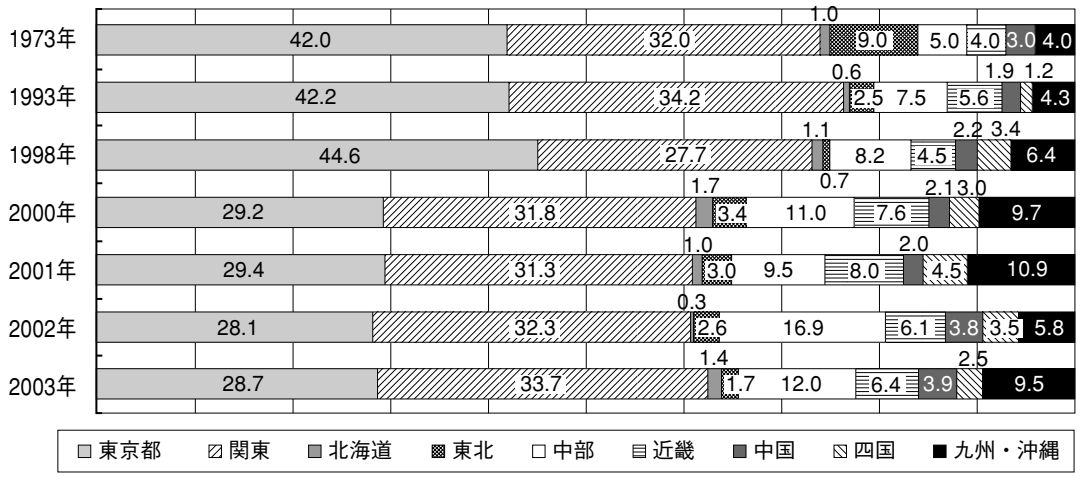


表３　「家計支持者の職業分類」三重クロス集計の一元表　（「職業」×「勤務先の規模」×「雇用形態」）

区分	専門的、技術的職業			教育的職業				管理的職業						事務	販売	農・林・漁業	生産工程・採掘作業	運輸・通信・保安・サービス	無職	その他・分類不能	無回答	合計	事例数
	被雇用者	単独又は、雇用主	小計	大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授	小・中・高校の校長・教頭	一般教員	小計	民間企業大規模（従業員一、〇〇〇人以上）	民間企業中規模以下（従業員一、〇〇〇人未満）	雇用主・経営者大規模（従業員一、〇〇〇人以上）	雇用主・経営者中規模以下（従業員一、〇〇〇人未満）	官公庁	小計										
1984年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		%	%	人
全体	6.9	3.6	10.5	5.2	2.4	6.7	14.3	19.1	9.2	1.6	7.7	8.6	46.2	6.4	5.6	1.6	5.5	5.6	2.8	1.4		100.0	1,050
男子	6.5	3.2	9.7	5.0	2.4	7.0	14.4	19.1	9.1	1.7	7.8	8.6	46.3	6.5	5.9	1.8	5.9	5.6	2.5	1.2		100.0	962
女子	10.2	8.0	18.2	8.0	2.3	3.4	13.7	19.3	10.2	1.1	6.8	8.0	45.4	4.5	2.3	—	1.1	5.7	5.7	3.4		100.0	88
1998年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	11.4	5.7	17.1	4.6	1.6	3.6	9.8	21.9	9.5	1.6	4.5	6.6	44.1	6.5	5.3	0.4	3.5	5.1	2.6	2.4	3.0	100.0	1,185
男子	10.6	6.1	16.7	4.7	1.4	3.5	9.6	22.1	9.8	1.0	4.6	6.5	44.0	6.6	5.4	0.5	4.0	5.2	2.2	2.4	3.3	100.0	918
女子	14.2	4.5	18.7	4.5	2.2	4.1	10.8	21.3	8.6	3.7	4.1	6.7	44.4	6.0	4.9	—	1.9	4.5	4.1	2.6	1.9	100.0	267
2000年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	5.5	10.7	16.2	6.0	2.0	3.5	11.4	18.5	12.7	0.7	5.7	8.2	45.7	7.4	4.0	0.7	4.0	3.2	3.4	2.3	1.7	100.0	1,042
男子	5.2	11.7	16.9	5.1	2.4	3.2	10.7	19.1	13.0	0.5	5.3	7.7	45.7	8.1	3.6	0.6	4.5	3.3	3.2	1.6	1.9	100.0	806
女子	6.4	7.6	14.0	8.9	0.8	4.2	14.0	16.5	11.4	1.3	6.8	9.7	45.8	5.1	5.5	0.8	2.5	2.5	3.8	4.7	1.3	100.0	236
2001年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	10.7	6.6	17.3	5.2	2.9	4.4	12.5	18.9	10.7	0.8	4.9	6.2	41.5	8.3	4.5	0.7	4.2	5.4	2.7	2.9	0.1	100.0	942
男子	10.3	6.7	17.0	3.8	3.2	4.2	11.2	19.2	11.1	0.4	4.9	5.9	41.5	8.8	4.2	0.7	4.9	5.9	2.8	3.0	0.1	100.0	741
女子	12.4	6.0	18.4	10.4	1.5	5.0	16.9	17.9	9.5	2.5	5.0	7.0	41.9	6.5	5.5	1.0	2.0	3.5	2.0	2.5	—	100.0	201
2002年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	12.1	4.7	16.8	4.2	1.6	4.0	9.8	23.0	10.8	1.0	3.8	7.1	45.7	6.2	3.9	0.7	4.5	4.4	3.6	2.4	1.9	100.0	1,395
男子	11.6	4.8	16.4	3.5	1.6	4.2	9.2	22.0	11.1	0.6	3.9	7.1	44.7	6.8	4.3	0.7	5.3	4.5	3.5	2.5	2.0	100.0	1,082
女子	14.1	4.5	18.5	6.7	1.6	3.5	11.8	26.5	9.6	2.2	3.5	7.0	48.9	4.2	2.9	0.6	1.9	3.8	3.8	1.9	1.6	100.0	313
2003年	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体	11.6	5.9	17.5	5.3	1.7	5.8	12.8	18.7	11.2	1.0	4.7	6.3	41.9	7.2	4.0	0.5	3.9	5.4	3.1	2.9	1.1	100.0	1,501
男子	10.1	5.1	15.2	4.8	1.8	6.0	12.6	18.7	12.1	0.8	3.9	6.5	42.0	7.8	4.1	0.3	4.8	5.8	3.2	3.1	1.2	100.0	1,142
女子	16.4	8.4	24.8	6.7	1.1	5.0	12.8	18.9	8.4	1.7	7.0	5.6	41.6	5.3	3.6	1.1	0.8	4.2	2.8	2.2	0.8	100.0	359

注）2003年調査で、「専門的、技術的職業」で雇用形態の不明者が2名。「教育的職業」で勤務先の規模の不明者が1名。「管理的職業」で雇用形態の不明者が7名。
職業・規模・雇用形態の何れか無回答の者が33名。各不明者を「その他・分類不能」の欄へ移行し集計した。従って「職業分類」のみを挙げた８－４表とでは、集計数値に若干の相違がある。

図14　主たる家計支持者の年収額分布

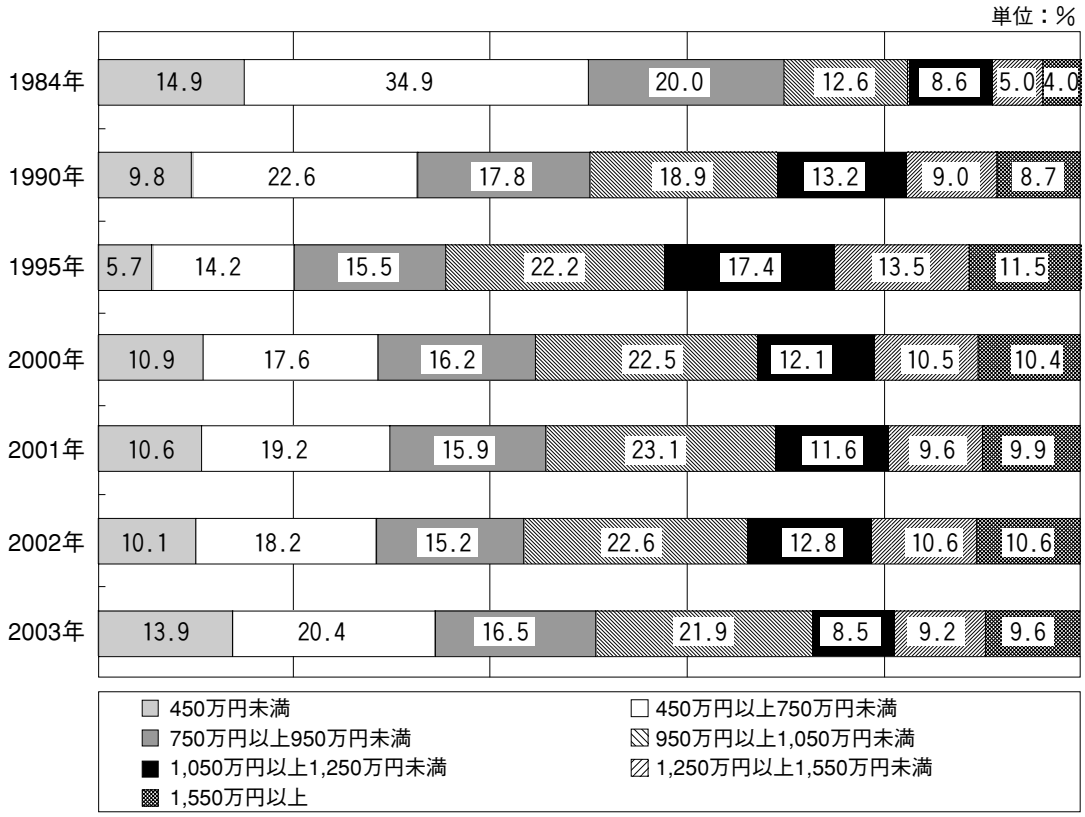


図15―1　主たる家計支持者の年収額分布（男子学生）

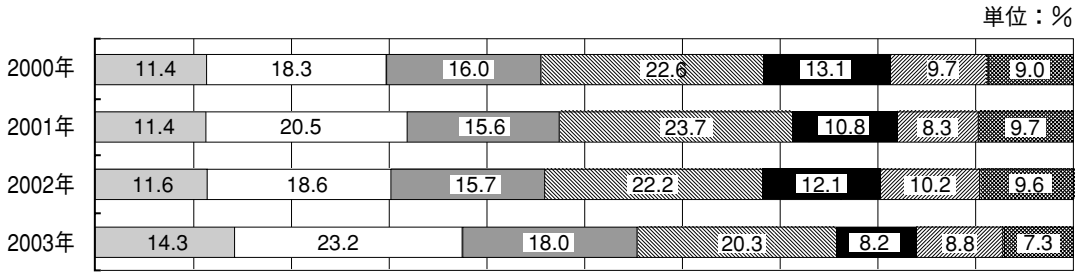
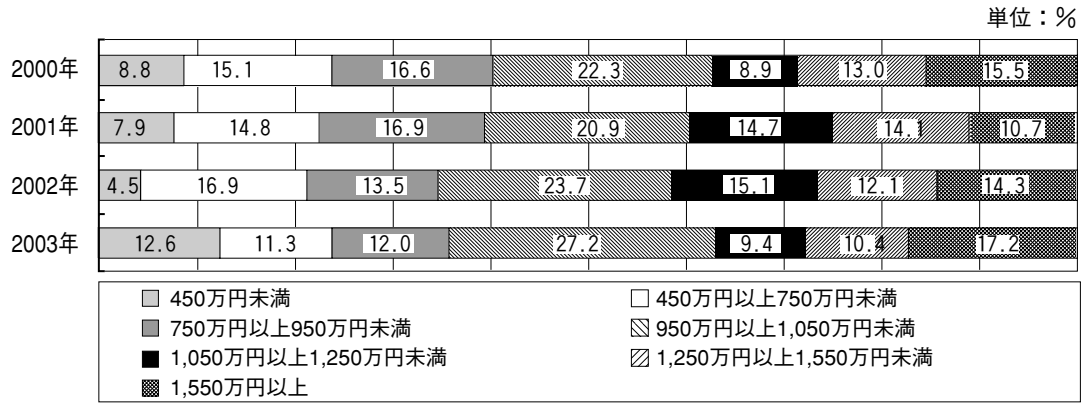


図15―2　主たる家計支持者の年収額分布（女子学生）



2．生活費の状況

生活費は自宅生72,400円、自宅外生147,000円
自宅外生の「住居費」は支出総額の45.7％
収入で大きな割合を占めるのは、自宅生が「奨学金」「アルバイト・雑収入」、
自宅外生が「家庭からの仕送り」

１か月当たりの生活費（100円未満四捨五入）をみると、「支出総額」は、自宅生72,400円、自宅外生147,000円で、前回調査（2002年（第52回））と比較すると自宅生が3,200円増え、自宅外生が6,500円減っている。男女別に1984年調査を指数100とすると、特に男子自宅生が113.9と低い水準にある（図16）。

自宅外生の「住居費」は、67,200円で、前回調査と比べ1,000円減っているが、支出総額に占める割合は1.3ポイント増えて45.7％になっている。また、７割を超える「賃貸マンション・アパート（バスつき）」の平均額は、男子73,600円、女子80,400円で、前回調査と比較すると男子が900円減り、女子が2,200円増えている。

「通学費」は、自宅生10,100円、自宅外生5,400円で、支出総額に占める割合は自宅生が14.0％、自宅外生は3.7％である（表４、図16、資料１－９－１表）。

一方、「収入総額」は、自宅生68,900円、自宅外生156,400円で、前回調査と比較すると、自宅生で1,800円、自宅外生で7,100円減っている。自宅外生の生活費は自宅生に比べ、支出総額では前回調査より若干減り2.0倍、収入総額は前回調査と同じ2.3倍となっている。

収入のうち、「家庭からの仕送り・小遣い」は、自宅生36,900円、自宅外生117,800円で、前回調査と比較すると、自宅生が4,600円増え、自宅外生が4,000円減っている。「アルバイト・雑収入」は、自宅生44,700円、自宅外生42,300円で、前回調査と比較すると自宅生が3,700円、自宅外生が2,300円減っている（表４、資料１－９－２表）。

収入形態の推移をみると、「仕送り＋アルバイト・雑収入」が最も大きな割合を占めている（表５）。

図16　支出総額の上昇率の推移

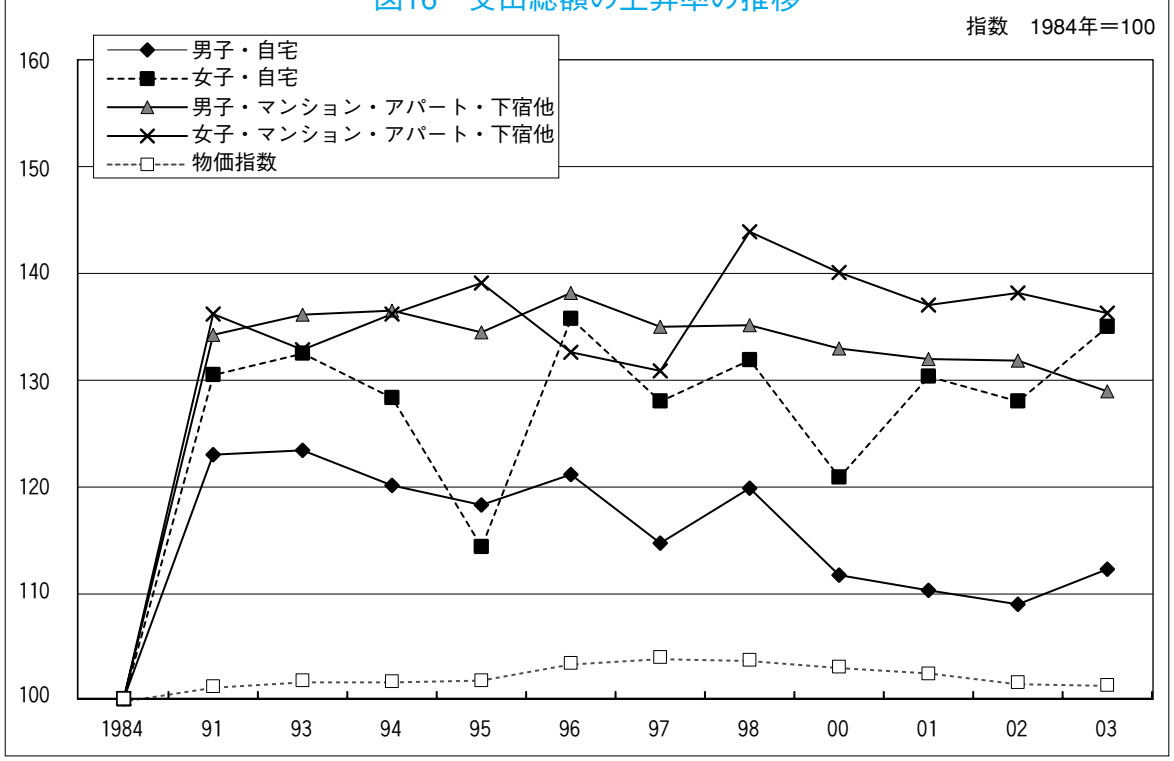


表 4　生活費の状況の推移（支出総額・収入総額）

区　　分	支出総額				収入総額			
	自　宅	マンション・アパート・下宿他	学　寮	その他の寮	自　宅	マンション・アパート・下宿他	学　寮	その他の寮
	円	円	円	円	円	円	円	円
1971年　（男子）	15,600	37,600	25,100	30,400	16,800	39,000	27,500	32,100
1972年　（男子）	20,100	40,900	27,600	31,400	21,100	42,200	29,900	32,200
1976年　（男子）	32,600	73,500	49,400	59,300	35,900	76,900	55,100	63,900
1977年　（女子）	31,000	76,700	51,000	85,300	36,200	82,000	56,900	92,000
1979年　（男子）	41,000	88,100	61,000	77,700	45,600	93,100	68,500	83,600
1980年　（男子）	41,100	92,900	62,600	78,300	48,100	100,200	66,800	84,400
1981年　（男子）	44,300	100,500	69,900	82,200	50,100	107,000	75,500	91,300
1982年　（女子）	41,700	105,400	64,900	108,700	49,600	115,400	75,500	119,200
1983年　（男子）	54,900	110,900	71,300	86,700	60,800	118,600	78,600	96,700
1984年　（男子）	61,300	116,100	77,700	85,500	67,600	124,200	86,100	95,300
〃　（女子）	56,500	114,900	64,700	107,200	56,700	125,400	78,300	112,800
1991年　（男子）	77,300	161,300	81,000	115,100	86,900	175,100	109,100	132,300
〃　（女子）	76,100	162,200	91,400	134,000	81,300	182,500	90,600	141,000
1993年　（男子）	77,600	163,800	97,700	108,500	82,300	176,000	103,000	126,400
〃　（女子）	77,400	157,800	133,000	147,500	77,000	172,600	151,500	168,300
1994年　（男子）	75,300	164,300	91,400	119,100	82,000	173,200	116,400	131,800
〃　（女子）	74,700	162,200	92,600	127,300	82,000	180,300	115,600	142,900
1995年　（男子）	74,000	161,600	96,400	130,300	80,500	176,200	109,500	156,200
〃　（女子）	65,700	166,000	94,800	143,000	74,900	187,000	130,100	156,800
1996年　（男子）	76,000	166,500	105,900	111,300	83,000	176,800	129,500	130,900
〃　（女子）	79,500	157,500	115,300	142,100	81,500	169,600	119,500	173,600
1997年　（男子）	71,500	162,300	96,800	126,500	78,400	175,200	117,300	149,200
〃　（女子）	74,500	155,200	94,000	148,300	83,900	177,100	116,400	161,900
1998年　（男子）	75,100	162,500	99,500	113,600	75,400	171,100	114,800	123,400
〃　（女子）	77,000	172,300	83,800	154,300	73,800	182,300	125,800	161,300
2000年　（男子）	69,400	159,600	65,900	108,200	76,500	172,000	100,100	129,000
〃　（女子）	69,900	167,300	79,500	158,300	72,300	182,800	104,300	175,000
2001年　（男子）	68,400	158,300	82,800	107,800	68,500	169,100	103,300	129,200
〃　（女子）	76,000	163,300	91,100	170,300	77,100	175,400	116,700	176,600
2002年　（男子）	67,500	158,100	95,200	119,200	69,700	168,800	114,700	130,900
〃　（女子）	74,500	164,800	86,500	142,800	73,900	168,400	129,900	140,200
2003年　（男子）	69,800	154,300	84,900	110,600	68,800	162,700	100,000	127,000
〃　（女子）	79,000	162,300	69,100	156,300	69,400	168,000	96,900	169,100

表５　収入形態の推移

区　　分	仕送りのみ	奨学金のみ	アルバイトのみ	アルバイト・雑収入のみ	仕送り＋奨学金	仕送り＋アルバイト	奨学金＋アルバイト	仕送り＋奨学金＋アルバイト	仕送り＋アルバイト・雑収入	奨学金＋アルバイト・雑収入	仕送り＋奨学金＋アルバイト・雑収入	その他	雑収入	無回答	合計	事例数
%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%		
1971年(男子)	36.0	1.0	5.0	—	7.0	36.0	3.0	14.0	—	—	—	—	—	—	100.0	536
1972年(男子)	38.0	—	7.0	—	11.0	29.0	2.0	13.0	—	—	—	—	—	—	100.0	442
1976年(男子)	30.9	0.3	8.2	—	6.7	39.0	3.4	11.6	—	—	—	—	—	—	100.0	803
1977年(女子)	28.6	0.2	10.9	—	4.7	38.9	3.1	6.3	—	—	—	—	—	7.3	100.0	615
1979年(男子)	31.1	0.4	7.3	—	7.4	38.6	2.7	10.8	—	—	—	—	—	1.7	100.0	840
1980年(男子)	30.6	0.1	9.6	—	7.6	37.1	3.4	9.4	—	—	—	—	—	2.2	100.0	785
1981年(男子)	32.0	0.1	8.6	—	6.7	36.3	2.8	9.9	—	—	—	—	—	3.5	100.0	765
1982年(女子)	24.8	0.3	17.0	—	2.8	41.1	3.5	5.8	—	—	—	—	—	4.7	100.0	706
1983年(男子)	28.4	0.1	7.4	—	4.9	42.5	3.2	10.3	—	—	—	—	—	3.2	100.0	756
1984年(男子)	25.5	—	8.0	—	6.1	45.7	3.3	8.8	—	—	—	—	—	2.5	100.0	962
〃(女子)	25.0	—	12.5	—	1.1	52.3	2.3	5.7	—	—	—	—	—	1.1	100.0	88
1991年(男子)	18.7	5.3	—	—	3.3	50.4	3.1	12.5	—	—	—	5.5	—	1.3	100.0	819
〃(女子)	12.1	4.5	—	—	3.8	48.5	1.5	16.7	—	—	—	9.1	—	3.8	100.0	132
1993年(男子)	22.3	0.2	3.1	—	5.2	51.1	2.2	9.8	—	—	—	4.8	—	1.4	100.0	871
〃(女子)	14.9	0.6	5.0	—	3.1	55.9	1.9	11.2	—	—	—	5.6	—	1.9	100.0	161
1994年(男子)	23.8	0.3	3.6	—	4.4	49.6	1.9	9.7	—	—	—	5.6	—	1.2	100.0	1,008
〃(女子)	25.6	—	4.8	—	2.9	48.3	1.0	10.6	—	—	—	4.3	—	2.4	100.0	207
1995年(男子)	20.5	0.4	3.2	—	3.7	40.4	1.8	7.5	—	—	—	—	19.6	2.9	100.0	1,056
〃(女子)	17.7	0.4	6.5	—	3.0	35.8	1.7	6.5	—	—	—	—	26.7	1.7	100.0	232
1996年(男子)	20.9	0.3	—	3.9	5.5	—	—	—	53.1	2.4	10.3	—	—	3.6	100.0	974
〃(女子)	18.7	0.8	—	5.7	2.8	—	—	—	57.3	1.2	11.4	—	—	2.0	100.0	246
1997年(男子)	22.7	0.5	—	4.2	5.8	—	—	—	53.6	1.2	9.6	—	—	2.4	100.0	950
〃(女子)	20.2	0.4	—	4.8	1.2	—	—	—	53.6	4.0	12.5	—	—	3.2	100.0	248
1998年(男子)	22.0	0.3	—	6.6	5.1	—	—	—	51.5	2.1	9.2	—	—	3.2	100.0	918
〃(女子)	23.6	0.7	—	9.0	4.1	—	—	—	49.8	0.7	10.5	—	—	1.5	100.0	267
2000年(男子)	27.2	0.9	—	5.2	5.6	—	—	—	43.9	1.6	11.5	—	—	4.1	100.0	806
〃(女子)	22.9	0.4	—	7.2	3.0	—	—	—	47.9	3.4	11.4	—	—	3.8	100.0	236
2001年(男子)	23.9	0.9	—	4.0	6.3	—	—	—	45.6	2.6	12.7	—	—	3.9	100.0	741
〃(女子)	19.9	—	—	2.0	6.0	—	—	—	54.2	3.0	10.9	—	—	4.0	100.0	201
2002年(男子)	23.3	0.8	—	3.4	8.0	—	—	—	47.3	2.6	11.6	—	—	3.0	100.0	1,082
〃(女子)	20.8	0.3	—	5.8	4.5	—	—	—	56.2	1.6	8.9	—	—	1.9	100.0	313
2003年(男子)	25.6	1.2	—	4.2	6.3	—	—	—	44.6	3.3	11.4	—	—	3.4	100.0	1,142
〃(女子)	21.4	1.4	—	5.0	6.1	—	—	—	53.2	3.9	7.2	—	—	1.7	100.0	359

3．通学・住居

現在の居住地は74.2%が「都内」、57.7%が「23区内」
自宅外生では、「賃貸マンション・アパート」が76.1%、「寮や下宿」が19.9%
「通学所用時間」は平均48.7分、自宅生は自宅外生の２倍以上の69分

都内在住者は74.2%で、「23区内」57.7%、「23区外」16.5%となっている（資料１－10－１表）。

自宅生の現住所分布は、東京都48.7%（23区内32.0%、23区外16.7%）、神奈川県26.3%、千葉県13.6%、埼玉県9.1%の順で、前回調査（2002年（第52回））との比較でおのおのについてみると、23区内で0.2ポイント、23区外で1.8ポイント、千葉県で1.5ポイント増加し、神奈川県で1ポイント、埼玉県で2.8ポイント減少している。

自宅外生の現住所分布を課程別にみると、前期課程は「世田谷・渋谷・目黒」が28.4%、「23区外」が27.3%、「中野・杉並・新宿」が22.0%、「台東・文京・豊島」が9.9%、後期課程では「台東・文京・豊島」が43.8%、「板橋・練馬・北」が17.0%、「世田谷・渋谷・目黒」が12.1%と続き、前回調査同様上位に分布している。分布を前回調査と比較すると、前期課程の上位区で「中野・杉並・新宿」が4.1ポイント、「23区外」が1.7ポイント増加し、「世田谷・渋谷・目黒」が5.4ポイント、「台東・文京・豊島」が2.2ポイント減少している。後期課程の上位区では「世田谷・渋谷・目黒」が0.4ポイント、「板橋・練馬・北」が0.4ポイント増加し、「台東・文京・豊島」が1.4ポイント減少している（図17－１～２、資料１－10－１表）。

自宅外生の住居区分は「賃貸マンション・アパート（バスつき）」が70.6%で最も多く、他は「その他の寮」10.8%、「東大学寮・三鷹国際学生宿舎」6.2%、「アパート（バスなし）」5.5%が続いている。前回調査と比較すると、「分譲及び賃貸マンション・アパート（バスつき）」は76.1%から72.7%に3.4ポイント減少しており、男子が3.5ポイント、女子が2.7ポイント減少している。(図18－１～２、資料１－10－２表)。

通学に利用する交通機関では、後期課程の学生で「自転車」の利用が比較的多く、とくに男子では「電車」66.9%に次いで25.2%となっている（資料１－10－３表）。

通学所用時間は、片道平均48.7分で前回調査より若干減っている。自宅生は自宅外生32.1分の倍以上の69分を要している(資料１－10－４表)。

図17－1　現住所の分布（自宅生）

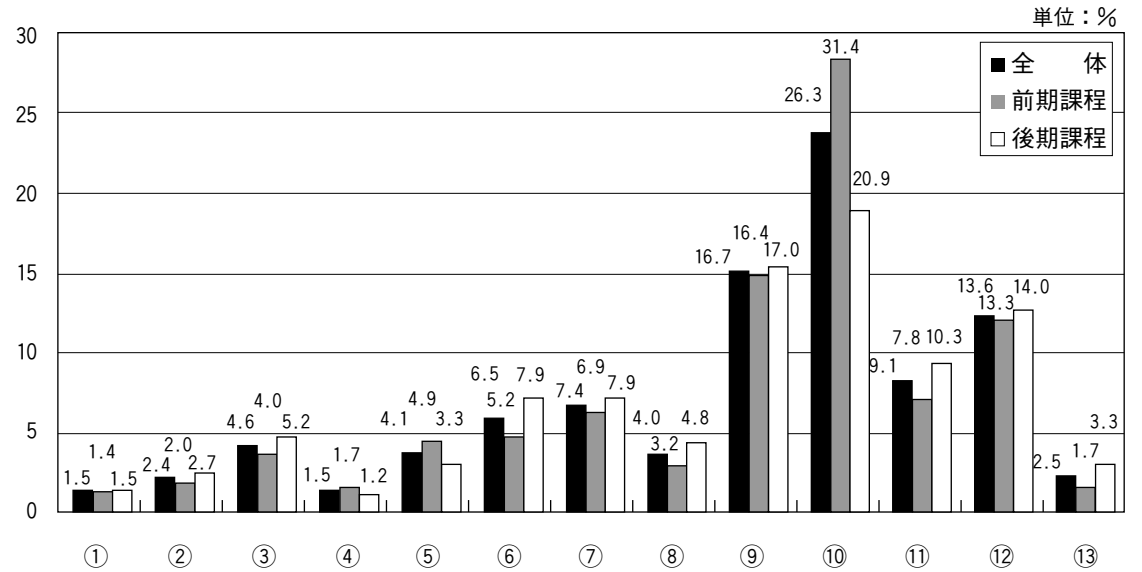


図17―2　現住所の分布（自宅外生）

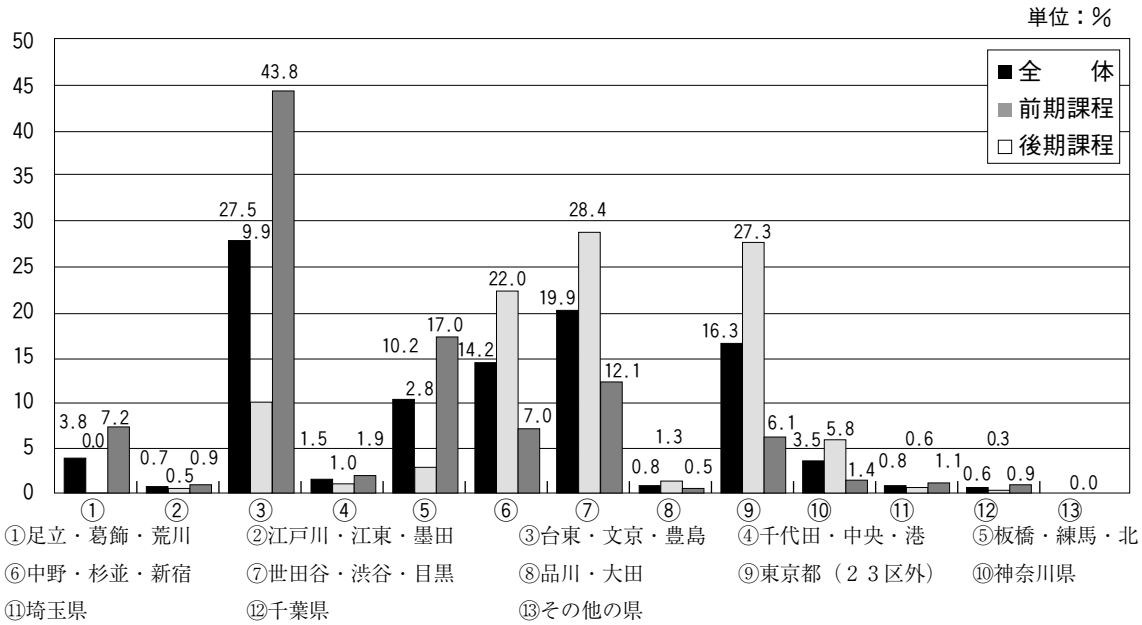


図18―1　自宅外生の住居区分の推移（男子学生）

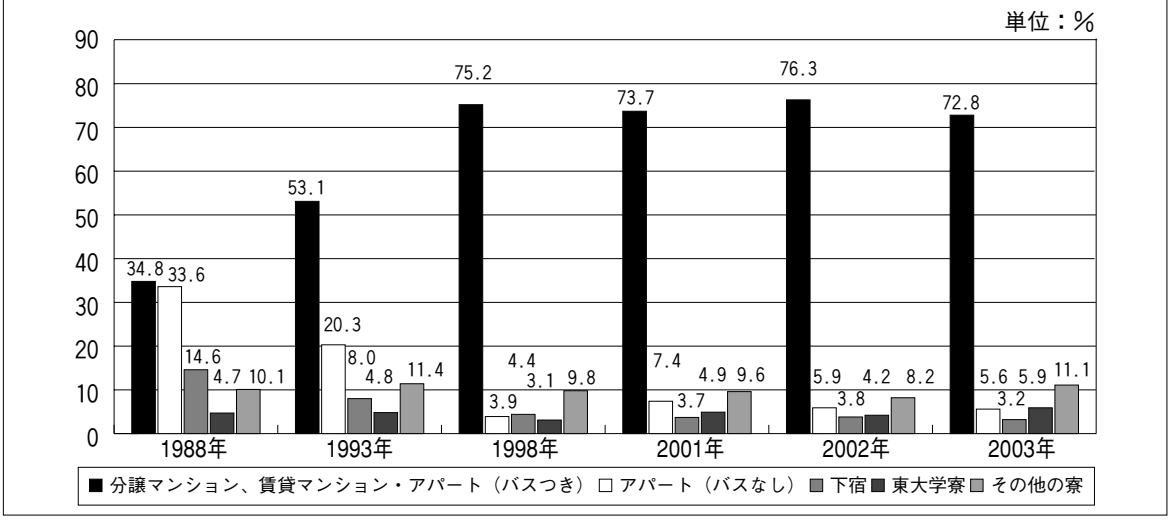
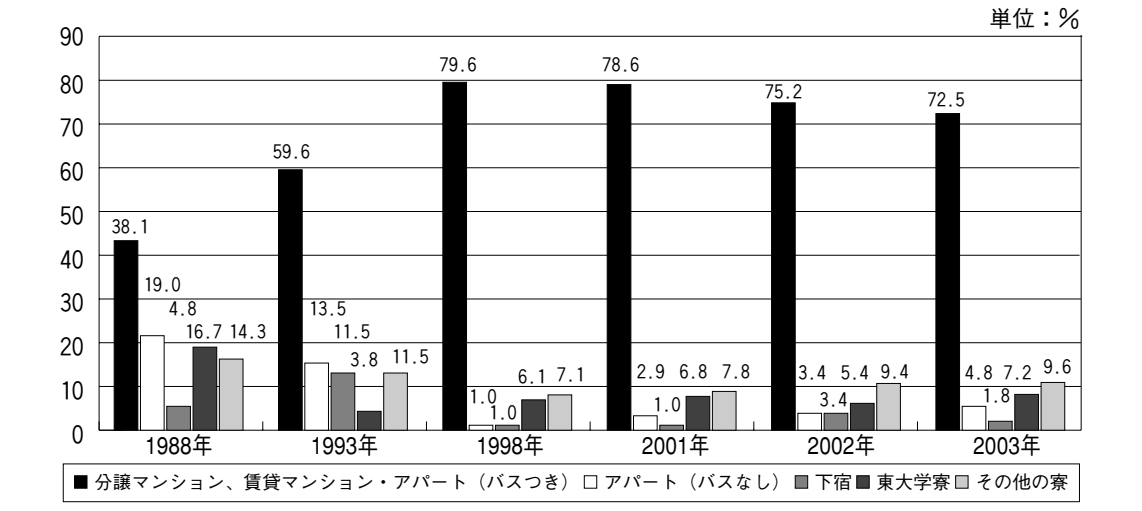


図18―2　自宅外生の住居区分の推移（女子学生）



4．奨学金

奨学金を希望している学生が37％
奨学生のうち83％が日本育英会から貸与を受けている
用途は「生活費」、「勉学費」、「教養・娯楽費」、「授業料」が中心

奨学金を希望している学生は、「受けている」21.9％「受けたいが受けられなかった」15.1％合わせて37％となり、前回調査（2002年（第52回））と比較すると36.5％から0.5ポイントの減少となっている（図19、資料１－11－１表）。

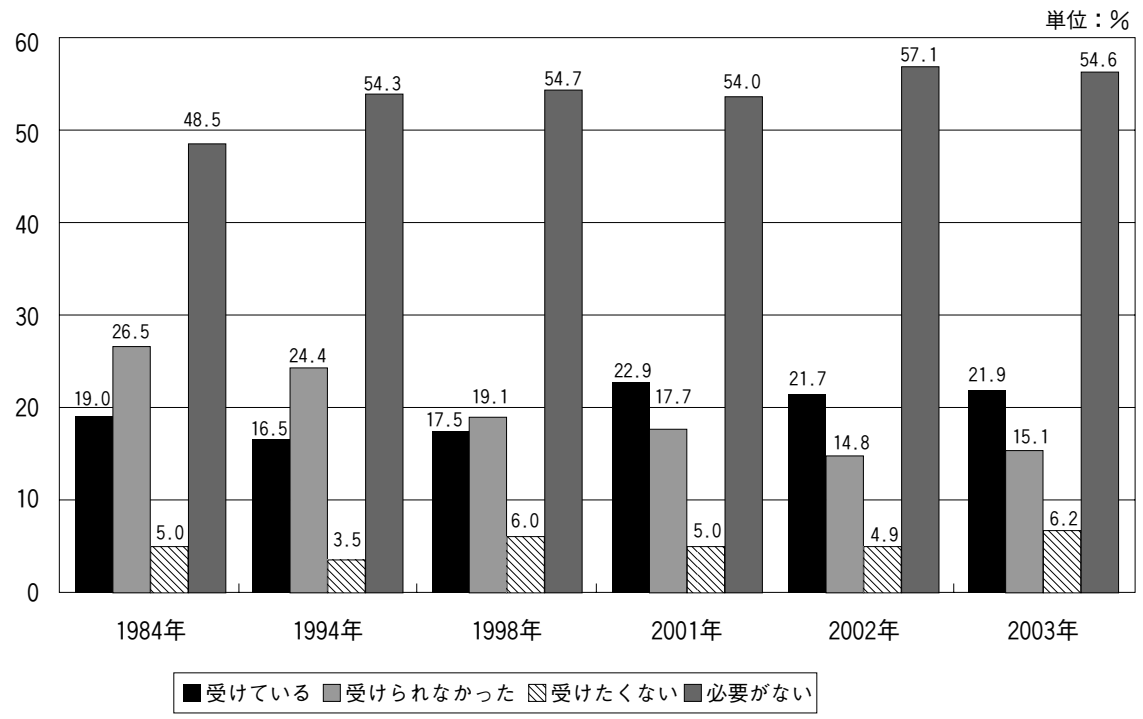
「受けたいが受けられなかった」または「受けたくない」と回答した理由としては、「貸与なので申請しなかった」28.8％が最も多く、次いで、「資格がない」20.9％、「事務手続が煩雑だから」17.5％、「出願はしたが採用されなかった」14.1％、「掲示等に気が付かなかった」10.9％の順となっている（資料１－11－２表）。

受領している奨学金の内訳は、「日本育英会のみ」が67.8％で、これに「他の奨学金との併用」15.2％を含めると日本育英会から貸与を受けている奨学生は83％を占め、前回調査と比べると2.2ポイント増加している（資料１－11－３表）。

奨学金はどんな面で役立っているかについては（２つまで選択可）、例年どおり「家庭の経済的負担が軽減される」が79.6％で最も多く、次いで「奨学金があるので生活が成り立っている」41.3％、「多少ともゆとりのある生活ができる」25.2％、「アルバイトが軽減される」21.3％が上位になっている（資料１－11－４表）。

奨学金の主たる支出目的（用途）は（３つまで選択可）、前回調査と同順で「生活費（衣・食・住居費）」78.1％、「勉学費」55.6％、「教養・娯楽費」40.4％、「授業料」35.3％、「貯金」14.3％の順となっている。また、前回調査との比較では、「生活費（衣・食・住居費）」が0.2ポイント、「授業料」が5.3ポイント増加し、「勉学費」が6.1ポイント、「教養・娯楽費」が8.8ポイント、「貯金」が0.2ポイント減少している（資料１－11－５表）。

図19　奨学金受領状況の推移



5．アルバイト

アルバイトをしている学生が76％
アルバイトの紹介者は「インターネット」が16.9％
アルバイトの主な目的は「学生生活を楽しむため」「社会経験のため」「家庭の経済的負担を軽減するため」
週に11.4時間、月額で45,800円

アルバイトをしていると回答した学生は、全体の76％（「継続的」50.8％、「臨時」9.5％、「継続的＋臨時」15.7％）で、前回調査（2002年（第52回））との比較では全体で3.4ポイントの減少となっている。また、男子学生の74.2％に対し、女子学生は81.6％で、前回調査と同様女子が男子を上回っている（資料１－12－１表）。

アルバイトの種類は（２つまで選択可）「家庭教師」47.1％、「塾講師」31.2％、「販売・セールス・サービス業」27％が上位で、男子の場合は「家庭教師」43％、「塾講師」33.1％、「販売・セールス・サービス業」26.1％、「肉体労働」15.9％と続き、女子では「家庭教師」58.7％、「販売・セールス・サービス業」29.7％、「塾講師」25.6％、「一般事務」14％と続いている。（資料１－12－２表）。

アルバイトの従事時間数は１週間当たり11.4時間、１か月当たりの収入額は45,800円で、前回調査と比べると、時間では週当たりほぼ同時間で、収入では月額2,000円の減少となっている（資料１－12－３表）。

アルバイトの紹介者は（２つまで選択可）「友人・知人等」42.9％、「アルバイト先と直接」30.1％、「新聞広告・アルバイト広告誌」24.5％、「インターネット」16.9％、「大学の担当事務」9.9％と続いている（資料１－12－４表）。

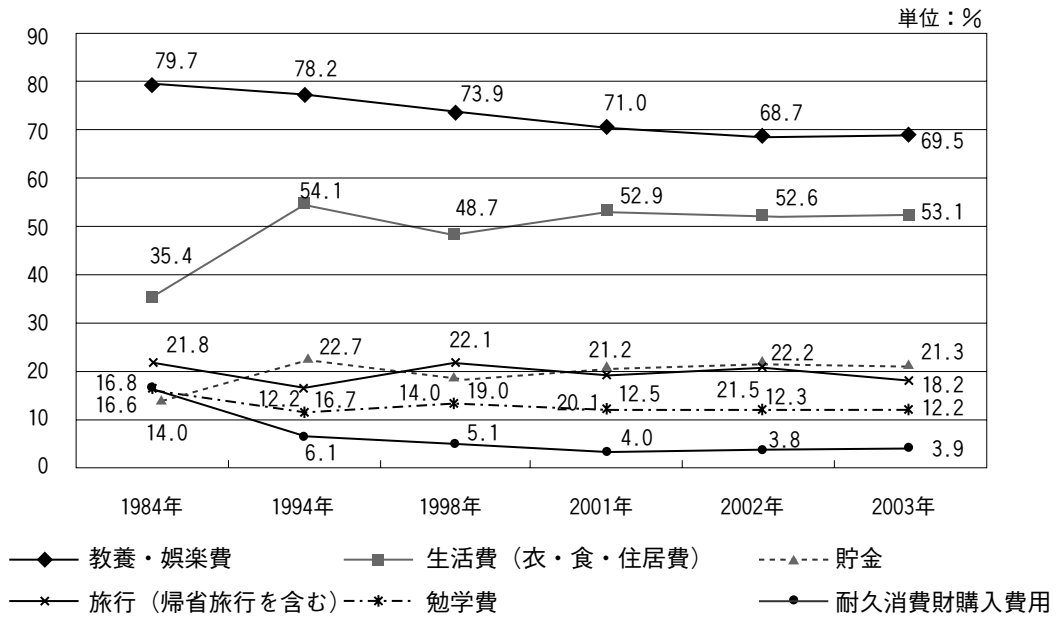
アルバイトをした理由では、「学生生活を楽しむため」を挙げている学生が38.2％で最も多いが、前回調査より4.7ポイント下がっている。次いで、「社会経験のため」28.8.％、「家庭の経済的負担を軽減するため」28％と続いている（資料１－12－５表）。

アルバイト収入の主たる使途は（２つまで選択可）「教養・娯楽費」が69.5％で前回調査と同様最も多く、次いで、「生活費（衣・食・住居費）」53.1％、「貯金」21.3％、「旅行（帰省旅行も含む）」18.2％、「勉学費」12.2％の順となっているが、「旅行（帰省旅行も含む）」では女子が男子を9.5ポイント上回っている。この10年間で大きな変化は生じていないが、「教養・娯楽費」が10％程度減少した（図20、資料１－12－６表）。

「継続的アルバイトが勉学の妨げになりませんか」という問に、「かなり妨げになった」と回答した学生と「多少妨げになった」と回答した学生を合わせると53.1％になり、前回調査より1.6ポイント減少している（資料１－12－７表）。

現在の暮らし向きについては、78.3％の学生が普通以上であると答えている（「かなり楽な方」21.7％、「やや楽な方」19％、「普通」37.6％）。反面、19.4％の学生が苦しいと答えており（「やや苦しい方」16.4％、「大変苦しい方」3％）、前回調査より1ポイント増加している（資料１－12－８表）。

図20　アルバイト収入の主な使途の推移（2つまで選択）



資　料　1

集　計　表

ここでは、「調査票」のそれぞれの設問項目と、所要な基本項目とのクロス集計を行ったものを一括して順次掲載した。また、比較のため2001年（第51回）・2002年（第52回）調査で、今回調査と同じ設定をしている調査項目の数値を、適宜、各集計表の中で（　）内に示した。

表の見方

1．百分率（パーセント）表示については、小数点第一位までを有効数字として算出した。
2．作表の説明変数として用いた用語の定義は、次のとおりである。
「全体」‥‥‥‥‥‥回答者全員の比率を示す。
「自宅」‥‥‥‥‥‥自宅通学者（親と同居）の者を示す。
「自宅外」‥‥‥‥‥賃貸マンション、アパート、下宿、学寮、他寮を一括して示す。
「東大学寮」‥‥‥‥本学の学生寮、三鷹国際学生宿舎の居住者を示す。
「その他の寮」‥‥‥地方公共団体等が設置した学生寮の居住者を示す。
「前期課程」‥‥‥‥１、２年生を示す。
「後期課程」‥‥‥‥３、４年生（医学部医学科・農学部獣医学課程は５、６年生を含む。）を示す。
「文科系」「理科系」‥在籍する学部、学科等により二つの系に区分したものを示す。

１－１表　東大入学をどの程度希望していましたか

区分		どうしても入りたかった	だめなら他大学でもよいと思った	なんとなく	無回答	事例数	
2002年調査（52回）		%	%	%	%	人	%
		(45.6)	(35.4)	(18.6)	(0.4)	(1,395)	(100.0)
全体		48.6	35.7	15.3	0.4	1,501	100.0
男子		50.1	33.5	16.0	0.4	1,142	76.1
女子		44.0	42.9	12.8	0.3	359	23.9
男子	前期課程	51.2	35.2	13.2	0.4	562	37.4
	後期課程	49.0	31.7	18.8	0.5	580	38.6
女子	前期課程	43.9	45.0	11.1	—	180	12.0
	後期課程	44.1	40.8	14.5	0.6	179	11.9
男子	文科系	52.5	31.3	15.4	0.8	501	33.4
	理科系	48.2	35.1	16.5	0.2	641	42.7
女子	文科系	41.5	44.2	14.3	—	217	14.5
	理科系	47.9	40.8	10.6	0.7	142	9.5

1－2表　東大入学の動機

（3つまで選択）

区分		社会的評価が高いから	スタッフ・設備が優れているから	将来の就職を考えて	難関を突破したかったから	私大に比べて授業料が安いから	東大の伝統や雰囲気に憧れて	入学後に学部の選択が可能だから	親・兄弟・姉妹の勧めで	高校の先生や友人などの勧めで	その他	無回答	事例数	
全体		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
		48.7	36.0	29.9	23.1	49.6	24.7	39.0	7.2	15.7	8.3	0.5	1,501	100.0
男子		51.2	35.9	29.0	24.3	49.8	23.3	38.7	6.4	15.1	8.3	0.5	1,142	76.1
女子		40.7	36.5	32.9	19.2	48.7	29.2	39.8	9.7	17.8	8.4	0.3	359	23.9
男子	前期課程	50.4	36.3	32.4	22.4	52.0	21.2	40.9	6.0	14.1	6.9	0.5	562	37.4
	後期課程	52.1	35.5	25.7	26.0	47.8	25.3	36.6	6.7	16.0	9.7	0.5	580	38.6
女子	前期課程	45.0	37.2	41.1	16.7	46.7	28.3	36.7	8.3	16.1	8.9	—	180	12.0
	後期課程	36.3	35.8	24.6	21.8	50.8	30.2	43.0	11.2	19.6	7.8	0.6	179	11.9
男子	文科系	59.9	29.5	35.9	28.9	44.7	28.7	24.2	6.6	16.4	7.4	0.8	501	33.4
	理科系	44.5	40.9	23.6	20.6	53.8	19.0	50.1	6.2	14.0	9.0	0.3	641	42.7
女子	文科系	47.5	33.2	38.2	19.4	44.7	28.6	32.3	12.4	20.7	8.3	—	217	14.5
	理科系	30.3	41.5	24.6	19.0	54.9	30.3	51.4	5.6	13.4	8.5	0.7	142	9.5

2002年調査（52回）														
全体	第1位	23.4	16.0	8.8	8.1	9.7	6.7	15.3	2.1	3.4	5.9	0.6	1,395	100.0
	第2位	10.8	14.0	11.7	8.8	18.9	7.8	14.2	3.5	4.6	1.9	3.7	1,395	100.0
	第3位	12.3	8.1	10.5	7.0	17.1	9.2	11.5	4.2	8.5	2.9	8.7	1,395	100.0

注：前回調査では主たる動機を重視した順に第1位から第3位まで調査した。

1－3表　入学時に進学する学部・学科等を決めていましたか

区分	学科等まで決めていた	学部のみを決めていた	学部、学科等は決めていなかった	無回答	事例数	
2002年調査（52回）	%	%	%	%	人	%
	(27.6)	(34.6)	(37.4)	(0.4)	(1,395)	(100.0)
全体	30.1	32.6	36.9	0.3	1,501	100.0
男子	30.2	33.7	35.7	0.4	1,142	76.1
女子	29.8	29.2	40.7	0.3	359	23.9
文科系	29.2	39.1	31.2	0.4	718	47.8
理科系	30.9	26.7	42.1	0.3	783	52.2

1－4表　学部・学科等の選択に際してどのような点を重視しましたか

（2つまで選択）

区分		最先端の学問が学べること	自分が惹きつけられた学問分野であること	その学部・学科等の教官に魅力を感じること	社会のためになる分野であること	就職の際に有利であること	将来なりたい職業に就くのに必須であること	選択に際し特に考えなかった（ない）	無回答	事例数
2002年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	人
（52回）		（14.6）	（78.1）	（11.2）	（20.9）	（14.9）	（30.7）	（9.5）	（0.5）	（1,395）
全体		12.8	79.4	9.9	21.6	13.4	30.1	6.5	0.5	1,501
男子		14.4	79.0	9.2	22.1	12.4	29.8	7.3	0.5	1,142
女子		7.8	80.8	12.0	20.1	16.4	31.2	3.9	0.3	359
男子	前期課程	15.3	82.2	9.4	18.9	13.5	32.2	5.9	0.5	562
	後期課程	13.4	75.9	9.0	25.2	11.4	27.4	8.6	0.5	580
女子	前期課程	9.4	81.1	10.0	17.2	21.7	36.1	3.3	—	180
	後期課程	6.1	80.4	14.0	22.9	11.2	26.3	4.5	0.6	179
男子	文科系	4.4	66.9	11.6	23.4	15.0	37.5	11.2	1.0	501
	理科系	22.2	88.5	7.3	21.1	10.5	23.7	4.2	0.2	641
女子	文科系	4.1	76.5	12.0	20.3	20.7	30.0	5.5	—	217
	理科系	13.4	87.3	12.0	19.7	9.9	33.1	1.4	0.7	142
前期課程	文科一類	1.4	62.1	3.6	20.0	25.0	62.1	5.7	1.4	140
	文科二類	5.7	67.8	8.0	19.5	23.0	33.3	14.9	—	87
	文科三類	5.5	92.7	21.1	14.7	10.1	22.0	2.8	0.9	109
	理科一類	19.7	90.9	7.9	20.9	12.6	22.4	3.5	—	254
	理科二類	26.7	88.1	11.9	14.8	11.1	28.1	3.7	—	135
	理科三類	23.5	64.7	—	17.6	11.8	64.7	5.9	—	17
後期課程	法学部	2.6	50.0	5.8	32.7	19.9	51.3	12.2	1.3	156
	経済学部	9.5	55.4	8.1	32.4	20.3	20.3	14.9	—	74
	文学部	5.1	91.8	21.4	11.2	5.1	14.3	8.2	—	98
	教育学部	3.4	82.8	27.6	34.5	3.4	6.9	6.9	—	29
	教養(文系)	4.0	84.0	20.0	16.0	8.0	8.0	16.0	—	25
	教養(理系)	26.3	84.2	31.6	15.8	—	5.3	5.3	—	19
	理学部	26.6	92.2	4.7	6.3	3.1	25.0	3.1	1.6	64
	工学部	17.3	89.9	8.9	26.2	12.5	16.7	4.2	0.6	168
	農学部	8.6	94.8	6.9	22.4	5.2	31.0	3.4	—	58
	薬学部	21.1	84.2	—	36.8	15.8	26.3	5.3	—	19
	医学部	22.4	67.3	—	32.7	6.1	51.0	2.0	—	49

1－5表　進学の決定（内定）について

区分		希望通り決定した	ほぼ希望通り決定した	希望通りでなかった	無回答	事例数	
2002年調査（52回）		%	%	%	%	人	%
		(79.3)	(14.3)	(4.8)	(1.6)	(1,021)	(100.0)
全体		79.4	13.9	4.9	1.8	1,096	100.0
男子		78.8	14.2	5.1	1.9	831	75.8
女子		81.1	12.8	4.5	1.5	265	24.2
前期課程（進学内定者）	文科一類	96.5	1.8	1.8	—	57	3.8
	文科二類	88.2	11.8	—	—	34	2.3
	文科三類	67.9	24.5	7.5	—	53	3.5
	理科一類	76.2	20.5	3.3	—	122	8.1
	理科二類	57.6	19.7	22.7	—	66	4.4
	理科三類	100.0	—	—	—	5	0.3
後期課程	法学部	92.3	1.3	1.9	4.5	156	10.4
	経済学部	87.8	4.1	4.1	4.1	74	4.9
	文学部	76.5	16.3	6.1	1.0	98	6.5
	教育学部	69.0	20.7	10.3	—	29	1.9
	教養(文系)	72.0	24.0	4.0	—	25	1.7
	教養(理系)	68.4	26.3	5.3	—	19	1.3
	理学部	89.1	7.8	1.6	1.6	64	4.3
	工学部	78.6	19.0	1.8	0.6	168	11.2
	農学部	56.9	34.5	8.6	—	58	3.9
	薬学部	94.7	—	5.3	—	19	1.3
	医学部	77.6	2.0	6.1	14.3	49	3.3

1－6表　現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答	事例数	
2002年調査（52回）		%	%	%	%	%	%	人	%
		(35.0)	(34.9)	(12.9)	(9.1)	(4.6)	(3.5)	(1,395)	(100.0)
全体		35.4	36.0	12.3	9.9	4.3	2.0	1,501	100.0
男子		34.3	35.9	11.9	10.8	4.8	2.3	1,142	76.1
女子		38.7	36.5	13.6	7.2	2.8	1.1	359	23.9
男子	前期課程	33.3	34.3	12.5	11.7	4.1	4.1	562	37.4
	後期課程	35.3	37.4	11.4	9.8	5.5	0.5	580	38.6
女子	前期課程	36.7	40.6	15.0	5.0	1.1	1.7	180	12.0
	後期課程	40.8	32.4	12.3	9.5	4.5	0.6	179	11.9
男子	文科系	35.7	35.5	10.4	10.2	6.2	2.0	501	33.4
	理科系	33.2	36.2	13.1	11.2	3.7	2.5	641	42.7
女子	文科系	36.9	35.9	14.7	8.3	3.2	0.9	217	14.5
	理科系	41.5	37.3	12.0	5.6	2.1	1.4	142	9.5

1－7表　進学振分け制度についてどのようにかんがえていますか

区分		現行のままでよい	点数だけでない選択方法も取り入れてほしい	入学時からある程度進路が決まっていた方がよい	特にない	その他	無回答	事例数	
2002年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)		(36.2)	(29.7)	(13.0)	(14.6)	(3.7)	(2.9)	(1,395)	(100.0)
全体		36.1	31.0	13.7	12.0	5.7	1.5	1,501	100.0
男子		36.4	30.3	14.0	12.1	5.5	1.7	1,142	76.1
女子		35.1	33.1	12.5	11.7	6.4	1.1	359	23.9
前期課程	文科一類	45.7	18.6	11.4	16.4	5.0	2.9	140	9.3
	文科二類	41.4	27.6	5.7	16.1	8.0	1.1	87	5.8
	文科三類	18.3	60.6	7.3	3.7	7.3	2.8	109	7.3
	理科一類	29.1	37.0	17.3	8.7	5.1	2.8	254	16.9
	理科二類	24.4	39.3	21.5	7.4	5.9	1.5	135	9.0
	理科三類	23.5	17.6	17.6	35.3	5.9	—	17	1.1
後期課程	法学部	46.8	14.1	10.9	25.6	1.9	0.6	156	10.4
	経済学部	37.8	25.7	10.8	18.9	6.8	—	74	4.9
	文学部	34.7	35.7	14.3	9.2	6.1	—	98	6.5
	教育学部	37.9	37.9	13.8	—	10.3	—	29	1.9
	教養(文系)	24.0	44.0	8.0	4.0	20.0	—	25	1.7
	教養(理系)	47.4	36.8	10.5	—	5.3	—	19	1.3
	理学部	40.6	21.9	12.5	15.6	7.8	1.6	64	4.3
	工学部	42.3	26.8	15.5	10.7	4.2	0.6	168	11.2
	農学部	37.9	34.5	13.8	5.2	6.9	1.7	58	3.9
	薬学部	63.2	31.6	—	—	5.3	—	19	1.3
	医学部	38.8	18.4	22.4	12.2	4.1	4.1	49	3.3

1－8表　現在のカリキュラムに満足していますか

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答	事例数	
2002年調査（52回）		% (9.8)	% (34.8)	% (22.2)	% (21.8)	% (8.6)	% (2.9)	人 (1,395)	% (100.0)
全体		11.1	36.5	19.9	22.9	8.5	1.2	1,501	100.0
男子		11.5	34.4	18.9	23.9	9.9	1.4	1,142	76.1
女子		9.7	43.2	22.8	19.5	4.2	0.6	359	23.9
前期課程	文科一類	14.3	40.7	18.6	16.4	7.1	2.9	140	9.3
	文科二類	11.5	33.3	23.0	21.8	9.2	1.1	87	5.8
	文科三類	12.8	39.4	19.3	19.3	7.3	1.8	109	7.3
	理科一類	8.3	31.9	24.0	25.2	8.3	2.4	254	16.9
	理科二類	6.7	31.1	25.2	27.4	8.1	1.5	135	9.0
	理科三類	11.8	35.3	23.5	23.5	5.9	—	17	1.1
後期課程	法学部	13.5	37.2	15.4	23.1	10.3	0.6	156	10.4
	経済学部	14.9	31.1	17.6	27.0	9.5	—	74	4.9
	文学部	14.3	34.7	15.3	23.5	12.2	—	98	6.5
	教育学部	6.9	55.2	13.8	24.1	—	—	29	1.9
	教養（文系）	8.0	40.0	20.0	20.0	12.0	—	25	1.7
	教養（理系）	5.3	36.8	21.1	15.8	21.1	—	19	1.3
	理学部	12.5	48.4	12.5	18.8	6.3	1.6	64	4.3
	工学部	10.7	40.5	17.9	23.2	7.1	0.6	168	11.2
	農学部	12.1	36.2	24.1	19.0	8.6	—	58	3.9
	薬学部	21.1	36.8	21.1	10.5	10.5	—	19	1.3
	医学部	4.1	30.6	22.4	34.7	8.2	—	49	3.3
文科系		13.1	37.6	17.8	21.4	8.9	1.1	718	47.8
理科系		9.2	35.5	21.7	24.1	8.2	1.3	783	52.2
男子	前期課程	10.7	32.2	21.2	24.0	9.4	2.5	562	37.4
	後期課程	12.2	36.6	16.7	23.8	10.3	0.3	580	38.6
女子	前期課程	8.9	42.8	26.1	18.3	3.3	0.6	180	12.0
	後期課程	10.6	43.6	19.6	20.7	5.0	0.6	179	11.9

1－9表　現在のカリキュラムは消化できますか

区分		できる	まあまあできる	多少困難	できない	無回答	事例数	
2002年調査（52回）		% (37.6)	% (35.5)	% (20.5)	% (3.4)	% (3.0)	人 (1,395)	% (100.0)
全体		39.8	38.0	17.9	3.1	1.2	1,501	100.0
男子		40.0	36.7	18.6	3.4	1.3	1,142	76.1
女子		39.0	42.3	15.6	2.2	0.8	359	23.9
前期課程	文科一類	47.9	35.7	12.1	2.1	2.1	140	9.3
	文科二類	35.6	44.8	14.9	3.4	1.1	87	5.8
	文科三類	33.9	46.8	15.6	1.8	1.8	109	7.3
	理科一類	22.0	45.3	26.0	4.3	2.4	254	16.9
	理科二類	29.6	43.0	20.7	5.2	1.5	135	9.0
	理科三類	52.9	29.4	11.8	5.9	—	17	1.1
後期課程	法学部	35.9	33.3	25.0	4.5	1.3	156	10.4
	経済学部	52.7	31.1	12.2	4.1	—	74	4.9
	文学部	56.1	25.5	16.3	2.0	—	98	6.5
	教育学部	58.6	37.9	3.4	—	—	29	1.9
	教養（文系）	40.0	32.0	28.0	—	—	25	1.7
	教養（理系）	47.4	31.6	15.8	5.3	—	19	1.3
	理学部	43.8	35.9	15.6	3.1	1.6	64	4.3
	工学部	50.0	35.1	13.7	0.6	0.6	168	11.2
	農学部	53.4	36.2	8.6	1.7	—	58	3.9
	薬学部	42.1	31.6	15.8	10.5	—	19	1.3
	医学部	40.8	38.8	18.4	2.0	—	49	3.3
文科系		43.5	36.1	16.6	2.8	1.1	718	47.8
理科系		36.4	39.8	19.0	3.4	1.3	783	52.2
男子	前期課程	32.6	40.7	20.3	4.1	2.3	562	37.4
	後期課程	47.2	32.8	16.9	2.8	0.3	580	38.6
女子	前期課程	31.7	49.4	16.1	2.2	0.6	180	12.0
	後期課程	46.4	35.2	15.1	2.2	1.1	179	11.9

1—10表　「多少困難」・「できない」と答えた理由

（3つまで選択）

区分		進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる	授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある	カリキュラムの組み方に問題がある	教育上の指導助言が十分でない	高校までの勉強のやり方ではうまく適応できない	大学入試の受験科目として取らなかった	授業の準備と復習の時間が十分にとれない	授業に対する自分の意欲や努力が足りない	その他	無回答	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体		31.4	47.0	30.8	31.7	20.3	6.7	41.6	45.1	8.6	0.6	315	100.0
男子		32.7	46.2	32.7	29.5	19.5	6.0	43.0	44.6	9.2	0.8	251	79.7
女子		26.6	50.0	23.4	40.6	23.4	9.4	35.9	46.9	6.3	—	64	20.3
前期課程	文科一類	20.0	35.0	20.0	50.0	45.0	—	50.0	55.0	5.0	—	20	6.3
	文科二類	43.8	68.8	12.5	6.3	12.5	12.5	56.3	56.3	6.3	—	16	5.1
	文科三類	31.6	10.5	42.1	36.8	15.8	5.3	36.8	47.4	5.3	—	19	6.0
	理科一類	28.6	50.6	27.3	29.9	19.5	1.3	50.6	40.3	10.4	—	77	24.4
	理科二類	22.9	62.9	28.6	28.6	31.4	40.0	22.9	37.1	8.6	—	35	11.1
	理科三類	—	—	33.3	33.3	—	—	33.3	33.3	—	33.3	3	1.0
後期課程	法学部	32.6	58.7	26.1	47.8	19.6	2.2	41.3	45.7	6.5	—	46	14.6
	経済学部	33.3	50.0	41.7	33.3	16.7	—	25.0	50.0	16.7	—	12	3.8
	文学部	61.1	27.8	27.8	27.8	16.7	—	38.9	50.0	—	—	18	5.7
	教育学部	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—	1	0.3
	教養(文系)	57.1	28.6	57.1	14.3	—	—	57.1	42.9	14.3	—	7	2.2
	教養(理系)	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	—	25.0	25.0	50.0	—	4	1.3
	理学部	16.7	75.0	25.0	25.0	25.0	—	25.0	33.3	16.7	—	12	3.8
	工学部	29.2	50.0	37.5	33.3	16.7	4.2	41.7	54.2	8.3	—	24	7.6
	農学部	33.3	16.7	66.7	—	—	—	50.0	16.7	—	16.7	6	1.9
	薬学部	40.0	—	20.0	20.0	20.0	—	60.0	40.0	20.0	—	5	1.6
	医学部	30.0	30.0	70.0	30.0	10.0	10.0	40.0	70.0	—	—	10	3.2

2002年調査（52回）													
全体	第1位	15.0	25.7	12.3	7.2	6.0	1.5	15.9	13.5	2.7	0.3	334	100.0
	第2位	7.8	16.5	7.8	11.7	6.9	3.0	18.9	17.4	1.8	8.4	334	100.0
	第3位	5.1	13.2	8.1	12.6	5.7	2.1	10.8	22.8	2.4	17.4	334	100.0

注：前回調査では主たる動機を重視した順に第1位から第3位まで調査した。

1－11表　学部卒業後の進路予定

区　分		進学する	就職する	まだわからない	進学も、就職もするつもりはない	無回答	事例数	
2002年調査		%	%	%	%	%	人	%
(52回)		(41.2)	(31.5)	(22.7)	(1.5)	(3.1)	(1,395)	(100.0)
全　体		46.0	27.8	23.7	1.2	1.3	1,501	100.0
男　子		49.4	24.4	23.6	1.1	1.4	1,142	76.1
女　子		35.4	38.4	23.7	1.4	1.1	359	23.9
前期課程		42.6	23.0	31.8	0.5	2.0	742	49.4
後期課程		49.4	32.4	15.7	1.8	0.7	759	50.6
文科系		23.5	44.0	29.4	1.9	1.1	718	47.8
理科系		66.7	12.9	18.4	0.5	1.5	783	52.2
男子	文科系	25.3	41.3	30.1	2.0	1.2	501	33.4
	理科系	68.2	11.2	18.6	0.5	1.6	641	42.7
女子	文科系	19.4	50.2	27.6	1.8	0.9	217	14.5
	理科系	59.9	20.4	17.6	0.7	1.4	142	9.5

1－12表　学部卒業後の進学予定

区　分	大学院修士課程	大学院博士課程	その他(学士入学等)	無回答	事例数	
2002年調査	%	%	%	%	人	%
(52回)	(62.1)	(36.5)	(1.4)	—	(575)	(100.0)
全　体	63.4	33.3	3.0	0.3	691	100.0
男　子	62.9	34.2	2.5	0.4	564	81.6
女　子	65.4	29.1	5.5	—	127	18.4
前期課程	59.8	37.7	1.9	0.6	316	45.7
後期課程	66.4	29.6	4.0	—	375	54.3
文科系	55.6	36.7	7.1	0.6	169	24.5
理科系	65.9	32.2	1.7	0.2	522	75.5

1－13表　大学院進学の理由

（2つまで選択）

区　分		高度の専門知識・技術を身につけるため	大学で教職に就くため	将来研究者になるため	良い就職先を得るため	まだ社会に出たくないから	周囲すすめられたから	社会的評価が高いから	友人・先輩の意見	大学での進路指導	その他	無回答	事例数	
2002年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)		(77.1)	(9.5)	(46.0)	(19.2)	(18.2)	(2.6)	(6.0)	(3.9)	(0.7)	(4.2)	(0.5)	(567)	(100.0)
全　体		75.9	12.7	44.2	20.8	13.8	3.0	5.7	1.2	1.0	3.7	0.3	668	100.0
男　子		75.4	13.5	43.2	21.9	12.8	2.7	6.4	1.5	1.3	3.8	0.2	548	82.0
女　子		78.3	9.2	48.3	15.8	18.3	4.2	2.5	—	—	3.3	0.8	120	18.0
男子	前期課程	80.5	13.9	42.6	27.1	7.2	2.4	5.6	1.6	2.0	1.6	—	251	37.6
	後期課程	71.0	13.1	43.8	17.5	17.5	3.0	7.1	1.3	0.7	5.7	0.3	297	44.5
女子	前期課程	80.7	8.8	52.6	19.3	7.0	5.3	5.3	—	—	1.8	—	57	8.5
	後期課程	76.2	9.5	44.4	12.7	28.6	3.2	—	—	—	4.8	1.6	63	9.4
男子	文科系	64.4	32.2	43.2	14.4	11.0	2.5	4.2	0.8	1.7	7.6	—	118	17.7
	理科系	78.4	8.4	43.3	24.0	13.3	2.8	7.0	1.6	1.2	2.8	0.2	430	64.4
女子	文科系	65.8	13.2	34.2	7.9	21.1	5.3	5.3	—	—	10.5	—	38	5.7
	理科系	84.1	7.3	54.9	19.5	17.1	3.7	1.2	—	—	—	1.2	82	12.3

2－1表　インターネットを利用していますか

区分		利用している		利用していない		合計	
		人	%	人	%	人	%
全体		1,477	98.4	24	1.6	1,501	100.0
男子		1,122	98.2	20	1.8	1,142	76.1
女子		355	98.9	4	1.1	359	23.9
前期課程		724	97.6	18	2.4	742	49.4
後期課程		753	99.2	6	0.8	759	50.6
文科系		703	97.9	15	2.1	718	47.8
理科系		774	98.9	9	1.1	783	52.2
前期課程	文科系	326	97.0	10	3.0	336	22.4
	理科系	398	98.0	8	2.0	406	27.0
後期課程	文科系	377	98.7	5	1.3	382	25.4
	理科系	376	99.7	1	0.3	377	25.1

2－2表　あなたは個人的にコンピュータを所有していますか

区分		所有している		所有していない		無回答		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%
全体		1,317	87.7	183	12.2	1	0.1	1,501	100.0
男子		1,014	88.8	127	11.1	1	0.1	1,142	76.1
女子		303	84.4	56	15.6	—	—	359	23.9
前期課程		635	85.6	106	14.3	1	0.1	742	49.4
後期課程		682	89.9	77	10.1	—	—	759	50.6
文科系		627	87.3	90	12.5	1	0.1	718	47.8
理科系		690	88.1	93	11.9	—	—	783	52.2
前期課程	文科系	295	87.8	40	11.9	1	0.3	336	22.4
	理科系	340	83.7	66	16.3	—	—	406	27.0
後期課程	文科系	332	86.9	50	13.1	—	—	382	25.4
	理科系	350	92.8	27	7.2	—	—	377	25.1

2－3表　パソコンでインターネットを利用する頻度はどのくらいですか

区分		1日に2、3度以上		毎日		週に2、3度以上		週に4・5回		月に1度		無回答		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全体		293	19.8	666	45.1	333	22.5	147	10.0	34	2.3	4	0.3	1,477	100.0
男子		258	23.0	517	46.1	212	18.9	106	9.4	25	2.2	4	0.4	1,122	76.0
女子		35	9.9	149	42.0	121	34.1	41	11.5	9	2.5	—	—	355	24.0
前期課程		108	14.9	327	45.2	187	25.8	75	10.4	23	3.2	4	0.6	724	49.0
後期課程		185	24.6	339	45.0	146	19.4	72	9.6	11	1.5	—	—	753	51.0
文科系		117	16.6	318	45.2	169	24.0	81	11.5	17	2.4	1	0.1	703	47.6
理科系		176	22.7	348	45.0	164	21.2	66	8.5	17	2.2	3	0.4	774	52.4
前期課程	文科系	45	13.8	145	44.5	84	25.8	41	12.6	10	3.1	1	0.3	326	22.1
	理科系	63	15.8	182	45.7	103	25.9	34	8.5	13	3.3	3	0.8	398	26.9
後期課程	文科系	72	19.1	173	45.9	85	22.5	40	10.6	7	1.9	—	—	377	25.5
	理科系	113	30.1	166	44.1	61	16.2	32	8.5	4	1.1	—	—	376	25.5

2－4表　どこでインターネットを利用していますか

区分		大学(図書館などの共通施設)		大学の研究室		自宅		漫画喫茶・インターネットカフェ		その他		無回答		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全体		1,027	69.5	224	15.2	1,272	86.1	92	6.2	37	2.5	3	0.2	1,477	100.0
男子		788	70.2	183	16.3	957	85.3	82	7.3	29	2.6	3	0.3	1,122	76.0
女子		239	67.3	41	11.5	315	88.7	10	2.8	8	2.3	—	—	355	24.0
前期課程		523	72.2	11	1.5	624	86.2	39	5.4	13	1.8	3	0.4	724	49.0
後期課程		504	66.9	213	28.3	648	86.1	53	7.0	24	3.2	—	—	753	51.0
文科系		459	65.3	44	6.3	612	87.1	43	6.1	20	2.8	1	0.1	703	47.6
理科系		568	73.4	180	23.3	660	85.3	49	6.3	17	2.2	2	0.3	774	52.4
前期課程	文科系	208	63.8	6	1.8	289	88.7	18	5.5	6	1.8	1	0.3	326	22.1
	理科系	315	79.1	5	1.3	335	84.2	21	5.3	7	1.8	2	0.5	398	26.9
後期課程	文科系	251	66.6	38	10.1	323	85.7	25	6.6	14	3.7	—	—	377	25.5
	理科系	253	67.3	175	46.5	325	86.4	28	7.4	10	2.7	—	—	376	25.5

2－5表　インターネットを利用する目的は何ですか

区分		勉学に関する情報を得る		趣味娯楽		新聞を読む		電子メール		その他		無回答		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全体		1,267	85.8	1,401	94.9	449	30.4	1,222	82.7	81	5.5	4	0.3	1,477	100.0
男子		963	85.8	1,074	95.7	371	33.1	926	82.5	60	5.3	3	0.3	1,122	76.0
女子		304	85.6	327	92.1	78	22.0	296	83.4	21	5.9	1	0.3	355	24.0
前期課程		597	82.5	679	93.8	178	24.6	552	76.2	26	3.6	3	0.4	724	49.0
後期課程		670	89.0	722	95.9	271	36.0	670	89.0	55	7.3	1	0.1	753	51.0
文科系		567	80.7	667	94.9	214	30.4	577	82.1	42	6.0	1	0.1	703	47.6
理科系		700	90.4	734	94.8	235	30.4	645	83.3	39	5.0	3	0.4	774	52.4
前期課程	文科系	256	78.5	307	94.2	104	31.9	250	76.7	11	3.4	1	0.3	326	22.1
	理科系	341	85.7	372	93.5	74	18.6	302	75.9	15	3.8	2	0.5	398	26.9
後期課程	文科系	311	82.5	360	95.5	110	29.2	327	86.7	31	8.2	—	—	377	25.5
	理科系	359	95.5	362	96.3	161	42.8	343	91.2	24	6.4	1	0.3	376	25.5

2－6表　電子メールは利用していますか

区分		利用している		利用していない		無回答		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%
全体		1,347	91.2	126	8.5	4	0.3	1,477	100.0
男子		1,011	90.1	107	9.5	4	0.4	1,122	76.0
女子		336	94.6	19	5.4	—	—	355	24.0
前期課程		626	86.5	94	13.0	4	0.6	724	49.0
後期課程		721	95.8	32	4.2	—	—	753	51.0
文科系		640	91.0	61	8.7	2	0.3	703	47.6
理科系		707	91.3	65	8.4	2	0.3	774	52.4
前期課程	文科系	282	86.5	42	12.9	2	0.6	326	22.1
	理科系	344	86.4	52	13.1	2	0.5	398	26.9
後期課程	文科系	358	95.0	19	5.0	—	—	377	25.5
	理科系	363	96.5	13	3.5	—	—	376	25.5

2－7表　パソコンによるメールの確認の頻度はどのくらいですか

区分		1日に2、3度以上		毎日		週に2、3度以上		週に4・5回		月に1度		無回答		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全体		192	14.3	520	38.6	386	28.7	129	9.6	116	8.6	4	0.3	1,347	100.0
男子		167	16.5	401	39.7	271	26.8	88	8.7	82	8.1	2	0.2	1,011	75.1
女子		25	7.4	119	35.4	115	34.2	41	12.2	34	10.1	2	0.6	336	24.9
前期課程		58	9.3	225	35.9	210	33.5	56	8.9	75	12.0	2	0.3	626	46.5
後期課程		134	18.6	295	40.9	176	24.4	73	10.1	41	5.7	2	0.3	721	53.5
文科系		83	13.0	251	39.2	185	28.9	66	10.3	54	8.4	1	0.2	640	47.5
理科系		109	15.4	269	38.0	201	28.4	63	8.9	62	8.8	3	0.4	707	52.5
前期課程	文科系	25	8.9	109	38.7	90	31.9	27	9.6	31	11.0	—	—	282	20.9
	理科系	33	9.6	116	33.7	120	34.9	29	8.4	44	12.8	2	0.6	344	25.5
後期課程	文科系	58	16.2	142	39.7	95	26.5	39	10.9	23	6.4	1	0.3	358	26.6
	理科系	76	20.9	153	42.1	81	22.3	34	9.4	18	5.0	1	0.3	363	26.9

2－8表　アドレスはどのようなものを使用していますか

区分		大学から支給されているもの		個人的にプロバイダに加入しているもの		無回答		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%
全体		946	64.0	1,189	80.5	66	4.5	1,477	100.0
男子		735	65.5	891	79.4	54	4.8	1,122	76.0
女子		211	59.4	298	83.9	12	3.4	355	24.0
前期課程		442	61.0	572	79.0	46	6.4	724	49.0
後期課程		504	66.9	617	81.9	20	2.7	753	51.0
文科系		375	53.3	586	83.4	32	4.6	703	47.6
理科系		571	73.8	603	77.9	34	4.4	774	52.4
前期課程	文科系	174	53.4	272	83.4	22	6.7	326	22.1
	理科系	268	67.3	300	75.4	24	6.0	398	26.9
後期課程	文科系	201	53.3	314	83.3	10	2.7	377	25.5
	理科系	303	80.6	303	80.6	10	2.7	376	25.5

2－9表　携帯電話は使用していますか

区分		使用している		使用していない		合計	
		人	%	人	%	人	%
全体		1,470	97.9	31	2.1	1,501	100.0
男子		1,113	97.5	29	2.5	1,142	76.1
女子		357	99.4	2	0.6	359	23.9
前期課程		730	98.4	12	1.6	742	49.4
後期課程		740	97.5	19	2.5	759	50.6
文科系		708	98.6	10	1.4	718	47.8
理科系		762	97.3	21	2.7	783	52.2
前期課程	文科系	333	99.1	3	0.9	336	22.4
	理科系	397	97.8	9	2.2	406	27.0
後期課程	文科系	375	98.2	7	1.8	382	25.4
	理科系	365	96.8	12	3.2	377	25.1

2－10表　携帯電話のメール機能は利用していますか

区分		利用している		利用していない		合計	
		人	%	人	%	人	%
全体		1,450	98.6	20	1.4	1,470	100.0
男子		1,096	98.5	17	1.5	1,113	75.7
女子		354	99.2	3	0.8	357	24.3
前期課程		725	99.3	5	0.7	730	49.7
後期課程		725	98.0	15	2.0	740	50.3
文科系		698	98.6	10	1.4	708	48.2
理科系		752	98.7	10	1.3	762	51.8
前期課程	文科系	331	99.4	2	0.6	333	22.7
	理科系	394	99.2	3	0.8	397	27.0
後期課程	文科系	367	97.9	8	2.1	375	25.5
	理科系	358	98.1	7	1.9	365	24.8

2－11表　あなた自身が授業中は携帯電話の電源をどうしていますか

区分		入れたままにしている		マナーモードにしている		切っている		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%
全体		67	4.6	1,328	90.3	75	5.1	1,470	100.0
男子		57	5.1	996	89.5	60	5.4	1,113	75.7
女子		10	2.8	332	93.0	15	4.2	357	24.3
前期課程		31	4.2	653	89.5	46	6.3	730	49.7
後期課程		36	4.9	675	91.2	29	3.9	740	50.3
文科系		32	4.5	636	89.8	40	5.6	708	48.2
理科系		35	4.6	692	90.8	35	4.6	762	51.8
前期課程	文科系	14	4.2	297	89.2	22	6.6	333	22.7
	理科系	17	4.3	356	89.7	24	6.0	397	27.0
後期課程	文科系	18	4.8	339	90.4	18	4.8	375	25.5
	理科系	18	4.9	336	92.1	11	3.0	365	24.8

2－12表　携帯電話以外に自宅に電話はありますか

区分		ある		ない		合計	
		人	%	人	%	人	%
全体		1,098	74.7	372	25.3	1,470	100.0
男子		816	73.3	297	26.7	1,113	75.7
女子		282	79.0	75	21.0	357	24.3
男子	自宅	463	99.1	4	0.9	467	31.8
	自宅外	353	54.6	293	45.4	646	43.9
女子	自宅	190	100.0	—	—	190	12.9
	自宅外	92	55.1	75	44.9	167	11.4
前期課程		511	70.0	219	30.0	730	49.7
後期課程		587	79.3	153	20.7	740	50.3
文科系		538	76.0	170	24.0	708	48.2
理科系		560	73.5	202	26.5	762	51.8
前期課程	文科系	231	69.4	102	30.6	333	22.7
	理科系	280	70.5	117	29.5	397	27.0
後期課程	文科系	307	81.9	68	18.1	375	25.5
	理科系	280	76.7	85	23.3	365	24.8

2－13表　あなた自身が、授業の課題、教材、レポートの提出等の情報がインターネットを通じて教官のホームページからのみ得られる様になるとしたらどう考えますか

区分		歓迎する		ある程度歓迎する		どちらとも言えない		インターネットを利用できない人に対する配慮が必要		歓迎できない		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全体		293	19.5	286	19.1	170	11.3	581	38.7	171	11.4	1,501	100.0
男子		232	20.3	229	20.1	134	11.7	423	37.0	124	10.9	1,142	76.1
女子		61	17.0	57	15.9	36	10.0	158	44.0	47	13.1	359	23.9
前期課程		129	17.4	123	16.6	76	10.2	322	43.4	92	12.4	742	49.4
後期課程		164	21.6	163	21.5	94	12.4	259	34.1	79	10.4	759	50.6
文科系		145	20.2	150	20.9	69	9.6	284	39.6	70	9.7	718	47.8
理科系		148	18.9	136	17.4	101	12.9	297	37.9	101	12.9	783	52.2
前期課程	文科系	63	18.8	55	16.4	32	9.5	146	43.5	40	11.9	336	22.4
	理科系	66	16.3	68	16.7	44	10.8	176	43.3	52	12.8	406	27.0
後期課程	文科系	82	21.5	95	24.9	37	9.7	138	36.1	30	7.9	382	25.4
	理科系	82	21.8	68	18.0	57	15.1	121	32.1	49	13.0	377	25.1

2－14表　あなたにとってインターネットは必須のものですか

区分		必須		ある程度必須		必須ではないが便利		必要ない		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全体		718	47.8	462	30.8	302	20.1	19	1.3	1,501	100.0
男子		566	49.6	345	30.2	215	18.8	16	1.4	1,142	76.1
女子		152	42.3	117	32.6	87	24.2	3	0.8	359	23.9
前期課程		314	42.3	234	31.5	179	24.1	15	2.0	742	49.4
後期課程		404	53.2	228	30.0	123	16.2	4	0.5	759	50.6
文科系		324	45.1	239	33.3	145	20.2	10	1.4	718	47.8
理科系		394	50.3	223	28.5	157	20.1	9	1.1	783	52.2
前期課程	文科系	146	43.5	110	32.7	74	22.0	6	1.8	336	22.4
	理科系	168	41.4	124	30.5	105	25.9	9	2.2	406	27.0
後期課程	文科系	178	46.6	129	33.8	71	18.6	4	1.0	382	25.4
	理科系	226	59.9	99	26.3	52	13.8	—	—	377	25.1

2－15表　あなたにとって携帯電話は必須のものですか

区分		必須		ある程度必須		必須ではないが便利		必要ない		合計	
		人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
全体		866	57.7	370	24.7	212	14.1	53	3.5	1,501	100.0
男子		650	56.9	275	24.1	169	14.8	48	4.2	1,142	76.1
女子		216	60.2	95	26.5	43	12.0	5	1.4	359	23.9
前期課程		444	59.8	174	23.5	101	13.6	23	3.1	742	49.4
後期課程		422	55.6	196	25.8	111	14.6	30	4.0	759	50.6
文科系		423	58.9	180	25.1	95	13.2	20	2.8	718	47.8
理科系		443	56.6	190	24.3	117	14.9	33	4.2	783	52.2
前期課程	文科系	219	65.2	71	21.1	40	11.9	6	1.8	336	22.4
	理科系	225	55.4	103	25.4	61	15.0	17	4.2	406	27.0
後期課程	文科系	204	53.4	109	28.5	55	14.4	14	3.7	382	25.4
	理科系	218	57.8	87	23.1	56	14.9	16	4.2	377	25.1

3－1表　近年の教育改革の中で、「自ら学び、自ら考える力」を育てることが目標として掲げられていますが、あなた自身としては、右のようなことが中学・高校時代、あるいは現在どれくらいあるでしょうか。

注：平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		大いにある 5	かなりある 4	ときどきある 3	あまりない 2	ほとんどない 1	無回答	事例数		平均値
			%	%	%	%	%	%	人	%	
人に言われなくても、自分から勉強する	全体	中学・高校時代	33.4	31.2	19.4	9.7	5.1	1.1	1,501	100.0	3.8
		現在	32.0	31.6	24.3	7.1	3.9	1.1	1,501	100.0	3.8
	男子	中学・高校時代	31.5	31.1	19.7	10.8	5.6	1.3	1,142	76.1	3.7
		現在	32.0	31.3	24.0	7.2	4.4	1.2	1,142	76.1	3.8
	女子	中学・高校時代	39.6	31.8	18.4	6.4	3.3	0.6	359	23.9	4.0
		現在	32.3	32.6	25.1	7.0	2.5	0.6	359	23.9	3.9
	前期課程	中学・高校時代	33.7	30.2	20.8	8.8	5.1	1.5	742	49.4	3.8
		現在	28.6	29.9	27.5	8.2	4.4	1.3	742	49.4	3.7
	後期課程	中学・高校時代	33.2	32.3	18.1	10.7	5.0	0.8	759	50.6	3.8
		現在	35.4	33.2	21.1	6.1	3.4	0.8	759	50.6	3.9
	文科系	中学・高校時代	33.6	32.5	19.2	9.9	4.2	0.7	718	47.8	3.8
		現在	33.6	32.9	21.4	7.4	4.0	0.7	718	47.8	3.9
	理科系	中学・高校時代	33.3	30.1	19.5	9.6	5.9	1.5	783	52.2	3.8
		現在	30.7	30.4	26.8	6.9	3.8	1.4	783	52.2	3.8

	区分		大いにある 5	かなりある 4	ときどきある 3	あまりない 2	ほとんどない 1	無回答	事例数		平均値
			%	%	%	%	%	%	人	%	
試験に出ないことでも、勉強することがある	全体	中学・高校時代	19.9	19.9	27.7	19.8	11.6	1.1	1,501	100.0	3.2
		現在	28.4	27.1	27.2	10.1	6.0	1.1	1,501	100.0	3.6
	男子	中学・高校時代	20.7	20.7	26.0	19.4	12.2	1.1	1,142	76.1	3.2
		現在	29.9	26.5	26.4	9.9	6.2	1.1	1,142	76.1	3.6
	女子	中学・高校時代	17.3	17.5	33.1	21.2	9.7	1.1	359	23.9	3.1
		現在	23.7	29.0	30.1	10.9	5.3	1.1	359	23.9	3.6
	前期課程	中学・高校時代	20.1	18.9	29.0	20.4	10.5	1.2	742	49.4	3.2
		現在	22.9	26.0	30.3	12.0	7.5	1.2	742	49.4	3.5
	後期課程	中学・高校時代	19.6	20.9	26.5	19.2	12.6	1.1	759	50.6	3.2
		現在	33.7	28.2	24.2	8.3	4.5	1.1	759	50.6	3.8
	文科系	中学・高校時代	18.2	19.8	29.5	19.9	11.8	0.7	718	47.8	3.1
		現在	29.7	28.7	25.2	9.3	6.4	0.7	718	47.8	3.7
	理科系	中学・高校時代	21.3	20.1	26.1	19.7	11.4	1.5	783	52.2	3.2
		現在	27.2	25.7	29.1	10.9	5.6	1.5	783	52.2	3.6

3－1表　近年の教育改革の中で、「自ら学び、自ら考える力」を育てることが目標として掲げられていますが、あなた自身としては、右のようなことが中学・高校時代、あるいは現在どれくらいあるでしょうか。

注：平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

	区分		大いにある 5	かなりある 4	ときどきある 3	あまりない 2	ほとんどない 1	無回答	事例数		平均値
			%	%	%	%	%	%	人	%	
疑問に思ったことは、納得がいくまで考える	全体	中学・高校時代	32.4	33.6	22.0	8.5	2.4	1.1	1,501	100.0	3.9
		現在	23.5	35.3	27.4	10.4	2.3	1.1	1,501	100.0	3.7
	男子	中学・高校時代	33.1	33.9	20.7	8.4	2.8	1.1	1,142	76.1	3.9
		現在	24.3	34.6	27.5	9.9	2.5	1.1	1,142	76.1	3.7
	女子	中学・高校時代	30.1	32.9	26.2	8.9	1.1	0.8	359	23.9	3.8
		現在	20.9	37.6	27.3	12.0	1.4	0.8	359	23.9	3.7
	前期課程	中学・高校時代	35.3	33.6	20.9	7.3	1.8	1.2	742	49.4	3.9
		現在	23.7	33.4	26.5	12.5	2.6	1.2	742	49.4	3.6
	後期課程	中学・高校時代	29.5	33.7	23.1	9.7	3.0	0.9	759	50.6	3.8
		現在	23.3	37.2	28.3	8.3	2.0	0.9	759	50.6	3.7
	文科系	中学・高校時代	28.8	31.2	25.8	11.0	2.5	0.7	718	47.8	3.7
		現在	24.0	35.4	27.6	10.3	2.1	0.7	718	47.8	3.7
	理科系	中学・高校時代	35.6	35.9	18.5	6.3	2.3	1.4	783	52.2	4.0
		現在	23.1	35.2	27.3	10.5	2.4	1.4	783	52.2	3.7

	区分		大いにある 5	かなりある 4	ときどきある 3	あまりない 2	ほとんどない 1	無回答	事例数		平均値
			%	%	%	%	%	%	人	%	
人に教えてもらうよりも自分で考えたくなる	全体	中学・高校時代	26.4	30.4	24.9	13.3	3.6	1.3	1,501	100.0	3.6
		現在	23.7	32.0	29.8	10.7	2.7	1.2	1,501	100.0	3.6
	男子	中学・高校時代	29.2	29.9	23.7	12.0	3.8	1.4	1,142	76.1	3.7
		現在	25.9	31.6	28.5	9.7	2.9	1.3	1,142	76.1	3.7
	女子	中学・高校時代	17.8	32.0	28.7	17.5	3.1	0.8	359	23.9	3.4
		現在	16.4	33.1	33.7	13.6	2.2	0.8	359	23.9	3.5
	前期課程	中学・高校時代	28.8	29.0	26.3	12.3	2.4	1.2	742	49.4	3.7
		現在	25.1	27.2	33.2	10.9	2.4	1.2	742	49.4	3.6
	後期課程	中学・高校時代	24.1	31.9	23.6	14.4	4.7	1.3	759	50.6	3.6
		現在	22.3	36.6	26.5	10.4	3.0	1.2	759	50.6	3.7
	文科系	中学・高校時代	22.3	31.5	26.0	15.9	3.5	0.8	718	47.8	3.5
		現在	23.1	33.0	29.8	11.1	2.1	0.8	718	47.8	3.6
	理科系	中学・高校時代	30.3	29.5	23.9	11.0	3.7	1.7	783	52.2	3.7
		現在	24.1	31.0	29.8	10.2	3.3	1.5	783	52.2	3.6

3－2表　「自ら学ぶ力」をつけるのに最も役に立ったのはどこだと思いますか。

（2つまで選択）

区分	家庭	小学校	中学校	高等学校	学習塾・予備校等	通信教育	大学	大学入学後に通った専門学校等	その他・具体的に	無回答	事例数	
全体	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
	37.3	10.1	14.7	34.9	27.7	7.5	35.9	1.6	6.7	1.7	1,501	100.0
男子	35.6	10.0	14.3	36.4	27.3	6.7	36.5	1.5	8.0	1.8	1,142	76.1
女子	42.9	10.6	15.9	30.1	29.0	10.3	34.0	1.9	2.5	1.4	359	23.9
前期課程	40.7	10.0	15.5	38.0	30.9	9.4	28.7	0.1	5.0	1.5	742	49.4
後期課程	34.0	10.3	13.8	31.9	24.6	5.7	43.0	3.0	8.3	1.8	759	50.6
文科系	37.0	10.9	14.5	32.6	26.9	7.1	39.8	3.2	6.1	1.5	718	47.8
理科系	37.5	9.5	14.8	37.0	28.5	7.9	32.3	0.1	7.2	1.8	783	52.2

3－3表　義務教育課程（小学校・中学校）で学力を引き上げるのに、特に有効だと思われるものを選んでください。

（3つまで選択）

区分	必修とする知識の量を減らし、じっくり考える時間をとる	習熟度別クラス編成にする	少人数クラス編成にする	行きたい学校を児童・生徒が選択できるようにする	校長に民間人を採用する	授業を評価する仕組みを作り、教員の処遇にも反映させる	教員の研修を強化し、評価も行う	放課後や休日に参加できる補習や発展的授業を設ける	放課後に個別に教えてくれる学習相談員を配置する	その他	無回答	事例数	
全体	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
	10.5	50.0	52.0	17.7	4.2	36.8	41.8	32.8	25.9	10.3	1.4	1,501	100.0
男子	11.2	50.4	49.5	18.0	4.7	37.4	41.3	32.8	23.5	11.3	1.8	1,142	76.1
女子	8.1	48.5	59.9	16.4	2.5	35.1	43.2	32.9	33.7	7.2	0.3	359	23.9
前期課程	10.0	50.4	51.6	18.2	4.4	38.4	40.8	31.1	26.1	10.5	1.6	742	49.4
後期課程	10.9	49.5	52.3	17.1	4.0	35.3	42.7	34.5	25.7	10.1	1.2	759	50.6
文科系	9.7	48.3	57.9	19.5	4.6	36.2	39.6	34.1	25.5	9.2	1.0	718	47.8
理科系	11.1	51.5	46.5	16.0	3.8	37.4	43.8	31.7	26.3	11.4	1.8	783	52.2

3－4表　大学時代に「自分で考える力」を向上させるのに特に有効だと思う手段・方法は何だと思いますか。

（3つまで選択）

区分	専門分野の書物をたくさん読む	専門以外の分野の書物をたくさん読む	インターネットなどによる情報検索の技術を習得し活用する	内容が高度な授業を聴講する	レポート、論文、発表などに力を入れる	少人数の授業などに出て、教員や学生との議論の場をもつ	教員や大学院生などから個人的に指導を受ける機会をもつ	授業以外の場で普段から友人と議論しあう	大学以外の社会人と話し合う機会を増やす	その他	無回答	事例数	
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体	44.9	44.6	12.0	10.6	35.0	51.8	24.3	37.0	25.0	3.1	1.0	1,501	100.0
男子	46.4	44.2	13.2	11.5	32.9	48.6	23.8	38.8	24.3	3.7	1.1	1,142	76.1
女子	40.1	45.7	8.1	7.8	41.8	61.8	25.6	31.5	27.3	1.1	0.6	359	23.9
前期課程	48.9	47.3	12.0	11.3	32.5	49.9	20.8	36.4	24.7	2.8	1.2	742	49.4
後期課程	41.0	41.9	12.0	9.9	37.5	53.6	27.7	37.7	25.3	3.3	0.8	759	50.6
文科系	43.6	45.1	9.1	10.9	36.9	59.9	21.0	34.8	26.9	2.8	0.7	718	47.8
理科系	46.1	44.1	14.7	10.3	33.3	44.3	27.2	39.1	23.2	3.3	1.3	783	52.2

4－1表　就職希望職種

（3つまで選択）

区分		大学・官公庁の教育・研究職	企業等の研究職	技術職	事務職	教育職（大学を除く）	行政職（公務員）	専門職（医師、弁護士、公認会計士等）	マスコミ（新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等）	その他	無回答	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体		46.4	38.4	27.0	17.5	9.2	32.9	37.1	17.9	6.2	0.9	1,501	100.0
男子		49.5	41.6	30.8	16.5	8.7	31.2	35.5	15.4	6.0	1.0	1,142	76.1
女子		36.8	28.1	15.0	20.9	10.9	38.4	42.3	25.6	7.0	0.6	359	23.9
男子	前期課程	53.2	45.2	32.9	13.7	9.8	31.5	35.4	13.5	6.0	1.2	562	37.4
	後期課程	45.9	38.1	28.8	19.1	7.6	30.9	35.5	17.2	5.9	0.7	580	38.6
女子	前期課程	39.4	32.8	13.9	17.8	12.2	40.0	45.6	27.8	6.7	—	180	12.0
	後期課程	34.1	23.5	16.2	24.0	9.5	36.9	39.1	23.5	7.3	1.1	179	11.9
男子	文科系	33.7	10.8	5.4	28.7	10.0	44.5	54.1	25.7	8.0	0.4	501	33.4
	理科系	61.8	65.7	50.7	6.9	7.6	20.7	20.9	7.3	4.4	1.4	641	42.7
女子	文科系	24.4	9.2	4.6	28.1	15.2	48.8	48.4	37.8	8.3	—	217	14.5
	理科系	55.6	57.0	31.0	9.9	4.2	22.5	33.1	7.0	4.9	1.4	142	9.5
2002年調査（52回）													
全体	第1位	24.8	14.1	8.9	7.0	1.1	12.0	21.7	5.1	4.3	1.1	1,395	100.0
	第2位	15.6	20.6	9.1	7.0	4.4	10.4	10.0	6.5	1.2	15.2	1,395	100.0
	第3位	11.9	6.3	12.9	7.6	6.3	8.6	6.2	7.9	1.4	30.9	1,395	100.0

注：前回調査では主たる動機を重視した順に第1位から第3位まで調査した。

4－2表　その職業に就きたい理由

（3つまで選択）

区分		人を助けたり社会に奉仕する	安定した生活が保証されている	十分な収入が期待できる	自分の特技・能力や専門知識が活かせる	華やかで、世間からもてはやされる	社会的な地位・名声が得られる	組織にしばられず、自由な活動ができる	人や組織を動かすことができる	独創性や創造性を発揮できる	その他	無回答	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体		42.5	31.8	29.2	65.6	3.7	13.0	23.9	10.3	32.4	4.7	1.1	1,501	100.0
男子		40.0	29.6	30.8	64.9	3.9	13.9	25.2	11.6	34.2	4.6	1.0	1,142	76.1
女子		50.4	39.0	24.2	67.7	2.8	10.0	19.8	6.1	26.5	4.7	1.4	359	23.9
男子	前期課程	37.5	31.5	32.7	65.8	3.0	13.2	25.3	10.9	33.8	5.0	1.4	562	37.4
	後期課程	42.4	27.8	29.0	64.0	4.8	14.7	25.2	12.4	34.7	4.3	0.5	580	38.6
女子	前期課程	48.9	39.4	24.4	66.7	3.3	10.6	21.1	4.4	27.2	5.0	1.7	180	12.0
	後期課程	52.0	38.5	24.0	68.7	2.2	9.5	18.4	7.8	25.7	4.5	1.1	179	11.9
男子	文科系	49.3	31.3	35.1	52.7	4.0	18.6	27.5	16.8	24.8	5.2	0.8	501	33.4
	理科系	32.8	28.2	27.5	74.4	3.9	10.3	23.4	7.6	41.7	4.2	1.1	641	42.7
女子	文科系	50.2	41.9	28.1	59.9	4.1	12.0	22.6	8.8	27.6	5.5	0.5	217	14.5
	理科系	50.7	34.5	18.3	79.6	0.7	7.0	15.5	2.1	24.6	3.5	2.8	142	9.5
2002年調査（52回）														
全体	第1位	20.8	9.5	6.9	37.1	0.8	1.7	7.2	2.4	9.3	3.1	1.1	1,395	100.0
	第2位	9.8	11.7	11.3	19.7	1.1	4.2	10.6	4.3	17.3	0.9	9.2	1,395	100.0
	第3位	9.5	10.7	10.6	11.3	1.1	7.2	8.5	4.9	11.5	0.9	23.7	1,395	100.0

注：前回調査では主たる動機を重視した順に第1位から第3位まで調査した。

4－3表　仕事や職場を選ぶ理由

（3つまで選択）

区分		給与がよい	休みをとりやすい	責任が軽い	失業の心配がない	福利厚生が充実している	出世の見込みが多い	技術や知識を身につけられる	権限が大きい	やりがいがある	能力が発揮できる	人から評価される	仕事を行う上で男女の差別がない	将来発展する見込みがある	職場が都心のオフィス街にある	職場が自然環境のよい郊外にある	海外勤務の機会が多い	転勤が少ない	いろいろな人と知り合える	オフィスが新しくてきれい	職場の人間関係がよい	その他	無回答	事例数	
全体		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
		39.0	9.0	2.1	13.3	6.2	2.9	24.7	3.5	70.6	41.8	9.9	6.9	12.7	1.8	1.7	5.0	3.5	14.7	0.4	18.1	1.9	0.5	1,501	100.0
男子		41.7	9.6	2.5	13.3	4.9	3.3	25.4	4.0	69.4	44.6	10.9	0.8	13.4	1.8	1.7	4.8	3.2	14.6	0.5	16.7	1.8	0.6	1,142	76.1
女子		30.4	7.0	1.1	13.1	10.3	1.7	22.3	1.7	74.4	32.9	6.7	26.2	10.3	1.9	1.9	5.6	4.5	14.8	—	22.3	1.9	0.3	359	23.9
男子	前期課程	47.2	9.1	2.7	13.5	3.9	4.3	23.1	4.4	69.9	47.0	9.8	0.5	13.2	1.6	1.8	3.9	2.8	13.2	0.5	15.5	1.8	0.9	562	37.4
	後期課程	36.4	10.2	2.2	13.1	5.9	2.4	27.6	3.6	68.8	42.2	11.9	1.0	13.6	1.9	1.6	5.7	3.6	16.0	0.5	17.9	1.9	0.3	580	38.6
女子	前期課程	35.0	5.6	1.7	13.3	8.3	2.2	20.6	1.7	77.2	35.6	7.8	26.7	12.8	1.1	2.8	7.8	2.2	11.7	—	18.3	2.2	—	180	12.0
	後期課程	25.7	8.4	0.6	12.8	12.3	1.1	24.0	1.7	71.5	30.2	5.6	25.7	7.8	2.8	1.1	3.4	6.7	17.9	—	26.3	1.7	0.6	179	11.9
男子	文科系	40.7	10.4	1.4	12.0	5.4	4.6	20.2	6.4	68.3	41.5	12.8	1.0	9.2	2.4	1.4	6.8	4.4	19.6	0.4	19.2	3.0	0.4	501	33.4
	理科系	42.4	9.0	3.3	14.4	4.5	2.3	29.5	2.2	70.2	47.0	9.4	0.6	16.7	1.2	1.9	3.3	2.3	10.8	0.6	14.8	0.9	0.8	641	42.7
女子	文科系	33.2	7.8	0.5	15.7	9.7	2.8	16.6	2.3	76.0	30.9	6.5	24.9	7.4	1.4	1.4	7.4	5.5	18.0	—	23.0	1.4	—	217	14.5
	理科系	26.1	5.6	2.1	9.2	11.3	—	31.0	0.7	71.8	35.9	7.0	28.2	14.8	2.8	2.8	2.8	2.8	9.9	—	21.1	2.8	0.7	142	9.5
2002年調査（52回）																									
全体	第1位	9.6	2.6	0.9	3.9	0.8	0.5	7.1	0.5	49.2	14.5	1.1	1.1	2.0	0.1	0.1	0.6	0.3	0.9	—	1.6	1.4	1.0	1,395	100.0
	第2位	10.2	3.2	0.9	3.7	2.6	0.8	8.2	1.7	15.6	22.1	3.9	3.3	6.0	0.5	0.4	1.3	1.3	4.8	0.1	6.2	0.4	3.0	1,395	100.0
	第3位	14.6	3.8	0.6	5.3	3.0	0.9	7.2	1.4	7.5	9.3	4.8	3.0	5.6	1.3	0.8	3.0	1.6	7.9	0.6	9.1	0.5	8.0	1,395	100.0

注：前回調査では主たる動機を重視した順に第1位から第3位まで調査した。

4－4表　就職活動として、どのようなことをしていますか

（複数選択）

区分		インターネット等で、情報を収集する	企業等のセミナーや説明会に参加する	就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	その他	無回答	事例数	
2002年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
（52回）		（39.1）	（22.2）	（11.6）	（16.8）	（2.2）	（49.5）	（1,395）	（100.0）
全体		45.1	22.5	11.5	19.9	3.7	42.7	1,501	100.0
前期課程	文科一類	37.9	10.7	12.9	35.7	2.1	37.1	140	9.3
	文科二類	34.5	16.1	17.2	25.3	—	47.1	87	5.8
	文科三類	38.5	5.5	7.3	9.2	2.8	56.0	109	7.3
	理科一類	23.2	7.1	5.1	8.3	1.6	71.3	254	16.9
	理科二類	28.9	6.7	5.9	6.7	4.4	65.9	135	9.0
	理科三類	11.8	—	5.9	5.9	5.9	76.5	17	1.1
後期課程	法学部	59.6	43.6	17.3	53.8	3.2	10.3	156	10.4
	経済学部	83.8	70.3	24.3	39.2	5.4	4.1	74	4.9
	文学部	66.3	45.9	17.3	18.4	5.1	27.6	98	6.5
	教育学部	72.4	51.7	17.2	34.5	3.4	10.3	29	1.9
	教養(文系)	60.0	32.0	12.0	20.0	8.0	24.0	25	1.7
	教養(理系)	52.6	26.3	15.8	26.3	5.3	36.8	19	1.3
	理学部	37.5	12.5	6.3	6.3	3.1	57.8	64	4.3
	工学部	58.3	29.2	8.3	11.3	3.0	35.7	168	11.2
	農学部	53.4	27.6	19.0	10.3	12.1	34.5	58	3.9
	薬学部	47.4	15.8	10.5	5.3	10.5	36.8	19	1.3
	医学部	49.0	14.3	10.2	8.2	10.2	36.7	49	3.3

4－5表　就職する場所はどこを希望しますか

区分		東京圏（東京近郊）を希望する	東京圏（東京近郊）以外を希望する	出身地に近いところを希望する	東京圏、東京圏以外どちらでもよい	その他	無回答	事例数	
2002年調査		%	%	%	%	%	%	人	%
（52回）		（55.1）	（1.4）	（6.2）	（32.8）	（2.5）	（1.9）	（1,395）	（100.0）
全体		53.8	1.9	6.1	33.6	3.3	1.3	1,501	100.0
男子		51.2	1.8	6.7	35.7	3.1	1.4	1,142	76.1
女子		62.1	1.9	4.2	26.7	3.9	1.1	359	23.9
男子	前期課程	43.2	2.0	9.1	40.7	3.0	2.0	562	37.4
	後期課程	59.0	1.7	4.5	30.9	3.1	0.9	580	38.6
女子	前期課程	60.0	1.7	3.3	28.3	6.1	0.6	180	12.0
	後期課程	64.2	2.2	5.0	25.1	1.7	1.7	179	11.9
男子	文科系	57.7	1.2	6.2	31.3	2.8	0.8	501	33.4
	理科系	46.2	2.3	7.2	39.2	3.3	1.9	641	42.7
女子	文科系	61.8	2.3	2.8	27.6	4.6	0.9	217	14.5
	理科系	62.7	1.4	6.3	25.4	2.8	1.4	142	9.5

5－1表　大学に来る回数（週平均）

区分		1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	ほとんど来ない	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(2.2)	(3.5)	(5.5)	(15.6)	(50.6)	(16.2)	(4.9)	(1.3)	(0.1)	(942)	(100.0)
全体		2.1	2.4	6.5	12.8	48.6	20.1	6.0	0.9	0.6	1,501	100.0
男子		2.0	2.6	6.5	12.2	49.0	20.3	5.9	1.0	0.5	1,142	76.1
女子		2.5	1.7	6.7	14.8	47.4	19.2	6.4	0.6	0.8	359	23.9
男子	前期課程	0.9	0.9	3.9	11.0	52.3	24.0	5.9	0.5	0.5	562	37.4
	後期課程	3.1	4.3	9.0	13.3	45.9	16.7	5.9	1.4	0.5	580	38.6
女子	前期課程	—	—	3.3	11.1	56.7	21.1	7.2	—	—	180	12.0
	後期課程	5.0	3.4	10.1	18.4	38.0	17.3	5.6	0.6	1.7	179	11.9
男子	文科系	4.0	5.0	10.0	15.4	42.3	16.2	4.6	2.0	0.6	501	33.4
	理科系	0.5	0.8	3.7	9.7	54.3	23.6	6.9	0.2	0.5	641	42.7
女子	文科系	3.7	1.8	10.1	17.1	45.2	15.2	6.0	0.5	0.5	217	14.5
	理科系	0.7	1.4	1.4	11.3	50.7	25.4	7.0	0.7	1.4	142	9.5

5－2表　大学に行くときの感じ

区分		行きたい・楽しみ	どちらかといえば行きたい楽しみ	どちらかといえば行きたくない・憂鬱	行きたくない・憂鬱	無回答	事例数	
2001年調査		%	%	%	%	%	人	%
(51回)		(15.3)	(60.7)	(20.4)	(3.0)	(0.6)	(942)	(100.0)
全体		15.5	56.5	23.3	3.9	0.9	1501	100.0
男子		14.7	55.3	25.1	4.0	0.9	1142	76.1
女子		18.1	60.4	17.3	3.3	0.8	359	23.9
男子	前期課程	14.8	55.7	25.1	3.4	1.1	562	37.4
	後期課程	14.7	54.8	25.2	4.7	0.7	580	38.6
女子	前期課程	21.1	59.4	17.2	2.2	—	180	12.0
	後期課程	15.1	61.5	17.3	4.5	1.7	179	11.9
男子	文科系	14.0	58.1	22.0	5.0	1.0	501	33.4
	理科系	15.3	53.0	27.6	3.3	0.8	641	42.7
女子	文科系	14.7	62.2	18.9	3.7	0.5	217	14.5
	理科系	23.2	57.7	14.8	2.8	1.4	142	9.5

5－3表　大学生活の目的

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
専門的学問・研究をする	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			43.5	34.2	10.1	7.0	4.4	0.9	1,501	100.0	4.1
	男子		44.0	32.8	10.2	7.0	5.2	0.8	1,142	76.1	4.0
	女子		41.8	38.4	9.7	7.0	1.9	1.1	359	23.9	4.1
	男子	前期課程	39.3	35.2	12.5	6.4	5.7	0.9	562	37.4	4.0
		後期課程	48.6	30.5	7.9	7.6	4.7	0.7	580	38.6	4.1
	女子	前期課程	38.9	38.3	11.7	7.2	3.3	0.6	—	12.0	4.0
		後期課程	44.7	38.5	7.8	6.7	0.6	1.7	179	11.9	4.2
	文科系		32.0	38.6	11.7	10.6	6.4	0.7	718	47.8	3.8
	理科系		54.0	30.1	8.6	3.7	2.6	1.0	783	52.2	4.3
	男子	文科系	31.9	35.9	12.0	11.4	8.0	0.8	501	33.4	3.7
		理科系	53.5	30.4	8.7	3.6	3.0	0.8	641	42.7	4.3
	女子	文科系	32.3	44.7	11.1	8.8	2.8	0.5	217	14.5	4.0
		理科系	56.3	28.9	7.7	4.2	0.7	2.1	142	9.5	4.4

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
高度な専門知識・技術を身につける	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			42.6	35.7	10.9	5.9	3.8	1.1	1,501	100.0	4.1
	男子		44.0	35.5	10.6	4.8	4.2	0.9	1,142	76.1	4.1
	女子		37.9	36.5	12.0	9.5	2.5	1.7	359	23.9	4.0
	男子	前期課程	42.0	36.7	11.4	4.8	4.3	0.9	562	37.4	4.1
		後期課程	46.0	34.3	9.8	4.8	4.1	0.9	580	38.6	4.1
	女子	前期課程	39.4	35.0	13.3	8.3	2.2	1.7	180	12.0	4.0
		後期課程	36.3	38.0	10.6	10.6	2.8	1.7	179	11.9	4.0
	文科系		30.1	39.8	14.3	8.8	6.0	1.0	718	47.8	3.8
	理科系		54.0	31.9	7.8	3.3	1.8	1.1	783	52.2	4.3
	男子	文科系	31.1	39.9	13.8	7.4	6.8	1.0	501	33.4	3.8
		理科系	54.1	32.0	8.1	2.8	2.2	0.8	641	42.7	4.3
	女子	文科系	27.6	39.6	15.7	12.0	4.1	0.9	217	14.5	3.8
		理科系	53.5	31.7	6.3	5.6	—	2.8	142	9.5	4.4

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
豊かな教養を身につける	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			41.2	38.1	12.1	4.8	2.7	1.0	1,501	100.0	4.1
	男子		39.6	38.4	12.5	5.4	3.2	1.0	1,142	76.1	4.1
	女子		46.5	37.3	10.9	2.8	1.4	1.1	359	23.9	4.3
	男子	前期課程	42.0	38.4	10.9	4.8	2.8	1.1	562	37.4	4.1
		後期課程	37.2	38.3	14.1	6.0	3.4	0.9	580	38.6	4.0
	女子	前期課程	53.9	35.0	8.9	0.6	1.1	0.6	180	12.0	4.4
		後期課程	39.1	39.7	12.8	5.0	1.7	1.7	179	11.9	4.1
	文科系		43.9	38.9	10.0	4.6	1.8	0.8	718	47.8	4.2
	理科系		38.8	37.4	14.0	5.0	3.6	1.1	783	52.2	4.0
	男子	文科系	42.7	38.7	10.2	5.2	2.2	1.0	501	33.4	4.2
		理科系	37.1	38.1	14.4	5.6	3.9	0.9	641	42.7	4.0
	女子	文科系	46.5	39.2	9.7	3.2	0.9	0.5	217	14.5	4.3
		理科系	46.5	34.5	12.7	2.1	2.1	2.1	142	9.5	4.2

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
学歴・資格を得る	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			27.1	37.1	18.8	10.3	5.7	1.0	1,501	100.0	3.7
	男子		26.0	36.6	20.1	10.2	6.2	0.9	1,142	76.1	3.7
	女子		30.6	38.7	14.5	10.9	3.9	1.4	359	23.9	3.8
	男子	前期課程	25.3	37.7	19.9	10.5	5.7	0.9	562	37.4	3.7
		後期課程	26.7	35.5	20.3	9.8	6.7	0.9	580	38.6	3.7
	女子	前期課程	30.0	45.0	12.2	7.8	3.9	1.1	180	12.0	3.9
		後期課程	31.3	32.4	16.8	14.0	3.9	1.7	179	11.9	3.7
	文科系		28.0	38.2	18.7	9.6	4.7	0.8	718	47.8	3.8
	理科系		26.3	36.1	18.9	11.0	6.5	1.1	783	52.2	3.7
	男子	文科系	26.7	36.1	21.6	9.2	5.6	0.8	501	33.4	3.7
		理科系	25.4	37.0	19.0	10.9	6.7	0.9	641	42.7	3.6
	女子	文科系	30.9	42.9	12.0	10.6	2.8	0.9	217	14.5	3.9
		理科系	30.3	32.4	18.3	11.3	5.6	2.1	142	9.5	3.7

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
クラブ・サークル活動に力を入れる	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			23.1	28.2	12.1	13.9	21.7	1.0	1,501	100.0	3.2
	男子		24.7	28.7	12.0	12.5	21.1	1.0	1,142	76.1	3.2
	女子		17.8	26.7	12.3	18.4	23.7	1.1	359	23.9	3.0
	男子	前期課程	28.5	32.7	11.4	10.7	15.8	0.9	562	37.4	3.5
		後期課程	21.0	24.8	12.6	14.3	26.2	1.0	580	38.6	3.0
	女子	前期課程	23.3	27.8	12.8	15.6	20.0	0.6	180	12.0	3.2
		後期課程	12.3	25.7	11.7	21.2	27.4	1.7	179	11.9	2.7
	文科系		24.0	28.4	10.7	14.5	21.6	0.8	718	47.8	3.2
	理科系		22.2	28.1	13.3	13.4	21.8	1.1	783	52.2	3.2
	男子	文科系	25.7	28.9	10.8	12.4	21.2	1.0	501	33.4	3.3
		理科系	23.9	28.5	12.9	12.6	21.1	0.9	641	42.7	3.2
	女子	文科系	19.8	27.2	10.6	19.4	22.6	0.5	217	14.5	3.0
		理科系	14.8	26.1	14.8	16.9	25.4	2.1	142	9.5	2.9

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
希望する企業等に就職する	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			13.7	23.5	25.9	18.2	17.5	1.3	1,501	100.0	3.0
	男子		13.9	22.8	26.7	18.1	17.3	1.1	1,142	76.1	3.0
	女子		12.8	25.6	23.4	18.4	18.1	1.7	359	23.9	3.0
	男子	前期課程	13.2	24.4	27.2	19.2	14.6	1.4	562	37.4	3.0
		後期課程	14.7	21.2	26.2	17.1	20.0	0.9	580	38.6	2.9
	女子	前期課程	15.0	30.6	23.9	15.6	13.3	1.7	180	12.0	3.2
		後期課程	10.6	20.7	22.9	21.2	22.9	1.7	179	11.9	2.7
	文科系		14.3	22.0	25.6	18.4	18.5	1.1	718	47.8	3.0
	理科系		13.0	24.8	26.2	18.0	16.6	1.4	783	52.2	3.0
	男子	文科系	14.2	21.2	26.9	19.2	17.6	1.0	501	33.4	3.0
		理科系	13.7	24.0	26.5	17.3	17.2	1.2	641	42.7	3.0
	女子	文科系	14.7	24.0	22.6	16.6	20.7	1.4	217	14.5	3.0
		理科系	9.9	28.2	24.6	21.1	14.1	2.1	142	9.5	3.0

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
学生生活を楽しむ	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			45.4	34.4	12.8	4.5	2.0	1.0	1,501	100.0	4.2
	男子		44.0	34.0	13.9	4.9	2.4	0.9	1,142	76.1	4.1
	女子		49.9	35.7	9.2	3.1	0.8	1.4	359	23.9	4.3
	男子	前期課程	46.1	33.5	14.1	3.7	1.8	0.9	562	37.4	4.2
		後期課程	41.9	34.5	13.8	6.0	2.9	0.9	580	38.6	4.1
	女子	前期課程	56.1	30.6	8.9	2.8	0.6	1.1	180	12.0	4.4
		後期課程	43.6	40.8	9.5	3.4	1.1	1.7	179	11.9	4.2
	文科系		46.0	36.4	11.0	4.0	1.8	0.8	718	47.8	4.2
	理科系		44.8	32.6	14.4	4.9	2.2	1.1	783	52.2	4.1
	男子	文科系	42.9	36.3	13.4	4.6	2.0	0.8	501	33.4	4.1
		理科系	44.8	32.1	14.4	5.1	2.7	0.9	641	42.7	4.1
	女子	文科系	53.0	36.4	5.5	2.8	1.4	0.9	217	14.5	4.4
		理科系	45.1	34.5	14.8	3.5	—	2.1	142	9.5	4.2

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
友人を多く持つ	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			38.0	34.0	16.9	7.3	2.9	0.9	1,501	100.0	4.0
	男子		34.7	35.0	18.3	7.7	3.4	0.9	1,142	76.1	3.9
	女子		48.5	30.6	12.5	6.1	1.1	1.1	359	23.9	4.2
	男子	前期課程	36.3	34.7	18.0	7.7	2.5	0.9	562	37.4	4.0
		後期課程	33.1	35.3	18.6	7.8	4.3	0.9	580	38.6	3.9
	女子	前期課程	53.9	25.6	12.8	6.1	1.1	0.6	180	12.0	4.3
		後期課程	43.0	35.8	12.3	6.1	1.1	1.7	179	11.9	4.2
	文科系		39.8	35.0	14.9	7.4	2.2	0.7	718	47.8	4.0
	理科系		36.3	33.1	18.8	7.3	3.4	1.1	783	52.2	3.9
	男子	文科系	34.7	36.3	17.0	8.2	3.0	0.8	501	33.4	3.9
		理科系	34.6	34.0	19.3	7.3	3.7	0.9	641	42.7	3.9
	女子	文科系	51.6	31.8	10.1	5.5	0.5	0.5	217	14.5	4.3
		理科系	43.7	28.9	16.2	7.0	2.1	2.1	142	9.5	4.1

区分			あてはまる	やや あてはまる	どちらとも 言えない	あまり あて はまらない	あて はまらない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
特に目的はない	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			3.2	5.0	14.2	17.8	57.8	2.0	1,501	100.0	1.8
	男子		3.7	5.7	14.5	17.6	57.1	1.4	1,142	76.1	1.8
	女子		1.7	2.8	13.1	18.4	60.2	3.9	359	23.9	1.6
	男子	前期課程	3.6	6.2	12.8	18.1	57.7	1.6	562	37.4	1.8
		後期課程	3.8	5.2	16.2	17.1	56.6	1.2	580	38.6	1.8
	女子	前期課程	1.7	3.9	15.0	15.6	61.1	2.8	180	12.0	1.7
		後期課程	1.7	1.7	11.2	21.2	59.2	5.0	179	11.9	1.6
	文科系		3.6	5.3	15.2	17.7	56.4	1.8	718	47.8	1.8
	理科系		2.8	4.7	13.3	17.9	59.1	2.2	783	52.2	1.7
	男子	文科系	4.2	6.4	15.0	18.6	54.5	1.4	501	33.4	1.9
		理科系	3.3	5.1	14.2	16.8	59.1	1.4	641	42.7	1.7
	女子	文科系	2.3	2.8	15.7	15.7	60.8	2.8	217	14.5	1.7
		理科系	0.7	2.8	9.2	22.5	59.2	5.6	142	9.5	1.6

2001年調査（第51回）大学生活の目的

区　分	専門的学問研究をする	高度な専門知識・技術を身につける	豊かな教養を身につける	学歴・資格を身につける	クラブサークル活動に力を入れる	希望する企業等に就職する	学生生活を楽しむ	友人を多く持つ	特に目的はない	無回答	事例数	
全　体	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
第１位	26.6	24.3	19.7	6.1	5.9	0.7	10.5	4.0	1.7	0.3	942	100.0
第２位	9.7	19.6	20.9	5.9	10.4	2.8	15.6	12.4	0.4	2.2	942	100.0
第３位	5.9	6.6	17.4	7.1	10.0	3.6	24.6	18.0	1.6	5.1	942	100.0

５－４表　現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度満足していますか。

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区　分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
授業の内容	2001年調査（51回）		% (5.7)	% (39.9)	% (24.7)	% (19.5)	% (10.0)	% (0.1)	人 (942)	% (100.0)	(3.1)
	全体		8.5	44.4	21.0	19.0	6.1	0.9	1,501	100.0	3.3
	男子		7.8	43.4	20.6	19.9	7.3	1.1	1,142	76.1	3.2
	女子		10.9	47.6	22.3	16.2	2.5	0.6	359	23.9	3.5
	男子	前期課程	6.0	41.1	20.6	22.8	8.2	1.2	562	37.4	3.1
		後期課程	9.5	45.7	20.5	17.1	6.4	0.9	—	38.6	3.4
	女子	前期課程	8.9	47.2	25.6	17.2	1.1	—	180	12.0	3.5
		後期課程	12.8	48.0	19.0	15.1	3.9	1.1	179	11.9	3.5
	男子	文科系	9.8	44.9	19.2	17.0	8.4	0.8	501	33.4	3.3
		理科系	6.2	42.3	21.7	22.2	6.4	1.2	641	42.7	3.2
	女子	文科系	11.1	45.6	24.0	16.1	2.8	0.5	217	14.5	3.5
		理科系	10.6	50.7	19.7	16.2	2.1	0.7	142	9.5	3.5
	前期課程	文科一類	4.3	45.0	23.6	19.3	6.4	1.4	140	9.3	3.2
		文科二類	6.9	32.2	31.0	21.8	8.0	—	87	5.8	3.1
		文科三類	8.3	56.0	15.6	15.6	3.7	0.9	109	7.3	3.5
		理科一類	9.1	39.0	20.9	23.6	6.7	0.8	254	16.9	3.2
		理科二類	3.7	42.2	20.7	23.7	8.1	1.5	135	9.0	3.1
		理科三類	5.9	47.1	23.5	23.5	—	—	17	1.1	3.4
	後期課程	法学部	13.5	42.9	18.6	14.1	9.6	1.3	156	10.4	3.4
		経済学部	13.5	40.5	18.9	20.3	6.8	—	74	4.9	3.3
		文学部	16.3	45.9	20.4	13.3	4.1	—	98	6.5	3.6
		教育学部	10.3	58.6	13.8	13.8	3.4	—	29	1.9	3.6
		教養(文系)	8.0	52.0	16.0	12.0	12.0	—	25	1.7	3.3
		教養(理系)	5.3	47.4	15.8	26.3	5.3	—	19	1.3	3.2
		理学部	9.4	53.1	20.3	10.9	3.1	3.1	64	4.3	3.6
		工学部	5.4	47.6	21.4	20.8	3.6	1.2	168	11.2	3.3
		農学部	10.3	44.8	19.0	15.5	10.3	—	58	3.9	3.3
		薬学部	5.3	42.1	36.8	15.8	—	—	19	1.3	3.4
		医学部	6.1	44.9	24.5	20.4	2.0	2.0	49	3.3	3.3

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
大学の環境、設備	2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(13.9)	(41.7)	(20.2)	(16.9)	(7.2)	(0.1)	(942)	(100.0)	(3.4)
	全体		16.1	39.8	20.4	17.1	5.7	0.9	1,501	100.0	3.4
	男子		15.9	39.1	20.1	17.8	6.0	1.1	1,142	76.1	3.4
	女子		16.7	42.1	21.4	14.8	4.5	0.6	359	23.9	3.5
	男子	前期課程	13.2	36.5	21.9	19.8	7.5	1.2	562	37.4	3.3
		後期課程	18.6	41.7	18.3	15.9	4.7	0.9	580	38.6	3.5
	女子	前期課程	10.6	42.2	26.7	16.1	4.4	—	180	12.0	3.4
		後期課程	22.9	41.9	16.2	13.4	4.5	1.1	179	11.9	3.7
	男子	文科系	13.8	37.1	22.2	19.0	7.2	0.8	501	33.4	3.3
		理科系	17.6	40.7	18.4	16.8	5.1	1.2	641	42.7	3.5
	女子	文科系	13.8	37.8	24.4	18.4	5.1	0.5	217	14.5	3.4
		理科系	21.1	48.6	16.9	9.2	3.5	0.7	142	9.5	3.8
	前期課程	文科一類	12.9	31.4	25.0	23.6	5.7	1.4	140	9.3	3.2
		文科二類	17.2	43.7	17.2	14.9	6.9	—	87	5.8	3.5
		文科三類	6.4	33.9	28.4	23.9	6.4	0.9	109	7.3	3.1
		理科一類	15.0	37.8	22.8	16.9	6.7	0.8	254	16.9	3.4
		理科二類	10.4	43.7	20.0	16.3	8.1	1.5	135	9.0	3.3
		理科三類	5.9	41.2	29.4	17.6	5.9	—	17	1.1	3.2
	後期課程	法学部	12.8	30.8	23.7	21.8	9.6	1.3	156	10.4	3.2
		経済学部	14.9	41.9	31.1	9.5	2.7	—	74	4.9	3.6
		文学部	21.4	49.0	14.3	10.2	5.1	—	98	6.5	3.7
		教育学部	20.7	34.5	17.2	20.7	6.9	—	29	1.9	3.4
		教養(文系)	4.0	48.0	16.0	24.0	8.0	—	25	1.7	3.2
		教養(理系)	21.1	31.6	26.3	21.1	—	—	19	1.3	3.5
		理学部	26.6	48.4	10.9	9.4	1.6	3.1	64	4.3	3.9
		工学部	22.0	44.0	14.3	16.1	2.4	1.2	168	11.2	3.7
		農学部	25.9	37.9	15.5	17.2	3.4	—	58	3.9	3.7
		薬学部	31.6	52.6	5.3	5.3	5.3	—	19	1.3	4.0
		医学部	22.4	51.0	12.2	10.2	2.0	2.0	49	3.3	3.8

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
経済的状況	2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(18.4)	(35.8)	(22.7)	(16.1)	(6.8)	(0.2)	(942)	(100.0)	(3.4)
	全体		18.3	35.4	21.9	16.2	7.3	0.9	1,501	100.0	3.4
	男子		17.4	33.4	23.1	17.1	8.0	1.1	1,142	76.1	3.4
	女子		20.9	41.8	18.1	13.4	5.3	0.6	359	23.9	3.6
	男子	前期課程	15.5	33.8	23.8	18.9	6.8	1.2	562	37.4	3.3
		後期課程	19.3	32.9	22.4	15.3	9.1	0.9	580	38.6	3.4
	女子	前期課程	21.1	41.7	18.3	16.1	2.8	—	180	12.0	3.6
		後期課程	20.7	41.9	17.9	10.6	7.8	1.1	179	11.9	3.6
	男子	文科系	16.2	36.1	21.2	18.0	7.8	0.8	501	33.4	3.4
		理科系	18.4	31.2	24.6	16.4	8.1	1.2	641	42.7	3.4
	女子	文科系	20.3	41.0	19.8	13.8	4.6	0.5	217	14.5	3.6
		理科系	21.8	43.0	15.5	12.7	6.3	0.7	142	9.5	3.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
友人	2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(24.0)	(45.1)	(19.2)	(8.4)	(3.2)	(0.1)	(942)	(100.0)	(3.8)
	全体		28.9	45.2	15.9	7.1	2.0	0.9	1,501	100.0	3.9
	男子		26.6	45.4	17.1	7.8	2.2	1.0	1,142	76.1	3.9
	女子		36.2	44.8	12.0	5.0	1.4	0.6	359	23.9	4.1
	男子	前期課程	25.6	46.8	15.8	8.2	2.3	1.2	562	37.4	3.9
		後期課程	27.6	44.0	18.3	7.4	2.1	0.7	580	38.6	3.9
	女子	前期課程	39.4	41.1	15.0	2.8	1.7	—	180	12.0	4.1
		後期課程	33.0	48.6	8.9	7.3	1.1	1.1	179	11.9	4.1
	男子	文科系	27.1	45.1	16.0	8.8	2.2	0.8	501	33.4	3.9
		理科系	26.2	45.6	17.9	7.0	2.2	1.1	641	42.7	3.9
	女子	文科系	36.4	46.1	12.0	3.7	1.4	0.5	217	14.5	4.1
		理科系	35.9	43.0	12.0	7.0	1.4	0.7	142	9.5	4.1

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
余暇・レジャー	2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(13.5)	(33.5)	(26.4)	(19.3)	(7.1)	(0.1)	(942)	(100.0)	(3.3)
	全体		15.5	34.8	25.0	18.3	5.5	0.9	1,501	100.0	3.4
	男子		15.1	33.7	25.6	19.0	5.7	1.0	1,142	76.1	3.3
	女子		16.7	38.4	23.4	15.9	5.0	0.6	359	23.9	3.5
	男子	前期課程	15.1	34.7	24.6	18.9	5.5	1.2	562	37.4	3.4
		後期課程	15.0	32.8	26.6	19.1	5.9	0.7	580	38.6	3.3
	女子	前期課程	18.9	41.1	21.1	15.0	3.9	—	180	12.0	3.6
		後期課程	14.5	35.8	25.7	16.8	6.1	1.1	179	11.9	3.4
	男子	文科系	16.6	35.1	25.9	16.6	5.0	0.8	501	33.4	3.4
		理科系	13.9	32.6	25.3	20.9	6.2	1.1	641	42.7	3.3
	女子	文科系	19.8	36.4	22.1	16.6	4.6	0.5	217	14.5	3.5
		理科系	12.0	41.5	25.4	14.8	5.6	0.7	142	9.5	3.4

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
クラブ・サークル活動	2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(18.9)	(30.0)	(31.5)	(11.5)	(7.2)	(0.8)	(942)	(100.0)	(3.4)
	全体		22.8	29.8	31.2	9.9	5.3	1.1	1,501	100.0	3.6
	男子		23.5	30.0	29.3	10.9	5.1	1.2	1,142	76.1	3.6
	女子		20.6	29.0	37.0	7.0	5.8	0.6	359	23.9	3.5
	男子	前期課程	26.3	30.6	26.3	10.5	4.6	1.6	562	37.4	3.6
		後期課程	20.7	29.5	32.2	11.2	5.5	0.9	580	38.6	3.5
	女子	前期課程	27.2	29.4	30.0	8.3	5.0	—	180	12.0	3.7
		後期課程	14.0	28.5	44.1	5.6	6.7	1.1	179	11.9	3.4
	男子	文科系	24.6	28.3	30.9	10.2	5.2	0.8	501	33.4	3.6
		理科系	22.6	31.4	28.1	11.4	5.0	1.6	641	42.7	3.6
	女子	文科系	24.4	25.3	36.4	7.4	6.0	0.5	217	14.5	3.6
		理科系	14.8	34.5	38.0	6.3	5.6	0.7	142	9.5	3.5

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
食事	2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(17.8)	(40.3)	(24.7)	(13.3)	(3.7)	(0.1)	(942)	(100.0)	(3.6)
	全体		19.5	40.1	22.3	12.7	4.5	0.9	1,501	100.0	3.6
	男子		17.2	39.6	23.9	13.5	4.9	1.0	1,142	76.1	3.5
	女子		27.0	41.8	17.0	10.3	3.1	0.8	359	23.9	3.8
	男子	前期課程	16.2	39.3	22.6	14.6	6.0	1.2	562	37.4	3.5
		後期課程	18.1	39.8	25.2	12.4	3.8	0.7	580	38.6	3.6
	女子	前期課程	23.3	46.1	15.0	12.2	2.8	0.6	180	12.0	3.8
		後期課程	30.7	37.4	19.0	8.4	3.4	1.1	179	11.9	3.8
	男子	文科系	18.0	40.7	19.4	14.6	6.6	0.8	501	33.4	3.5
		理科系	16.5	38.7	27.5	12.6	3.6	1.1	641	42.7	3.5
	女子	文科系	29.5	40.6	16.1	10.1	2.8	0.9	217	14.5	3.8
		理科系	23.2	43.7	18.3	10.6	3.5	0.7	142	9.5	3.7

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満している	不満である	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
住居	2001年調査		%	%	%	%	%	%	人	%	
	(51回)		(29.6)	(41.6)	(13.3)	(10.5)	(4.8)	(0.2)	(942)	(100.0)	(3.8)
	全体		29.6	40.2	15.3	9.6	4.3	1.0	1,501	100.0	3.8
	男子		26.6	41.2	15.8	10.6	4.6	1.1	1,142	76.1	3.8
	女子		39.0	37.0	13.6	6.4	3.3	0.6	359	23.9	4.0
	男子	前期課程	27.9	39.3	15.8	10.5	5.0	1.4	562	37.4	3.8
		後期課程	25.3	43.1	15.9	10.7	4.1	0.9	580	38.6	3.8
	女子	前期課程	36.1	37.2	15.0	6.7	5.0	—	180	12.0	3.9
		後期課程	41.9	36.9	12.3	6.1	1.7	1.1	179	11.9	4.1
	男子	文科系	25.3	43.5	14.0	9.4	6.6	1.2	501	33.4	3.7
		理科系	27.6	39.5	17.3	11.5	3.0	1.1	641	42.7	3.8
	女子	文科系	38.7	38.2	13.8	5.1	3.7	0.5	217	14.5	4.0
		理科系	39.4	35.2	13.4	8.5	2.8	0.7	142	9.5	4.0

5－5表　授業評価の結果を生かすためにはどのようなことが必要だと考えますか。

（該当するものすべてを選択）

区分		現在のままでよい	評価結果を印刷物で公表する	評価結果をインターネットで公開する	評価結果を基に教官との話し合いの場を設ける	評価を教官の処遇に反映させる	ベスト・ティーチング・アワードのような賞をもうける	その他	無回答	事例数	
全体		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
		21.3	43.4	48.2	30.4	39.2	35.4	4.3	2.5	1,501	100.0
男子		21.4	44.0	48.9	32.2	42.0	37.0	5.0	2.2	1,142	76.1
女子		21.2	41.5	45.7	24.8	30.1	30.1	1.9	3.6	359	23.9
男子	前期課程	19.8	44.8	47.3	29.5	41.3	35.1	4.3	2.7	562	37.4
	後期課程	22.9	43.1	50.5	34.8	42.8	39.0	5.7	1.7	580	38.6
女子	前期課程	22.8	39.4	45.6	23.3	30.6	28.3	2.8	3.9	180	12.0
	後期課程	19.6	43.6	45.8	26.3	29.6	31.8	1.1	—	179	11.9
男子	文科系	22.8	43.3	49.7	29.5	40.9	38.5	5.0	2.0	501	33.4
	理科系	20.3	44.5	48.4	34.3	42.9	35.9	5.0	2.3	641	42.7
女子	文科系	21.2	43.8	41.5	25.3	31.3	28.6	2.3	4.1	217	14.5
	理科系	21.1	38.0	52.1	23.9	28.2	32.4	1.4	2.8	142	9.5

5－6表　あなたは東大に対して愛着を感じていますか。

区分		大学に対して愛着がある	大学の中で自分が所属する学部や学科等に対して愛着がある	クラブやサークルに対して愛着がある	愛着はあまりない	無回答	事例数	
全体		%	%	%	%	%	人	%
		34.6	17.7	23.9	22.9	0.8	1,501	100.0
男子		32.3	16.8	25.2	25.0	0.7	1,142	76.1
女子		42.1	20.6	19.8	16.4	1.1	359	23.9
男子	前期課程	32.2	10.0	29.2	28.1	0.5	562	37.4
	後期課程	32.4	23.4	21.4	21.9	0.9	580	38.6
女子	前期課程	44.4	11.7	23.3	19.4	1.1	180	12.0
	後期課程	39.7	29.6	16.2	13.4	1.1	179	11.9
男子	文科系	33.9	14.6	24.8	25.9	0.8	501	33.4
	理科系	31.0	18.6	25.6	24.2	0.6	641	42.7
女子	文科系	42.9	19.4	22.1	15.2	0.5	217	14.5
	理科系	40.8	22.5	16.2	18.3	2.1	142	9.5

5－7表　それでは全体として大学生活に満足していますか。

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	無回答	事例数	
2001年調査（51回）		%	%	%	%	%	%	人	%
		(29.3)	(48.8)	(11.6)	(7.1)	(3.1)	(0.1)	(942)	(100.0)
全体		28.6	50.6	11.5	5.9	2.7	0.7	1,501	100.0
男子		26.8	50.8	11.9	6.5	3.3	0.7	1,142	76.1
女子		34.3	49.9	10.0	4.2	0.8	0.8	359	23.9
男子	前期課程	24.4	51.1	13.3	7.5	3.0	0.7	562	37.4
	後期課程	29.1	50.5	10.5	5.5	3.6	0.7	580	38.6
女子	前期課程	33.3	51.7	9.4	4.4	0.6	0.6	180	—
	後期課程	35.2	48.0	10.6	3.9	1.1	1.1	179	11.9
男子	文科系	28.5	49.3	11.4	6.2	3.8	0.8	501	33.4
	理科系	25.4	52.0	12.3	6.7	3.0	0.6	641	42.7
女子	文科系	33.2	52.1	8.8	5.5	—	0.5	217	14.5
	理科系	35.9	46.5	12.0	2.1	2.1	1.4	142	9.5

5－8表　一般的な施設等の中で、もっと整備が必要だと思う事項はどれですか。

区分			よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
大学キャンパス内の清掃	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			19.7	51.4	20.5	7.7	0.7	1,501	100.0	2.8
	男子		20.1	51.8	19.7	7.9	0.6	1,142	76.1	2.8
	女子		18.7	50.4	22.8	7.0	1.1	359	23.9	2.8
	男子	前期課程	14.2	45.9	27.8	11.2	0.9	562	37.4	2.6
		後期課程	25.7	57.4	11.9	4.7	0.3	580	38.6	3.0
	女子	前期課程	10.6	43.3	32.2	12.8	1.1	180	—	2.5
		後期課程	26.8	57.5	13.4	1.1	1.1	179	11.9	3.1
	前期課程		13.3	45.3	28.8	11.6	0.9	742	49.4	2.6
	後期課程		26.0	57.4	12.3	3.8	0.5	759	50.6	3.1

区分			よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
大学キャンパス内の樹木等の整備	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			31.1	58.4	7.4	2.4	0.7	1,501	100.0	3.2
	男子		30.0	59.8	7.0	2.6	0.5	1,142	76.1	3.2
	女子		34.5	54.0	8.6	1.7	1.1	359	23.9	3.2
	男子	前期課程	24.9	61.7	9.6	2.8	0.9	562	37.4	3.1
		後期課程	35.0	57.9	4.5	2.4	0.2	580	38.6	3.3
	女子	前期課程	27.8	61.1	8.9	1.1	1.1	180	12.0	3.2
		後期課程	41.3	46.9	8.4	2.2	1.1	179	11.9	3.3
	前期課程		25.6	61.6	9.4	2.4	0.9	742	49.4	3.1
	後期課程		36.5	55.3	5.4	2.4	0.4	759	50.6	3.3

区分			よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
大学の建物内の清掃	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			13.6	44.4	28.9	12.4	0.7	1,501	100.0	2.6
	男子		14.1	45.7	28.1	11.5	0.6	1,142	76.1	2.6
	女子		12.0	40.1	31.5	15.3	1.1	359	23.9	2.5
	男子	前期課程	8.0	38.3	36.3	16.5	0.9	562	37.4	2.4
		後期課程	20.0	52.9	20.2	6.6	0.3	580	38.6	2.9
	女子	前期課程	5.6	30.0	39.4	23.9	1.1	180	12.0	2.2
		後期課程	18.4	50.3	23.5	6.7	1.1	179	11.9	2.8
	前期課程		7.4	36.3	37.1	18.3	0.9	742	49.4	2.3
	後期課程		19.6	52.3	20.9	6.6	0.5	759	50.6	2.9

区分			よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
大学構内での不要となった廃棄物	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			13.6	35.3	41.6	8.5	1.1	1,501	100.0	2.5
	男子		13.8	35.0	41.2	9.4	0.6	1,142	76.1	2.5
	女子		12.8	36.2	42.9	5.6	2.5	359	23.9	2.4
	男子	前期課程	15.1	39.0	38.8	6.2	0.9	562	37.4	2.4
		後期課程	12.6	31.2	43.4	12.4	0.3	580	38.6	2.6
	女子	前期課程	17.2	40.6	36.1	3.9	2.2	180	12.0	2.3
		後期課程	8.4	31.8	49.7	7.3	2.8	179	11.9	2.6
	前期課程		15.6	39.4	38.1	5.7	1.2	742	49.4	2.3
	後期課程		11.6	31.4	44.9	11.2	0.9	759	50.6	2.6

区分			よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
トイレの清掃	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			12.4	25.8	46.2	15.0	0.6	1,501	100.0	2.6
	男子		13.0	25.5	46.1	14.8	0.5	1,142	76.1	2.6
	女子		10.3	27.0	46.2	15.6	0.8	359	23.9	2.7
	男子	前期課程	18.5	33.5	39.7	7.5	0.9	562	37.4	2.4
		後期課程	7.8	17.8	52.4	21.9	0.2	580	38.6	2.9
	女子	前期課程	18.3	32.8	41.1	7.2	0.6	180	12.0	2.4
		後期課程	2.2	21.2	51.4	24.0	1.1	179	11.9	3.0
	前期課程		18.5	33.3	40.0	7.4	0.8	742	49.4	2.4
	後期課程		6.5	18.6	52.2	22.4	0.4	759	50.6	2.9

区分			よく整備・美化されている	ある程度整備・美化されている	あまり整備・美化されていない	整備・美化が不足している	無回答	事例数		平均値
			4	3	2	1				
トイレの数	全体		%	%	%	%	%	人	%	
			13.6	23.8	47.0	14.9	0.8	1,501	100.0	2.6
	男子		9.8	21.7	51.0	16.8	0.7	1,142	76.1	2.8
	女子		25.6	30.4	34.3	8.6	1.1	359	23.9	2.3
	男子	前期課程	12.6	25.6	47.9	13.0	0.9	562	37.4	2.6
		後期課程	7.1	17.9	54.0	20.5	0.5	580	38.6	2.9
	女子	前期課程	37.2	31.1	25.6	5.6	0.6	180	12.0	2.0
		後期課程	14.0	29.6	43.0	11.7	1.7	179	11.9	2.5
	前期課程		18.6	27.0	42.5	11.2	0.8	742	49.4	2.5
	後期課程		8.7	20.7	51.4	18.4	0.8	759	50.6	2.8

5－9表　本学の課外活動施設、福利厚生施設等のうち、あなたは右の諸施設の現状をどう思いますか。

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
学部内の学生控室・談話室・ラウンジ	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			9.6	20.0	24.9	10.7	10.9	22.5	1.5	1,501	100.0
	男子		9.8	19.7	25.5	10.1	10.6	22.7	1.7	1,142	76.1
	女子		8.9	20.9	23.1	12.8	11.7	21.7	0.8	359	23.9
	男子	前期課程	4.8	14.4	30.2	5.0	7.1	35.8	2.7	562	37.4
		後期課程	14.7	24.8	20.9	15.0	14.0	10.0	0.7	580	38.6
	女子	前期課程	5.0	17.2	29.4	6.1	5.0	36.7	—	180	12.0
		後期課程	12.8	24.6	16.8	19.6	18.4	6.7	1.1	179	11.9
	前期課程		4.9	15.1	30.1	5.3	6.6	36.0	2.2	742	49.4
	後期課程		14.2	24.8	19.9	16.1	15.0	9.2	0.8	759	50.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
学生会館、課外活動共用施設、キャンパスプラザ（駒場）	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			6.5	18.9	30.2	15.3	13.5	14.2	1.4	1,501	100.0
	男子		6.6	19.1	30.4	14.0	13.8	14.7	1.4	1,142	76.1
	女子		6.1	18.4	29.8	19.5	12.3	12.5	1.4	359	23.9
	男子	前期課程	6.2	19.4	28.5	17.3	14.4	12.8	1.4	562	37.4
		後期課程	6.9	18.8	32.2	10.9	13.3	16.6	1.4	580	38.6
	女子	前期課程	5.6	20.6	26.7	21.1	13.9	12.2	—	180	12.0
		後期課程	6.7	16.2	33.0	17.9	10.6	12.8	2.8	179	11.9
	前期課程		6.1	19.7	28.0	18.2	14.3	12.7	1.1	742	49.4
	後期課程		6.9	18.2	32.4	12.5	12.6	15.7	1.7	759	50.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
屋外体育施設（駒場）	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			10.3	26.6	30.8	5.9	3.4	21.3	1.7	1,501	100.0
	男子		10.9	26.5	31.3	5.5	3.7	20.6	1.6	1,142	76.1
	女子		8.4	27.0	29.2	7.2	2.5	23.7	1.9	359	23.9
	男子	前期課程	10.9	31.7	27.9	6.6	3.9	17.4	1.6	562	37.4
		後期課程	10.9	21.6	34.5	4.5	3.4	23.6	1.6	580	38.6
	女子	前期課程	8.9	33.3	25.6	6.7	2.2	22.2	1.1	180	12.0
		後期課程	7.8	20.7	33.0	7.8	2.8	25.1	2.8	179	11.9
	前期課程		10.4	32.1	27.4	6.6	3.5	18.6	1.5	742	49.4
	後期課程		10.1	21.3	34.1	5.3	3.3	24.0	1.8	759	50.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
屋外体育施設（野球場、テニスコート等を含む）（駒場）	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			9.1	23.8	27.6	5.1	3.3	29.4	1.7	1,501	100.0
	男子		9.2	23.4	28.5	4.8	4.0	28.5	1.6	1,142	76.1
	女子		8.6	25.1	24.8	6.1	1.1	32.3	1.9	359	23.9
	男子	前期課程	10.1	25.6	24.9	6.2	4.4	26.9	1.8	562	37.4
		後期課程	8.3	21.2	31.9	3.4	3.6	30.2	1.4	580	38.6
	女子	前期課程	9.4	28.9	22.2	6.7	0.6	31.7	0.6	180	12.0
		後期課程	7.8	21.2	27.4	5.6	1.7	33.0	3.4	179	11.9
	前期課程		10.0	26.4	24.3	6.3	3.5	28.0	1.5	742	49.4
	後期課程		8.2	21.2	30.8	4.0	3.2	30.8	1.8	759	50.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
屋内体育施設（御殿下記念館、二食プール）（本郷）	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			17.8	18.2	14.2	3.3	0.8	43.2	2.5	1,501	100.0
	男子		19.1	18.3	14.6	3.1	0.8	41.9	2.3	1,142	76.1
	女子		13.6	17.8	12.8	3.9	0.8	47.6	3.3	359	23.9
	男子	前期課程	10.7	10.0	15.5	1.4	0.5	58.0	3.9	562	37.4
		後期課程	27.2	26.4	13.8	4.7	1.0	26.2	0.7	580	38.6
	女子	前期課程	7.2	8.3	13.3	—	—	66.1	5.0	180	12.0
		後期課程	20.1	27.4	12.3	7.8	1.7	29.1	1.7	179	11.9
	前期課程		9.8	9.6	15.0	1.1	0.4	60.0	4.2	742	49.4
	後期課程		25.6	26.6	13.4	5.4	1.2	26.9	0.9	759	50.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
屋外体育施設（御殿下グランド、農学部グランド、野球場、テニスコート等を含む）（本郷）	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			8.6	12.8	18.9	3.3	1.9	51.8	2.8	1,501	100.0
	男子		9.7	14.0	18.7	3.9	2.5	48.9	2.4	1,142	76.1
	女子		5.0	8.9	19.2	1.4	0.3	61.0	4.2	359	23.9
	男子	前期課程	6.4	8.7	16.2	1.6	1.2	62.1	3.7	562	37.4
		後期課程	12.9	19.1	21.2	6.0	3.6	36.0	1.0	580	38.6
	女子	前期課程	3.3	5.0	14.4	—	—	72.2	5.0	180	12.0
		後期課程	6.7	12.8	24.0	2.8	0.6	49.7	3.4	179	11.9
	前期課程		5.7	7.8	15.8	1.2	0.9	64.6	4.0	742	49.4
	後期課程		11.5	17.7	21.9	5.3	2.9	39.3	1.6	759	50.6

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
		1	2	3	4	5	6			
二食内ホール、サークル部室等（本郷）		%	%	%	%	%	%	%	人	%
	全体	4.5	8.9	21.2	3.5	2.1	56.8	3.1	1,501	100.0
	男子	4.6	9.4	21.4	3.2	2.5	56.4	2.5	1,142	76.1
	女子	4.2	7.2	20.6	4.2	0.8	58.2	4.7	359	23.9
	男子 前期課程	4.3	7.1	18.0	2.3	1.4	62.8	4.1	562	37.4
	男子 後期課程	5.0	11.6	24.7	4.1	3.4	50.2	1.0	580	38.6
	女子 前期課程	2.8	7.2	15.0	1.1	—	68.3	5.6	180	12.0
	女子 後期課程	5.6	7.3	26.3	7.3	1.7	48.0	3.9	179	11.9
	前期課程	3.9	7.1	17.3	2.0	1.1	64.2	4.4	742	49.4
	後期課程	5.1	10.5	25.0	4.9	3.0	49.7	1.7	759	50.6

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
		1	2	3	4	5	6			
検見川総合運動場、検見川セミナーハウス		%	%	%	%	%	%	%	人	%
	全体	12.7	12.7	14.9	3.6	1.4	51.8	2.9	1,501	100.0
	男子	13.1	13.1	15.2	4.2	1.6	50.4	2.4	1,142	76.1
	女子	11.4	11.4	13.6	1.7	0.8	56.5	4.5	359	23.9
	男子 前期課程	13.2	8.5	14.1	3.6	1.6	55.5	3.6	562	37.4
	男子 後期課程	13.1	17.6	16.4	4.8	1.6	45.3	1.2	580	38.6
	女子 前期課程	8.3	6.7	13.3	1.1	0.6	65.0	5.0	180	12.0
	女子 後期課程	14.5	16.2	14.0	2.2	1.1	48.0	3.9	179	11.9
	前期課程	12.0	8.1	13.9	3.0	1.3	57.8	3.9	742	49.4
	後期課程	13.4	17.3	15.8	4.2	1.4	46.0	1.8	759	50.6

区分		満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
		1	2	3	4	5	6			
スポーティア（戸田、山中、下賀茂、谷川、乗鞍）		%	%	%	%	%	%	%	人	%
	全体	4.3	4.3	15.7	1.5	1.1	69.6	3.4	1,501	100.0
	男子	4.5	4.1	16.5	1.5	1.2	69.4	2.9	1,142	76.1
	女子	3.9	5.0	13.4	1.7	0.8	70.2	5.0	359	23.9
	男子 前期課程	3.0	2.7	15.3	1.2	1.2	72.2	4.3	562	37.4
	男子 後期課程	5.9	5.5	17.6	1.7	1.2	66.6	1.6	580	38.6
	女子 前期課程	2.8	5.0	13.3	0.6	—	72.8	5.6	180	12.0
	女子 後期課程	5.0	5.0	13.4	2.8	1.7	67.6	4.5	179	11.9
	前期課程	3.0	3.2	14.8	1.1	0.9	72.4	4.6	742	49.4
	後期課程	5.7	5.4	16.6	2.0	1.3	66.8	2.2	759	50.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
学内食堂	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			8.3	31.1	18.9	21.2	17.9	1.3	1.3	1,501	100.0
	男子		8.5	31.1	18.7	20.9	18.7	1.1	1.0	1,142	76.1
	女子		7.8	31.2	19.5	22.0	15.6	1.7	2.2	359	23.9
	男子	前期課程	7.5	26.5	16.0	22.8	24.9	1.2	1.1	562	37.4
		後期課程	9.5	35.5	21.4	19.1	12.6	1.0	0.9	580	38.6
	女子	前期課程	5.6	27.8	21.7	22.8	20.0	—	2.2	180	12.0
		後期課程	10.1	34.6	17.3	21.2	11.2	3.4	2.2	179	11.9
	前期課程		7.0	26.8	17.4	22.8	23.7	0.9	1.3	742	49.4
	後期課程		9.6	35.3	20.4	19.6	12.3	1.6	1.2	759	50.6

区分			満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答	事例数	
			1	2	3	4	5	6			
学寮（追分、向丘、豊島、井の頭、白金、三鷹国際学生宿舎）	全体		%	%	%	%	%	%	%	人	%
			2.7	3.9	14.1	1.8	2.3	71.2	3.9	1,501	100.0
	男子		3.2	4.0	14.7	1.4	2.1	71.3	3.3	1,142	76.1
	女子		1.1	3.6	12.3	3.1	3.1	71.0	5.8	359	23.9
	男子	前期課程	3.2	3.7	13.0	1.2	1.6	72.6	4.6	562	37.4
		後期課程	3.1	4.3	16.4	1.6	2.6	70.0	2.1	580	38.6
	女子	前期課程	1.1	4.4	10.6	1.7	2.2	73.3	6.7	180	12.0
		後期課程	1.1	2.8	14.0	4.5	3.9	68.7	5.0	179	11.9
	前期課程		2.7	3.9	12.4	1.3	1.8	72.8	5.1	742	49.4
	後期課程		2.6	4.0	15.8	2.2	2.9	69.7	2.8	759	50.6

5－10表　諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものは何ですか。

（3っまで選択）

区分		学部内の学生控室等	学生会館等（駒場）	屋内体育施設（駒場）	屋外体育施設（駒場）	屋内体育施設（本郷）	屋外体育施設（本郷）	二食内ホール等（本郷）	検見川総合運動場等	スポーティア	学内食堂	学寮	寛げるスペース	その他	無回答	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体		25.7	34.1	8.6	6.7	2.0	5.0	5.9	2.2	2.3	43.2	13.5	44.6	6.0	11.3	1,501	100.0
男子		26.5	33.4	9.2	7.2	2.1	6.0	6.3	2.7	2.9	44.5	13.7	43.3	6.0	10.8	1,142	76.1
女子		23.1	36.5	6.7	5.3	1.7	1.7	4.7	0.6	0.3	39.0	13.1	48.7	6.1	12.8	359	23.9
男子	前期課程	14.4	41.5	11.4	10.0	1.4	3.7	4.3	3.0	4.4	49.3	11.9	41.8	5.7	10.1	562	37.4
	後期課程	38.3	25.5	7.1	4.5	2.8	8.3	8.3	2.4	1.4	39.8	15.3	44.8	6.2	11.4	580	38.6
女子	前期課程	8.9	46.7	8.9	6.7	0.6	0.6	1.1	1.1	—	43.9	7.2	44.4	5.6	17.2	180	12.0
	後期課程	37.4	26.3	4.5	3.9	2.8	2.8	8.4	—	0.6	34.1	19.0	53.1	6.7	8.4	179	11.9
前期課程		13.1	42.7	10.8	9.2	1.2	3.0	3.5	2.6	3.4	48.0	10.8	42.5	5.7	11.9	742	49.4
後期課程		38.1	25.7	6.5	4.3	2.8	7.0	8.3	1.8	1.2	38.5	16.2	46.8	6.3	10.7	759	50.6

6－1表　現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			9.9	16.1	33.0	32.7	7.1	1.1	1,501	100.0	2.9
	男子		11.0	16.5	31.3	32.1	7.9	1.1	1,142	76.1	2.9
	女子		6.4	14.5	38.4	34.5	4.7	1.4	359	23.9	2.8
	男子	前期課程	9.6	15.8	32.2	32.6	8.5	1.2	562	37.4	2.9
		後期課程	12.4	17.2	30.5	31.7	7.2	0.9	580	38.6	3.0
	女子	前期課程	4.4	14.4	38.9	38.3	3.3	0.6	180	12.0	2.8
		後期課程	8.4	14.5	38.0	30.7	6.1	2.2	179	11.9	2.9
	男子	文科系	12.6	19.0	29.5	30.3	7.4	1.2	501	33.4	3.0
		理科系	9.8	14.7	32.8	33.5	8.3	0.9	641	42.7	2.8
	女子	文科系	6.9	15.2	39.6	31.8	5.5	0.9	217	14.5	2.9
		理科系	5.6	13.4	36.6	38.7	3.5	2.1	142	9.5	2.8

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
社会的貢献を促進するために、産学協同をより推進する	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			17.0	29.9	32.8	15.1	3.6	1.6	1,501	100.0	3.4
	男子		18.2	30.9	32.1	13.2	4.2	1.3	1,142	76.1	3.5
	女子		13.1	26.7	35.1	20.9	1.7	2.5	359	23.9	3.3
	男子	前期課程	15.8	28.5	33.5	15.5	5.2	1.6	562	37.4	3.3
		後期課程	20.5	33.3	30.9	11.0	3.3	1.0	580	38.6	3.6
	女子	前期課程	11.7	26.1	32.8	24.4	2.2	2.8	180	12.0	3.2
		後期課程	14.5	27.4	37.4	17.3	1.1	2.2	179	11.9	3.4
	男子	文科系	18.8	29.7	31.3	14.0	4.6	1.6	501	33.4	3.4
		理科系	17.8	31.8	32.8	12.6	3.9	1.1	641	42.7	3.5
	女子	文科系	12.4	27.2	35.5	21.7	1.4	1.8	217	14.5	3.3
		理科系	14.1	26.1	34.5	19.7	2.1	3.5	142	9.5	3.3

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			10.2	19.8	33.2	26.7	8.7	1.4	1,501	100.0	3.0
	男子		11.0	20.7	32.0	25.5	9.5	1.4	1,142	76.1	3.0
	女子		7.5	17.0	37.0	30.6	6.4	1.4	359	23.9	2.9
	男子	前期課程	11.6	24.4	30.2	23.0	9.4	1.4	562	37.4	3.1
		後期課程	10.5	17.1	33.6	27.9	9.5	1.4	580	38.6	2.9
	女子	前期課程	8.9	18.3	36.1	30.6	5.0	1.1	180	12.0	3.0
		後期課程	6.1	15.6	38.0	30.7	7.8	1.7	179	11.9	2.8
	男子	文科系	10.4	20.0	34.5	25.0	8.4	1.8	501	33.4	3.0
		理科系	11.5	21.2	30.0	25.9	10.3	1.1	641	42.7	3.0
	女子	文科系	6.9	18.9	37.3	29.5	6.5	0.9	217	14.5	2.9
		理科系	8.5	14.1	36.6	32.4	6.3	2.1	142	9.5	2.9

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
社会的貢献を推進するために、（むしろ）基礎研究を充実させる	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			18.3	25.5	44.2	9.3	1.4	1.2	1,501	100.0	3.5
	男子		20.2	25.2	42.6	9.2	1.8	1.1	1,142	76.1	3.5
	女子		12.3	26.5	49.6	9.7	0.3	1.7	359	23.9	3.4
	男子	前期課程	17.1	23.7	43.6	11.7	2.7	1.2	562	37.4	3.4
		後期課程	23.3	26.7	41.6	6.7	0.9	0.9	580	38.6	3.7
	女子	前期課程	13.3	23.9	50.6	11.1	—	1.1	180	12.0	3.4
		後期課程	11.2	29.1	48.6	8.4	0.6	2.2	179	11.9	3.4
	男子	文科系	22.0	25.5	42.7	7.4	1.2	1.2	501	33.4	3.6
		理科系	18.9	25.0	42.4	10.6	2.2	0.9	641	42.7	3.5
	女子	文科系	9.7	27.2	52.1	9.7	—	1.4	217	14.5	3.4
		理科系	16.2	25.4	45.8	9.9	0.7	2.1	142	9.5	3.5

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			37.5	36.2	21.7	2.5	0.9	1.2	1,501	100.0	4.1
	男子		38.9	34.9	21.2	2.9	1.1	1.1	1,142	76.1	4.1
	女子		33.1	40.4	23.1	1.4	0.3	1.7	359	23.9	4.1
	男子	前期課程	38.4	35.6	21.0	2.7	1.1	1.2	562	37.4	4.1
		後期課程	39.3	34.1	21.4	3.1	1.2	0.9	580	38.6	4.1
	女子	前期課程	36.1	40.0	21.1	1.1	0.6	1.1	180	12.0	4.1
		後期課程	30.2	40.8	25.1	1.7	—	2.2	179	11.9	4.0
	男子	文科系	41.1	33.3	20.2	2.6	1.6	1.2	501	33.4	4.1
		理科系	37.1	36.0	22.0	3.1	0.8	0.9	641	42.7	4.1
	女子	文科系	30.9	43.3	22.1	1.8	0.5	1.4	217	14.5	4.0
		理科系	36.6	35.9	24.6	0.7	—	2.1	142	9.5	4.1

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推奨する	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			30.9	35.2	26.7	4.9	0.9	1.3	1,501	100.0	3.9
	男子		31.1	34.9	26.6	5.3	1.0	1.2	1,142	76.1	3.9
	女子		30.4	36.5	27.0	3.9	0.6	1.7	359	23.9	3.9
	男子	前期課程	32.0	33.5	26.7	5.3	0.9	1.6	562	37.4	3.9
		後期課程	30.2	36.2	26.6	5.2	1.0	0.9	580	38.6	3.9
	女子	前期課程	33.9	40.6	22.2	1.7	0.6	1.1	180	12.0	4.1
		後期課程	26.8	32.4	31.8	6.1	0.6	2.2	179	11.9	3.8
	男子	文科系	33.1	33.5	25.9	4.6	1.2	1.6	501	33.4	3.9
		理科系	29.5	35.9	27.1	5.8	0.8	0.9	641	42.7	3.9
	女子	文科系	30.9	42.4	21.7	3.2	0.5	1.4	217	14.5	4.0
		理科系	29.6	27.5	35.2	4.9	0.7	2.1	142	9.5	3.8

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
教育の国際化を推進するため、日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			40.6	30.0	21.6	5.9	0.8	1.1	1,501	100.0	4.0
	男子		40.5	29.2	21.5	6.8	0.9	1.1	1,142	76.1	4.0
	女子		40.7	32.9	21.7	2.8	0.6	1.4	359	23.9	4.1
	男子	前期課程	41.5	29.9	19.0	7.1	1.2	1.2	562	37.4	4.0
		後期課程	39.7	28.4	24.0	6.6	0.5	0.9	580	38.6	4.0
	女子	前期課程	43.3	31.7	20.0	3.3	0.6	1.1	180	12.0	4.2
		後期課程	38.0	34.1	23.5	2.2	0.6	1.7	179	11.9	4.1
	男子	文科系	46.9	28.1	16.8	6.0	1.0	1.2	501	33.4	4.2
		理科系	35.6	30.0	25.3	7.5	0.8	0.9	641	42.7	3.9
	女子	文科系	44.7	30.9	21.7	1.4	0.5	0.9	217	14.5	4.2
		理科系	34.5	35.9	21.8	4.9	0.7	2.1	142	9.5	4.0

区分			非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答	事例数		平均値
			5	4	3	2	1				
教育の国際化を推進するため、外国からの留学生をより一層受け入れる	全体		%	%	%	%	%	%	人	%	
			25.6	30.2	29.8	11.0	2.3	1.1	1,501	100.0	3.7
	男子		24.6	30.2	29.6	11.7	2.9	1.0	1,142	76.1	3.6
	女子		29.0	30.1	30.4	8.6	0.6	1.4	359	23.9	3.8
	男子	前期課程	26.0	31.5	24.9	12.8	3.7	1.1	562	37.4	3.6
		後期課程	23.3	29.0	34.1	10.7	2.1	0.9	580	38.6	3.6
	女子	前期課程	30.0	36.1	23.3	8.9	0.6	1.1	180	12.0	3.9
		後期課程	27.9	24.0	37.4	8.4	0.6	1.7	179	11.9	3.7
	男子	文科系	30.1	31.5	24.6	9.6	3.0	1.2	501	33.4	3.8
		理科系	20.3	29.2	33.5	13.4	2.8	0.8	641	42.7	3.5
	女子	文科系	32.7	30.4	27.2	8.3	0.5	0.9	217	14.5	3.9
		理科系	23.2	29.6	35.2	9.2	0.7	2.1	142	9.5	3.7

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

6―2表　大学への要望や期待

（3つまで選択）

区分		カリキュラムの改革	教室の充実	実験室や実習室の充実	教育スタッフの充実	進学振分け制度の改善	小人数教育の実施	授業の方法の工夫・改善	単位認定や学年試験を緩やかに	単位認定や学年試験を厳しく	キャンパスの拡大・移転・統合	図書館の充実	学生自治に対する適切な助成と助言	学生自治の尊重	奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	就職対策の充実	その他	無回答	事例数
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
全体		30.8	19.4	10.9	20.3	23.6	25.2	41.1	13.8	5.7	5.5	21.2	3.7	3.7	19.9	21.1	4.2	1.9	1,501
男子		32.5	19.6	11.7	20.8	22.8	23.3	40.3	16.5	6.5	6.4	20.9	3.8	3.9	20.1	17.8	4.0	2.2	1,142
女子		25.3	18.7	8.4	18.4	26.2	31.5	43.7	5.3	3.1	2.5	22.0	3.3	3.1	19.2	31.5	4.7	1.1	359
文科系		29.7	20.5	3.2	18.7	18.4	34.4	40.3	14.8	3.8	5.4	24.4	3.6	4.0	17.4	25.6	4.3	1.7	718
理科系		31.8	18.4	18.0	21.7	28.4	16.9	41.9	12.9	7.4	5.5	18.3	3.7	3.4	22.1	16.9	4.1	2.2	783
前期課程		31.8	22.5	8.4	19.5	31.9	24.4	42.7	16.4	4.6	5.7	17.4	4.9	4.0	18.2	14.8	4.4	1.9	742
後期課程		29.8	16.3	13.4	20.9	15.4	26.1	39.5	11.2	6.7	5.3	24.9	2.5	3.4	21.5	27.1	4.0	2.0	759
前期課程	文科一類	30.0	25.7	2.1	20.0	11.4	45.0	52.1	16.4	2.1	7.1	19.3	2.1	3.6	17.9	15.0	6.4	0.7	140
	文科二類	32.2	18.4	3.4	13.8	17.2	23.0	40.2	24.1	6.9	8.0	18.4	13.8	3.4	21.8	23.0	3.4	—	87
	文科三類	34.9	24.8	2.8	19.3	47.7	26.6	33.9	11.9	3.7	4.6	26.6	2.8	3.7	11.0	17.4	3.7	1.8	109
	理科一類	29.9	21.3	9.4	23.2	32.7	19.7	43.7	18.5	5.1	5.5	15.7	3.1	3.9	19.3	10.6	3.9	3.5	254
	理科二類	33.3	22.2	19.3	18.5	49.6	11.1	39.3	12.6	5.2	4.4	10.4	5.9	3.7	22.2	17.0	3.7	—	135
	理科三類	41.2	23.5	17.6	—	23.5	23.5	47.1	5.9	5.9	—	17.6	11.8	17.6	—	—	11.8	11.8	17
後期課程	法学部	28.2	25.6	2.6	15.4	5.1	52.6	42.9	14.7	3.2	1.9	28.2	1.9	2.6	17.9	20.5	3.2	3.2	156
	経済学部	28.4	12.2	1.4	27.0	6.8	31.1	40.5	20.3	1.4	9.5	16.2	1.4	5.4	13.5	39.2	2.7	1.4	74
	文学部	27.6	10.2	7.1	12.2	20.4	17.3	28.6	8.2	6.1	4.1	31.6	3.1	8.2	21.4	38.8	6.1	2.0	98
	教育学部	20.7	13.8	6.9	24.1	31.0	31.0	41.4	3.4	3.4	—	31.0	3.4	3.4	24.1	41.4	6.9	3.4	29
	教養(文系)	28.0	20.0	—	40.0	28.0	16.0	28.0	8.0	4.0	12.0	28.0	—	—	12.0	52.0	—	—	25
	教養(理系)	36.8	10.5	10.5	31.6	21.1	26.3	47.4	5.3	15.8	5.3	5.3	—	—	26.3	31.6	—	5.3	19
	理学部	26.6	9.4	26.6	20.3	15.6	12.5	39.1	10.9	9.4	7.8	21.9	6.3	9.4	37.5	17.2	1.6	1.6	64
	工学部	33.3	19.0	22.0	19.0	19.6	16.7	41.7	9.5	7.1	7.7	21.4	1.8	0.6	21.4	22.0	4.8	1.8	168
	農学部	19.0	8.6	34.5	20.7	17.2	15.5	43.1	10.3	17.2	—	29.3	5.2	1.7	29.3	31.0	6.9	—	58
	薬学部	21.1	26.3	26.3	31.6	15.8	21.1	26.3	5.3	21.1	5.3	21.1	—	—	36.8	26.3	5.3	—	19
	医学部	53.1	12.2	14.3	34.7	16.3	18.4	44.9	10.2	4.1	6.1	28.6	2.0	2.0	10.2	10.2	2.0	2.0	49

2002年調査（52回）																						
区　分		カリキュラムの改革	教室・実験室の充実	教育スタッフの充実	進学振り分け制度の改善	小人数教育の実施	授業の方法の工夫・改善	単位認定や学年試験を緩やかに	単位認定や学年試験を厳しく	キャンパスの拡大・移転・統合	図書館の充実	学生自治に対する適切な助成と助言	学生自治の尊重	奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	就職対策の充実	その他	無回答	事例数	談話室・学生控室の充実	課外活動諸施設の拡充	体育施設の充実	福利厚生施設の充実
全体	第１位	14.6	9.2	8.3	9.2	9.2	15.1	6.2	1.0	1.4	5.2	0.1	0.3	4.5	3.4	2.0	1.0	1,395	4.3	2.4	1.8	0.8
	第２位	7.3	9.2	7.6	5.9	6.7	15.8	5.5	1.5	1.1	7.7	0.2	0.5	6.6	5.0	1.4	4.7	1,395	6.7	2.8	2.9	0.9
	第３位	8.3	6.7	6.3	4.0	5.0	11.0	3.4	1.1	2.0	6.3	0.7	1.6	6.9	7.8	1.7	11.3	1,395	4.8	3.9	5.2	1.9

注：前回調査では主たる動機を重視した順に第１位から第３位まで調査した。

7－1表　課程

区　分		前期課程		後期課程		合　計	
2002年調査		人	%	人	%	人	%
(52回)		(662)	(47.5)	(733)	(52.5)	(1,395)	(100.0)
全　体		742	49.4	759	50.6	1,501	100.0
男　子		562	49.2	580	50.8	1,142	76.1
女　子		180	50.1	179	49.9	359	23.9
男子	文科系	227	45.3	274	54.7	501	33.4
	理科系	335	52.3	306	47.7	641	42.7
女子	文科系	109	50.2	108	49.8	217	14.5
	理科系	71	50.0	71	50.0	142	9.5

7－2表　出身高校

区　分	国立(大学附属)	公　立	中高一貫型の私立	その他の私立	大学入学資格検定	外国学校	その他	無回答	事例数	
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)	(11.8)	(33.3)	(50.3)	(3.3)	(0.2)	(0.9)	(0.2)	(—)	(1,395)	(100.0)
全　体	9.0	40.3	46.8	2.9	0.1	0.6	0.3	—	1,501	100.0
男　子	8.2	41.6	46.9	2.5	0.1	0.2	0.4	—	1,142	100.0
女　子	11.4	36.2	46.5	3.9	—	1.9	—	—	359	100.0
現　役	9.2	37.5	50.0	2.6	—	0.7	—	—	1,053	100.0
1　浪	9.7	46.7	41.2	2.2	0.3	—	—	—	362	100.0
2浪以上	3.9	52.9	37.3	5.9	—	—	—	—	51	100.0
学士入学	—	47.6	23.8	14.3	—	—	14.3	—	21	100.0
その他	7.7	23.1	23.1	15.4	—	15.4	15.4	—	13	100.0

7－3表　現役・浪人等

区　分	現　役		1　浪		2浪以上		学士入学		その他		無回答		合　計	
2002年調査	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
(52回)	(965)	(69.2)	(366)	(26.2)	(46)	(3.3)	(3)	(0.2)	(15)	(1.1)	(—)	(—)	(1,395)	(100.0)
全　体	1,053	70.2	362	24.1	51	3.4	21	1.4	13	0.9	1	0.1	1,501	100.0
男　子	788	69.0	283	24.8	43	3.8	19	1.7	8	0.7	1	0.1	1,142	100.0
女　子	265	73.8	79	22.0	8	2.2	2	0.6	5	1.4	—	—	359	100.0

8－1表　家庭の所在地（A．地区）

区　分	東京都	関　東	北海道	東　北	中　部	近　畿	中　国	四　国	九州沖縄	その他	無回答	事例数	
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)	(24.1)	(32.5)	(0.7)	(2.5)	(12.3)	(12.7)	(4.3)	(2.8)	(7.8)	(0.1)	(0.1)	(1,395)	(100.0)
全　体	22.7	32.7	1.4	3.1	13.5	11.1	4.5	2.7	8.1	0.1	0.1	1501	100.0
男　子	20.8	32.4	1.4	3.6	13.9	12.6	4.6	2.7	7.7	0.2	—	1142	100.0
女　子	28.7	33.7	1.4	1.7	12.0	6.4	3.9	2.5	9.5	—	0.3	359	100.0

8－2表　家庭の所在地（B．都市規模）

区　　分	大都市	中都市	小都市	郡　部	無回答	事　例　数	
2002年調査	%	%	%	%	%	人	%
(52回)	(38.4)	(43.0)	(11.2)	(7.2)	(0.2)	(1,395)	(100.0)
全　　体	36.2	42.8	11.2	8.6	1.3	1,501	100.0
男　　子	34.7	43.7	11.9	8.9	0.8	1,142	100.0
女　　子	40.9	39.8	8.9	7.5	2.8	359	100.0

8－3表　主たる家計支持者

区　　分	父	母	本人	兄弟姉妹	祖父母	配偶者	だれと一口にはいえない	その他	無回答	事　例　数	
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)	(90.4)	(4.9)	(0.5)	(0.1)	(0.3)	(0.1)	(2.9)	(0.6)	(0.1)	(1,395)	(100.0)
全　　体	88.9	6.5	0.3	0.1	0.4	0.1	2.7	0.9	—	1,501	100.0
男　　子	88.4	6.6	0.4	0.1	0.4	0.2	3.0	1.1	—	1,142	100.0
女　　子	90.8	6.1	—	0.3	0.6	—	1.9	0.3	—	359	100.0

8－4表　主たる家計支持者の職業

区　　分		専門的、技術的職業	教育的職業	管理的職業	事務	販売	農・林・漁業	生産工程・採掘作業	運輸・通信・保安・サービス	無職	その他	無回答	事例数	
2002年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)		(16.8)	(10.2)	(47.0)	(6.2)	(3.9)	(0.7)	(4.5)	(4.4)	(3.6)	(0.1)	(2.4)	(1,395)	(100.0)
全　　体		17.6	12.8	42.8	7.2	4.0	0.5	3.9	5.4	3.3	1.3	1.3	1,501	100.0
男　　子		15.3	12.8	43.1	7.8	4.1	0.3	4.8	5.8	3.3	1.2	1.5	1,142	76.1
女　　子		24.8	12.8	41.8	5.3	3.6	1.1	0.8	4.2	3.1	1.7	0.8	359	23.9
男子	文　科　系	13.8	14.2	42.7	9.0	4.6	0.2	3.4	4.8	3.8	1.8	1.8	501	33.4
	理　科　系	16.5	11.7	43.4	6.9	3.7	0.3	5.9	6.6	3.0	0.8	1.2	641	42.7
女子	文　科　系	18.9	12.9	43.8	6.0	4.1	0.9	1.4	5.1	4.6	1.4	0.9	217	14.5
	理　科　系	33.8	12.7	38.7	4.2	2.8	1.4	—	2.8	0.7	2.1	0.7	142	9.5
男子	自　宅	17.7	8.7	53.6	5.6	2.5	—	1.4	2.9	4.9	1.0	1.6	485	32.3
	分譲マンション	15.4	15.4	46.2	7.7	7.7	—	—	—	—	—	7.7	13	0.9
	賃貸マンション（バスつき）	14.6	17.4	35.7	8.6	4.1	0.4	7.1	7.1	2.4	1.3	1.3	465	31.0
	アパート（バスなし）	8.1	13.5	27.0	13.5	16.2	2.7	2.7	10.8	2.7	—	2.7	37	2.5
	下　宿	9.5	9.5	38.1	4.8	4.8	—	4.8	19.0	—	9.5	—	21	1.4
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	2.6	5.1	25.6	15.4	17.9	—	12.8	12.8	2.6	2.6	2.6	39	2.6
	その他の寮	15.1	13.7	39.7	11.0	1.4	—	9.6	8.2	1.4	—	—	73	4.9
	その他	16.7	16.7	33.3	16.7	—	—	16.7	—	—	—	—	6	0.4
	無回答	33.3	33.3	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.2
女子	自　宅	24.0	11.5	51.6	3.1	1.6	—	0.5	3.1	3.6	1.0	—	192	12.8
	分譲マンション	75.0	—	25.0	—	—	—	—	—	—	—	—	4	0.3
	賃貸マンション（バスつき）	22.2	14.5	35.0	7.7	3.4	3.4	1.7	5.1	1.7	2.6	2.6	117	7.8
	アパート（バスなし）	12.5	25.0	25.0	12.5	12.5	—	—	—	—	12.5	—	8	0.5
	下　宿	33.3	—	—	—	66.7	—	—	—	—	—	—	3	0.2
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	33.3	8.3	8.3	16.7	25.0	—	—	8.3	—	—	—	12	0.8
	その他の寮	31.3	6.3	31.3	6.3	—	—	—	12.5	12.5	—	—	16	1.1
	その他	33.3	50.0	16.7	—	—	—	—	—	—	—	—	6	0.4
	無回答	100.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	0.1

8－5表　主たる家計支持者の年収分布

（無回答を除く）

区分		350万円未満	350万円～450万円未満	450万円～550万円未満	550万円～650万円未満	650万円～750万円未満	750万円～850万円未満	850万円～950万円未満	950万円～1050万円未満	1050万円～1150万円未満	1150万円～1250万円未満	1250万円～1350万円未満	1350万円～1450万円未満	1450万円～1550万円未満	1550万円以上	事例数	
2002年調査（52回）		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
		(6.3)	(3.8)	(4.8)	(7.7)	(5.7)	(9.4)	(5.8)	(22.6)	(3.8)	(9.0)	(3.7)	(1.9)	(5.0)	(10.6)	(1,197)	(100.0)
全体		9.5	4.4	5.5	7.1	7.8	9.7	6.8	21.9	2.5	6.0	3.1	1.6	4.5	9.6	1,300	100.0
男子		9.8	4.5	6.4	8.0	8.8	10.2	7.8	20.3	2.4	5.8	3.1	1.0	4.7	7.3	991	76.2
女子		8.7	3.9	2.6	4.2	4.5	8.1	3.9	27.2	2.6	6.8	2.9	3.6	3.9	17.2	309	23.8
男子	自宅	7.6	2.9	3.8	6.2	6.9	8.1	7.4	22.1	3.3	7.4	4.5	1.9	7.6	10.5	421	32.4
	分譲マンション	—	—	—	—	—	—	20.0	40.0	—	20.0	10.0	—	—	10.0	10	0.8
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	7.0	6.6	6.8	9.0	10.0	12.4	8.3	20.4	2.4	5.1	2.7	0.5	3.2	5.8	412	31.7
	アパート（バスなし）	33.3	3.3	6.7	10.0	10.0	16.7	10.0	6.7	—	3.3	—	—	—	—	30	2.3
	下宿	25.0	—	—	18.8		12.5	12.5	18.8	—	—	—	—	6.3	6.3	16	1.2
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	45.5	12.1	21.2	3.0	12.1	3.0	—	3.0	—	—	—	—	—	—	33	2.5
	その他の寮	8.2	1.6	13.1	13.1	14.8	11.5	8.2	21.3	—	3.3	—	—	1.6	3.3	61	4.7
	その他	40.0	—	20.0	—	—	20.0	—	20.0	—	—	—	—	—	—	5	0.4
	無回答	—	—	33.3	33.3	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	0.2
女子	自宅	7.4	3.7	2.5	1.9	1.9	6.8	1.9	27.2	3.1	6.8	3.7	4.3	5.6	23.5	162	12.5
	分譲マンション	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—	—	—	—	66.7	3	0.2
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	7.6	3.8	2.9	4.8	5.7	8.6	7.6	32.4	1.9	7.6	2.9	3.8	1.9	8.6	105	8.1
	アパート（バスなし）	14.3	—	14.3	14.3	14.3	14.3	—	28.6	—	—	—	—	—	—	7	0.5
	下宿	66.7	—	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—	—	3	0.2
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	25.0	—	—	25.0	25.0	16.7	—	—	—	—	—	—	—	8.3	12	0.9
	その他の寮	7.1	14.3	—	7.1	—	14.3	7.1	21.4	7.1	7.1	—	—	7.1	7.1	14	1.1
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	—	50.0	2	0.2
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	1	0.1

8－6表　主たる家計支持者の職業別にみた年収平均（単位：十万円）

（無回答を除く）

区分	専門的技術的職業		教育的職業		管理的職業		事務		販売		農・林・漁業		生産工程採掘作業		運輸・通信・保安・サービス		無職		分類不能		事例数	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
2002年調査（52回）	(120.11)	(208)	(94.58)	(119)	(114.65)	(580)	(69.48)	(79.0)	(72.57)	(46)	(78.89)	(9)	(62.07)	(58)	(72.27)	(51)	(38.10)	(39.0)	(22.50)	(2)	(101.57)	(1197)
全体	119.48	232	95.54	160	114.55	563	64.89	100	55.22	55	67.14	7	51.39	51	56.88	76	48.92	39	43.29	17	97.76	1,300
男子	108.98	156	92.96	123	111.32	433	64.31	81	49.51	43	66.67	3	51.79	48	57.30	61	33.72	29	39.00	14	92.51	991
女子	141.03	76	104.11	37	125.34	130	67.37	19	75.67	12	67.50	4	45.00	3	55.20	15	93.00	10	63.3	3	114.58	309

区分	主たる家計支持者の年収中央値
全体	950
男子	900
女子	1,000

8－7表　世帯年収分布

（無回答を除く）

区分		350万円未満	350万円～450万円未満	450万円～550万円未満	550万円～650万円未満	650万円～750万円未満	750万円～850万円未満	850万円～950万円未満	950万円～1050万円未満	1050万円～1150万円未満	1150万円～1250万円未満	1250万円～1350万円未満	1350万円～1450万円未満	1450万円～1550万円未満	1550万円以上	事例数	
		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
全体		7.0	3.3	4.4	4.8	6.2	8.2	7.0	17.5	5.2	7.9	4.1	3.0	6.6	14.7	1,285	100.0
男子		7.0	3.5	4.9	5.2	7.1	9.2	8.3	16.6	5.3	8.0	4.0	2.5	6.2	12.2	985	76.7
女子		7.0	2.7	2.7	3.7	3.3	5.0	2.7	20.3	5.0	7.3	4.7	4.7	8.0	23.0	300	23.3
男子	自宅	5.0	3.1	3.3	4.5	6.2	7.2	7.2	16.5	5.7	8.6	3.8	3.3	8.9	16.5	418	32.5
	分譲マンション	—	—	—	—	—	—	—	40.0	20.0	20.0	10.0	—	—	10.0	10	0.8
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	5.9	2.7	4.6	4.6	7.1	10.2	9.5	18.8	5.6	7.8	4.6	2.7	4.9	11.0	410	31.9
	アパート（バスなし）	16.7	3.3	10.0	13.3	10.0	13.3	10.0	6.7	—	10.0	—	—	3.3	3.3	30	2.3
	下宿	18.8	—	—	12.5	12.5	12.5	12.5	18.8	—	—	—	—	6.3	6.3	16	1.2
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	30.3	21.2	18.2	6.1	9.1	12.1	3.0	—	—	—	—	—	—	—	33	2.6
	その他の寮	6.7	3.3	6.7	8.3	10.0	15.0	10.0	15.0	3.3	8.3	5.0	—	3.3	5.0	60	4.7
	その他	40.0	—	20.0	—	—	—	20.0	—	—	20.0	—	—	—	—	5	0.4
	無回答	—	—	33.3	—	33.3	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—	3	0.2
女子	自宅	4.5	2.5	3.8	1.9	1.3	3.8	1.9	20.4	6.4	5.1	3.8	7.0	9.6	28.0	157	12.2
	分譲マンション	—	—	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—	66.7	3	0.2
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	6.9	2.0	2.0	3.0	5.0	5.9	3.0	21.8	5.0	11.9	6.9	3.0	5.9	17.8	101	7.9
	アパート（バスなし）	14.3	—	—	14.3	14.3	—	14.3	28.6	—	—	—	—	—	14.3	7	0.5
	下宿	66.7	—	—	—	—	—	—	33.3	—	—	—	—	—	—	3	0.2
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	25.0	—	—	25.0	16.7	8.3	—	16.7	—	—	—	—	—	8.3	12	0.9
	その他の寮	7.1	14.3	—	7.1	—	14.3	7.1	7.1	—	14.3	—	—	21.4	7.1	14	1.1
	その他	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50.0	—	—	50.0	2	0.2
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	1	0.1

8－8表　世帯の職業別にみた年収平均（単位：十万円）

（無回答を除く）

区分	専門的技術的職業		教育的職業		管理的職業		事務		販売		農・林・漁業		生産工程採掘作業		運輸・通信・保安・サービス		無職		分類不能		事例数	
	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
全体	134.03	230	112.52	158	127.82	553	79.85	99	64.45	55	85.00	7	62.90	51	69.16	74	57.41	39	62.37	19	111.35	1,285
男子	117.77	155	109.92	122	124.52	428	78.56	80	60.51	43	101.67	3	63.29	48	70.62	61	41.62	29	58.75	16	105.22	985
女子	167.64	75	121.33	36	139.11	125	85.26	19	78.58	12	72.50	4	56.67	3	62.31	13	103.20	10	81.7	3	131.47	300

区分	世帯年収の中央値
全体	1,000
男子	1,000
女子	1,100

9－1表　支出額（1ヶ月平均、単位：千円）

区分		衣料費		食費		住居費		勉学費		教養・娯楽費		通学費		雑費		支出額合計	
		平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
2002年調査（52回）		(11.31)	(1,175)	(26.50)	(1,345)	(68.40)	(675)	(10.12)	(1,282)	(15.65)	(1,319)	(7.70)	(1,102)	(12.49)	(1,274)	(113.14)	(1,354)
全体		10.71	1,253	26.56	1,444	67.00	790	10.17	1,398	14.99	1,427	7.76	1,165	11.93	1,361	113.93	1,443
男子		9.17	925	27.54	1,095	64.26	626	10.07	1,061	15.27	1,082	7.69	879	11.55	1,031	113.78	1,094
女子		15.04	328	23.47	349	77.47	164	10.50	337	14.12	345	7.97	286	13.11	330	114.40	349
自宅		10.91	562	17.94	640	—	—	10.17	618	15.68	635	10.12	582	9.88	586	72.44	640
自宅外		10.54	691	33.41	804	67.16	771	10.17	780	14.44	792	5.40	583	13.47	775	147.00	803
無回答		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
男子	自宅	8.90	385	17.96	455	—	—	9.90	439	15.79	452	10.13	419	8.94	415	69.75	455
男子	自宅外	9.37	540	34.35	640	64.36	614	10.18	622	14.89	630	5.46	460	13.31	616	145.13	639
男子	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
男子	分譲マンション	18.11	9	41.25	12	30.86	7	17.36	11	15.67	12	8.20	5	23.27	11	129.17	12
男子	賃貸マンション・アパート（バスつき）	9.65	391	36.02	451	73.58	444	10.40	437	15.76	442	5.28	309	14.23	436	159.55	450
男子	アパート（バスなし）	5.37	27	31.76	37	53.92	37	9.33	36	14.03	37	5.32	22	11.72	36	127.27	37
男子	下宿	10.13	15	33.71	21	58.06	16	7.80	20	10.05	20	6.47	17	8.95	21	116.38	21
男子	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	9.08	37	29.18	39	10.18	39	9.39	38	13.28	39	4.43	37	10.84	38	84.92	39
男子	その他の寮	8.17	54	27.11	71	45.69	67	8.42	71	11.82	71	6.25	61	9.01	67	110.55	71
男子	その他	6.60	5	35.83	6	56.00	1	18.67	6	20.00	6	7.67	6	19.25	4	109.83	6
男子	無回答	7.50	2	28.33	3	65.33	3	13.33	3	11.00	3	6.33	3.00	10.67	3	140.00	3
女子	自宅	15.31	177	17.91	185	—	—	10.85	179	15.39	183	10.07	163	12.18	171	79.04	185
女子	自宅外	14.72	151	29.74	164	78.12	157	10.11	158	12.67	162	5.18	123	14.11	159	154.29	164
女子	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
女子	分譲マンション	19.50	4	35.50	4	70.67	3	10.75	4	7.67	3	4.25	4	10.00	3	136.25	4
女子	賃貸マンション・アパート（バスつき）	15.42	108	30.90	115	80.35	112	10.46	112	13.59	115	5.34	77	15.72	113	161.81	115
女子	アパート（バスなし）	10.14	7	26.57	7	174.88	8	7.57	7	11.71	7	3.83	6	11.14	7	261.57	7
女子	下宿	5.00	1	15.33	3	55.00	2	7.33	3	4.33	3	4.67	3	5.67	3	75.67	3
女子	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	8.11	9	23.00	12	9.42	12	8.30	10	10.67	12	4.67	12	9.09	11	69.08	12
女子	その他の寮	16.53	15	30.25	16	73.69	16	10.60	15	11.60	15	5.07	15	11.25	16	156.25	16
女子	その他	11.33	6	28.33	6	63.25	4	8.33	6	10.83	6	7.20	5	10.50	6	117.50	6
女子	無回答	15.00	1	20.00	1	—	—	15.00	1	5.00	1	4.00	1	—	—	59.00	1

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

9－2表　収入額（1ヶ月平均、単位：千円）

区分		家庭からの仕送り・小遣い		奨学金		アルバイト・雑収入		収入額合計	
		平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数	平均値	人数
2002年調査（52回）		(81.63)	(1259)	(53.81)	(297)	(46.66)	(929)	(119.46)	(1,357)
全体		83.46	1,319	57.72	321	43.47	974	117.71	1,451
男子		83.89	1,003	57.80	254	44.68	725	119.19	1,100
女子		82.09	316	57.43	67	39.95	249	113.09	351
自宅		36.90	560	44.94	52	44.69	476	68.93	642
自宅外		117.81	759	60.19	269	42.30	498	156.42	809
無回答		—	—	—	—	—	—	—	—
男子	自宅	35.88	398	45.67	39	45.79	334	68.75	456
	自宅外	115.47	605	60.00	215	43.72	391	154.90	644
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	98.46	13	50.00	1	60.00	7	140.00	12
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	127.21	437	60.83	130	46.25	278	167.45	456
	アパート（バスなし）	101.97	31	69.47	15	35.48	25	137.57	37
	下宿	98.74	19	46.80	5	41.75	12	130.55	20
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	52.96	27	60.31	29	34.33	21	100.00	39
	その他の寮	85.25	69	53.55	33	32.56	43	127.03	71
	その他	60.00	6	50.00	1	62.50	4	110.00	6
	無回答	93.33	3	100.00	1	60.00	1	146.67	3
女子	自宅	39.40	162	42.77	13	42.11	142	69.38	186
	自宅外	127.01	154	60.96	54	37.09	107	162.36	165
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—
	分譲マンション	120.00	3	50.00	1	27.00	2	116.00	4
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	135.90	113	60.37	30	38.25	75	172.47	116
	アパート（バスなし）	129.17	6	99.50	4	33.60	5	191.57	7
	下宿	22.67	3	40.00	2	36.67	3	86.00	3
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	44.29	7	57.50	10	46.33	6	96.92	12
	その他の寮	130.25	16	49.67	6	35.89	9	169.06	16
	その他	115.00	5	80.00	1	19.50	6	128.67	6
	無回答	30.00	1	—	—	50.00	1	80.00	1

※平均値の算出は該当者平均を求めた（無回答を除く）

10－1表　現在の居住地

区分		足立区 葛飾区 荒川区	江戸川区 江東区 墨田区	台東区 文京区 豊島区	千代田区 中央区 港区	板橋区 練馬区 北区	中野区 杉並区 新宿区	世田谷区 渋谷区 目黒区	品川区 大田区	東京都 (23区外)	横浜市	川崎市	神奈川県	さいたま 川口 蕨の各市	埼玉県	千葉 船橋 市川 習志野 の各市	千葉県	その他	無回答	事例数	
2002年調査		%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)		(2.1)	(1.3)	(16.5)	(1.4)	(8.5)	(10.5)	(15.0)	(1.9)	(14.8)	(7.6)	(3.8)	(3.2)	(2.4)	(4.2)	(3.2)	(2.8)	(0.8)	(0.1)	1,395	(100.0)
全体		2.7	1.5	17.2	1.5	7.5	10.7	14.3	2.3	16.5	7.5	2.9	3.3	1.5	3.0	3.2	3.3	1.1	0.1	1,501	100.0
男子		3.2	1.1	17.3	1.2	7.8	10.7	14.4	1.8	16.7	7.1	3.0	3.2	1.8	3.3	3.1	3.3	0.9	0.1	1,142	76.1
女子		1.4	2.5	16.7	2.2	6.4	10.9	13.9	3.6	15.6	8.9	2.8	3.6	0.8	1.9	3.6	3.1	1.9	—	359	23.9
自宅		1.5	2.4	4.6	1.5	4.1	6.5	7.4	4.0	16.7	14.5	4.4	7.4	2.7	6.4	6.8	6.8	2.5	—	677	45.1
自宅外		3.8	0.7	27.5	1.5	10.2	14.2	19.9	0.8	16.3	1.8	1.7	—	0.6	0.2	0.2	0.4	—	0.1	824	54.9
無回答		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
男子	自宅	1.2	1.9	4.5	1.4	4.1	5.8	7.0	3.3	16.5	14.2	5.2	7.6	3.1	7.6	7.0	7.4	2.1	—	485	32.3
	自宅外	4.6	0.6	26.8	1.1	10.5	14.3	19.8	0.8	16.9	1.8	1.4	—	0.8	0.2	0.2	0.3	—	0.2	657	43.8
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
女子	自宅	2.1	3.6	4.7	1.6	4.2	8.3	8.3	5.7	17.2	15.1	2.6	6.8	1.6	3.1	6.3	5.2	3.6	—	192	12.8
	自宅外	0.6	1.2	30.5	3.0	9.0	13.8	20.4	1.2	13.8	1.8	3.0	—	—	0.6	0.6	0.6	—	—	167	11.1
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
前期課程	自宅	1.4	2.0	4.0	1.7	4.9	5.2	6.9	3.2	16.4	18.7	4.6	8.1	2.3	5.5	7.2	6.1	1.7	—	347	23.1
	自宅外	—	0.5	9.9	1.0	2.8	22.0	28.4	1.3	27.3	3.3	2.5	—	0.3	0.3	0.3	—	—	0.3	395	26.3
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
後期課程	自宅	1.5	2.7	5.2	1.2	3.3	7.9	7.9	4.8	17.0	10.0	4.2	6.7	3.0	7.3	6.4	7.6	3.3	—	330	22.0
	自宅外	7.2	0.9	43.8	1.9	17.0	7.0	12.1	0.5	6.1	0.5	0.9	—	0.9	0.2	0.2	0.7	—	—	429	28.6
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

10－2表　現在の住居区分

（自宅外のみ）

区分		分譲マンション	賃貸マンション・アパート（バスつき）	アパート（バスなし）	下宿	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	その他の寮	その他	無回答	事例数	
2002年調査（52回）		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
		(3.3)	(72.8)	(5.4)	(3.7)	(4.4)	(8.4)	(1.7)	(0.3)	(725)	(100.0)
全体		2.1	70.6	5.5	2.9	6.2	10.8	1.5	0.5	824	100.0
男子		2.0	70.8	5.6	3.2	5.9	11.1	0.9	0.5	657	79.7
女子		2.4	70.1	4.8	1.8	7.2	9.6	3.6	0.6	167	20.3
男子	前期課程	—	63.2	6.3	3.2	10.2	15.9	0.6	0.6	315	38.2
	後期課程	3.8	77.8	5.0	3.2	2.0	6.7	1.2	0.3	342	41.5
女子	前期課程	3.8	58.8	6.3	2.5	11.3	12.5	3.8	1.3	80	9.7
	後期課程	1.1	80.5	3.4	1.1	3.4	6.9	3.4	—	87	10.6
男子	文科系	1.8	74.4	6.0	3.2	6.0	7.7	0.7	0.4	285	34.6
	理科系	2.2	68.0	5.4	3.2	5.9	13.7	1.1	0.5	372	45.1
女子	文科系	3.6	68.2	3.6	0.9	8.2	10.9	3.6	0.9	110	13.3
	理科系	—	73.7	7.0	3.5	5.3	7.0	3.5	—	57	6.9

10－3表　通学に利用している交通機関

区分		電車	バス	自家用車	バイク	自転車	徒歩のみ	その他	無回答	事例数	
2002年調査（52回）		%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
		(77.5)	(0.2)	(0.1)	(2.0)	(16.4)	(1.9)	(0.1)	(1.7)	(1,395)	(100.0)
全体		77.5	0.3	0.2	1.1	16.5	4.3	0.1	—	1,501	100.0
男子		76.1	0.4	0.3	1.5	18.0	3.9	—	—	1,142	76.1
女子		81.9	0.3	—	—	12.0	5.6	0.3	—	359	23.9
男子	前期課程	85.6	0.4	0.2	0.4	10.5	3.0	—	—	562	37.4
	後期課程	66.9	0.3	0.3	2.6	25.2	4.7	—	—	580	38.6
女子	前期課程	92.8	0.6	—	—	2.2	4.4	—	—	180	12.0
	後期課程	70.9	—	—	—	21.8	6.7	0.6	—	179	11.9

10－4表　通学所要時間

区分		平均時間	事例数
2002年調査（52回）		分	人
		(49.0)	(1,395)
全体		48.7	1,499
男子		48.2	1,140
女子		50.3	359
自宅		69.0	676
自宅外		32.1	823
男子	自宅	70.1	484
	自宅外	32.1	656
女子	自宅	66.3	192
	自宅外	31.9	167

片道、単位：分

11－1表　奨学金を受けていますか

区　　分	受けている	受けたいが受けられなかった	受けたくない	受ける必要がない	無回答	事　例　数	
2002年調査	%	%	%	%	%	人	%
(52回)	(21.7)	(14.8)	(4.9)	(57.1)	(1.4)	(1,395)	(100.0)
全　　体	21.9	15.1	6.2	54.6	2.1	1,501	100.0
男　　子	22.9	15.8	6.9	52.3	2.0	1,142	76.1
女　　子	18.7	12.8	3.9	62.1	2.5	359	23.9

11－2表　「奨学金を受けたいが受けられなかった」又は「奨学金を受けたくない」と答えた理由

区　　分	事務手続が煩雑だから	掲示等に気がつかなかった	書類を期限までに整えられなかった	出願はしたが採用されなかった	貸与なので申請しなかった	資格がない	その他	無回答	事　例　数	
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)	(10.5)	(13.0)	(4.3)	(21.4)	(25.7)	(22.5)	(2.5)	(—)	(276)	(100.0)
全　　体	17.5	10.9	4.4	14.1	28.8	20.9	3.1	0.3	320	100.0
男　　子	18.5	10.4	4.6	14.6	29.6	18.8	3.1	0.4	260	81.3
女　　子	13.3	13.3	3.3	11.7	25.0	30.0	3.3	—	60	18.8

11－3表　受領している奨学金の内訳

区　　分	日本育英会第一種奨学金	日本育英会第二種奨学金・きぼう21プラン奨学金	日本育英会第一種と二種の併用又はきぼう21プラン奨学金の併用	育英会と財団・地方公共団体の併用	財団・地方公共団体等の奨学金	無回答	事　例　数	
2002年調査	%	%	%	%	%	%	人	%
(52回)	(35.6)	(31.4)	(4.6)	(9.2)	(18.8)	(0.3)	(303)	(100.0)
全　　体	32.2	30.4	5.2	15.2	15.2	1.8	329	100.0
男　　子	34.4	30.2	5.0	15.6	13.0	1.9	262	79.6
女　　子	23.9	31.3	6.0	13.4	23.9	1.5	67	20.4

11－4表　奨学金はどんな面で役立っていますか

（2つまで選択）

区　　分	家庭の経済的負担が軽減される	多少ともゆとりのある生活ができる	アルバイトが軽減される	奨学金があるので生活が成り立っている	定期的な収入があるので助かる	その他	無回答	事例数
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	人
(52回)	(77.6)	(34.0)	(17.5)	(32.0)	(19.8)	(3.0)	(0.3)	(303)
全　　体	79.6	25.2	21.3	41.3	13.7	0.6	1.8	329
男　　子	79.8	26.7	21.8	40.8	14.1	0.4	1.9	262
女　　子	79.1	19.4	19.4	43.3	11.9	1.5	1.5	67

11－5表　奨学金の主たる支出目的（用途）

（3つまで選択）

区　　分	生活費(衣･食･住居費)	授業料	勉学費	教養・娯楽費	旅行(帰省旅行も含む)	技術・資格等取得の費用	耐久消費財購入費用	貯　金	その他	無回答	事例数
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
(52回)	(77.9)	(30.0)	(61.7)	(49.2)	(9.9)	(6.3)	(9.2)	(14.5)	(2.0)	(0.3)	(303)
全　　体	78.1	35.3	55.6	40.4	5.8	5.5	3.6	14.3	2.4	1.8	329
男　　子	77.5	38.2	57.6	37.0	6.1	3.8	3.4	14.5	1.9	1.9	262
女　　子	80.6	23.9	47.8	53.7	4.5	11.9	4.5	13.4	4.5	1.5	67

12－1表　過去一年間にアルバイトをしましたか

区分		継続的(1ヶ月以上)アルバイトをした	臨時的(1ヶ月未満)アルバイトをした	継続的＋臨時的アルバイトをした	しなかった	無回答	事例数	
2002年調査(52回)		%	%	%	%	%	人	%
		(53.9)	(10.1)	(15.4)	(20.3)	(0.3)	(1,395)	(100.0)
全体		50.8	9.5	15.7	23.2	0.8	1,501	100.0
男子		49.7	9.8	14.7	24.9	0.9	1,142	76.1
女子		54.3	8.6	18.7	17.8	0.6	359	23.9
男子	前期課程	48.4	10.7	13.2	27.2	0.5	562	37.4
	後期課程	51.0	9.0	16.2	22.6	1.2	580	38.6
女子	前期課程	49.4	8.9	20.0	21.1	0.6	180	12.0
	後期課程	59.2	8.4	17.3	14.5	0.6	179	11.9
男子	自宅	56.5	7.4	14.8	20.2	1.0	485	32.3
	分譲マンション	53.8	7.7	15.4	23.1	—	13	0.9
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	48.0	9.0	15.1	27.1	0.9	465	31.0
	アパート（バスなし）	35.1	21.6	18.9	24.3	—	37	2.5
	下宿	47.6	14.3	9.5	28.6	—	21	1.4
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	38.5	23.1	7.7	30.8	—	39	2.6
	その他の寮	31.5	17.8	15.1	34.2	1.4	73	4.9
	その他	33.3	—	16.7	50.0	—	6	0.4
	無回答	33.3	—	—	66.7	—	3	0.2
女子	自宅	55.2	7.8	18.8	17.2	1.0	192	12.8
	分譲マンション	25.0	—	25.0	50.0	—	4	0.3
	賃貸マンション・アパート（バスつき）	55.6	9.4	19.7	15.4	—	117	7.8
	アパート（バスなし）	62.5	—	12.5	25.0	—	8	0.5
	下宿	66.7	—	33.3	—	—	3	0.2
	東大学寮・三鷹国際学生宿舎	33.3	—	16.7	50.0	—	12	0.8
	その他の寮	37.5	31.3	12.5	18.8	—	16	1.1
	その他	83.3	—	16.7	—	—	6	0.4
	無回答	100.0	—	—	—	—	1	0.1

12－2表　アルバイトの種類

（2つまで選択）

区分	家庭教師	塾講師	試験監督・採点	特殊技術を要すること	一般事務	販売・セールス・サービス業	肉体労働	宿直・警備	その他	無回答	事例数
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
(52回)	(50.3)	(29.6)	(11.1)	(6.9)	(8.7)	(25.5)	(11.6)	(1.7)	(6.8)	0.1	(1,108)
全体	47.1	31.2	10.3	5.6	10.3	27.0	12.9	1.2	5.0	0.4	1,141
男子	43.0	33.1	10.5	6.1	9.0	26.1	15.9	1.5	4.8	0.5	848
女子	58.7	25.6	9.9	4.1	14.0	29.7	4.1	0.3	5.5	0.3	293

12－3表　アルバイト所要時間と収入金額

区分	アルバイト所要時間		アルバイト収入金額	
	1週間当りの平均時間	人数	1ヶ月当りの平均収入	人数
2002年調査	時間	人	千円	人
(52回)	(11.37)	(1,108)	(47.77)	(1,108)
全体	11.39	1,141	45.81	1,141
男子	11.80	848	47.28	848
女子	10.22	293	41.53	293

12－4表　アルバイトの紹介者

（2つまで選択）

区　　分	大学の担当事務	大学の研究室	内外学生センター	新聞広告・アルバイト広告誌	インターネットで	友人・知人等	アルバイト先と直接	スーパー・銀行等の伝言板	その他	無回答	事例数
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
（52回）	（10.6）	（1.5）	（7.9）	（27.8）	（13.6）	（43.1）	（30.7）	（1.9）	（5.9）	（0.5）	（1,108）
全　　体	9.9	0.9	7.5	24.5	16.9	42.9	30.1	1.1	5.1	0.5	1,141
男　　子	10.8	0.7	7.2	24.9	17.1	43.4	27.8	0.9	4.8	0.4	848
女　　子	7.2	1.4	8.5	23.2	16.4	41.3	36.9	1.4	5.8	1.0	293

12－5表　アルバイトの目的

区　　分	家庭の経済的負担を軽減するため	学生生活を楽しむため	社会経験のため	その他	無回答	事　例　数	
2002年調査	%	%	%	%	%	人	%
（52回）	（26.6）	（42.9）	（25.4）	（4.7）	（0.5）	（1,108）	（100.0）
全　　体	28.0	38.2	28.8	4.5	0.4	1,141	100.0
男　　子	28.8	38.0	28.9	4.0	0.4	848	74.3
女　　子	25.9	38.9	28.7	5.8	0.7	293	25.7

12－6表　アルバイト収入の主たる使途

（2つまで選択）

区　　分	生活費（衣･食･住居費）	授業料	勉学費	教養・娯楽費	旅行（帰省旅行も含む）	技術・資格等取得の費用	耐久消費財購入費用	貯　金	その他	無回答	事例数
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	人
（52回）	（52.6）	（2.2）	（12.3）	（68.7）	（21.5）	（2.3）	（3.8）	（22.2）	（1.2）	（0.4）	（1,108）
全　　体	53.1	2.6	12.2	69.5	18.2	1.9	3.9	21.3	1.1	0.4	1,141
男　　子	54.1	3.2	13.0	69.6	15.8	1.7	4.7	20.8	0.8	0.4	848
女　　子	50.2	1.0	9.9	69.3	25.3	2.7	1.7	22.9	1.7	0.3	293

12－7表　継続的アルバイトは勉強の妨げになりませんでしたか

区　　分	かなり妨げになった	多少妨げになった	妨げにならなかった	無回答	事例数	
2002年調査	%	%	%	%	人	%
（52回）	（8.2）	（46.5）	（42.0）	（3.3）	（967）	（100.0）
全　　体	8.5	44.6	43.1	3.8	998	100.0
男　　子	9.9	43.8	42.9	3.4	736	73.7
女　　子	4.6	46.9	43.5	5.0	262	26.3

12－8表　現在の暮らし向きについてどうお考えですか

区　　分	かなり楽な方	やや楽な方	普　通	やや苦しい方	大変苦しい方	分からない	無回答	事　例　数	
2002年調査	%	%	%	%	%	%	%	人	%
（52回）	（22.7）	（20.4）	（37.3）	（15.0）	（3.4）	（0.7）	（0.5）	（1,395）	（100.0）
全　　体	21.7	19.0	37.6	16.4	3.0	1.1	1.3	1,501	100.0
男　　子	19.2	19.0	38.0	17.8	3.3	1.3	1.4	1,142	76.1
女　　子	29.8	18.9	36.2	12.0	1.9	0.3	0.8	359	23.9

具体的記述（抜粋）その1

日本の教育の現状と、これから向うべき方向について

〔文一男子〕

○　①小・中学校までの極めて緩慢な授業進度に比べて、高校の授業進度が速すぎる。これは小・中・高で学ぶべき学科内容の配分がうまく行われていないために生じている。もうすこし、小・中学校で学ぶべき内容を増やし、高校で急に進度が速くならないように段階的進度加速を行い、スムーズに高校までの学科内容の履修を行えるように工夫すべきである。

②教師を国の名誉職にして、我が国の最優秀の人材を小・中・高に送り込むべきである。今の我が国の教育の現状は、最も教育者として相応しくない人々が教育者になって、国の宝である児童を腐らせているという有様である。

○　教育は国の発展に欠かせない重要なものであるはずなのに、今の日本ではあまりにも軽視されていると思います。特に義務教育の質の低下は危機的状況にあります。教員が言うことを聞かない児童を叩くだけで体罰になる、といった風潮には疑問を感じます。理性が確立していない子供に言葉で説得するのには限界があるのではないでしょうか。そもそもしつけは親のすべきことであるのに、学校任せにしている親が多いのも問題だと思います。義務教育期間は子供が色々な意味で一番成長する年代なので、「鉄は熱いうちに打て」の精神で厳しく指導していくべき。

○・学校に求めるものが多くなりすぎです。

・まだ周囲への害が少なく論すことで反省できる小学校くらいの年齢のときに体験が豊富でないと力の加減を知らないまま大きくなってしまうよ。

・僕が小・中・高とやってきた中で知識偏重が多いとか別に感じなかったので（十分自分で考える時間がある（学校外で））内容削減は疑問。

・予備校でできることを学校でやっても仕方がないと思います。私の高校ではほとんど受験指導はなかった。（でも合格できるぐらいの力はついた）

○　小手先の教育改革やカリキュラム変更に固執するあまり、学問人にとって最も重要で、学問への情熱の土台となるべき価値基準の育成・教育を疎かにしてしまっているのが現状だと思う。もちろん、価値基準を絶対化し、学校で強制するのは愚行以外の何ものでもないが、現状の生徒の過放任は問題がありすぎる。人間が論理的思考をするにせよ、情熱的感性を働かせるにせよ、自らの社会の中で祖先から受けつがれてきた英知＝伝統を土台にしたうえで、それらははじめて可能になる。だから、小・中学生などの精神的に未熟な時期には伝統・道徳教育を中心とし、高校・大学生の時期にこそ、自己のアイデンティティや価値基準を相対化させる教育を重視していくべきだと私は考える。

○　大学入試が厳しいものである以上、それに対する中高での勉強のあり方は厳しいものになる。最近の大学生、特に東大生などを見ていると、中高のころに勉強ばかりしすぎたためか、人間性に欠かんが見られる学生が少なからず見られる。それは、入試にうかるために、他人をけ落としてはい上がってきたことを考えればわからないこともない。しかし、このように人間味を欠いた人物が教授や官僚になると思うと、疑問を感じざるをえない。よって、日本の教育はもっと人間性をやしなうように向かっていく必要があり、そのような教育を可能にするためには現行の大学入試制度を改める必要がある。

○　良い意味でも悪い意味でも差別化すべきです。個性を伸ばすのは重要です。その前提として自分の得意なこと、不得意なことを明確にする必要があります。つめ込み式の教育の弊害は多いのかもしれませんが、できる子とできない子に分けて初めて個性が見えると思えます。早期から劣等感・優越感を自覚させ、それに対処するように教育させることが必要です。ゆとり教育において、子供の劣性を隠し、社会に出るときになって、その劣性を自覚させるのは危険だと思います。

〔文一女子〕

○　私は国立中学、高校に通い、非常に恵まれた教育を受けることができた。たとえば、選択学習におけるレポート作成や、文系選択にも理科４科目（地学、生物、物理、化学）を必修とするカリキュラムなどである。これにより多様な分野に関心を抱くことができ、人間的に成長できた。しかし、公立中学、高校の現状はあまりにもお粗末である。教員の質を上げ、平等にすばらしい教育を受ける機会を作るべきである。

○　現在の教育は細分化が進みすぎて「専門には詳しいけれども専門外については近所の主婦以下」という人も散見されます。テレビ、雑誌など手軽なメディアでも情報が手に入る時代なので専門外のことにも目が向けられるような教育が望まれると思います。視野の広さにもつながるし、個性を認めやすくもなるでしょう。大学に通う人間は文章に表現手段を頼りがち（発信としても、受信としても）だけれども自分が直接体感して得られるものの大きさを忘れないでいきたいと思います。具体的にはアルバイト（家庭教師や塾講師ではなく）や専門学校との交流でしょうか。

〔文二男子〕

○　偏差値教育や知識偏重型の教育が非難され、その反省から昨今のゆとり教育が行われるに至っているようだが、学力低下は国の衰退を早めるだけであると思うので、教育に競争の原理を持ち込むことは、無気力、無関心な子供が多い現在ではある程度必要なことのように思う。競争により敗れてしまった子供に対しても、

意欲を失わないために、選択肢を増やし、専門特化した教育を提供できるようにしなければならない。無目的な教育は非難されるべきだが、社会においては競争は当然の事なので、学習意欲につながる競争を模索すべき。

○　日本の教育の現状は「大多数のできない子・ふつうの子を置きざりにして少数のエリートを育てる」方向に向かっていると思う。それは日本が世界との競争にサバイバルするために必要な国策なのだろうが、教育の本来の目的からはずれているものだ。向かうべき方向はわからないが、今の方向性は歪んでいると思う。

○　例えば、法学や経済学で、思想や哲学が重視されなくなってきている。その様な実学偏重主義では、底というものが見えてくるので、思想や哲学を重視するべきであり、それらが諸科学の根本にくる事を教えるべきである。

○　現行の教育は基礎を疎かにしすぎている。「考える力」なんてものは、子供には必要ない。若いうちはとにかく、知識を吸収すべき。「考える力」はあとからいくらでも学べるけど、基礎知識は記憶力のいい若いときに覚えるのが効果的だし、そうしないと後で苦労することになるから。そもそも、その基礎知識を学ぶ過程で考えるという能力は十分とはいえないまでも身につくであろう。先人達の思考を辿ったり、あるいはそれに批判を加えたりと、要は何らかの能動的働きかけをしながら記憶してゆけばよいのであって、いわゆる「丸暗記」が問題視されるのは、そういった働きかけが欠如しているからだと思う。しかし、その丸暗記にしても子供にとっては必要なものである。頭が空っぽの子供を「尊重する」などといって持ち上げるのは、聞こえはいいが、結局は子供のためにならない。子供には知識をつめこみ、時には考えを踏みにじるのがちょうどいい。

○　公立の学校の小・中・高と通っていたのですが、小・中の教師の質が悪かったと思います。内容を減らすよりも教師の質を高め、授業を工夫し、生徒が興味を持って学習できるような環境を整えることが必要です。

○　さして勉強しなくても卒業し、学歴を手に入れられると思う。そして、このことが学歴の無意味化、資格の重視につながっていると思う。だから、学歴が意味を持つような体制にして欲しい。今のままでは大学での勉強にあまり意味を感じなくなってしまうと思う。特に東京大学は大学のリーダーとして研究だけでなく、人材育成にも力を入れるべきだと思う。

〔文二女子〕

○　公立高と私立高のレベルの差があまりに大きい。公立は文科省の指導通りの教育を求められるので、受験に的を絞った私立高にはかなわない。私立高は授業料が高いので、経済的に余裕がないと通えない。また、都市と地方の格差も大きい。都市には進学塾：大手予備校があり、超進学校に通いながら塾・予備校にも行っている高校生が多い。地方は塾も予備校もないので、都市に比べて不利だと思う。私は公立高を出て、1年、隣県の大手予備校に通ったが、予備校と高校のレベルの差にガクゼンとした。予備校に通う金を親が出してくれた分、私はまだ恵まれていたが。結局、今の教育制度では、都市のエリートの子供がエリートになるようなものだ。

○　学生に対して甘い。授業に出なくても単位が来る、テストの点数でのみ評価する体制は好ましくない。受け身の教育より、生徒がもっと積極的に参加できる教育をすべきだと思う。

〔文三男子〕

○　日本の教育は効率が悪い。効率が悪いのに、学力を上げようとして量を多くしているので余裕がなく、楽しく勉強できない。ゆとり教育といって量を減らしたため学力が低下してしまい問題になったが、効率を上げてゆとりをつくるべきだった。教育の質では、英語が特に問題である。これだけ勉強させても英語を話せる人が少ないのは教育のやり方に問題がある。これらの問題は教師に問題があるために起こる。また、教育改革を大学の先生にまかせるのも問題である。日本の高校生の学力は世界トップレベルなのに、大学生の学力が世界に劣るのは、大学教育に問題があるはずなのに、大学の先生は自分の誤りを認めず、小中高に責任を押しつけるからである。

○　小学校で教えこむ思想が古すぎるため、全てに悪影響を及ぼしている。おそらく、小学校教師の世間離れ・マネジメント能力の低さ・近代的思考が根底にあるのだろう。今後は（現実にはとっくに）、“クリエーター”の養成が急務である。createには人との“違い”が必要で、人との“違い”は体験の違い、特に教育の違いが大きく関係する。そのために義務教育を縮小しゆとり教育を推進し、その代わり、学習費の公的な補助を行うのがよいと考える。つまり、多様な選択肢を持たせるためにカルチャースクールのような民間教育機関に重心をうつすのである。

○　システムの問題で言うと、初等・中等教育と高等教育、職業教育のつながりがあまり考えられずに政策が決められているかなと思うことです。大学や産業界で求められている知識や技能と初中等教育の内容が離れている部分があります。教育が社会のシステムの一部という考え方が求められていると思います。また、学びに対するインセンティブをもう一度考え直すことも大切です。

もう一つは安易に子どものこと、家庭のこと、教育のことが語られ、陳腐な言説が流布していることです。

現実のデータに基づき、抽象的な言葉（「地域社会」や「連携」、「家庭の教育力」「凶悪化」など）をもっと具体的に扱うことが求められているのではないでしょうか。

〔文三女子〕

○　初・中等教育の場では、生徒に対する人権侵害（特にいじめや不登校・性差別的教師の振舞い）が横行しているのでそれを厳しく取締まるべきであると思う。これは高等教育においてもそれほど変わらないと思うので、もっとジェンダーフリーで生徒の教育を受ける権利を尊重するような教育を目指すべきだと思う。また、ナショナリズムや攻撃的ステレオタイプを押しつけるような教育は断じて避けるべきであり、柔軟な思考をのばすような教育が望ましいと思う。

○　これからの教育は「日本」にとどまらないものになっていくべきであると思う。海外からの留学生の受け入れや、語学の授業の充実をはかるべきだ。また障害者への教育ももっと施設の改善などをして、広く行われるべきであろう。

　学力低下と言われているが、今はその手段ばかりに目がいっているように思える。何を目的にするのか、学力とは何なのか考えることが必要だと思う。

〔理一男子〕

○　これといって対策をどうしろと言うわけではありませんが、自分も含め、日本に暮らしていて、政治的関心や国際情勢への興味が自ずと湧くかと言われると、否というのが現状ではないでしょうか。この歳になって自分がいかに社会に疎い人間かを思い知らされ、何とか追い付こうと努力せねばならないと気付きました。義務教育の中に、ホットなニュースを取り入れてほしいです。

○　学校単位やクラス単位で、まとまって一つの事に対して行動する力を養成する必要があると思います。中高６年間を通して、集団で行動する力の大きさを感じました。また、その集団をまとめ、力をより増大させる力を育てるリーダーシップ論のようなものも教育として必要だと思います。

○　ゆとり教育は止めた方が良いと思う。学力低下により素晴らしい人材が育たなく可能性があり、才能のある人が才能に気づかずに埋もれてしまう可能性がある。みんなに難しい事を学ぶ機会を与えて、逸材の育ちやすいより良い環境を作れば、将来人類に貢献できる研究等も増えるだろう。また、学力には人それぞれ違いや向き不向きがあるので小学校高学年頃から学力別にクラス編成してもよいと思う。

○　大学という学問の場は、小中高の様な「教育」の場ではないということを社会全体の認識として確立するべきである。つまり、大学とは「教え育てる」場ではまったく無く、「学び育つ」場であるということを誰もが認識している状態に至らせることが必要である。

　大学に入学してしばらくすれば、確信することではあるが、多数の人達の意識としては、大学は教育の場であるというものが根強いのが現状ではないでしょうか。

○　社会は教育されている人のみを必要としているわけではない。教育を受けていない人も重要な社会の構成員である。皆が均一に教育される必要性などはない。どのような人間にも上下がある訳だから平等を必要以上に説かなくても良い。

　点数では能力を計れない、という言葉があるが、少なくとも言われた通りのことを行う能力は計れる。

　現在の教育が間違っている訳ではなく教員の力不足。

○　悲惨。かもしれない。大学の授業自体は選択の幅が広く、良い授業を選べばよいのだが、小、中、高の教育が年々悪化していると思う。（弟の授業参観で、そう思った）僕のときもそういう風潮があったが、一番分かってない子に全てを合わせたり、授業を乱す子の注意で精一杯で、授業がろくに進まない、なんてことが多かった。別に功利主義を唱えるつもりはないけれど、これでは大半の子供が望ましい教育を受けられない。だから、能力別にして、自分で勉強を積極的に出来る子には、わざわざつまらない課題を出さず、なかなか授業についていけない子には、最大限のフォローをし、一人一人が望ましい教育を受けられるようにすべきだと思う。

○・学習塾等にうばわれてしまった「勉強をする場・環境」を学校にとりもどしてほしい。
　・金持ちと一般庶民、中央・都市部出身者と地方出身者の二重の二極分化を解決すべく、一般庶民で地方出身者に対する援助が必要である。
　・易しくあいまいな教育よりも、難かしくても正確・正当な教育をしてほしい。

○　日本の現状を見るに、国民の国家、政治、社会に関する関心、認識の低さが目立っています。これは、現代の国際交流の活発化（国家、非国家に関わらず）の流れの中、大変重要な問題となります。

　教育は国家の根幹でありますので、この点について改善すべきで、しかも改善可能な部分があるはずです。具体的に言えば、単純に、公民分野の授業を拡充するなどでもいいと思います。私の高校時代のエピソードですが、雑談や話が中国のことになったとき、私が「中国は共産主義だから・・・」といった発言をしたら、その場の３／４の生徒から驚きや、“知らなかった”の声が聞かれ困惑しました。

　これは充分に危機的な状況であると言えるでしょう。これからの教育は、個個人が社会、政治に対し、意見をしっかり持ち、主体的判断ができるような真の

国民となれるような教育であることを望みます。

○　ゆとり教育とか言っているが、自分で考えるにはそれなりの知識（技術・方法）が必要。義務教育の年頃はまだ自分から先に進むのは難しいだろうから、義務教育としてできるだけ多くの道を提示してあげるのが良いと思う。完全週休２日制のしわ寄せが平日に来て、教員も生徒も以前より疲れているのではないか。自分で考えるのは高校で重点的にするようにし、義務教育はより多くの考え方を提示され触れることができるようにすべきと考える。前の学習指導要領で十分にゆとりはある（今から考えてみると）。あとは教師の質の問題だろう。考え方さえ良ければ勉強する気になる。ただ、躾の面に関しては質の落ちた、道徳面等に問題がある親側の問題であるが。

○　私のような若輩者が言えることはないと思うのですが・・・。勉強を楽しいと思えなければどれだけ内容を減らしてもゆとりは生まれず、詰め込み教育であり続けるでしょう。逆に楽しければどれだけ量や内容が増えても（というと誇張しすぎですが）詰め込みにはならないでしょう。学ぶことに対して何故そうなるのかや何故それでいいのか等疑問を自然ともち、それに答えられる授業を初等教育から行うことが重要だと思います。

　あと、学校には学力以外（しつけ・道徳等）は求めてはならないと親が自覚すべきだと思います。教育とは適した場、適した者が行われなければならない、と。

○　まず、短期で成果をあげようとすべきではないと思う。義務教育は特に人格形成の重要な要素となるから、短期の成果を求めること自体間違いである。それなのに大人たちが早急な成果を求め、それに失敗してうろたえると、それを見た子どもたちに大きな不安を与えてしまう。従って急激な変化を行わず、（良い意味で）現世代、つまり“失われた10年”世代の完全な更生は諦め、長期的に少しずつ修正していくべきであると思う。もちろん更生を諦めたことは現世代に知られてはならない。大人は子どもの心が見た目よりずっと繊細で未成熟で傷つき易いことに留意すべきである。

○　得てして東大に入ってくる学生は、いわゆる“受験勉強”ができる人間であり、それは社会に出て役立つ能力とは全く違うものだと思います。研究者になるならまだしも、社会には色々な職業があり、それぞれの適性は違うわけですから、研究だけでなく幅広い能力開発をできるようにする授業・教育が必要だと思います。そのためには、教授の授業だけでなく、企業人の授業や企業訪問といった形、またはアルバイト的な形で実際仕事をする等の経験をつませてくれるような授業等があったらいいと思います。

○　いじめとか自殺とかでゆとり、ゆとりと言ってきた反動でまたつめこみに走っていくような気がします。自発的にやる気を出させることが必要であると思います。どうしたらいいかはよく分かりませんが、僕が常々思っているのは、今自分が頑張っている（少なくてもそのつもり）のは、将来楽するためではなく、将来より高いレベルで頑張るためであるということ。今10才くらいの人にも、高いレベルで活躍する大人の姿をみせるべきだと思います。

○　理科系の授業が中学、高校、大学へとあまりうまく連動されていないように感じます。例えば、中学や高校で「複素数」や「ベクトル」を教える際に、それらがどのような分野の研究などで活用されているか、そういったことを学生達に伝えていくのもまた教育だと思います。

〔理一女子〕

○　中学や高校での多少つめこみ主義的な勉強は、応用を学ぶ上での基礎になり、応用的な事を学んでいくうちに勉強が楽しくなってくる、という考えです。中高生のときにはつらいと思ったのですが、今は必要なことだったと思っています。

　ですから、ゆとり教育で知識の量を減らすより、子どもたちに「今の教育は必ずむくわれる」という事を知ってもらって、つらい時期にがんばってたえてほしいです。

〔理二男子〕

○　大学は大学院重点化でもっとダメになる。「学問の自由」だとか「大学は自分で勉強するところ」などという屁理屈をやめる。受験戦争だとか何だとか言うが、どうせ世の中は競争だらけの地獄なんだから、大学でもペーパー試験なりレポートなり何でも使ってガンガン競争をやればいい。順位を張り出して優秀者には表彰をやって「大学院受験戦争」を過熱させればいい。教養学部なんてただの受験予備校と化しても構わない。不公平でデタラメな進振り制度なんかよりも、わかりやすい目標を持って競争をして、自分の進学先を勝ち取る方がましだ。一番ひどいのは、目に見えない所で競争原理が働いていて、知らぬ間に自分だけ取り残されていたことに後で気がついて絶望することだ。

○　家庭教師をしていて思うことは、公立校の教育の悪さです。自分も公立の中・高を卒業していますが、勉強は塾・予備校頼りでした。私立のすべてが良い教育をしているわけではないらしいですが、これでは貧富の差が学力に影響する社会となってしまうでしょう。（もうなっているのかもしれません。）学費の安い国公立校・大学の教育の充実と奨学金制度の充実が必要だと思います。（共産主義ではありません）

○　生徒が自主的に授業以外で勉強をするかどうかは、特に小中学校の段階では、授業を担当する教師の腕にかかっている。そして、この時期に子供の勉強への好

き嫌いはほとんど決まってしまう。それほど大きな役割をもつ小中学校の教員の資格が、高校などに比べて一方的に取りやすい、というのはどうしてだろうか。教員が有すべき知識の違いからであろうか。しかし、教員の質というのは知識の量などではない。知識そのものはただの種であって、与えられた種は自分で考えて初めて実となる。種の育て方を知らない子供が実を得るには、種まきが上手くなくてはならない。小中学校の教師には特に、教え方のうまさが求められるはずだ。これを資格を得る条件として強調するべきだ。いくら時間があっても、つまらない授業でまかれた種を学童は育てようとはしないのだから。

○　これからもものすごい速さで知識が生みだされて、各分野の専門家が進むと思う。だから、情報の取捨選択のしかたと、最低限必要な知識を教えるべき。それから、勉強を教えるという意味では、つめこみでなくその学問が好きになるようにしむけるべき。好きなものなら自分で勉強するし覚えも速い。そういった意味では、はっきり言って授業がつまらない教師は存在価値がないので事務にでもまわした方がいい。また、細かい話をすると理系の学生は物理・生物・化学・地学全て学ばないとダメ。歴史の授業も、原人の話なんかしてるヒマがあったら、現代史や日本が他国にどう思われてるかなどを教えた方がいい。

○　とりあえず駒場の２年間はかなりムダ。もう少し専門的なことをやってもよいと思う。特に進振りは点取りゲームなので要領のよい人が点を取るのであまりおもしろくない。

　また、例えば90点以上をとって医進をするような人物が臨床医に向いているとは（その人達を見ると一部は）全く思えない。適性がないと思う。もう少し見直した方がよいのでは？

〔理二女子〕

○　総合的な学習や奉仕活動を取り入れる傾向が高いが、計画から何から上から与えるだけでは意味がないと思う。私はそういうことを先がけて行う実験校のような所に通っていたが、「やらされている」という意識は消えることはなかった。さらに取り組みが内申書に反映されることで、教師のいる所でしかきちんと活動しなくなり、見えない所で努力している人が認められないような形をつくってしまっていた。そういう活動は課外活動のような形で自由意志で参加すべきものだと思うし、また成績等に含めることはかえっていいかげんな気持ちを生んでしまうと思う。それが不可能なら学校は本来の姿に戻ってしっかりした学習の場を提供する立場に立つべきだろう。

〔理三男子〕

○　日本では高校までの教育は大学に受かるための教育であった。そのため自分の日本での位置（習熟度）は偏差値という形で知ることができた。しかし大学ではそれはない。自分がどの程度まで分かっていて、そしてどの程度知るべきかについてはわからない。世界の学生達に比べて自分がどれくらいの位置にあるのか、他国ではどの程度の内容を教えているのかなどを知るために、日本の学生達を世界の学生達と混じって競争していけるように工夫して欲しい。

〔法学部男子〕

○　学校外の教育（特に親による）が不適切のように感じられる、親世代のための教育機会を増やすべき（特に母親の知的レベル、生活態度etcは子供に多大な影響を及ぼすため）、親のモラルハザードをなおざりにして子供の教育は語られるべきではない。

　知的教育だけでなく、精神的教育も充実させ、広い視野を持った人材育成を施すべきではないか。

○　公教育に不平等があってはならないが、悪平等主義は御免だ。たとえば、小・中学校までなら平等と学力推進なら平等を重視すべきと思うが、高校にまで平等一辺等を押しつけるのは害が大きすぎる。私の地元では男女別学の進学校を解体して均質化を図っている。平等ってのは個人の個性を存分に発揮するための条件だと思うのだが、その条件のために公立高校を画一化するとは本末転倒な県だ。

○　ゆとり教育という大義名分をかさに小・中学生が義務教育から離反し、塾に走る子供、娯楽に走る子供に二極化することとなり、学力格差が一層大きくなっている。早急に義務教育の週六日制に改めることが必要！！

○　高等教育を受ける者全てが少なくても英語は自由に使えるように、語学教育の充実。

○　昨今の日本の教育改革においては、「ゆとり教育」が非難されたあと、英語・理数系科目を中心とした指定校制度が提示されるなど、やや方向性が不明確なように思われます。私は思い切って「エリート教育」を推進すべきだと思います。マスコミなどには批判もありますが、批判の中身を見ていて感じるのは、国家におけるエリートの存在が国家の国際的地位の向上・維持のためには不可欠であるという認識が欠如していることです。これまでのような「悪平等教育」（私見です）を進めていても、日本国内では問題ないかもしれませんが、世界の中での日本の地位は低下してしまう可能性が高いと思います。ただ、国民からの反発も予想されますので、文部科学省が中心となり、エリート教育の必要性を訴えたり、今よりも大幅に奨学金などの拡充をするなどの対策を講じてほしいです。

○　学力が落ちていると言われますが、一因として受験・進学制度全体が制度疲労していると思います。試験問題を工夫して、真に学力・思考力のある者のみを

選抜できるようにすべきです。そうすれば、進学校や学習塾でも、学力・思考力を鍛える教育をするようになると思います。

また、文科省は、考え方をもっと考えたカリキュラムを考えるべきです。どのような教え方をすれば多くの子どもが学力を身につけられるかについて、学習塾の講師等も含めて検討すべきと思います。

○　現在の日本の教育は、書物を読んだり、講義を聞いて知識を吸収するという、内面の知識を充実させるのには非常に役立っているが、蓄えた知識を外へ向かって発信する機会があまり設けられていないため、身につけた能力を利用する力が発達していない学生が増えていると思われる。これからは、外に向かって発信する力、具体的には、プレゼン能力とディスカッション能力を身につける機会を小さいうちから多く与えるべきである。また、教育においては、（特に初等教育）教育者の魅力が大きなウエイトを占めると思われるので、教員の育成、魅力ある人材の登用が必要である。

○　高等教育が立身出世と密接な関連をもっていた時代ではなくなり、社会の豊かさとともに子ども達の学習へのモチベーションが下がっていることはたしかだが、人間が本来もっている知的好奇心・学ぶことへの欲求自体が低下しているわけではない。大学においても様々な経歴の学生の数は、かつてよりかなり増加しているように思う。高校－大学－就職といった合目的的な単線型の教育だけではなく、欧米のように多様な学生が学べる社会と大学であって欲しい。

○　大学に入学してまもなく卒業を迎えた今になって小中高大学と振り返ったときに感じるのは、「詰め込み教育」の有り難さです。読み、書き、計算をドリルで徹底的に習熟させ、歴史の流れを把握しながら人物や地名、事件について覚える、このような「学問をする上でもっとも基礎的な体力」を習練させてくれた親や兄弟、学校の先生に私は深く感謝します。なぜならば、「考える力」というのはこれらの前提知識という「基礎体力」抜きには決して身に付かないものだからです。これらの「基礎体力」作りを抜きにした「ゆとり教育」が日本の教育の将来を暗くすることは明白です。どうか我々の子供のころの教育課程の復権が図られるよう、切に教育関係者と国民に要望したいところです。

○　高等学校までの教育レベルが低いように思う。

大学でのフォローアップにも限界があるので、必要最低限の基礎知識は大学に入るまでに修得できるよう制度を改善すべきではないか。

○　カリキュラムの量だけを減らす“ゆとり教育”が疑問です。とび級、留年を柔軟に認めて、時間を増やして“ゆとり教育”を実現すべきと思います。

だれもが、小学校を６年間で卒業し、３年間で中学校を卒業しなくてはならないということはないと思います。

このようにしても、進学スピードだけが人を測る尺度ではなく、多様な価値観を認めあおうということを教えれば、いじめはおきないと思う。

○　「ゆとり教育」は反省すべき。むしろ能力のある者にどんどん先の教育を受けるチャンスを与えたらよい。

また、問題が多いのは教える側であると思う。特に小学校、中学校では教育者としてふさわしくない方を、私自身、何人か見てきた。人間性に問題のある人材が排除される教員採用システムを構築すべき。また、実際の教育現場に立つ人材が東大のような優秀な大学からあまり輩出されないのも問題。採用システムを改革すべき。

○　教育機関は、個々の児童・生徒の適性を伸ばしていけるように努めるべきだ。多様な学習の機会を提供すべきであるし、既存の制度の枠からはみ出すからといって、彼らの芽をつんでしまってはいけない。強制ではなく、彼らが自発的に学びたいことを学べる環境を整えることが大切なように思う。また、教育問題を議論する際には学校における教育が主として取り扱われることが多いが、教育は親をはじめとして学校・地域コミュニティーが連携して社会全体で取り組んでいくべき事柄だということが意識・実践されることが望まれると思う。

○　教養教育が重視されなくなって久しいが、以前の日本の教育（戦前）の良いところはもっと見直すべきだと思う。社会が高度化したところで教育の精神的活動への探求や、あるべき人間、社会のあり方が、変革されるわけではない。また、公教育に関して、民間でできることを民間にも任せるのは大いによいことではあるが、教育の機会均等の為にも義務教育や公立学校の教育はむしろ拡充すべきである。経済的制約や、その他の家庭還境（家族が高度な教育を受けており、家庭でそのようなものに触れる機会がある者とそうでない者等）により、さらに格差がひろがっているようである。教育は全ての基本であることを改めて問い直すべきであると思う。

○　国際化と言われながらキャンパス内に外国人はほとんどいない。もっと多国籍な環境であるべきです。それから、英国の大学へ行っている友人などの話だと、professorは学生をもっと個人的に私生活から学業まで、もっともっと私的に親密にめんどうをみています。人格の教育も為されます。うらやましく思います。

○　私は日本の教育（小中高も含め）において最も問題なのは、教育者側の態度だと思います。決められた内容を工夫もなければ、メッセージ性もなく、ただ説明していくだけの教員が多いのではないでしょうか。私個人は好運にも小・中・高と意欲的で知的に刺激を与えてくれる方に幾度か指導していただいたのですが、現在塾で指導している折に、各保護者から耳にする話

では、多くの教員がそのような授業をしてはいないようです。生徒に興味を抱かせ、刺激を与えるような教員を生み出していくことこそ、今一番必要なことなのではないでしょうか。

○　知識量を減らし、じっくり考えることなどはできるはずもない。ある程度つめこんでつめこんで、しかるのちに残ったものだけが身についていると言える。そこで初めて考えることができる。小・中・高のカリキュラムが「ゆとり教育」なるもののせいで骨抜きにされないことだけが気がかりである。

〔法学部女子〕

○　社会貢献は重要だが、世間うけしないからといって基礎研究や人文分野をなおざりにするべきではない。経営効率を重んじるあまり教育・研究機関として将来を任う人材を養成する場としての本来の役割を忘れては困る。

○　現在ようやく見直されたゆとり教育について、勉強すべき量を画一的に減らすのではなく、個々人に応じた勉強をできる機会の提供に重点をおくべきと思います。具体的には習熟度別クラスの導入、中高での大学以外の専門学校などの紹介など。大学に通いただ卒業するだけでは就職に困難をきたすことが多い現状において確実に手に技術・資格を手につけられる専門学校への入学も進学の一つとして考慮されていいと思います。

　中学などでの教師の能力テストの実施。バイト先での生徒の話を聞くにつけ、質問されて答えられない教師では問題かと思います。見直しの余地が・・・。

○　東大の場合は学部毎に特徴が異なるので、以下は法学部についてのコメントと考えて頂ければ幸いです。教育には非常にお金がかかることをもっと自覚し、同じお金でも効果的に使うべきだと思います。例えば、もし予算が限られているのであれば、同じ予算でも１人１人にかけるコストを上げ（すなわち定員を減らすなど）ることが必要な気がします。中途半端な法学部卒業生６００人を輩出するより、「教育」を受けた３００人の卒業生を出すことの方が東大のようなポジションの教育機関に求められていることのような気がします。均質でやや優秀な人材を多数育てることと特徴をもった優秀な人材を少数なりとも育てること、その選択を間違わず適切に行ってほしい。

○　日本の教育の現状は大変危機的なものだと考えます。学級崩壊や基礎学力の低下は重大な問題です。これからは基礎学力の拡充はもちろんなのですが、各々の興味・関心・才能をのばせるような多様な選択肢が用意されるべきだと思います。

　また、大学については、日本の中で競争してはいけない、アジアの優秀な学生をひきつけるような大学づくりが一層求められると思います。

○　日本の教育の現状について。個人的体験をもとにした感想で恐縮であるが、私にとっての義務教育期間は、社会参加を通じた学習というより、強制収容所体験に近いものがあったと思う。つまり、社会的義務（行事参加、教育指導要領に準拠した学科の学習、規範順守ｅｔｃ）を履行する中で、社会生活上の忍耐力を養うことができ、それはそれで全く無用な体験ではなかった。しかし、今の日本が構造的変革を迫られている現状に鑑みると、社会の雛型たるべき小・中学校が、私の体験したようなものであってはならないと思う。今後の日本が民営化推進等、自由主義的なものを目指すのであれば、義務教育段階においても、自由を享受でき、かつ責任を自覚しうる気風が必要ではないだろうか。（具体的な内容および高等教育に関する考えは割愛する。）また、それにより格差が生じるのは極力防ぐべきであり、配慮を要するだろう。

○　国際的に貢献できる人材を育てる。

○　今の教育は、それぞれの段階での目標のスパンが短すぎるのではないかと思う。例えば高校教育ならば、目標が大学入試といういわば目先のことになってしまっており、生徒がその先の自らの将来まで見据えて、進学や就職の選択をすることが難しくなっている。近年、職に就きたがらない弱年層が増えている一因にこのことがあるのではないか。高校教育のみでなく、小学校、中学校の段階から、子どもたちが将来に関して主体的に考えられるような教育を模索すべきだと考える。

○　現在の日本の教育はカリキュラムやレベルの幅がせますぎるように思う。英・数・国等のペーパーテストに寄せる価値が高く、他の専門的な分野や技術に対する評価がおざなりにされているのではないか。もっと積極的に自分の興味や適性について考える機会が与えられ、そしてどんな道を選んだとしても社会において評価されていると自信が持てる状況を教育制度の中に作り出すべきである。現在は、何がしたいのか考えるのが面倒でも、とりあえず進学すれば周囲も自分も納得してしまうが、自分の興味や適性を見つけることこそが教育の果たすべき役割であり、今後そのような方向へ向かうことを期待している。

○　再チャレンジ出来る社会に。一度落ちこぼれたら終わりなんておかしい。学びたいと思った時こそ学ぶべき時だと思う。

　また、公立の初等教育機関の充実による平等化の促進が必要。エリート特殊社会に幼い頃から慣れている人間ばかりが東大に入る社会は危険だ。

○　現状において、「自分で考える力」が強調されすぎているように感じます。まず、考えるための知識、先人の歩んだ道、業績をしっかり身に付けることが大切ではないでしょうか。それができれば、おのずと自己の考えを表せるようになると思いますが。

「豊かな個性」等という抽象概念程、うさんくさいものはないと思います。

○　学力低下が心配です。もっと高度な授業を選択制でも学校（中学など）で提供すべきだと思います。

〔医学部男子〕

○　ゆとり教育と称して、小・中・高での勉強量が減っているが、全く意味のない事だと思う。考える力をつけるのは重要だが、知識がなければ考えようがないので、まず知識の獲得が必要になると思う。習熟度別クラス編成により、勉強が苦手な者もフォローできると思う。また、少人数クラスは、教員の数を増やすことになるので、もっと質を落とすことになる。教員（特に公立）１人１人の能力を向上させることこそが先決だと思う。

○　現在はゆとり教育と称して小、中学校での教育内容を減らす事が行われているそうですが、それは間違っていると思います。子供が学問に興味を持つようにするためには、多くの分野について触れる機会を与えた方が良いと思うのです。他国の教育内容と比べても日本の学校で教えている内容は多すぎるわけではないことが分かると思います。僕は、まず教員の教育が先決であると考えています。

○　学力は明らかに落ちている気がします。

ゆとり教育でいろいろな個性を持った人が出てくるはずが、トップクラスが海外にまったく追いつけないような状況になっていると思います。特に語学力など。

〔医学部女子〕

○　学校教育を充実させることはもちろん大事だが、家庭での教育（しつけなど）も大事だと思う。最近は我慢を知らない、人の意見（話）を聞けない、人の身になって考え、相手の気持ちをわかってあげられない人が多いと思う（大人も子どもも）。そのために悲しい事件がよく発生する社会になってしまったのではないか（例えば、親が子を殺してしまうとかその逆も）。

学校側で道徳の時間を充実させたり、「心のノート」を配って「心の教育」に力を入れているといっても、バックグラウンドである家庭で子どもを導く力なしではうまくいかないのでは。学校は教育の場だが、教育のすべてを担うことはできないのでは。

○　東大はエリート大学ではなくなっています。でも学生の意識と世間の見る目にはずれがあります。大学自体は大学院大学として研究者を育てるという方向に重点が置かれ学部教育への熱意が低下しているようにも思います。学生のレベルが下がっているなら定員を少なくし入試を変えるべきだし、自主的に勉強するような学生はもう少数派の時代ですから、どんな人材を育てたいのか、何を身につけさせたいのか、大学側も明確に厳しく打ち出していかなければ「自由な雰囲気」で人は成長する訳ではないと思います。

〔工学部男子〕

○　日本人は英語を話せなさすぎ。確かに英語を国際共通語にしたアメリカに不満な人もいると思いますが、国際的に意思疎通を行うためには必須になっていることも事実。某英会話教育企業に利益が行くということは、国民が必要としていることは明らか。日本の文化を学習する機会も必要だと思う。

また、問題を解く＋問題を提起する力をつけることが必要であろう。議論する力も必要だと思う。昔ながらの「５教科」は古い。あと、笑いのセンス。コミュニケーション力ですか。

○　ゆとり教育の一環で、扱う内容を簡単にすることには反対。子供たち（自分が小学校・中学校だったころも含めて）が学校・勉強から離れているのは決して勉強が難しいからではない。バイトで塾講師をしているが、生徒は皆休まずに来るし、教師には気さくに話しかけてくれる。やはり、子供たちが楽しく、しかもやる気をもって集まる場をつくる努力が足りないのではないかと思う。また、学校が社会との唯一の接点になっている子供も少なくない。「行きたいな」と思う場をつくること、様々な方法はあるだろうがそれが最も必要なスタンスではないか。

○　理系・文系の垣根が大きすぎると思う。高校１・２年ぐらいの段階で単にテストの成績だけで判断することは才能の芽をつぶすことにもなるし、もっと考えるための情報を与えてやる必要があると思う。理系、文系と決めつけずに自らの興味のあることにチャレンジできる環境整備をしていく必要があるだろう。

○　何においてもその人をテストだけで評価するシステムが多過ぎる（入試、資格試験など）ので、難しいことはよくわかっているが、それ以外で評価する方法があれば教育そのものもかわっていくと思う。日本は資源に乏しい以上シンガポールのように頭脳立国とならねばまずいのは火をみるよりも明らかなので、学力一辺倒でない人材の育成にも力をいれるべきかと思う。

○　教官は研究のみに力を入れてる人は、生徒をおろそかにしがちであると思う。

○　学問にとりくむために越えなければならないカベを高校までの間に越えきれていない人たちに対して、大学は学問にとりくめるような工夫をするか、あるいは若者の生活の場を提供する必要があるように思う。いまの大学は、学部にしても院にしても、学問にとりくむ熱意を持った経験がない人の割合が理想より高く、切磋琢磨するどころか、やる気をそがれるように思う。

○　日本の教育は、社会で活躍できる人材を育てる、というより、よい大学に入れるための教育である。高校

はよい大学にたくさん入れて人気を集められるように受験突破のための教育をしているし、中学も同様である。日本全体として、「受験合格」のための教育になっている。社会に無知で、机上の理論のみ学んできた者が、大学に入ってから自分を見失う。特に有名大学に入学する人に多い。

これからは、社会に直に触れられるような教育を取り入れるべき。コミュニケーションのできる環境を構築し、幅広い視野を持った人材を作り出すべきである。

○　文系は必要ない。文系理系と区別すること自体ナンセンスである。少なくとも東大では科学的な教育を全生徒に行うべき。資源のない日本において科学技術の必要性は高いが、国政を預る立場の人間がそれを理解していないようでは日本の将来が思いやられる。

○　教育者はもっと評価を受けるべき。サラリーマンの様にしないと改善しない。大学での勉強に高専で学ぶようなことも取り入れてほしい。実生活からかけ離れすぎていて、役に立ったと思うことがあまりない。達成感を得にくい。職業に関する情報をもっと中、高から与えるべき。大学に入って就活をするまで職業について真剣に考える機会がないのはおかしい。大学選びは具体的な将来設計を立てた上でなされるべき。それが今はいいかげんに単にネームバリューで選ばれているので大学生になったとたん目的を失って落ちこぼれてしまう。

○　実力ある者が、或いは努力した者が報われる社会を実現するために教育の充実を急ぐべきです。そういった人材を養成していく過程で実力ある者や努力した者が報われる教育・生活環境を提供すれば、将来はそういう社会が拡散していくのではないでしょうか。丸暗記・詰め込みは初等教育では重要だと思います。ボケ防止にも役立ちそうではありませんか？

○　現状の教育を決定する機関が１つしかないというのは、独裁体制に近く、まともな結果はあまり望めない。実行性のある問題にまで掘り下げるべきであり、産業界や実社会の機関との連携を深めるべきである。きれい言だけの教育改革にしか見えない。

初等教育のときから「議論しながら講義する」習慣をつける必要があると思います。「板書を写す」ことが授業であると一度すりこまれてしまうと、なかなか体質を変えることは難しいようです。

○　学習・勉強は強要されるべきではない。子供がよく接する大人としての学校の教師が先生としてではなく、趣味・研究などですごい人だと思わせ、先生のようになりたいと思わせればその分野の勉強を勝手にするようになる。

授業に力を入れてもあまり効果はないと思う。

○　学んでいることが何の役に立つのか、全く想像できないことを学ばされるのは苦痛以外の何者でもありません。それが何の役に立つのか、が適切に説明できる教育者が必要だと思います。それは教職の専門家である先生方である場合もあれば、一般企業やコンサルティングの方、あるいは最先端の研究をしている研究者であるかも知れません。私は高校の時、微分がなんの役に立つかということは知りませんでしたが、その重要さを今になって知り、いい加減に勉強したことを後悔しました。どんなことに使えるか、ということがわかれば子供達もあるていど、将来興味を持てそうなものを選択して、勉強計画を立てられるのではないでしょうか？（受験のためだけの勉強を一歩抜け出して）

○・芸術をもっと奨励すべき。
・成果・能力至上主義は止めた方がよい。結論を急ぎすぎず、長い目で見るべき。
・何もかも国際基準に迎合するのはどうか、と思う。

○　今の日本の教育はてんでダメだと思う。知識を植え付けるだけでその先の知識の運用方法というものを教えていないから。これは自分で考えなければならないことになっているという状況だと思う。しかし、知識を蓄えてきただけの人は、知識を蓄えることが勉強だと錯覚しており、その先の知識の運用、つまり本当の意味での「頭を使う」ということ自体分かっていないように思う。これからは「頭を使う」ということを気付かせるような教育がなされるべきだと思う。そうすれば「自分」というものが見えてくる人が少なからず増えるように思う。

○　私は私が小学校で受けた教育はしごく適切なものでゆとりうんぬんといってカリキュラムを削除することはないと考えます。多くの友人が「学校より塾の方が面白く為になる」と言っているのを聞いても、学校の（中・高）教育の質が低いのは否めないでしょう。大学教育に関して言えば、東大の教養課程は無意味だと思います。理系の基礎知識を身につける為に大学は適切な参考書を提示し、一年のうちから演習重視の授業を行うべきだと思います。

○　日本の若者は自分も含めあまりにも“夢”がなく、無気力な人が多いと思う。充足しきった生活をしているから仕方ないのかもしれないが、何とか子供達が“夢”を持てるような教育にできないのか。

○　国際化へ対応できるよう語学教育の充実、交換留学・語学留学ｅｔｃの学生への積極的推せん、制度充実、ゆとり教育の見直し、→受験システムの見直しや課外活動・スポーツ・ボランティア活動をもっと重視すべき（特に中学・高校）。現在は、問題（与えられた）を解けるための知識・知恵の獲得を目指した教育、様々な人間活動を広く経験し、視野・価値観・道徳人との関わり方、相手に対する信頼などを身につけるべき（特に中・高）。また、大学入試等も、そういう所をもう少し評価すべき、専門知識の前にまず人間ありき。

○　「実学」が不足しています。学生はあまりにもビジネスの現場／国際的な学問の動きを知らなさすぎます。学内は時間がゆっくり流れているように感じます。旧来の学問のわくぐみを守ろうとする教授たちに、学科運営が支配されているようでは、どんどんおいていかれるのではないでしょうか。

○　大学教育をさらに高度に。特に東大の差別化。（良い意味でのエリート意識と、社会に出て即戦力となる能力を身につけ、またそのように社会に認識されるように。）

○　最近よくゆとりや自由といったことが教育に重視されているが、あくまでそれは、自分で前に進める人間のためのもので、万人に有効とは思えない。根本的な知識というものは知っているか知らないかという問題であり、そういった基礎を多く担う小・中・高における教育は、まず根幹を身に付けさせてやらなければならず、そのための工夫は良いが、決してつめこみが悪いとは思わず、「考えさせる」学習と区別して扱っていくことが大事なのではないだろうか。人間は権利ばかり与えてやると義務が見えなくなるわけで、ましてや我々非社会人ともなればなおさらである。きびしさを与えてもいいと思う。

○　建築学科に所属しているものです。工学部他学科では実験材料は給付されるのに、建築学科では模型の材料費は各自持ちです。この金額は莫大で、生活費の大きな一部です。学生に多少なりとも補助が必要なのではないでしょうか？

〔文学部男子〕

○　東大でしか大学教育を受けたことがないので、あまり良く分かりませんが、問題は多岐に渡ることを感じずにはいられませんでした。大学の提供する教育サービスの質の優劣が激しすぎること、学費の高騰などの教育機関の抱える問題が存在すると同時に、学生自体が大学に居る間に問題を抱えるようになってしまうことも気がかりです。学生が大学入学時に持っていた知的好奇心を失ったり、鬱病（心因性の原因に寄与）を患ったりするのは、解決することが非常に困難だと思います。

○　「教育産業」はこの後も発展していくと思う。一方で日本国の統合を確認し強化していく、広い意味での「公教育」が今以上に強化されるという見方を私はしていない。国民としての意識を高められることと引き換えに、「公教育」を受けるコストは非常に小さかった。しかし「国民意識」「国家の一員としてすすむ道」といったイデオロギーが希薄な今日、教育には芯がなく、教育する側もされる側も強力な目標を欠いている。ゆえに「公教育」は低コストかつ低い結果に終わっている。この後必要なのは、低取得者が教育を受けるチャンスを得られるような環境整備、そして「教育」がいかなる理念や社会関係のうちになされるかを考えるリテラシー（それは報道リテラシーとよく似る）であると考える。

○　最近は実用的なものを大切にする傾向がみられるが、あくまでも大学は基礎研究を中心に行うべきだと思う。

　高校までの教育について言えば、だんだんと学習する量と質が減らされているようだが、質はともかく、量もある程度増やさないと結局、満足な学習ができないのではないか。「ゆとり」を増やすなら、学校と塾で同じことを２度学ぶ不経済を解消した方が良いと思う。

○　「ゆとり教育」には断固反対である。ある程度の詰め込みは必要。欧米のように、エリート教育を制度化すべき。エリートとしての自覚を持った人間を作るのが（製造するのが）大学の役割であり、そのような役割は東大といえども充分に果たしているとは言えず、ましてや他大では望むべくもない。詰め込み／ゆとりという二分法より、エリート／非エリート（elite／non－elite≠un－elite）という二分法を国民の意識に浸透させ、特権階級としてのエリートではなく、職人的エリート像の確立を目指すべき。その選別・意識の植え付けは中学から自覚的・制度的に行われるべき。

○　大学院生の生活や将来があまりにも不安定。３０歳近くまで学問に打ち込んだ後に、研究職のポストがなかった場合、路頭に迷うことになる。両親にかける負担も大きく、経済的な理由から断念せざるを得ない場合も多い。海外のように、能力のある研究者には苦手のうちから援助するシステムが早急に必要である。

○　大学入試にまず手を加え、入り易く出にくい大学にした上で「ゆとりある教育」を行うべき。

　大学は変わらず、子供たちを受験システムの中に置いたまま小・中学校がカリキュラムを大幅に縮小するのは、子供たちに対して無責任。

○　input過剰な教育がなされている。教師も生徒も余裕がない（精神的な）。かといって欧米の教育をまねるのもおかしい。官僚、教育者だけでなく、学生、児童、保護者、塾講師、スポーツ選手や会社員に至るまで多様な人間同士が教育について議論を重ねていく必要がある。

　最低水準は確実に維持しつつ、もっとoutputの部分を評価していく必要があると思う。

　教育は日本のみ問題でない。普遍的視点をもって考えるべき。

〔文学部女子〕

○　家庭教師のバイトをしていても、今の中・高生の勉強量の少なさ、勉強に対する積極性のなさにはおどろかされる。とくにどんな勉強においても基礎となる国語力をもうすこし小学校のころから身につけないと、

勉強の中心である「教科書を正確に読む」ことすら一人ではできなくなっている。早急な改革が求められていると思う。

○　日本の大学教育は、アメリカ（やイギリス）に比べて評価が低いし、近年アジアの一流大学の方が、学生の能力を伸ばす教育環境を提供していることにおいてより評価できる。日本の大学に見切りをつけて諸外国へ移っていく優秀な人達を惹きつけるような充実した（内容ある）研究環境を整備していかなければ、日本は本当に力のある、また人格にも優れた人材を失い続けることになってしまうだろう。学生に対しても教員に対しても厳しい評価を行うことが、やる気を高め、能力を引き出すことにつながると考える。

〔理学部男子〕

○　日本の教育の現状：理数教育がとても弱いと思う。“技術立国日本”を担っていく次世代を養成していくにはあまりにも不十分だ。高等学校までの数学や物理（理科）の教育が不十分なために、大学における理学、工学への教育が思うようになっていないように強く感じる。また、高校までと大学からとで、学問ががらりと変わることにとまどう学生も多いとおもう。これからは、公教育のみならず私教育との連携をも模索して、これからの“日本”を考えていくことが重要だと考える。

○　よく「つめ込む教育」と非難されていますが、必要最低限の知識も覚えられなくても一体何を文句を言っているのか。そもそも中・高程度など先哲の知識を学ぶ場所であり、物事の理解が第一と考えます。それに一定の理解にはくり返しの練習は不可欠です。みたところそれほどの苦労でもないのに「ゆとりがない」とはおかしい。ゆとりはつくるものであってつくってやるものではない。大体ゲームやマンガを読んだりする時間はしっかり捻出しているではないか。

○　自分で考える力を持った人間を育てたいのならば、物事をきちんと考えるための時間を授業の中で用意すべきだと思う。特に、理科の教育では知識を教え込む個とに主点がおかれ「こういう実験をしたら、こうなっただから○×△なはずだ」といった推論をする時間が少ないと思う。今の日本のカリキュラムは、多少へらしてもいいのかもしれないけど、それで浮いた時間は休日にするのでなく、生徒に考えさせる授業をするためにつかった方がよいかもしれない。

○　ゆとり教育をする前に、自分で新しい発見を出来るだけの教養を与えるべきであって、今のままでは授業時間が少なすぎる。個性的な人間ばかりでは社会は成立しない。働きアリがいてこそ社会や会社というものが成り立つのであって、個性的な人間というのは、どんなに統一された教育を行っていても自然とはみ出してくるものである。なので無理矢理つくり出す必要なんて全くない。

〔理学部女子〕

○　日本の教育は、現在ではゆとり教育という間違った方向に進んでおり、危機的状況だと思う。個性重視などと言いながら卓越した存在を許さないような教育は改めるべき。さらに、考える力や発想力を育てると言ってゆとり教育を進めてきた人たちがいるが、思考力、発想力は、最低限の基礎知識があって初めて育てることができるものである。もっと知識を確実に身につけさせることを重視すべきと考える。

〔農学部女子〕

○　「ゆとり教育」といわれるものは間違っていると思う。私が理科を面白いと思ったのは中学の理科の先生のお陰だと思っている。優秀な人材が初期教育を担う社会にならないと、人間は育たない。教科書は厚いままで、教え方を考えた方がよいだろう。教科書にあること全てを扱わなくても、興味を持ったときに教科書を開けばわかるようになっていれば、ちょっといい授業をするだけで勉強を面白いと思う子どもは増えると思う。現代は他に面白いことがいっぱいあるからそうもいかないだろうが・・・。日本の教育に訓練・暗唱・ドリル・演習etc・・・をとりもどすべき。

○　①日本の教育はこれからもっと多様性に満ちたものになっていくべきだと思う。日本ではやり方を１つ決めて皆そのやり方に従わなくてはいけないことが多いと思う。

②今の日本で生徒のやる気を欠かせているものの原因の１つは競争が妨げられている結果、自分の能力を発揮する場がないことだと思う。

③習熟度別の授業もあってよいと思う。自分の学力にあったレベルで様々な年齢の人たちと学ぶ場があってもおもしろいと思う。

④歴史で日本が害をアジアの国々に与えたことをもっと教えるべきだと思う。又、国旗、国歌などを式のときにどうするかは各学校で決めることで、国が介入するのは思想の自由に反すると思う。

〔経済学部男子〕

○　他人の言うことを吸収するだけではなくて、自分の言葉で発信する能力をつけることが必要だと思う。発信することを前提とすれば、おのずと吸収したり思案することが必要になり知識もつくと思う。だからゼミのような少人数で議論や発表ができる機会を、より充実させることが重要だと思う。

○　社会では専門的な知識や実際の仕事に役立つスキルというものを求めているが、現在の大学ではその役割を果たしていないし、果たせないと考える。高等学校の先の教育としては、研究と実践力の教育は分かれて

いるべきだと思う。研究の場である大学に多くを求めすぎていると思う。

○　大学までは基礎的知識の定着を重視すべきだと思います。また、勉学意欲を促進させるために、大学などの受験資格年齢の引き下げなど、飛び級制度は有効だと思います。

○　ゆとり教育を進めてきた結果、小・中・高校で学習すべき内容は大幅に削られている。しかし、本来目的としてきた「考える力」が生徒たちに身についているとは思えず、日本児童の勉強時間は世界的に見ても低下する一方である。「考える力」とは広範な基礎知識の上に成り立つものであって、今日の日本の中高生の平均勉強時間ではとうてい達成できるとは思えない。知識詰め込み勉強に賛成するわけではないが、もっと生徒たちの知識と勉強時間を増やすカリキュラムを組んだ方が良いと思う。

○　ゆとり教育といい、学習レベルを低下させる政策をやめた方がよいと思う。なぜなら、そのようなことを行っても、有名といわれる私立学校の入学試験のレベルは変わらないことを考えると、進学塾に通わなければ、ますますそうした学校に入れなくなってしまう。すると、塾に通うことができる人とできない人との差が拡大してしまう。また、国際的に求められる学術レベルはますます高度化するのに、それに逆行するような政策は、当然知っておくべき知識の習得を単に先送りしているだけである。確かにある程度のゆとりは大切かもしれないが、こうした教育改革はおかしいと思う。

○　ゆとり教育という名のもとに、学生は学ばなくてもよいという矛盾にさらされている。つめこみ教育の利点をとらえ直し、ゆとりとは内容削減でなく心と心のふれ合いから生まれるものと認識して、対応していくべき。

○　今の大学は少なくとも経済学部だけを見て思うのは、学歴を売っている店にすぎないようなものになっている。授業に出席し、内容を理解して試験で評価するというのが形式だけになっていて、大学に通って特別知識を深めることなく単位だけとって卒業していくという姿には疑問を感じる。やはり大人数講義中心の現在のカリキュラムは見直されるべきだと思う。大学に限らす、少人数のクラスの方が教育はいきとどくので、小、中、高校においても少人数クラス化が推進されるべきだと思う。

○　大人数・大教室の授業にはそれなりの効率性（メリット）があるとは思うが、多くの学生が勉学に打ち込めるようなスタイルではない。つまり、個々人の勉学に対する意識が（大学での勉強に対する姿勢の）全てを決めている。高等教育機関としてのレベルを底上げするためには、少人数、相方向の授業の提供について、もっと積極的になるべきだと思う。能力があるのに、大学で得られる多くのチャンスに目を向けることなく卒業していく人が多いような気がしてならない。

○　私の属する経済学部では他学部に比べて学部卒で就職する人が多いのですが、そういった人達に経済の専門知識を教えるには時間的限度もあり、効果がどの程度あるか疑問があります。それ以上に企業で働く人の社会観・現状認識を学ぶことや、工学・法学などの広範囲の学問に触れることで、ジェネラルな人材を育てるようなコースも選べる制度・カリキュラムにすべきだと思います。

〔経済学部女子〕

○　現在の教育（特に低年齢層）の向かう方向は、歓迎すべき方向ではないという印象を強く抱いている。一方で「向かうべき」方向を提案できるか、というと特には思いつかないのが、私自身自分が幼いときに受けた教育には比較的満足している。

〔教養学部(文系)男子〕

○　夏休みにアメリカの大学で少し勉強してきました。全体的に良い国かどうかは置いておくとして、少なくとも教育に関してはアメリカは日本なんかより数段上だと思います。何故なら個人を大事にするから。そして教育とは個人をいかにエンパワーするかという問題であるべきです。だから各種学校の卒業生に大学受験資格がないとか、不登校が「問題」視されるとか、あとこの大学で言えば、自分のテストやレポートにコメントをつけて直してもらうためにわざわざこちらから教官の方へ出向かなければならないとかいうことは、全くバカげたことだと思います。

〔教養学部(文系)女子〕

○　情報の取捨選択・活用・生産能力を身に付けた上で、より多様で柔軟な生き方に対応できる視野を得られるような、かつ実践的職業訓練を含むものを目指したい。日本の教育は今、過渡期にある。多様とは当然貧富の差を含むが、（つまりこれからは「一億総中流」は当然の前提でない。）それは即教育の質の差につながるようなものであってほしくない。前提の変容に伴い、そのギャップをいかに埋められるのかに関しては、行政のみの力では限界があるかもしれないが。いわゆる「ゆとり教育」は、その意味で格差を拡大する危険性をも孕んでいると言えるだろう。

〔教育学部男子〕

○　（ｉ）大学に関して

学外の人間に対して冷たいのが問題だと思う。もっと編入や学士入学の枠を広げるなど、柔軟な姿勢を見せるべきだと思う。それに加えて、奨学金の充実やキックアウト制の導入

なども考えて欲しい。

（ii）小・中学校に関して、ゆとり教育もいいが、基礎の反復・徹底はしっかりとすべきだと思う。しかしそれだけでは不充分で、生徒のモチベーションを育てる工夫が必要であるとも思う。ディベートや倫理・哲学のような授業が欲しいと思う。

○　市場主義化、選抜化志向の流れを見直し、子どもの学びを中心に捉える教育の流れを作っていくべきだと思います。

○　大学の教授は、研究者であると同時に教育者である、ということをしっかり認識しなければならない。もちろん学生自身の責任でもあるが、基礎的教養を２年間で身につけるにはあまりに少人数制がなされていない。また専門的知識も、後期へ２年間でつけるのは不可能。根本的改革が必要。

○　もっともっと少人数で、自分で調べたりする機会が増えるとか、高校まではどうしても受動的授業が多いので、大学でのゼミの要素を取り入れるべきだと思う。

〔教育学部女子〕

○　教育の地方分権化、自由化などの中で市場原理の介入などが顕著ですが、私は教育は最低限の保障はすべきと思います。公立校をもっと充実化させ、機会均等の原理を大事にしてほしいです。

○　日本はどうしても学力偏重型社会であるための「学力」が価値観の主体となり、それが序列化・差別化の原因になっていると考えられる。「学力向上」を目指すなら、もっと子どもが可能性を拡げられるだけの公的支援（教育費軽減・奨学金充実・学校施設や学校法人等への補助拡大など）が求められる、と考える。物的資源の乏しい日本の何よりの財は「人」であるはずだから、人材育成にもっと力を入れるべきなのだ。

　現状では目先の景気回復も重要だが、もっと長期的施策としての教育の見直しを考えるべきではなかろうか。盲目的にアメリカの言う通り軍事費やら支援費用やらを放出するくらいなら、国民の生活の充実という、内的な国力を上げる努力をするのが全く当然のことだろうし、同時に口先だけの「グローバリーゼーション」をもっと実のあるものにするために国際社会全体に目を向ける必要があるだろう。

○　ゆとり教育などは、義務教育だけでは実行できないものは、高等教育と連携する必要があると思う。

　文科省は、もっと保護者、教育関係者へ聞きこみを行ってから色んな方針を決めるべきだ。

〔薬学部男子〕

○　ゆとり教育とは、形だけで実質が伴っていない。我々の世代（もちろんその上）のように、厳しい受験をパスし、その先でがんばるべき。大学でがんばれない人は、やめさせる制度をつくればよい。

〔薬学部女子〕

○　小・中学校という最も柔軟で時間にゆとりがある時期に基礎教育を充実させる。個人の能力が何に向いているのかも、基礎がなっていなければわからず、また伸ばすこともできないと思うから。

具体的記述（抜粋）その2

その他特に大学への要望やこの調査に対する自由な意見

〔文一男子〕

○　授業時間90分というのは長すぎる。もっと教える側が要点をしぼってまとめ上げた上で、50分ぐらいで一気に授業をやるべきだ、と思う。その方が教える方も教わる方も意欲が増し、良い緊張感の下に効率的に講義内容の授受が行われる筈だ。これは絶対東大から他にさきがけて行うべきだ。慥かに、50分授業にすると大学側の手間と費用が増えるだろうと思うが、大学の授業の質を上げるのには、この方法が一番効果のあることなのである。だらだら時間だけつぶすような授業が大学の締まりのない雰囲気を生んでいるのは間違いない。

○　第２外国語のカリキュラムがおかしいと思います。３コマであるのに全く体系的でなくやることがバラバラ。全部違う教材を適当にこなすだけなので予習が大変です。せっかく週３コマも費やすのならじっくり取りくみたかった。夏学期だけで文法を一気に終わらせるというスタイルでは独語に対し興味や面白さを感じさせることができなかった。

○　大学の授業には正直にあまり期待していないので、要望はあまりありません。教科書の内容の説明と雑談だけで終わるような授業を受けるぐらいだったら、自分で図書館で勉強していた方が時間の有効利用だと思います。一般企業であれば職務怠慢でリストラされかねないような教官が教壇に立てているのは不思議でなりません。４月には銀杏並木が新入生であふれかえるのに、GWを過ぎるとまばらになるのはなぜでしょうか。もちろん「五月病」もあるとは思いますが、大学の授業に期待を裏切られた生徒も多いと思います。それから、出席点の制度はやる気のない生徒が出席して教室のムードが悪くなるのでやめた方がいいと思います。

○　第三外国語の授業でオランダ語の授業もぜひ開講してほしい。日本の歴史の中でオランダ語は非常に大きな役割を占め、現在でもオランダ・ベルギーに限らず南アフリカやオランダの海外領でも多くの人が使っている。語学の授業が豊富な東京大学においてオランダ語の授業がないのはおかしいと思います。

○　キャンパスの広さに対して、学生の数が多すぎる。また、授業も大人数講義がほとんどである。学生の数をへらして、教官と学生の距離が近い授業を増やすべきである。

○　大学への要望：地方から出てくる人間にとって、試験を受けるだけでも交通費やホテル代などが非常な負担となっています。また、東京はマンションなどの家賃が他の地域と比べて非常に高く、お金のない学生にとっては住みにくい町だと思います。そのため、家庭の事情により、才能があって東京大学に行きたい人でも東大を受験することをあきらめざるをえない人も多いかと思います。教育の機会均等が失われているとも考えられるこの状況を改善するため、一刻も早く寮の収容人数を拡大してほしく、また交通費の援助（特に後期日程の受験票をわざわざ東京に取りに行かなければならないのは納得できない）をして欲しいと思います。そんなお金はない、ということは十分わかっていますが、何らかの改善策を取っていただきたいと思い、書かせていただきました。

○　・駒場構内に洋弓場をつくってほしい。
　・１号館のイスは座りにくいので変えてほしい。
　・学生食堂のスペースが狭くすぐにいっぱいになってしまうので、もっと学生食堂を広くして席の数を増やしてほしい。

○　入試合格者を対象に、３月に健康診断が実施されています。４月以降に実施すれば充分（実際東大以外の大学は４月に行っています）であるにもかかわらず、なぜわざわざこの時期に行うのでしょうか。地方出身者はわざわざ健康診断だけのために数万円の旅費をついやし、入学前の多忙な時期に最低２日をかけて東京を訪れねばなりません。地方出身者の経済的・時間的負担に気づいていない東京中心の姿勢に、本学の自己中心的体質（それが意識的か否かは別として）が現れているように思われてなりません。また、転居届を先日提出したところ、学内だけでなんと６ヶ所に届けを出さねばなりませんでした（学生課・奨学掛・教務課・経理掛・図書館・保健センター）。なんというビューロクラシーでしょうか。驚き呆れたことです。等々、実例を挙げればきりがありませんが、他校に比べ学生が学業以外の面（事務上の）であまりにも煩わせられているのが本学の実態です。最高学府のブランドにあぐらをかくことなく、こういった制度面の不備を早急に改善すべきであると考えます。

〔文一女子〕

○　私はトマトテニスサークルに入っていますが、駒場のコートを使えることが大変うれしいです。他大学のテニスサークルは外部のコートを毎回借りなければならず、そのためお金が余分にかかります。私は能楽観世会にも所属していますが、練習の場が狭く感じます。新たな和室か、この際能楽堂を建設してしまうなど、能楽だけではなく伝統系サークルへの活動支援をさらに要望したいです。最後に、この調査の提出が遅れて申しわけございませんでした。こういった調査をすることはとてもいいことだと思います。

　フランス人教授の話を身近に聞け、東大ならではのよい環境を再認識しました。

○　総合科目をもっと充実させてほしい。４コマしかな

い火２・水２などは選びようもありません。あと、進振りには１学期の成績が大きく関与するのだから、１年生にも学部ガイダンスをやってほしい。文Ｉなのに今更教養に行きたくなった私はあせりまくりです。あと、生徒数が多いから難しいかもしれないけど、一応親身になって相談を聞いてくれるようなクラス担任がいて欲しいです。

〔文二男子〕

○　大学（駒場）の図書館はコンクリートがむきだしになっている部分が多くてあまりいいとはいえない。
　大学内に緑が多いのはよいことだと思う。

○　私は東京大学に対して基本的に満足していますが、一つ強く思っていることは、教官の質です。研究者がただ教室に来て、明らかに教育に向いていないのに授業を行っているような光景がしばしば見受けられます。私が思うのは、私立大学のように、もっと学外から広く客員教授を受け入れるべきではないでしょうか。時に経済系に関してはそう思えます。マーケティングや株についてなど、ビジネスにおいて明らかに必要であると思われる事柄が大学で教えられていないのは非常に重大な日本の大学の欠陥であると思います。

○　学生自治が認められていることは大変素晴らしいが、大学内での学生自治である以上、学校側もその動きによく目を配り、特殊で異常な世界を生み出さないよう、或いは不当な治外法権を自治側が確立しないよう、常に話し合いの場を持ち、適切な助言が与えられる環境を作ることは必要であると考える。古くさい学生自治のために、現在の学生生活が脅かされるということは、やはりあってはならない。

○　必修は必要ないと思う。特に東大と京大はなくすべきだ。学生の自主性に任せて任意選択にすれば、教官の負担も減り、研究に打ちこめるのではないか。
　あと、国内の大学での単位の互換制度を作るべきだ。

〔文二女子〕

○　高校までの勉強方法と大学に入ってからの勉強方法がかなり違っていたのでショックだった。自分から何事も積極的に興味を持ったり、勉強するのが当たり前ということを思い知らされ、１年時は特に戸惑いを感じた。大学側に対しての親近感が湧かず、愛着心も持てないことが残念です。人数が多いので難しいとは思うが、もう少し愛校心が持てるといいと思う。

〔文三男子〕

○　・方法論基礎という枠を廃すべき、面白くなくても学生が履修せざるを得ないため、教官の先生方が授業に何の工夫もなく、わかりにくい話をえんえんと続けてよくない。
・理系の方々は文系の授業をどれでもとれるのに対し、文系は理系の実験などがとれない。集中講義ではなく学期内に文系向けの実験等の授業を総合科目の中に設けてほしい。
・学部生だと、読みたい本が駒場になく、本郷にしかない場合、本郷に借りに行かなくてはならない。また本郷の図書を駒場で返却できない。非常に不便。

○　この調査を毎年実施していて、今回もどうせ結果を出すんだったら、調査結果を早急に反映してもらいたい。例えば、第２外国語を進学振り分けを決める実質的な基準としてしまっている今のシステムは、本当に「リベラルアーツ」実現に有効なのか。文系にとって２外の負担は重いが、それをクリアできたから、こなせたからといってふるいにかける目安とするのは大学側の怠慢を感じる。むしろ「語学さえこなせば、楽な総合科目を少しだけとって楽に平均点と単位の確保だけして」大学からはなれる流れを学生につくっているだけだ。
　「リベラルアーツ」でいいのかもしれない。それについていくだけのポテンシャルをもった学生が集っているのかもしれません。
　しかし、それを形骸化させてるのは、猿マネ「リベラルアーツ」を誰も変えようと動かない現状、それをつくっている大学側の現状に安住しようとする姿勢にこそある。・・・とエライ人に直訴したいと思うことがよくあります！！

○　大学へ。
　最近、駒場の図書館施設が整備されて、たいへん満足しています。こんな感じで、授業用の教室や学生会館等もより一層整備してほしいです。
　あと、進学振り分け制度については、納得できません。進学に最も必要なのは、「点数」ではなく、学びたいという「意欲」なのではないでしょうか。今後のためにも、改善していくべきだと思います。

〔文三女子〕

○　必修授業、特に英Ｉ、第二外国語、授業の必要性に疑問を感じる。読んできて授業では答え合わせ、わざわざ授業という形をとらなくてもネット等で解答、解説を参照できるようにすれば事足りるように感じる。必修ほど形式化されて面白味のないものなのに強制的に時間を割かれるのは苦痛。内容を改善するか、選択科目にするかにしてほしい。

○　教官アドバイス制度の教官連絡先に電子メールがありますが、全教官がメールのアドレスを連絡先に指定しているわけではないので、不便です。

○　情報処理の授業はレベルごとに分けてほしいです。もっと実際にすぐ使えるような内容を知りたかったとも思いました。

立ち見になる授業が時々あるので、なるべく全員が座れるようにしてもらいたいです。

〔理一男子〕

○　・進振りはもう少し自由度をもたせて欲しいかも。
・学内全面禁煙。
・今、総合科目一般で後期課程の先生のオムニバス授業があるが、あれをなるべく多くの学部、学科で、シラバスにも“～学科体験講義”的に大々的に行って欲しい。進学の参考になる。
・新しい校舎はあまり好きじゃない。900番講堂とか１号館みたいな建物が好き。

このようなアンケートは、学生の意見をフィードバックしてくれて、とてもありがたい。

○　・基本的にどこの場所もきたない。もう少し全体的に清潔にしてほしい。
・いすがせますぎる。

○　必修の科目の中にも、同じ科目なのに教官が自分の好きなように教え、他のクラスと内容・進度ともに全く異っているものがある。そんなことをしていて果たして将来の役に立つような学習ができているのか非常に疑問である。もっと教官間の連携を密にし、内容・進度を統一すべきだと思う。

○　大学への要望として、図書館の開館時間の延長、生協食堂の休日営業などが考えられます。また、図書館利用者の中には、館内で話したり、蔵書に書き込むなどのマナーの悪い人が少なくありません。特に館内で声を出すと周りの利用者にかなり迷惑になるので、図書館員の人は見周りのさいに注意をしてほしいです。授業の内容やレベルに関しては概ね満足していますが、成績評価が教官によって変わるのが納得できません。評点が進振りの点数として用いられるからにはできるだけ平等な評価（例えば数学Ｉなら理Ｉの学生に共通試験を課す、等）をするのが重要だと考えます。あと、他の大学と違って東大が教養学部を残したのも、色々な点でとても素晴らしいことだと思います。

○　大学に入って感じたことだが、大学での学習内容（必修科目を主に想定）は高校に比べ抽象度が高く（特に数学・物理学＝理系の中心科目）、記号も多くなるため、学習内容の吸収・定着（つまり学習）に必要なエネルギーというか、労力が非常に多く大変疲れる。それでいて授業時間は集中力が持続する時間よりずっと長く、また授業スピードは集中が切れた時についていけるものではない。できれば授業時間を90分から80分に少し短くし、一日の終了時刻を早めて各自の自習の時間を増やしつつも、修了に必要な単位数を増やして修了を難しくすると良いと思う。一方、メールによる教官への質問ができるシステムがある等、インターネットを大いに利用した教育システムは非常に良いと思う。

○　オフィス・アワーはあるものの利用しづらく、教官と生徒の接点が少ない。担任もいるが、一度も習ったことのない教官が担任であったらほとんど意味がないと思う。

授業評価があるのは良い。これからも続けて欲しい。

○　東大においては、進学振り分け制度の存在により、教養における教育が、理論的・基礎的な部分に傾き過ぎている気がする。特に他大学と比べて、化学・生物系へ進む際の実験・学習（教養学部での）の量は著しく不足していると思う。

進振り制度を維持するのなら必修の負担を小さくして、総合科目の比重を増やし（実験の総合科目化等も含めて）、学生が将来自分に必要になると思われる事項を自由に勉強できるようにするべきだと思う。

○　駒場の体育館は汚なすぎます。特にトレーニング体育館には、古いマシーンや器具しかなく壊れているものも多いです。また、せっかく身体運動科学の研究棟があるのですからトレーナーという形で研究者をトレ体に常駐させ、指導等を行ってもらえるようにするというのはどうでしょうか。シャワーも汚ないので利用する気になれません。ランニングマシーン等の有酸素運動系の器具の設置もお願いします。バレーボール部員。

○　・必修授業なのに教室がせまく、全員が席にすわることができずに立ち見することがあるのはおかしいと思います。
・２年後期（冬学期）に、特に本郷の施設が必要なわけでもないのに週一回か二回本郷で授業するのはやめてほしい。駒場か本郷のどちらかのみにすべきだと思う。交通費がばかにならないし、学生の数を考えるとエネルギー的に非効率。
・変な宗教サークルが学内によくいてよびこみをしているので、学生に注意をよびかけるべきだと思う。
・重要な連絡は掲示板だけでなく、家にも情報を送ったり、メール送信してほしい。風邪を引いたときや旅行のとき本当に困るので。
・みんな言っていることだが、学生課・教務課の昼休みと学生の昼休みが時間的に一致するのはひどいと思う。それでは休み時間に利用できない。３限の間に昼休みをとるなど、時間をずらしてくれないと困る。
・このアンケートは全員にとるべきだと思う。少数意見でも大切な意見があるだろうから。
・４学期の工学部は、語学によっては火曜と木曜が１限と５限が必修で、２～４が空いているのはひどいと思う。もう少し考えて時間割りを組んでほしい。
・なぜ本郷の一部の学科では、１限が８：30からな

のか分からない。統一するか、渋滞をさけるならもっとバラバラにした方がいいと思う。ちゃんと説明してほしい。

・文系と理系で必要単位数が違うのもおかしいと思う。特に１、２年は教養学部なのでまだ学部・学科に分かれていないのに、人によって文系から理系あるいは理系から文系にかわる人もおり、また文系はあまり勉強しなくてもよいというのも変だし。一般教養を身につけるのに、なぜ単位の数に差が出るのか分からない。

・ほぼすべての学生が望んでいることと思うが、成績は各教科ちゃんと点数で１００点満点中何点なのか教えてほしい。というか大学は情報公開の義務があると思う。特に東大は進振りで点数が必要なのに、自分の成績が何点なのか本人にも分からないのはよくないと思う。人手が足りないなら増やせばいいし、優・良・可・不可とかつけるなら点数を出しているはずなので、点数もちゃんと教えてほしい。あと、できるだけテスト・レポートをすべて返却してほしい。見なおしができないので。

・コア平均点は計算がややこしく、分かりにくいのでもっと単純な計算にしてほしい。

・学生交流の場をもっと増やしてほしい。

・掲示板を見るとき、どれが新しい情報なのか分からないので、当日掲示したものには印をつけてほしい。新しい順に色分けするなど、以上です。

○　東京大学は、日本の最高学府として志ある学生が全国から集る場である。その選考が学力のみによって行われるのは異論はないが、入学後、部活動で、スポーツの分野で自己表現、人生経験を積みたいと願う者も多々いる。そういう者に対する学校側の援助（グラウンド、合宿所、寮などの充実）がおろそかになっているように感じる。伝統ある学校であるからこそ、そのような分野でも他の模範となるような活動をできるよう促進すべきだ。

○　進振りの制度の見直しをすべき。自宅生と自宅外生、仕送りで暮らせる子と、自分で生計を立てねばならず週に数十時間のバイトをしなければならない子、などの間で、勉強する環境に差がありすぎる。私も数十時間バイトをしているが、進振りの前は進振りで確実に希望する学科に行くため、現在（進振り後）は、進振りのためわずか２年半に圧縮された多くの専門課程の講義を消化するため、勉強している（いた）が、このため全くといっていいほど自由時間がない（なかった）。このように、家の家計に負担をかけまいとすると、教養学部と進振りの制度があるがゆえに、身につけたい教養を身につける余裕がなくなってしまっている。

〔理一女子〕

○　教養は、１年半でなく１年で充分だと思います。多くのものに接することは長くできて良いですが、専門に入るのが遅い様に思います。結局のところ、核心に入れるのは専門からであり、教養は雑学を増やす程度で終わるものも多少なりあります。他学部聴講の形で専門以外の授業をききたければきけるのだから、教養を１年間にして、専門を２年からにして欲しいと思いました。

〔理二男子〕

○　現在の理Ⅰ・Ⅱの区分の仕方やカリキュラムの組み方は廃止してほしい。私は理Ⅱだが、理Ⅰの学ぶ数学も同等のレベルで学びたいし、基礎実験においても物理系実験が少ないことに不満を感じる。また、理Ⅰの学生も生命科学の基礎を必修で学ぶべきであると思う。進振りにおいても、工・理・農における理Ⅰ・Ⅱの区分をなくし、より多くの学生に門戸を開いてほしい。これは私のみでなく、私の周りにも多く、この意見を持つ者がいる。科類の枠は数年後になくなるらしいが、現役学生にも配慮し、来年度からでもすぐに進振り枠の廃止を行ってもらいたい。あと、構内が建築ラッシュだが、貴重な昔からの建築への配慮をもっとしてもらいたい。大学という場に安っぽい建物は似合わない。法人化しても大学でしかできない利益のない（少なくとも短期的には）基礎研究を大切に守ってほしい。これらがなくなっては、大学（特に東大）の存在意義はなくなると思う。

○　奨学金制度や学寮への入寮の選考基準とされる家庭収入のみによる評価は不当である、というのも、中には負債の返済に追われている者も多いので、その額も考慮すべきだ。画一的な収入の単純評価は、ただそれらを考慮する手間を省いているようにしか思えない。

○　以前、自分が卒業後、海外の大学院への進学等を考えていて、留学生課に行ったが、受け入れの情報はあっても送り出す情報はなかった。アメリカのテキサス大学に行っている友人に聞くと、むこうにはinternational officeがあり、そこで海外留学の情報等が得られるらしい。そういった外国の大学との関わりをもっと増やし、学生にその機会を提供してほしい。

○　ここに書いても仕方ないことですが、駒場の食堂はあの値段ならかなりの（過剰なほどの）利益が出ているはずです。キャンパス内の食料品販売を独占しているのですから、当然と言えば当然です。もし利益が出ていないとすれば、それは無駄が多いからでしょう。明らかに仕入れ過剰のブラックカレーを現在200円で叩き売りしています。以前にもミートソースの使いまわしやコロッケの使いまわし、去年の冬には２階食堂のメニューがキムチだらけになったこともありました。しかし大学と生協は別機関ですから、生協に対し

て何か命令を下すことはできません。そこで私は、キャンパス内に民間の食料品店を誘致することを提案します。この誘致による健全な自由競争の下で、生協（特に食堂）のムダを省いた経営の達成を願うばかりです。

○　広く知識欲を満たし、教養・見聞を広めるためにも図書館とともに書籍部の拡充は必須と考えます。近所の本屋にはない教官の経験と信念が反映されたラインナップを期待します。また、駒場のリベラルアーツは楽しいですが､教官との濃い接触がしにくいのが欠点。自らの反省を込めて言いますが、ヒトは実際に活動しないと体得できません。それすなわち自分で調べ、作り、完成させることと思います。完成しなくともよいですが。それを一人でやれといっては大学は必要ないでしょう。まだ未熟な学生が、未熟ながら何かの目的のために活動に参加する。それが、専門外のことであったとしても世の中に通じる人間を創ると思います。

〔理二女子〕

○　寮や福利厚生施設の更なる拡充と、奨学金をとりやすくしてほしい。宗教活動や政治活動が他の大学にくらべてはげしく、迷惑している。サークルや実験などで夜まで残っているとロッカーの辺りや生協の裏あたりで勧誘活動をしている。トイレの中とかでも、ビラ配りの人にあって非常に困った。

〔理三男子〕

○　教養学部の理系のカリキュラムについては指摘したい事がある。せめてある程度、数学が進んでから物理や化学などの講義をしてもらわなければ無意味になってしまうと思う。一学期のうちに数学は物理・化学に必要となる分野を終わらせ、二学期から物理・化学をやるという形がいいと思う。また、教官には少なくとも高校範囲で何をやったかくらいは事前に知らせておくべきだと思う。明らかに高校範囲の勉強に無頓着な教官が見うけられる。

〔法学部男子〕

○　大学の変わろうという姿勢が内外から伝わってきます。これからもよりよい大学を目指し、頑張って下さい。そうした熱意が学生にも伝わり、より優秀な人材が輩出されていくことと思います。私も大学に負けぬよう、日々精進する所存です。

○　法学部の少人数教育の機会を増やして下さい。

○　法学部の教授の先生方について。

　先生方のうち多くの方が、早口、高度な内容にもかかわらず繰り返して言わない、板書きしない、など授業の方法に工夫がなさすぎるようにと思われます。ひとにぎりの生徒を除けば授業についていくのは非常に困難です。

○　83（日本の教育の現状と、これから向かうべき方向）の内容と関連しますが、奨学金などの拡充を進めてほしいと思います。来年度からの独立行政法人に伴い、次第に授業料が上昇することが予想されますし、来年度からの法科大学院等の設置などにも見られるように、文系学生も大学院に進学する流れが加速すると思われます。家庭の収入の格差が理由で進学を断念するような人がでないように制度の改善を行っていただきたいと思います。また、現在では法律の問題があり難しいかもしれませんが、東大は社会的信用も高く、多くの優秀な人材を輩出してきたと思いますので、東大が独自で民間からの投資を求め、集った資金で東大独自の奨学制度を作ることも検討していただきたいと思います。このような働きかけは国内だけでなく、国外にも行い、それと引き換えに留学生を受け入れるなど様々に発展させてほしいです。

○　意外と満足しているのでこのままがんばってください。でも教務課はもう少し優しくしてほしいです。

○　定期試験の成績について教官に説明を求める機会を設けるべきだと思われる。

○　法文館が古く、特に大教室で授業を受けているときに、その耐震性が不安です。歴史ある建造物なので建替えてほしいとは思いませんが、早急に調査・補強をしてほしいと思います。

　５月、６月の総合図書館において、とても暑いときがあります。改善してほしいです。

○　駒場の第一体育館２Ｆのシャワー室のシャワーのヘッドが、６つ中４つない。ここ２～３年はその状態が続いている。いかがなものか。給湯事情もあまりよくない。第二体育館のシャワー施設も使えない状況である。（外のシャワー室はまずまずだが・・・）

○　法学部は600人授業などが多く、どうしても近しい人間関係を築くのが難しい。そのうえ、ゼミも半年単位であり、本郷にくるとサークルにもそれほど力を入れなくなるので、大学に自分の居場所がなくなる。せめてゼミを２年間にし、人間関係をゆっくり育んでいけるようにしてはどうか。

○　司法試験を受験していますが、結果は芳しくありません。本学で司法試験から別の道へ転向した方のお話を聞ける機会が欲しいと思います。

○　大学内にもう少し、くつろげるスペースを設けていただけたらうれしいです。

○　部活動に対する配慮が足りない。フットボール専用のグラウンドがあれば良い。強いチームは全て大学側の協力がある。東大は何もしてくれない。

　又、個々の学業成績については、学生の課外活動等については当然考慮する必要ないと思うが、ある学生を評価する際に、成績表の数字だけで彼・彼女を評価してしまう先生方が多過ぎると思う。

○　図書館24時間開けておいて。コンビニが24時間開け

られるのならば図書館だって24時間開けられるはず。また休館日をなくして、コンビニもたしか年中無休です。あと図書館の席を増やしてほしい。

○　法学部学生ラウンジの陰気臭さを何とかしてほしいです。使ってない教室を１つラウンジにしてほしい。国際交流（学問の）をもっとしやすいようにして、大学の授業と国際標準との関係（位置関係）をもっと意識したい。大学の授業を受けていて、全員にとって将来、絶対役に立たないと思うものもある。法学部の学生のほとんどは法律家（法を使った職務）に就かないことを考えてほしい。

○　特に要望ではないのですが、大学とは結構寂しいところだと思います。（法学部だけでしょうか。）人間関係が希薄な感じがします。広く浅い交友関係が多いように思います。まあ、自立した人間になっていく過程と思えば仕方のないことかも知れませんが。

○　学内の全面禁煙（又は完全な分煙）を強く希望します。講義中に教室の外から煙が入ることがあり、また建物内の人通りの多い場所（特に掲示板付近）での喫煙は大変に迷惑です。歩きタバコも同様に迷惑。教育機関である大学は禁煙を推進してよいはずだと思います。

○　法学部の２年次科目は非常に重要なものが多い（とあとの学年になってからわかる）が５限などに開講されることが多く履修しづらい。またこれらの科目は必修科目でもないのに「～の授業でやったように」と３年次以降の科目で省かれるのは（実際に影響ないかもしれないが）精神的につらい。２年次科目については、その重要さをきちんと説明する必要があるし、また、自分の学習が十分でないと感じる科目（ex. 可の評定をとった科目）について再履修をみとめるなどしてもいいのではないか。学業に対するモチベーションは本人が保つべきは当然だが、あまりにもモチベーションを低下させる要素が多いと思われる。

〔法学部女子〕

○　外部の講師の方がよく東大の設備の汚さを指摘されます。日本を代表する大学なのだから図書館などだけではなく全体に整備が必要だと思います。

　後専門図書館の開館時間がより遅くなるとよいと思います。

○　大学への要望：私はロースクールへの進学を考えているのですが、選抜基準やカリキュラム・授業料に関する早期の情報開示はさることながら、設立以後の状況説明（円滑に制度化されているのか、教育効果はどうか、院生へ評判・評価はどうか等）も、できるだけ詳しく外部に伝わるよう配慮をお願い致します。

　また、法学部教育の見直しも検討していただきたく思います。大人数講義の形式は、学生に自ら学習指針を設定させるという意味で、学生に対する信頼の表われとも感じますが、他方で過度の放任主義の弊害も多く生じていると思います。特に予備校に通っていない学生は目的意識が散漫になりがちなのでは、という印象を持っています。

○　カリキュラム上の問題からか、日本（の問題）を世界的なトレンド、コンテクストの中で考えることも考える人も少ない気がします。東大の卒業生も国際的な社会の中でおくれをとらないよう、国際競争力を考慮した教育を考えて欲しいです。

○　まず法学部の設備と授業体制の抜本的な改善を要求したい。同じ授業料を払っているのに格差がありすぎる。ゼミも全員とれるくらいの枠を用意するのが当然の姿勢ではなかろうか。他学部聴講の枠を広げるべき。本郷内の照明を明るくしてほしい。夜歩くのが恐い。

○　学校内のラウンジスペース、控室などがより雰囲気の良い、広いくつろげるスペースになることを強く望みます。

○　友人で精神的、肉体的、健康を害する人がとても多い。そうゆう友人たちのケアをしてほしい。

○　・学食をもっとおしゃれにしてほしい。業者入札制度などを設けるのはどうでしょう。

　・キャンパス内に飲み物の自販機や売店（キヨスクのような）を増やしてほしい。

　・法学部の校舎も内装をきれいに改装してほしい。（経済学部のように）

〔医学部男子〕

○　僕は医学部の学生なので医学部のカリキュラムについて。医学部は、専門の教育をもう少し早い時期からやった方がいいように思います。現在、臨床系の科目は４年の１年間のみで行っていますが、これはかなり無理がある。テスト勉強にばかり時期を取られ、「テストに通るため」の勉強しかできません。やはり、臨床系の教育をもっとゆっくり、しっかりやってほしい。「あとは各自で見ておいて」という授業が多すぎます。

〔医学部女子〕

○　・大学構内を全面禁煙にして欲しいと思う。学生や職員の健康を守るために、それくらいの対策はとってもよいと思う。私の所属する健康科学・看護学科では玄関に喫煙所があり、大変見苦しいし、来客者にも失礼である。

　・健康科学・看護学科では平成１６年進学者から助産師の資格が取れるようになるが、平成１５年進学者が東大で資格を取れないという状況がとても残念である。移行措置を設けて欲しかった。これは学科に要望すべき点だと言われるかもしれないが、日本の助産教育に大きく貢献した「東大の助産」を「東大で」学びたかった。（分かりにくい文章で申しわけありません）（後日先生方がいろ

いろとご検討なさっての結果ということを聞きました。）

〔工学部男子〕

○　専門がはじまるのが遅い。自由な駒場時代は楽だったが、勉強に限定するとほぼ何も学んでいない。何を知識として得たらよいか必要かが専門がもっと早く決まれば分かるし、ゆっくり学べる。

○　紙でアンケートするよりも学生を呼んで討論させる方が真剣な生の声をきけるのでは。

○　工学部編入に関してであるが、２年冬学期の単位はほとんど認定されるべき内容であるので、３年次編入後２年で卒業できるようにはならないだろうか？教養学部の単位に縛られない柔軟な考えはできないだろうか？編入１年目は、単位合わせに不必要な単位を取りに駒場に行かなければならず（しかも週２、３日で履習できる程少ない単位数）大変面倒であった。

○　東京大学では、単位の取得が他大学に比べて究めて難しいし、その量も多いと思う。大学で学びたい事は皆それぞれ違う。専門を究めたい者もいれば、大学にしばられることなく、様々な活動をして視野を広げようとする者もいる。まだ、「教養（知識）を身につける事が本当の教育」という考えが根強く残っているが、国際化・情報化が急速に進んでいるこの時代に、必要なのは社会における積極性、コミュニケーション能力などではなかろうか。質の高い授業を提供しつつ、学生を拘束しない体制は作れないだろうか。

　役立たない授業で出席を取って学生を拘束していては、新しい事に挑戦するような積極的で優秀な人材は、あまり育たないのではないか。

○　工学部各学科の事務がバラバラで、いろんな学科の講義をとる際の便が悪すぎる。少なくとも掲示はすべてオンラインにしたり、メール配信されるようにして、また講義日程や進行が把握できる各講義のWeb掲示板が必要だと思う。（例えば、「次回は△月□日配布の資料を使うので持ってくるように」など、学科の掲示に載らない情報も参照できるとよい。気がきく先生はすでにやっている。）

○　進学振り分けにより、人気不人気による人材の偏りが大きくなっていると感じる。ただ、自分の興味に応じた勉強ができるという利点を、教養学部は持っていると思う。

○　実験や実際の技術と大学の授業の理論をカリキュラム的にリンク（同時期に実験と授業を並行して行うなど）させてほしい。授業でわからない部分や不明な点を忘れた頃に実験等で同じ内容がでてきてもわからないままになってしまう。

○　「匿名」で無作為に抽出することは構わないと思いますが、「不満を持ってる」「意見が言いたい」人は少なからずいるはずで、そういった人達は貴重な意見を持っている場合があるので、「志願者」のサンプル、意見を導入する場を設けることが必要と思います。

○　本郷に比較して、駒場は立て看やビラが多すぎて、キャンパスの景観を損なっている。本郷のように許可制にしたほうが良い。また、駒場の一部の自治団体は、やたらと学部と対立したがる元駒場寮生の残党に乗っ取られてしまったものもある。これでは本当に多数の学生のためを考えて活動ができるとは思えない。是々非々でまともなやり取りが学部とできるような雰囲気を作る必要がある。それには、駒場を「本郷化」することが良いと思う。キャンパス全体を本郷のような雰囲気にしてもらいたい。

　生協が全体的にせまいです。

　今度、法人化されることですし、お役所体質を改めて頂きたい。

○　キャンパスプラザの開館時間をもっと増やしてほしい。御殿下のジムやプールを休日も開館してほしい。学生は休日授業がないので、学生中心に考えれば開いていて当然。職員は公務員意識がぬけていない。

○　履習登録のシステムはぜひ改良して下さい。学部の授業で忙しいのに登録に時間がかかりすぎます。

○　進振り制度自体は賛成であるが、客観的評価が可能なデータを示すべきである。一部の選択には偏差値的に決める学生もあり、研究レベルを示すべきだ。論文点数や、企業からのグラント実績のある学科を知る指標が少ない。これでは進振りの意味がないではないか。このアンケートは賛成するが、どうせやるなら全項目のフォーマットを統一すべきであろう。

○　大学への要望として定員を減らすべきだと考える。設備、スタッフから考えて今の学生数は多すぎる。また進学振り分けに関して試験の点数重視によって「点数が高いから、・・・に進学しよう」と考える学生が非常に多いという現状を考えるべきである。またリベラル・アーツの考え方は非常に重要だと思われるが、進学振り分けがある以上、本来のリベラル・アーツの「教養人を育む」という効果はうすれている感がある。つまり教養を身に付けるよりも点数を取るために授業をとるという姿が目立つ。この点は速刻変えるべきだと思われる。

○　立地場所のせいか、開放感がない。できれば郊外に移転し、よい環境の中で勉強・研究したい。

○　進学振り分けに使われる科目のうち、必修科目の試験は全て共通試験にすべきだと思う。教官により評価が異なる現状は不公平である。

○　東京在住の人でも寮に入れるようにしてほしい。

○　大学では専門教育やら何やらの前に、自分というものを見つめるための講義をもうけるべきだと思う。自己啓発を促すようなカンフル剤があれば、頭のいい東大生のことだからそれだけでもっと学生の質が向上するように思う。

○　駒場の図書館新設をはじめ、種々の建物が現在建設中であるが、学年学部によりその恩恵を受ける度合いが異なってしまう問題があります。同じ授業料を払っているので、なるべく差が出ないように工夫して欲しいです。私は現在工学部５号館におりますが、建物は老朽化し、外側を耐震補強している状態です。エレベーターが頻繁に故障したり、ドアが閉まらなかったりするので、少し考慮して頂けたら幸いです。

○　ボート部等、運動会のクラブへの入部を奨励することでスポーツ界においても東大の名を高めるよう、大学側にもお力添えを願いたい。強い東大は学生間で明るい話題として語られるはずです。

○　留学の機会をもっと増やして欲しい。

○　どうか、美しい大名庭園を大切にして欲しいと思います（東大生の美意識や国立大学の経営哲学のずさんさを露呈しているようで哀しいです）。11号館前の樹林を伐採してプレハブを建てたのは仕方がなかったのかも知れないですが、他に方法がなかったのでしょうか？学生が寛げるスペースを整備していくことは大切ですが、ただ広場を作るとか、椅子を置けば良いのではないということを十分理解して頂きたいと思います。これだけ素晴らしい人材を輩出しているにも関わらず、なぜそうした卒業生あるいは在籍する研究者（建築、土木、都市工など）の力添えを頂けないのか、という点を考えると、やはり事務側・運営側の怠慢があるのではという思いを禁じ得ません。諸々の点で不満はありますが、その他多くの点では非常に満足することが思く、感謝しております。

○　書いても仕方ない気がするが、男女比がかたよりすぎな気がする。サークルとかがあるとはいえ、２０才前後の人々があの環境でずっといるのはどうかと思う。特に中高一貫男子校出身の人達はなかなか女性とコミュニケーションをとれなくて大変なのでは、と思う。勉強する場所なので関係ないといえばそうだが、なんとかならないものか。83（日本の教育の現状と、これから向かうべき方向）のところにも書けることだが、男子校、女子校って、何の意味があるんでしょう？東大の男子校っぷりがあんまりだったので書いてみました。

〔工学部女子〕

○　英Ｉと同様に、基礎講義（物理、化学、数学）の試験の統一を強く望む。この分野は教官によって難易度、評価が著しく違う。点数のみで進学先が左右される進振り制度がある限り、この不平等性は大きな問題であろう。さらに、習熟度別クラスをもうけ、学生にある程度教官を選択できるようにしてほしい。駒場時代、実際に、“難しすぎて分からない、簡単すぎてつまらない”という苦言はよく聞いたし、自分もそう感じた。将来に必要な必修科目であるからには、大学側からも学生が講義への理解を深められるように制度面から改善の努力をしてほしい。

〔文学部男子〕

○　図書室関係の使い勝手が悪い：文学部図書館や漢籍コーナーなど、土日に開いていないのは困る。平日は毎日授業で図書室で調べものをする時間などないので、土日が使えないと非常に不便である。

○　本郷（後期課程）についてはとくに言うことはない。素晴らしい環境・授業であり満足している。ただ駒場（前期課程）に関しては、相当の不満が残る。キャンパス・授業内容ともにかなりひどいと思われる。特に授業に関しては、大教室でのだらだらとした授業は、教師・学生ともに意欲をそがれた状態で行われていることが多いように記憶している。ゼミ形式の授業の拡充を急務とすべき。駒場に知的刺激は存在しない。単位は与えるとしても（単位の評価基準は据え置くとしても）、成績の評価はかなりの程度きびしくすべき。

○　教養学部のAIKOM制度を全学規模に拡大すべき。他大学との交流協定は本来、学部単位でなく大学単位でするものではないかと思う。現状では教養学部後期課程が優遇されていて不公平に感じる。

○　学生にもっと厳しく。落第する学生が多く出ても良いのではないか。逆に、評価に関する情報は全面的に公開すべき。講義や試験が、もっとオープンに他者の目にさらされる（あるいは、さらされても良いものとしてとらえられる）ようにすべきと思う。

○　留学生の受け入れや逆に、留学生を送るにしても、もう少しサポート体制を整えてから行ったほうがよいと思う（孤独に悩んだりしないように）。

　駒場ではもっと議論をする授業や実習、グループワーク等を増やすことによって教育内容そのものを変える必要があると思う（進振り以前に）。教員の種類も実務家等を増やした方がよい。本郷との距離（授業の）を狭めたほうがギャップが少ないのでは。

　東大生のinput能力はとても優れていると思うが、反面表現したりコミュニケーションするのが苦手な人も多い。ただそれは大学教育でもかなり改善できると思う。期待しています。

〔文学部女子〕

○　現在文学部に所属しているのだが、交換留学制度が存在しないことに驚いた。全学部ないならまだしも、教養学部にはあるのに、他にないのは変であり不公平。また私費留学しようと思っても、そのための相談窓口が充実していない。学生相談所は予約など必要で面倒なため利用したいと思わない。せめて留学のパンフレットなど作ってほしい。

○　学費をもう少し安く、そして大学院生に対する奨学金を充実してほしい。学費の問題で悩んでいる友人は

日本人学生、留学生両方に多い。学生みんなが心おきなく大学生活を送れるように大学にはがんばってほしい。本当に学費は死活問題である。

○　就職課がないというのはひどい。結果的にうまく決まったから良いものの、もしダメだったら確実に大学を恨んでいました・・・。

○　東大の学生は他大生と比べて自分で考える力・産み出す力に欠けると思う。その原因の１つが本郷でのゼミだ。東大のゼミは内容も方法も教授の姿勢も改善の余地が多々あると思う。ONEWAYなゼミでは自分で考える力は養えない。学生同士のディスカッションや外部機関との協同プロジェクトなどゼミがもっと活性化するような工夫をしてほしい。ゼミ生同士の仲も東大はサッパリしすぎだ。ゼミ合宿や研修旅行などのイベントがなぜないのか？他大ではどのゼミでも当たり前のようにあるのに。そして総じて教授のゼミに対する意気込みが甘い。自分の研究の片手間という感じがする。

　東大生はたしかに『頭がイイ』。しかし『賢い』というのとは違うと思う。自分の中で閉じた『頭のよさ』ではだめだと思う。つまりコミュニケーション能力、プレゼン能力に欠ける。

　以上のような問題点を改善しないといわゆる“東大生”＝ダサイ・ツマラナイ・マジメというステレオタイプはなくならない。もっともっとオモシロイ東大生が増えることを期待してやまない。

〔理学部男子〕

○　進振りは過度な点数競争になっている。また決定してもう進路変更できないことも問題がある。一年半も必要なのか、一年で十分でないか。また、カリキュラムを必修でしばる必要があるのか、最低限以外は３年、４年と選択の幅を増やすべき。教官が大学院編重である。なんのために東大で学部生をしているのか、むしろ一般教養の学部と院での専門を教官も含めしゅん別するのも良いのではないか。

○　・駒場の掲示板は新規張り出し分を確認しづらいために、新しいものがあるかを探すために、掲示板の全体を見直さなければならず、労力が増えてしまっている。永続掲示の部分と日々追加される部分とは、少なくとも分けておいたほうが良いと思う。また、期限の切れた掲示の取り除き、適宜行った方が掲示物は見易くなる。

　・建物等、管理者が多岐に渡ってたり、報告や処置を求める際にたらい回しにされることがある。細則の他により実務的な取り決めをまとめたものが、明確な場所で手に入ると活動し易くなる。

○　東京大学は、「教養学部（前期課程）」ならびに「進学振り分け制度」を自慢しているが、実態は逆だ。これらの弊害により、多くの学生が専門的知識・技術（後期課程で学ぶこと）を消化できないでいる。これに比べ、他大学で、例えば初年級より専門的学習を”時間をかけてじっくり”学んでいる学生は、本学の普通の学生より優秀であることは稀ではないと思う。「最高学府東京大学」の名に恥じないような（大学での）教育を強くお願いしたい。

　このsurveyについて：折角こうしてアンケートに時間を割き、回答しているのだから、せめてその結果を調査回答者に送付する、ぐらいのことはしてほしい。「教養学部報にのせるから（しかも１年後）」ではあまりにひどいと思う。

○　法学部、経済学部、医学部の人間は、進振りが無いに等しく、大学１、２年のころ遊んでしまっている。そのせいで、無駄にすごしているように思う。ここの改善が一番の急務。

〔理学部女子〕

○　国立大学という恵まれた環境に進学しながら、学業以外に夢中になり留年する人の多さには失望している。成績のつけ方はむしろ甘いと思う。入るのは易しく、出るのは難しい、そういう大学であっほしい。

○　大学への要望

　大学の学費が高すぎる。これから法人化することによって、さらに学費が上がるのではないかと不安である。私は来年度修士課程へ進学する。さらに博士課程まで進むことを希望しているが、今以上学費が上がると、それは断念せざるをえない。自分の実力不足ならしょうがないが、学費不足で進学を諦めるのは、悔しくてならない。東京大学は、高い年収の親を持つ人が多く、学費に困るような人間は少数派だろうが、私のような人間の存在を忘れず、サポートしていって欲しい。

〔農学部男子〕

○　・この様なアンケート調査をしているいのは元々知ってましたが、その結果が生かされて大学の改革／改善に使われている様にはなかなか見えません。もっと、そこらへんを透明化して、みなによく分かる。改革／改善を進めて行って頂かないと、アンケートに対する回答率も下がる様に思われます。

　・研究者としては優秀だが、教育者としては失格の教官があまりに多すぎます。もっと（東京大学とは云えども）教育への配慮をしていかないと、次第にこの大学に対する評価も下がっていくのではないでしょうか？真剣に検討をお願いします。

○　東大の学部間のギャップを無くすために、授業時間や長期休みなどを合わせてほしいです。（統一して）

○　この調査がこれからの教育にどう反映するのかをもっとオープンにして欲しい。

○　キャンパス内が汚なすぎます。教育・研究設備にお金を注ぐのもいいですが、もっとキャンパスの整備にお金をかけてください。

〔農学部女子〕

○　海外留学（単位互換可能なものも）制度を改善し、もっともっと留学をさかんにできるような体制をつくってほしい。東大はその点でとても遅れていると思う。

○　学部によって授業期間、休暇、一コマの時間などが異なり、他学部との互換性があまりない。授業期間・休暇期間、一コマの時間などは全学で統一してほしい。

○　研究に才能のある人と、教育に才能のある人は違うと思う。教授の役割を中途半端にせず、どちらかに分けた方がよりよい人材が育つのではないかと感じる。

○　量が多い。貴重な時間を費し、大変でした。けれども、この様な調査が現状の改善に役立つなら良いと思う。

○　本が様々な図書館に分散されておかれていて、学生ではとりよせができないのが不便だと思う。学習用のビデオをその場でしか見れないのは不便。貸し出しができるようだったらよいのにと思う。しかもビデオの視聴ができるのは駒場だけで、本郷、弥生ではそういう施設もない。駒場の時に学習用のカセットテープを録画音できたのは便利でよかった。本郷に運動施設（御殿下）があるのはありがたいです。時々利用しています。サークルでなくて個別に利用できるテニスコートがあったらよいかもしれないと思う。

〔経済学部男子〕

○　大学というよりも経済学部に対する要望であるが、後期課程において単位さえそろえれば卒業できるという今のシステムには賛成できない。前期課程における専門科目１の授業だけで経済学の基礎をカバーできているとは思えず、後期課程においても経済学の基礎をカバーする授業を必修として取り入れるべきだと思う。

○　大学から「大学で学ぶものとされるから、世の中の役に立たないけど一応学ぶべきもの」とされるような学問を一掃してほしい。もっと、将来の仕事の原動力となるような、直接的に役立つ専門的知識や、仕事をしていく上での一般的マナーのようなものなどもカリキュラムにたくさんたくさんたくさん取り入れてほしい。そうすることで、日本の産業の効率性は大いにアップすると思われる。

○　就職課のようなものを作ってほしいです。

○　やや細かい事項だが、経済学部内で経営学科の授業数が経済学科に比べて少なすぎる。同数の単位取得が卒業の必要条件とされているにも拘らず、登録可能な授業数の母数が異なる現行のシステムに疑問を感じる。

○　授業に興味を持ちやすくできるような工夫を教授陣にお願いしたい。「時間がなかった」などという理由で、どう考えても適当と思われる授業をしてほしくない。そのため、授業評価の公開や、その評価を少し処遇に結びつけてほしい。

○　質問の意図がわからないものがいくつかあり、答えようがあまりないものが見受けられました。
　例、64番「学力を引き上げる」というのは全体の底上げなのか、一部の人だけ上がればいいのか。就職関連のところもかなり日本語の意味がわかりにくいです。答えやすいアンケートにしてください。

○　本郷キャンパスは駒場キャンパスと違って授業がない教室にカギをかけたり、自由にポスターをはったりできなかったり、妙に規制が多い気がして圧迫感を感じる。経済学部だけの印象で他は違うのかもしれないが、くつろげる場所が駒場よりずいぶんへったと感じた。居場所がなくて、みんな授業がおわると帰ってしまうので、にぎやかさに欠けていると思う。駒場のような雑然として活気あるキャンパスの方が僕はすきです。

○　・経済学部は産学協同を進めるべきかもしれなが、一見社会に役立たないものこそ大学はやっていかなくてはいけないと思う。（哲学にしろ文学にしろ）
　・この調査は質問数が多いわりに、結果がどのように活用されるのかがわかりにくく、書く気が起こらない。図書券がもらえるわけでもないし、その結果、いわゆるまじめな人が返送するから、学生の実態を十分つかめたものといえないような気がする。

〔経済学部女子〕

○　学部進学後に必要な知識が駒場時代よくわかっていなかったため、進学後苦労している。教養を追求していたので興味深い知識は多く得られたが、（積極的に調べなかったのもよくないのだけれど）、今、２年という期間は専門的に学部の学問を学ぶには短かすぎるという気がしている。

〔教養学部(文系)男子〕

○　double－majorができない。本郷－駒場間の単位互換ができない。これらは結局組織に人を合わせようという思考に由来するのだと思う。ハード面がそうならソフト面である教官も学生のやる気を失わせるのが上手な人ばっかりで、外国の先生と学会で会うんじゃなくて彼らの授業を見学した方が余程勉強になるのでは？僕は僕なりに一生懸命勉強してきたつもりだけど、たぶん勉強はうまくこなして部活やアルバイトに

精を出したり、恋人と語らったりした人の方が多くのことを学んだのだろう、というか結局僕は何も学ばなかった、と思うと大変悲しくなる。出てよかったと真底思える授業をしてほしい。それのみが学生と日本の教育を変える力になる。

〔教養学部(理系)女子〕

○　駒場の学生が本郷での授業を受けたい、知りたいと思っても、いつ・どこで・どんな授業があるのか調べにくい。大学のＨＰから各学部の時間割・シラバスを見られるようにして欲しい。そして、本郷へ行く際の交通費などの負担軽減を考えてみて欲しい。授業に対する要望（こんな分野、研究を扱う授業を開講して欲しいなど）を申し入れられる場が欲しい。

〔薬学部男子〕

○　教官の自己満足の講義が多い。学部生のうちは、基礎力の充実に力を注ぐべき。高度な教育は４年～graduate schoolの学生にすべき。高校と大学の内容では格差があり消化不良が進む。

○　・実際に大学にいる時間の長い理系の人間が利用しやすいように、事務手続きetcの時期延長が必要である。これは学食についても言える。

・理系の人間の為の、随時利用できる清潔な宿泊施設、銭湯の学内での整備は早急に求められる。教育学部の人間には到底想像がつかないような悲劇的な生活をしていることを理解してほしい。

第53回（2003年）学生生活実態調査票

Ⅰ．基本的事項について伺います。

1．性　別	1．男	76.1％	2．女	23.9％		
◎科　類（1・2年生の方は右の1から6までの該当する番号を記入してください。）	1．文Ⅰ	9.3％	2．文Ⅱ	5.8％	3．文Ⅲ	7.3％
	4．理Ⅰ	16.9	5．理Ⅱ	9.0	6．理Ⅲ	1.1
2． ◎学　部（3年生以上の方は右の11から21までの該当する番号を記入してください。）	11．法	10.4％	12．経済	4.9％	13．文	6.5％
	14．教育	1.9	15．教養（文系）	1.7	16．教養（理系）	1.3
	17．理	4.3	18．工	11.2	19．農	3.9
	20．薬	1.3	21．医	3.3		
3．あなたの出身高校は、どれに該当しますか。	1．国立（大学附属）			9.0％		
	2．公立			40.3		
	3．中高一貫型の私立			46.8		
	4．その他の私立			2.9		
	5．大学入学資格検定			0.1		
	6．外国学校			0.6		
	7．その他（　）			0.3		
4．現役・浪人	1．現役	70.2％	2．１浪	24.1％	3．２浪以上	3.4％
	4．学士入学	1.4	5．その他（　）	0.9	無回答	0.1％
5．現在の学年	1．１年	25.6％	2．２年	23.9％	3．３年	22.3％
	4．４年	26.4	5．５年（医学･獣医）	0.7	6．６年（医学･獣医）	1.0
6．入学年度 「西暦」で記入して下さい。	1996年度	0.1％	1997年度	0.1％	1998年度	1.3％
	1999年度	4.9	2000年度	22.9	2001年度	21.1
	2002年度	23.9	2003年度	25.7	無回答	0.1
7．◎進学年度（後期課程の方のみ。）「西暦」で記入して下さい。	1998年度	0.1％	2000年度	1.8％	2001年度	7.1％
	2002年度	47.3	2003年度	43.0	無回答	0.7

Ⅱ．家庭の状況について

8．家庭の所在地はどこですか。	A．地区					
	1．東京都	22.7％	2．関　東	32.7％	3．北海道	1.4％
	4．東　北	3.1	5．中　部	13.5	6．近　畿	11.1
	7．中　国	4.5	8．四　国	2.7	9．九州・沖縄	8.1
	0．その他	0.1	無回答	0.1		
都市規模が不明の場合は具体的に都市名を記入してください。	B．都市規模					
	1．大都市＝人口100万人以上	36.2％	2．中都市＝人口10万人以上	42.8％		
	3．小都市＝人口10万人未満	11.2	4．郡　部	8.6		
	無回答	1.3				
9．主たる家計支持者はだれですか。	1．父	88.9％	2．母	6.5％		
	3．本人	0.3	4．兄弟姉妹	0.1		
	5．祖父母	0.4	6．配偶者	0.1		
	7．だれと一口にはいえない	2.7	8．その他	0.9		

10．主たる家計支持者の職業はどれにあたりますか。	1．専門的、技術的職業	科学研究者、技術者、医師、薬剤師、裁判官、検察官、弁護士、公認会計士、税理士、芸術家、宗教家、著述家、記者、俳優、職業スポーツ家、プログラマーなどの方	17.6％
	2．教育的職業	大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授などの方、小・中・高校の教員（校長・教頭を含む。）その他の教員（私塾等）	12.8
	3．管理的職業	会社役員、課長以上の会社員、課長以上の公務員などの方	42.8
	4．事　　務	〔一般事務（3を除く）などの方〕	7.2
	5．販　　売	小売店主、卸売店主、飲食店主、行商人、保険代理人、販売店員などの方	4.0
	6．農・林・漁業		0.5
	7．生産工程・採掘作業	金属工業、機械工業、繊維工業などの工程従事者の方、洋服仕立職、大工、印刷工、菓子製造工などの方、建設作業員、倉庫作業員、運搬作業員、配達作業員などの方、採掘作業員などの方	3.9
	8．運輸・通信・保安・サービス	鉄道・自動車の運転手、車掌、船舶乗組員、無線通信士、電話交換手などの方、自衛官、警察官、消防士、守衛などの方、理容師、美容師、料理人、クリーニング職、給仕、下宿・アパート等の管理人、清掃員などの方	5.4
	9．無　　職	〔不動産収入・金利・年金生活者などを含む。　〕	3.3
	0．その他	（　　）	1.3
	無回答	（　　）	1.3
11．主たる家計支持者の勤務先（設問10の職業分類）の規模はどれにあたりますか。（設問10で無職の場合は「0」と記入してください。）	A．職業が「1及び3～8」の方は次の中から選んでください。		
	1．従業員が1,000人以上の企業及び官公庁		38.6％
	2．　〃　100人以上1,000人未満の企業		16.5
	3．　〃　10人以上100人未満の企業		14.1
	4．　〃　10人未満の企業		11.5
	B．職業が「2.教育的職業」の方は次の中から選んでください。		
	5．大学（研究所）、短大、高専の教授・助教授		5.3
	6．小・中・高校の校長・教頭		1.7
	7．上記５、６以外の教員		5.9
	無　職		3.3
	無回答		3.2
12．主たる家計支持者の雇用形態は大きく分けてどれにあたりますか。（設問10で無職の場合は「0」と記入してください。）	1．自分1人（だれにも雇用されていない、まただれも雇用していない。）		5.3％
	2．民間企業に勤務（民間企業・団体の職員等）		54.2
	3．官公庁に勤務（国・自治体、公共企業体の職員等）		23.1
	4．経営者・役員又は人を雇用している		12.3
	無　職		3.3
	無回答		1.8

13．主たる家計支持者の年収（税込み）はどれくらいですか。 （給与生活者の場合はボーナスも含めてください。）	年収を単位「十万円」で記入してください。……97.8十万円 （十万円未満は、四捨五入して記入）
14．あなたの家族の世帯年収（税込み）はどれくらいですか。 （給与生活者の場合はボーナスも含めてください。）	年収を単位「十万円」で記入してください。……111.4十万円 （十万円未満は、四捨五入して記入）

Ⅲ．生活費の状況について

15．右の各欄に金額を記入してください。 （最近３ヶ月の実績から、平均１ヶ月の収支額を記入してください。） （注）食　費 自宅生は外食代（費）を記入する。 勉学費 勉学に必要な書籍代、実習材料費、文房具代、実習旅費等（授業料等の学校納付金を除く。） 教養・娯楽費 教養・娯楽費のための書籍代、サークルの支出、勉学以外の旅行の費用、交友費、スポーツ代、映画・演劇・音楽会の入場料等。 雑　費 理・美容代、タバコ代、化粧品代、ガソリン代、電話代、医療費、水・光熱費等。 家庭からの仕送り・小遣い 親・兄弟・親類等からの仕送り、又は小遣い等。	支出額を単位「千円」で記入してください。 衣料費……10.71 千円 食費……26.56 住居費……67.00 勉学費……10.17 教養・娯楽費……14.99 通学費……7.76 雑費……11.93 支出額合計……113.93 収入額を単位「千円」で記入してください。 家庭からの仕送り・小遣い……83.46 千円 奨学金……57.72 アルバイト・雑収入……43.47 収入額合計……117.71

Ⅳ．通学・住居について

16．現在どこに住んでいますか。	1．足立･葛飾･荒川　2.7％ 3．台東･文京･豊島　17.2 5．板橋･練馬･北　7.5 7．世田谷･渋谷･目黒　14.3 9．東京都（23区外）　16.5 11．川崎市　2.9 13．さいたま･川口･蕨の各市　1.5 15．千葉･船橋･市川･習志野の各市　3.2 17．その他の県　1.1	2．江戸川･江東･墨田　1.5％ 4．千代田･中央･港　1.5 6．中野･杉並･新宿　10.7 8．品川･大田　2.3 10．横浜市　7.5 12．神奈川県（「10」･「11」を除く）　3.3 14．埼玉県（「13」を除く）　3.0 16．千葉県（「15」を除く）　3.3 無回答　0.1
17．居住形態はどれにあたりますか。	1．自宅　45.1％	2．自宅外　54.9%
18．◎自宅外の方に伺います。現在住んでいる住居の区分はどれにあたりますか。	1．分譲マンション　2.1％ 2．賃貸マンション・アパート（バスつき）　70.6 3．アパート（バスなし）　5.5 4．下宿　2.9 5．東大学寮・三鷹国際学生宿舎　6.2 6．その他の寮　10.8 7．その他　1.5 無回答　0.5	
19．あなたが通学に利用している交通機関を記入してください。（移動時間の多いものを選び、記入してください。）	1．電車　77.5％ 3．自家用車　0.2 5．自転車　16.5 7．その他　0.1	2．バス　0.3％ 4．バイク　1.1 6．徒歩のみ　4.3
20．片道の通学所要時間はどれくらいですか。◎（分単位で記入してください。）	所要時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48.7分	

Ⅴ．奨学金について

21．日本育英会又は他の団体から定期的に奨学金を受けていますか。	1．受けている	21.9％	2．受けたいが受けられなかった	15.1％
	3．受けたくない	6.2	4．受ける必要がない	54.6
	無回答	2.1		

奨学金を受けている方に伺います。

◎設問21で「２」または「３」と答えた方に伺います。 22．その理由はどれにあたりますか。	1．事務手続が煩雑だから	17.5％
	2．掲示等に気がつかなかった	10.9
	3．書類を期限までに整えられなかった	4.4
	4．出願はしたが採用されなかった	14.1
	5．貸与なので申請しなかった	28.8
	6．資格がない	20.9
	7．その他（　）	3.1
	無回答	0.3
23．どこの奨学金を受けていますか。 （該当する番号を記入してください。）	1．日本育英会第一種奨学金	50.2％
	2．日本育英会第二種奨学金・きぼう21プラン奨学金	39.2
	3．財団・地方公共団体等の奨学金	30.4
	無回答	1.8
24．奨学金はどんな面で役に立っていますか。 （主なものを２つまで選び、番号を記入してください。）	1．家庭の経済的負担が軽減される	79.6％
	2．多少ともゆとりのある生活ができる	25.2
	3．アルバイトが軽減される	21.3
	4．奨学金があるので生活が成り立っている	41.3
	5．定期的な収入があるので助かる	13.7
	6．その他（　）	0.6
	無回答	1.8
25．奨学金の主たる支出目的（用途）はどれにあたりますか。 （主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）	1．生活費（衣・食・住居費）	78.1％
	2．授業料	35.3
	3．勉学費	55.6
	4．教養・娯楽費	40.4
	5．旅行（帰省旅行も含む）	5.8
	6．技術・資格等取得の費用	5.5
	7．耐久消費財購入費用	3.6
	8．貯金	14.3
	9．その他（　）	2.4
	無回答	1.8

Ⅵ．アルバイトについて

アルバイトをした方に伺います

26．過去一年間にアルバイトをしましたか。	1．継続的（１ケ月以上）アルバイトをした	50.8％
	2．臨時（１ケ月未満）アルバイトをした	9.5
	3．継続的＋臨時アルバイトをした	15.7
	4．しなかった	23.2
	無回答	0.8
27．そのアルバイトの種類はどれにあたりますか。（主なもの２つまで選び、番号を記入してください。）	1．家庭教師	47.1％
	2．塾講師	31.2
	3．試験監督・採点	10.3
	4．特殊技術（翻訳、通訳、プログラミング等）を要すること	5.6
	5．一般事務	10.3
	6．販売・セールス・サービス業	27.0
	7．肉体労働	12.9
	8．宿直・警備	1.2
	9．その他（　）	5.0
	無回答	0.4
28．アルバイトに費やす時間と収入額はどれくらいでしたか。	A．時間（往復時間を含め、一週間当たりの平均時間を記入してください。）	11.39時間
	B．収入額（１ヶ月当たりの平均額を単位「千円」で記入してください。）	45.81千円
29．アルバイトの紹介者はだれでしたか。（主なものを２つまで選び、番号を記入してください。）	1．大学の担当事務	9.9％
	2．大学の研究室	0.9
	3．内外学生センター	7.5
	4．新聞広告・アルバイト広告誌	24.5
	5．インターネット	16.9
	6．友人・知人等	42.9
	7．アルバイト先と直接	30.1
	8．スーパー・銀行等の伝言板	1.1
	9．その他（　）	5.1
	無回答	0.5
30．アルバイトをした理由はどれにあたりましたか。	1．家庭の経済的負担を軽減するため	28.0％
	2．学生生活を楽しむため	38.2
	3．社会経験のため	28.8
	4．その他（　）	4.5
	無回答	0.4
31．アルバイトの収入は何に使っていましたか。（主たるものを２つまで選び、番号を記入してください。）	1．生活費（衣・食・住居費）	53.1％
	2．授業料	2.6
	3．勉学費	12.2
	4．教養・娯楽費	69.5
	5．旅行（帰省旅行も含む）	18.2
	6．技術・資格等取得の費用	1.9
	7．耐久消費財購入費用	3.9
	8．貯金	21.3
	9．その他（　）	1.1
	無回答	0.4
◎設問25で「１」または「３」と答えた方に伺います。 32．継続的アルバイトは勉学の妨げになりません（でした）か。	1．かなり妨げになる（なった）	8.5％
	2．多少妨げになる（なった）	44.6
	3．妨げにならない（なかった）	43.1
	無回答	3.8

33．現在の暮らし向きについてどうお考えですか。	1．かなり楽な方	21.7％
	2．やや楽な方	19.0
	3．普通	37.6
	4．やや苦しい方	16.4
	5．大変苦しい方	3.0
	6．分からない	1.1
	無回答	1.3

Ⅶ．入学・進学・学業について

34．東大に入学することを、どの程度希望していましたか。	1．どうしても入りたかった	48.6％
	2．だめなら他大学でもよいと思った	35.7
	3．なんとなく	15.3
	無回答	0.4
35．東大入学の動機は、どれにあたりますか。（主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）	1．社会的評価が高いから	48.7％
	2．スタッフ・設備が優れているから	36.0
	3．将来の就職を考えて	29.9
	4．難関を突破したかったから	23.1
	5．私大に比べて授業料が安いから	49.6
	6．東大の伝統や雰囲気に憧れて	24.7
	7．入学後に学部の選択が可能だから	39.0
	8．親・兄弟・姉妹の勧めで	7.2
	9．高校の先生や友人などの勧めで	15.7
	0．その他（　）	8.3
	無回答	0.5
36．入学するときに進学する学部、あるいは学科等を決めていましたか。	1．学科等まで決めていた	30.1％
	2．学部のみを決めていた	32.6
	3．学部、学科等は決めていなかった	36.9
	無回答	0.3
37．学部・学科等の選択に際し、どのような点を重視しましたか（しますか）。（主なものを２つまで選び、番号を記入してください。）	1．最先端の学問が学べること	12.8％
	2．自分が惹きつけられた学問分野であること	79.4
	3．その学部・学科等の教官に魅力を感じること	9.9
	4．社会のためになる分野であること	21.6
	5．就職の際に有利であること	13.4
	6．将来になりたい職業に就くのに必須であること	30.1
	7．選択に際し特に考えなかった（ない）	6.5
	無回答	0.5
◎進学内定者及び後期課程学生に伺います。 38．進学の決定（内定）は、希望通りでしたか。	1．希望通り決定（内定）した	79.4％
	2．ほぼ希望通り決定（内定）した	13.9
	3．希望通りでなかった	4.9
	無回答	1.8

39．現在在籍している学部・学科等（科類）に満足していますか。	1．満足している	35.4％	2．まあ満足している	36.0％
	3．どちらとも言えない	12.3	4．やや不満である	9.9
	5．不満である	4.3	無回答	2.0
40．進学振分け制度についてどのように考えていますか。	1．現行のままでよい			36.1％
	2．点数だけでない選択方法も取り入れてほしい			31.0
	3．入学時からある程度進路が決まっていた方がよい			13.7
	4．特にない			12.0
	5．その他（　）			5.7
	無回答			1.5
41．現在のカリキュラムに満足していますか。	1．満足している	11.1％	2．まあ満足している	36.5％
	3．どちらとも言えない	19.9	4．やや不満である	22.9
	5．不満である	8.5	無回答	1.2
42．現在のカリキュラムは消化できますか。	1．できる	39.8％	2．まあまあできる	38.0％
	3．多少困難	17.9	4．できない	3.1
	無回答	1.2		
◎設問42で「3」または「4」と答えた方に伺います。 43．その理由はどれにあたりますか。 （主なものを3つまで選び、番号を記入してください。）	1．進学・卒業に必要な単位数が多過ぎる			31.4％
	2．授業の内容が高度すぎて理解できない科目がある			47.0
	3．カリキュラムの組み方に問題がある			30.8
	4．教育上の指導助言が十分でない			31.7
	5．高校までの勉強のやり方ではうまく適応できない			20.3
	6．大学入試の受験科目として取らなかった			6.7
	7．授業の準備と復習の時間が十分とれない			41.6
	8．授業に対する自分の意欲や努力が足りない			45.1
	9．その他（　）			8.6
	無回答			0.6
44．学部卒業後、どのような進路を予定していますか。	1．進学する			46.0％
	2．就職する			27.8
	3．まだわからない			23.7
	4．進学も、就職もするつもりはない			1.2
	無回答			1.3
◎設問44で「1」と答えた方に伺います。 45．どこまで進学を予定していますか。	1．大学院修士課程			63.4％
	2．大学院博士課程			33.3
	3．その他（学士入学等）			3.0
	無回答			0.3
◎設問45で「1」または「2」と答えた方に伺います。 46．その理由は、次のうちどれにあたりますか。 （主なものを2つまで選び、番号を記入してください。）	1．高度の専門知識・技術を身につけるため			75.9％
	2．大学で教職に就くため			12.7
	3．将来研究者になるため			44.2
	4．良い就職先を得るため			20.8
	5．まだ社会に出たくないから			13.8
	6．周囲にすすめられたから			3.0
	7．社会的評価が高いから			5.7
	8．友人・先輩の意見			1.2
	9．大学での進路指導			1.0
	0．その他（　）			3.7
	無回答			0.3

Ⅷ. 学生生活におけるコンピュータ利用について

47. インターネットを利用していますか。	1. 利用している	98.4％	2. 利用していない	1.6％
48. あなたは個人的にコンピュータを所有していますか。	1. 所有している	87.7％	2. 所有していない	12.2％
	無回答	0.1		
49. パソコンでインターネットを利用する頻度はどのくらいですか。	1. １日に２、３度以上	19.8％	2. 毎日	45.1％
	3. 週に２、３度以上	22.5	4. 週に４・５回	10.0
	5. 月に１度	2.3	無回答	0.3
50. どこでインターネットを利用していますか。（該当するすべての項目に「１」を記入してください。）	1. 大学（図書館などの共通施設）			69.5％
	2. 大学の研究室			15.2
	3. 自宅			86.1
	4. 漫画喫茶・インターネットカフェ			6.2
	5. その他（　）			2.5
	無回答			0.2
51. インターネットを利用する目的は何ですか。（該当するすべての項目に「1」を記入してください。）	1. 勉学に関する情報を得る	85.8％	2. 趣味娯楽	94.9％
	3. 新聞を読む	30.4	4. 電子メール	82.7
	5. その他（　）	5.5	無回答	0.3
52. 電子メールは利用していますか。	1. 利用している	91.2％	2. 利用していない	8.5％
	無回答	0.3		
◎設問52で「1」と答えた方に伺います。 53. パソコンによるメールの確認の頻度はどのくらいですか。	1. １日に２、３度以上	14.3％	2. 毎日	38.6％
	3. 週に２、３度以上	28.7	4. 週に４・５回	9.6
	5. 月に１度	8.6	無回答	0.3
54. アドレスはどのようなものを使用していますか。	1. 大学から支給されているもの			64.0％
	2. 個人的にプロバイダに加入しているもの			80.5
	無回答			4.5
55. 携帯電話は使用していますか。	1. 使用している	97.9％	2. 使用していない	2.1％
56. 携帯電話のメール機能は利用していますか。	1. 利用している	98.6％	2. 利用していない	1.4％
57. あなた自身が授業中は携帯電話の電源をどうしていますか。	1. 入れたままにしている	4.6％	2. マナーモードにしている	90.3％
	5. 切っている	5.1		
58. 携帯電話以外に自宅に電話はありますか。	1. ある	74.7％	2. ない	25.3％
59. あなた自身が、授業の課題、教材、レポートの提出等の情報がインターネットを通じ教官のホームページからのみ得られる様になるとしたらどう考えますか。	1. 歓迎する			19.5％
	2. ある程度歓迎する			19.1
	3. どちらとも言えない			11.3
	4. インターネットを利用できない人に対する配慮が必要			38.7
	5. 歓迎できない			11.4

ただし、携帯電話を除く

設問47で「1」と答えた方に伺います

設問55で「1」と答え方に伺います

60. あなたにとってインターネットは必須のものですか。	1. 必須	47.8％	2. ある程度必須	30.8％
	3. 必須ではないが便利	20.1	4. 必要ない	1.3
61. あなたにとって携帯電話は必須のものですか。	1. 必須	57.7％	2. ある程度必須	24.7％
	3. 必須ではないが便利	14.1	4. 必要ない	3.5

Ⅸ. 学習観・教育観

62. 近年の教育改革の中で、「自ら学び、自ら考える力」を育てることが目標として掲げられていますが、あなた自身としては、右のようなことが中学・高校時代、あるいは現在どれくらいあるでしょうか。（それぞれの項目について、５段階の中から該当する番号を○で囲んでください。）

	大いにある 5	かなりある 4	ときどきある 3	あまりない 2	ほとんどない 1	無回答
1. 人に言われなくても、自分から勉強する						
中学・高校時代	33.4	31.2	19.4	9.7	5.1	1.1％
現在	32.0	31.6	24.3	7.1	3.9	1.1
2. 試験に出ないことでも、勉強することがある						
中学・高校時代	19.9	19.9	27.7	19.8	11.6	1.1
現在	28.4	27.1	27.2	10.1	6.0	1.1
3. 疑問に思ったことは、納得がいくまで考える						
中学・高校時代	32.4	33.6	22.0	8.5	2.4	1.1
現在	23.5	35.3	27.4	10.4	2.3	1.1
4. 人に教えてもらうよりも自分で考えたくなる						
中学・高校時代	26.4	30.4	24.9	13.3	3.6	1.3
現在	23.7	32.0	29.8	10.7	2.7	1.2

63.「自ら学ぶ力」をつけるのに最も役に立ったのはどこだと思いますか。（主なものを2つまで選び、番号を記入してください。）	1. 家庭	37.3％	2. 小学校	10.1％
	3. 中学校	14.7	4. 高等学校	34.9
	5. 学習塾・予備校等	27.7	6. 通信教育	7.5
	7. 大学	35.9	8. 大学入学後に通った専門学校等	1.6
	9. その他・具体的に（　）	6.7	無回答	1.7

64. 義務教育課程（小学校・中学校）で学力を引き上げるのに、右にあげた対策のうち特に有効だと思われるものを３つ選んで番号を記入してください。	1. 必修とする知識の量を減らし、じっくり考える時間をとる	10.5％
	2. 習熟度別クラス編成にする	50.0
	3. 少人数クラス編成にする	52.0
	4. 行きたい学校を児童・生徒が選択できるようにする	17.7
	5. 校長に民間人を採用する	4.2
	6. 授業を評価する仕組みを作り、教員の処遇にも反映させる	36.8
	7. 教員の研修を強化し、評価も行う	41.8
	8. 放課後や休日に参加できる補習や発展的授業を設ける	32.8
	9. 放課後に個別に教えてくれる学習相談員を配置する	25.9
	0. その他（　）	10.3
	無回答	1.4
65. 大学時代に「自分で考える力」を向上させるのに特に有効だと思う手段・方法は何だと思いますか。（主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）	1. 専門分野の書物をたくさん読む	44.9％
	2. 専門以外の分野の書物をたくさん読む	44.6
	3. インターネットなどによる情報検索の技術を習得し活用する	12.0
	4. 内容が高度な授業を聴講する	10.6
	5. レポート、論文、発表などに力を入れる	35.0
	6. 少人数の授業などに出て、教員や学生との議論の場をもつ	51.8
	7. 教員や大学院生などから個人的に指導を受ける機会をもつ	24.3
	8. 授業以外の場で普段から友人と議論しあう	37.0
	9. 大学以外の社会人と話し合う機会を増やす	25.0
	0. その他（　）	3.1
	無回答	1.0

X．就職について

66．どのような職業に就きたい と思いますか。 （主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）	1．大学・公的機関の教育・研究職	46.4％
	2．企業等の研究職	38.4
	3．技術職	27.0
	4．事務職	17.5
	5．教育職（大学を除く）	9.2
	6．行政職（公務員）	32.9
	7．専門職（医師、弁護士、公認会計士等）	37.1
	8．マスコミ（新聞記者、放送記者、アナウンサー、プロデューサー等）	17.9
	9．その他（　）	6.2
	無回答	0.9
67．その職業に就きたいと考えるのは、どのような理由か らですか。 （主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）	1．人を助けたり社会に奉士する	42.5％
	2．安定した生活が保証されている	31.8
	3．十分な収入が期待できる	29.2
	4．自分の特技・能力や専門知識が活かせる	65.6
	5．華やかで、世間からもてはやされる	3.7
	6．社会的な地位・名声が得られる	13.0
	7．組織にしばられず、自由な活動ができる	23.9
	8．人や組織を動かすことができる	10.3
	9．独創性や創造性を発揮できる	32.4
	0．その他（　）	4.7
	無回答	1.1
68．仕事や職場を選ぶ際にどの ようなことを重視しますか 。 （主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）	1．給料がよい	39.0％
	2．休みをとりやすい	9.0
	3．責任が軽い	2.1
	4．失業の心配がない	13.3
	5．福利厚生が充実している	6.2
	6．出世の見込みが多い	2.9
	7．技術や知識を身につけられる	24.7
	8．権限が大きい	3.5
	9．やりがいがある	70.6
	10．能力が発揮できる	41.8
	11．人から評価される	9.9
	12．仕事を行う上で男女の差別がない	6.9
	13．将来発展する見込みがある	12.7
	14．職場が都心のオフィス街にある	1.8
	15．職場が自然環境のよい郊外にある	1.7
	16．海外勤務の機会が多い	5.0
	17．転勤が少ない	3.5
	18．いろいろな人と知り合える	14.7
	19．オフィスが新しくてきれい	0.4
	20．職場の人間関係がよい	18.1
	21．その他（　）	1.9
	無回答	0.5
69．就職活動として、どのようなことをしていますか（いましたか）。 （該当するすべての項目に「１」を記入してください。）	1．インターネット等で、情報を収集する	45.1％
	2．企業等のセミナーや説明会に参加する	22.5
	3．就職に有利なように、大学以外の場所で勉強する	11.5
	4．職業資格を取るために、大学以外の場所で勉強する	19.9
	5．その他（　）	3.7
	無回答	42.7

70．就職する場所はどこを希望しますか。	1．東京圏（東京近郊）を希望する	53.8％
	2．東京圏（東京近郊）以外を希望する	1.9
	3．出身地に近いところを希望する	6.1
	4．東京圏、東京圏以外どちらでもよい	33.6
	5．その他（　）	3.3
	無回答	1.3

Ⅺ．学生生活の満足度について

71．あなたは一週間に平均何回ぐらい大学に来ますか。	1．1回	2.1％	2．2回	2.4％	3．3回	6.5％
	4．4回	12.8	5．5回	48.6	6．6回	20.1
	7．7回	6.0	8．ほとんど来ない	0.9	無回答	0.6

72．日頃大学に行くときどのように感じますか。	1．行きたい・楽しみ	15.5％
	2．どちらかといえば、行きたい・楽しみ	56.5
	3．どちらかといえば、行きたくない・憂鬱	23.3
	4．行きたくない・憂鬱	3.9
	無回答	0.9

73．自分の大学生活の目的をどう考えていますか。（それぞれの項目について、5段階の中から該当する番号を○で囲んでください。）	あてはまる 5	ややあてはまる 4	どちらとも言えない 3	あまりあてはまらない 2	あてはまらない 1	無回答
1．専門的学問・研究をする	43.5	34.2	10.1	7.0	4.4	0.9％
2．高度な専門知識・技術を身につける	42.6	35.7	10.9	5.9	3.8	1.1
3．豊かな教養を身につける	41.2	38.1	12.1	4.8	2.7	1.0
4．学歴・資格を得る	27.1	37.1	18.8	10.3	5.7	1.0
5．クラブ・サークル活動に力を入れる	23.1	28.2	12.1	13.9	21.7	1.0
6．希望する企業等に就職する	13.7	23.5	25.9	18.2	17.5	1.3
7．学生生活を楽しむ	45.4	34.4	12.8	4.5	2.0	1.0
8．友人を多く持つ	38.0	34.0	16.9	7.3	2.9	0.9
9．特に目的はない	3.2	5.0	14.2	17.8	57.8	2.0

74．現在の学生生活の中で、次の各項目について、どの程度満足していますか。（それぞれの項目について、5段階の中から該当する番号を○で囲んでください。）	満足している 5	まあ満足している 4	どちらとも言えない 3	やや不満である 2	不満である 1	無回答
1．授業の内容	8.5	44.4	21.0	19.0	6.1	0.9％
2．大学の環境、設備	16.1	39.8	20.4	17.1	5.7	0.9
3．経済的状況	18.3	35.4	21.9	16.2	7.3	0.9
4．友人	28.9	45.2	15.9	7.1	2.0	0.9
5．余暇・レジャー	15.5	34.8	25.0	18.3	5.5	0.9
6．クラブ・サークル活動	22.8	29.8	31.2	9.9	5.3	1.1
7．食事	19.5	40.1	22.3	12.7	4.5	0.9
8．住居	29.6	40.2	15.3	9.6	4.3	1.0

75. 授業評価の結果を生かすためにはどのようなことが必要だと考えますか。 （該当するすべての項目に「1」を記入してください。）	1. 現在のままでよい	21.3％
	2. 評価結果を印刷物で公表する	43.4
	3. 評価結果をインターネットで公開する	48.2
	4. 評価結果を基に教官との話し合いの場を設ける	30.4
	5. 評価を教官の処遇に反映させる	39.2
	6. ベスト・ティーチング・アワードのような賞をもうける	35.4
	0. その他（　）	4.3
	無回答	2.5
76. あなたは東大に対して愛着を感じていますか。	1. 大学に対して愛着がある	34.6％
	2. 大学の中で自分が所属する学部や学科等に対して愛着がある	17.7
	3. クラブやサークルに対して愛着がある	23.9
	4. 愛着はあまりない	22.9
	無回答	0.8
77. それでは全体として大学生活に満足していますか。	1. 満足している	28.6％
	2. まあ満足している	50.6
	3. どちらとも言えない	11.5
	4. やや不満である	5.9
	5. 不満である	2.7
	無回答	0.7

78. 一般的な施設等の中で、もっと整備が必要だと思う事項はどれですか。
（それぞれの項目について、4段階の中から該当する番号を○で囲んでください。）

	よく整備・美化されている 4	ある程度整備・美化されている 3	あまり整備・美化されていない 2	整備・美化が不足している 1	無回答
1. 大学キャンパス内の清掃	19.7	51.4	20.5	7.7	0.7％
2. 大学キャンパス内の樹木等の整備	31.1	58.4	7.4	2.4	0.7
3. 大学の建物内の清掃	13.6	44.4	28.9	12.4	0.7
4. 大学構内で不要となった廃棄物	13.6	35.3	41.6	8.5	1.1
5. トイレの清掃	12.4	25.8	46.2	15.0	0.6
6. トイレの数	13.6	23.8	47.0	14.9	0.8
7. その他（具体的に問題個所を指摘してください）					

79．本学の課外活動施設、福利厚生施設等のうち、あなたは右の諸施設の現状をどう思いますか。

	満足している	まあ満足している	どちらとも言えない	やや不満である	不満である	利用したことがない	無回答
	1	2	3	4	5	6	
1．学部内の学生控室・談話室・ラウンジ	9.6％	20.0％	24.9％	10.7％	10.9％	22.5％	1.5％
2．学生会館、課外活動共用施設、キャンパスプラザ（駒場）	6.5	18.9	30.2	15.3	13.5	14.2	1.4
3．屋外体育施設（駒場）	10.3	26.6	30.8	5.9	3.4	21.3	1.7
4．屋外体育施設（野球場、テニスコート等を含む）（駒場）	9.1	23.8	27.6	5.1	3.3	29.4	1.7
5．屋内体育施設（御殿下記念館、二食プール）（本郷）	17.8	18.2	14.2	3.3	0.8	43.2	2.5
6．屋外体育施設（御殿下グランド、農学部グランド、野球場、テニスコート等を含む）（本郷）	8.6	12.8	18.9	3.3	1.9	51.8	2.8
7．二食内ホール、サークル部室等（本郷）	4.5	8.9	21.2	3.5	2.1	56.8	3.1
8．検見川総合運動場、検見川セミナーハウス	12.7	12.7	14.9	3.6	1.4	51.8	2.9
9．スポーティア（戸田、山中、下賀茂、谷川、乗鞍）	4.3	4.3	15.7	1.5	1.1	69.6	3.4
10．学内食堂	8.3	31.1	18.9	21.2	17.9	1.3	1.3
11．学寮（追分、向丘、豊島、井の頭、白金、三鷹国際学生宿舎）	2.7	3.9	14.1	1.8	2.3	71.2	3.9

80．あなたが、右の諸施設等の中で、施設・設備の充実・整備が早急に必要と思うものは何ですか。
（必要と思うもののなから、主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）

1．学部内の学生控室等	25.7％	2．学生会館等（駒場）	34.1％
3．屋内体育施設（駒場）	8.6	4．屋外体育施設（駒場）	6.7
5．屋内体育施設（本郷）	2.0	6．屋外体育施設（本郷）	5.0
7．二食内ホール等（本郷）	5.9	8．検見川総合運動場等	2.2
9．スポーティア	2.3	10．学内食堂	43.2
11．学寮	13.5	12．寛げるスペース	44.6
13．その他（　）	6.0	無回答	11.3

XII．大学への要望について

81．現在、大学では大学の社会的貢献を促進し、また、国際化を推進しようとしています。これらに関連して右に挙げるそれぞれの事項はどの程度重要だと思いますか。
（それぞれの項目について、５段階の中から該当する番号を○で囲んでください。）

	非常に重要	かなり重要	重要	あまり重要でない	ほとんど重要でない	無回答
	5	4	3	2	1	
1．社会的貢献を促進するために、授業の外部開放を進める	9.9％	16.1％	33.0％	32.7％	7.1％	1.1％
2．社会的貢献を促進するために、産学協同をより推進する	17.0	29.9	32.8	15.1	3.6	1.6
3．社会的貢献を促進するために、直接的に社会的要請の高い研究を推進する	10.2	19.8	33.2	26.7	8.7	1.4
4．社会的貢献を推進するために、（むしろ）基礎研究を充実させる	18.3	25.5	44.2	9.3	1.4	1.2
5．研究の国際化を推進するため、研究者の交流をより積極的に進める	37.5	36.2	21.7	2.5	0.9	1.2
6．研究の国際化を推進するため、国際共同研究をより推奨する	30.9	35.2	26.7	4.9	0.9	1.3
7．教育の国際化を推進するため、日本から外国へ留学する機会をもっと拡大する	40.6	30.0	21.6	5.9	0.8	1.1
8．教育の国際化を推進するため、外国からの留学生をより一層受け入れる	25.6	30.2	29.8	11.0	2.3	1.1

82．大学へ特に要望したいことや期待することは何ですか。
（主なものを３つまで選び、番号を記入してください。）

1．カリキュラムの改革	30.8％
2．教室の充実	19.4
3．実験室や実習室の充実	10.9
4．教育スタッフの充実	20.3
5．進学振分け制度の改善	23.6
6．小人数教育の実施	25.2
7．授業の方法の工夫・改善	41.1
8．単位認定や学年試験を緩やかに	13.8
9．単位認定や学年試験を厳しく	5.7
10．キャンパスの拡大・移転・統合	5.5
11．図書館の充実	21.2
12．学生自治に対する適切な助成と助言	3.7
13．学生自治の尊重	3.7
14．奨学金（育英資金）・育英貸付金などの拡充や増額	19.9
15．就職対策の充実	21.1
16．その他	4.2
無回答	1.9

学生生活委員会学生生活調査室

平成16年11月現在

調　査　室　長	池　田　謙　一（大学院人文社会系研究科・文学部）
副調査室長	中　谷　和　弘（大学院法学政治学研究科・法学部）
室　　員	長　瀬　隆　英（大学院医学系研究科・医学部）
〃	大　石　泰　章（大学院工学系研究科・工学部）
〃	植　田　信太郎（大学院理学系研究科・理学部）
〃	寳　月　岱　造（大学院農学生命科学研究科・農学部）
〃	粕　谷　　誠（大学院経済学研究科・経済学部）
〃	伊　藤　徳　也（大学院総合文化研究科・教養学部）
〃	亀　口　憲　治（大学院教育学研究科・教育学部）
〃	青　木　淳　賢（大学院薬学系研究科・薬学部）
〃	五　味　健　作（大学院数理科学研究科）
〃	村　重　　淳（大学院新領域創成科学研究科）
〃	水　越　　伸（大学院情報学環・学際情報学府）
〃	安　藤　　繁（大学院情報理工学系研究科）
〃	竹　田　貴　文（学生部）
〃	柳　橋　雪　男（学生部）

調査集計担当　　学生部厚生課調査係

写真は東京大学アルバム編集会提供

No. 1302　　2004年12月２日

東京大学広報委員会

〒113-8654　東京都文京区本郷７丁目３番１号
東京大学総務部広報課　☎ 03-3811-3393
e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp
ホームページ http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。